科目名	フレッシュマンセミナー
科目責任者	井川　淳史
単位数他	１単位（30 時間）　必修　１～２セメスター
科目の 位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	社会福祉専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。 また、大学生（自立した社会の構成員）としてのマナー・モラルを身につけ、教員や学生同士はもちろん、IT を通したネットワークを含む地域社会との関係性においても安心して大学生生活を営むことができるよう学修を進める。
到達目標	1. 大学生としてのマナー・モラル（受講マナー、キャンパスルール、社会の構成員としての一般的なマナー等）を意識した行動をとることができる力を身につける。 2. 大学内の様々な学生支援システムの活用方法、定期試験・レポート課題等に関する心得、IT リテラシー等を学修し、効率的、効果的に学習に取り組むことができる力を身につける。 3. キャリアデザインに関するイメージを修得し、社会福祉専門職を目指す大学生として内発的・主体的に学修に取り組むためのモティベーションを高める。
授業計画	＜担当教員名＞井川淳史、和久田佳代、渡辺泰宏、村上武敏、二宮貴之（全員で毎回担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 【1 セメスター】 第 1 回：①オリエンテーション　②アドバイザー懇談会 第 2 回：大学における学習とは何かを学ぶ 第 3 回：大学内外の様々な学生支援システムの活用方法について学ぶ 第 4 回：ボランティア活動を行う上での心得について学ぶ 第 5 回：キャンパススール、社会構成員としてのマナー等について学ぶ 第 6 回：各教員の学生時代の過ごし方、体験談を通して大学生生活について学ぶ 第 7 回：マスメディアの活用方法について学ぶ 第 8 回：IT（情報）リテラシーについて学ぶ 第 9 回：定期試験・レポート課題等に関する心得を学ぶ 【2 セメスター】 第 10 回：各教員の学生時代の過ごし方、体験談を通して大学生生活について学ぶ 第 11 回：キャリアデザインについて学ぶ 第 12 回：各教員体験談等を通してキャリアデザインについて学ぶ 第 13 回：キャンパススール、社会構成員としてのマナー等について学ぶ（再確認） 第 14 回：国家試験の概要について学ぶ 第 15 回：全体のまとめ ※1-2 セメともに、必要に応じて学科単位、アドバイザー単位の学修、各種ボランティア情報の提供を盛り込む。

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	Moodleにリアクションペーパー、レポートの提出、授業への取り組み100%　可否のみ判定
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパー、レポートについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	本学キャンパスライフ
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の授業内容に関して、キャンパスライフなどを再読するようにしておく。 授業後は、実際に学修したことを実践、体験することにより、身体知とする。(目安時間40分)
オフィスアワー	井川淳史　社会福祉学部　1608　　時間については初回授業時に提示 和久田佳代　社会福祉学部　2709 渡辺泰宏　社会福祉学部　2708 二宮貴之　社会福祉学部　2602 村上武敏　社会福祉学部　2613

科目名	基礎演習Ⅰ
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	１単位（30 時間）　必修　１セメスター
科目の 位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 3. 与えられた課題に対して、自分の考えを発表する力をつける。 4. 図書館等の情報メディアを用いて文献を検索する方法や、各種の情報源を活用する手法を学ぶ。 5. レジュメ、レポートの書き方を修得する。
授業計画	＜担当教員名＞和久田佳代、渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、二宮貴之 （全員で毎回担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 学びへの導入　スチューデントスキルとスタディースキルとは 事前事後学修について　Moodle による学修のフィードバック 第 2 回 : 読み方のヒント 読むことの重要性　三色ボールペン方式で読む 第 3 回 : 文章の書き方 説明文には型がある　小レポートを書いてみよう 第 4 回 :『質問する、問い返す』を読んで、意見交換 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達する 第 5 回 :『質問する、問い返す』を読んで、自分の意見をまとめる 意見交換により深まった考えを小レポートにまとめる 第 6 回 : 図書館の使い方 大学図書館を活用しよう 第 7 回 : コンピュータを活用する－基本的な使い方― 情報倫理を学ぼう　コンピュータの基本的な操作を確認しよう 第 8 回 : レジュメの作り方 要旨をアウトプットする 第 9 回 : 資料整理の仕方 授業資料・ノートをわかりやすく整理して活用しよう 第 10 回 :　レポートの書き方（1）　レポート作成スケジュール レポートの中に文献を登場させる方法 第 11 回 :　レジュメに基づき、発表する（ブックレット） 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達する 第 12 回 :　レジュメに基づき、意見交換（ブックレット） 意見交換により深まった考えをレポートにまとめる 第 13 回 : 現在の英語力を知ろう 英語プレスメントテスト 第 14 回:　レポートの書き方(2) コンピュータ、情報機器を活用する－レポート作成に必要な技術－ 第 15 回 : まとめ レポート提出前にチェックリストにそって最終確認する

アクティブラーニング	少人数グループにおいて意見交換、意見発表、グループ討論を行う。 Moodle を活用する。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	名古谷隆彦『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』岩波書店 土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店
参考図書	授業にて紹介する
事前・事後学修	主体的に学ぶ方法を身につけるために、様々な課題がある。 毎回、Moodle を使ってフィードバックを行う。(目安時間 40 分)
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示します。 渡辺泰宏　社会福祉学部　2708 村上武敏　社会福祉学部　2613 井川淳史　社会福祉学部　1682 二宮貴之　社会福祉学部　2602

科目名	基礎演習Ⅱ
科目責任者	渡辺　泰宏
単位数他	１単位（30 時間）　必修　２セメスター
科目の 位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 3. 各自が関心のあるテーマを選択し、文献等で調べるなどして理解を深め、グループで討論しながら、レポート、小論文、論文の書き方を修得する。 4. 様々な立場を尊重しながら、発表し、意見交換する力をつける。
授業計画	＜担当教員名＞渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、和久田佳代、二宮貴之 （全員で毎回担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を知る 第 3 回：人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する 第 4 回：福祉の日記念講演に参加し、社会福祉への関心を深める 第 5 回：テーマを考える 第 6 回：図書館の使い方　図書館サポータを利用する、地域図書館・他大学図書館を活用する 第 7 回：テーマを決める　　文献検索、文献読解 第 8 回：各自の関心あるテーマについて、問題点等をとりあげ、発表する 第 9 回：各自の関心あるテーマについて、問題点を整理し、発表する 第 10 回：各自の関心あるテーマについて、レジュメを作成し、発表する 第 11 回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学び、意見交換する 第 12 回レポートの書き方　　アウトライン作成、計画を立てる 第 13 回：選択したテーマについて、レポートの一部を発表し、討論する 第 14 回：選択したテーマについて、レポートについて発表し、討論する 第 15 回：選択したテーマをレポート（資料を整理し、問題点をあげ、考察する）にまとめる ＜受講者へのメッセージ＞演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。 基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。

アクティブラーニング	あるテーマについて、文献等で調べるなどして理解を深め、さらには発表し、これについて意見交換やグループ討論を行う。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートに関しては、ルーブリックを用いる。
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	なし。参考書については、授業中に紹介する。
参考図書	各教員より、適宜連絡する。
事前・事後学修	大学図書館、地域図書館を積極的に活用することを含め、授業での課題や各自のテーマについて、文献を探し、読み、考えをまとめることを毎回ごとについて行う。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	渡辺泰宏　社会福祉学部　2708　　時間については初回授業時に提示する 村上武敏　社会福祉学部　2613 井川淳史　社会福祉学部　1682 和久田佳代　社会福祉学部　2709 二宮貴之　社会福祉学部　2602

科目名	人間と健康
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	１単位(15 時間)　必修　社福　２セメスター　選択　介護　こども　２セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	人間が健康であるためには、生活リズム、睡眠、運動、食事などの基本的生活習慣が重要である。各分野の専門家から生活リズム、睡眠、運動等について科学的に学び、その心身への影響を理解し、自分自身の健康に役立てる。 医療・福祉分野の各専門職は、どのように健康を支援しているかを学び、その役割を理解する。
到達目標	１　運動が心身に及ぼす影響や生活リズムと睡眠の大切さを理解し、自分自身の健康増進に役立てられる。 ２　子ども、高齢者に対する運動の効果と役割を理解する。 ３　医療・福祉分野の各専門職の役割を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：健康と姿勢　和久田 佳代 第２回：　健康と生活リズム　睡眠・食事・運動　和久田 佳代 第３回：運動の生理的作用　俵 祐一（理学療法学科） 第４回：子どもの発達と運動　子どもの運動発達とその支援　伊藤 信寿（作業療法学科） 第５回：高齢者の体力と介護予防　吉本 好延（理学療法学科） 第６回：人間の健康と作業　鈴木達也（作業療法学科） 第７回：人間の健康と言葉　言葉の発達とその支援　大原 重洋（言語聴覚学科） 第８回：地域における健康増進　健康で暮らしていくために　鈴木 知代（看護学部） ＊複数教員によるオムニバスのため、授業順は上記のとおりではない。初回授業にて、授業計画を配布する。

アクティブラーニング	ピアタイム（指定席で意見交換）、 Moodle を使って、事前課題・授業後のフィードバックを行う。
評価方法	平常点（授業への参加状況、Moodle へのフィードバック）50% レポート 50% ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	Moodle、メールを活用します。
指定図書	資料配布
参考図書	授業時に紹介する
事前・事後学修	毎回、授業後に Moodle にてフィードバックを行う。 Moodle へのフィードバックを通し、学びを確認する。 授業での学びを自らの生活に活かし、健康的な生活習慣の実践に努めましょう。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示します

科目名	社会福祉学概論Ⅰ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(30時間)　必修　１セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士）に求められる基本的な知識・理論の体系的理解の端緒として、現代社会における社会福祉の課題・役割、社会福祉の基盤となる可知・理念・原理、社会福祉制度の概要、社会福祉の歴史などについて、できるだけ学生自身の生活や関心に結びつけて学ぶ。
到達目標	１．現代社会の特徴と社会福祉の対象、社会福祉の意義が理解できる ２．社会福祉の価値、理念、原理について理解できる ３．社会福祉の発展過程について理解できる ４．社会福祉、社会保障に関連する法、制度、実施体制の概要が理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：ガイダンス、グループワーク「社会福祉とは？」　佐藤順子 第２回：社会福祉を理解するための基本的枠組み　佐藤順子 第３回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～①　佐藤順子 第４回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～②　佐藤順子 第５回：社会福祉をとりまく状況 少子高齢社会、現代家族の動向、地域社会の変化、雇用形態の多様化 佐藤順子 第６回：社会福祉の基盤となる考え方　佐藤順子 社会福祉援助者に共通する価値・理念・原理 第７回：社会福祉の歴史　欧米の歴史　佐藤順子 第８回：　〃　日本の歴史①　古代～近代　佐藤順子 第９回：　〃　近代における救貧事業の歩み　大友信勝 第10回：　〃　日本の歴史②　現代の福祉政策・制度の動向　佐藤順子 第11回：社会福祉の法と諸制度　佐藤順子 関係法制、社会福祉の実施主体、社会保障制度（年金保険、医療保険、介護保険） 第12回：低所得者の福祉　大友信勝 貧困問題と公的扶助、生活保護制度、低所得者に対する福祉サービス 第13回：高齢者の福祉　佐藤順子 高齢者福祉を取り巻く状況と老後・老人問題、介護を支える諸制度 第14回：障害者の福祉　佐藤順子 「障害者」の概念、障害者支援のための諸制度、支援のあり方（総合支援法） 第15回：児童・家庭の福祉　佐藤順子 児童・家庭を取り巻く状況と福祉政策の現状と課題、児童家庭支援の制度・サービス

アクティブラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、グループ討議などを取り入れる
評価方法	定期試験70%、課題20%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。
指定図書	『社会福祉概論Ⅰ　現代社会と福祉』全社協（「社会福祉学習双書」編集委員会編）
参考図書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著『社会福祉入門』有斐閣アルマ 古川孝順著『福祉ってなんだ』岩波ジュニア新書 菊池正治・清水教惠・田中和男・永岡正己・室田保夫編著『日本社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくほか、講義予定表に提示した課題に取り組む 新聞をよく読み、福祉に関連する記事を集めておく 事後学修：授業後は、学びをまとめ期日までにMoodleに入力する （事前・事後学修　40分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅰ
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　必修 １セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	対人援助専門職への学習の入門編として、視聴覚教材を用いながら、感性を養い、「自己理解・他者理解」「生活とは」「生活問題」などについて、専門職としての多元的複眼的なものの見方を修得する。そのうえで、福祉専門職の歴史的変遷、基本的な価値や知識、技術を取得し、現代社会における福祉専門職の役割と意義について理解することを目的とする。
到達目標	1. 対人援助専門職の役割と意義、および福祉専門職（社会福祉士､介護福祉士、精神保健福祉士、保育士など）の役割と意義を説明できる 2. 対人援助専門職の基本姿勢について説明できる。 3. 感性と表現力・分析力を磨き、感じたこと、理解したこと、考えたことを言語化できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション――「援助」「生活」ということ、「論」「演習」「実習」との関係 第 2 回：社会福祉における「生活」のとらえ方 第 3 回：当たり前すぎる「生活」――生活をとらえる視点 第4回：「生活」を客観的に見る視点――生活問題のとらえ方 第5回：「生活」の中で対人援助技術を磨く――自立支援の考え方、相談援助の技法、言語化 第6回：ソーシャルワーカーの役割――福祉専門職（資格）の役割と意義 第7回：対人援助の概念と範囲――ジェネラリストとしての援助の意義と内容 第8回：ソーシャルワーカーの専門性――相談援助の理念（人権尊重・社会正義・利用者本位・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・社会的包摂・ノーマライゼーション等） 第9回：ソーシャルワークの価値と倫理――専門職倫理の概念、倫理綱領、倫理的ジレンマ 第10回：　ソーシャルワークの歴史①――ソーシャルワークの萌芽 第11回：　ソーシャルワークの歴史②――ソーシャルワークにおける理論化 第12回：　ソーシャルワークの歴史③――資格制度、国際定義、ジェネラリスト、小テスト 第13回：相談援助における権利擁護 第14回：ソーシャルワークとチーム――ジェネラリストとしての多職種連携の意義と内容 第15回：まとめ；これからの福祉専門職――相談援助にかかる専門職の概念と範囲

アクティブラーニング	教員との双方向のコミュニケーション、学生同士の小さなロールプレイなど、演習形式も取り入れ展開する。
評価方法	授業態度 10%、毎回授業時提出小レポート 10%、中間レポート 30 点、 期末試験 50%
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	空閑浩人 2015『ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
参考図書	空閑浩人 2009『ソーシャルワーク入門――相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	1，授業中に配布された資料や指定図書を事前・事後に熟読し、授業内容を理解する 2，生活の中で、授業によって得た知識を、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める （目安時間　40 分）
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する

科目名	ソーシャルワーク論Ⅰ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　社福　こども　２セメスター　選択　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる「援助関係形成の意義と方法」について理解を深めることに主眼をおき、①ソーシャルワークの対象把握と援助モデルを理解すること、②援助関係形成の原則を理解すること、③援助関係形成過程について理解することを目的としている。
到達目標	1. ４つの援助モデルについて理解する。 2. 生活問題を人と環境の視点で捉えようとする。 3. 援助関係の重要性を認識し、自己覚知の必要性を理解する。 4. 事例を通して、バイステックの７原則の重要性について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：講義の概要説明 第 2 回：「人を助けるということ」について映画から考える 第 3 回：人を助けるということ（Unit0） 第 4 回：社会福祉の援助活動の特徴①（Unit1 対人援助の構成要素） 第 5 回：社会福祉の援助活動の特徴②（Unit2 社会福祉援助の対象） 第 6 回：社会福祉の援助活動の特徴③（Unit3 社会福祉援助の視点 第 7 回：個人モデル・環境モデル（Unit4） 第 8 回：物語モデル（Unit5） 第 9 回：文化モデル（Unit6） 第 10 回：個別援助の展開過程と援助関係（Unit7） 第 11 回：物語モデルの展開過程（Unit7） 第 12 回：援助関係を形成するための原則① （クライエントを個人として捉える・クライエントの感情表現を大切にする ・受けとめる・援助者は自分の感情を自覚して吟味ずる） 第 13 回：援助関係を形成するための原則②（クライエントの自己決定を促して尊重する） 第 14 回：援助関係を形成するための原則③（秘密を保持して信頼感を醸成する） 第 15 回：援助関係を形成するための原則のまとめ ＜その他＞ ・「覚えること」よりも「考えること」を大切にすること。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
評価方法	課題レポート 20%、定期試験 60%、授業への取り組み 20%として評価する。 ＜小レポートのテーマ・様式＞ ・テーマ：『社会福祉をつかむ』の第 8 章を読み、ユニットごとに「学んだこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」をまとめる。 ・字数：2400 字程度、パソコン書き、表紙つき ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出等は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパーへコメントする。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ【改訂版】』有斐閣
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	・第 3～11 回の授業では、事後に該当する教科書の単元の確認問題に取り組むこと。 ・配布資料を参考にしながら、自分にとってわかりやすい講義ノートを作成すること。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	医学概論
科目責任者	杉山　せつ子
単位数他	2 単位（30 時間）選択　社会・こども　2 セメスター　必修 介護　2 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に理解するために初年次の学問として、まず基本的な人の身体の構造（解剖）と働き（生理）や精神に関する知識を学ぶ。そして誕生、成長・発達や老化などの日常の生活に関連させながら学習を進める。さらに日常の中でみることの多い疾患や障害について理解し、リハビリ―テーション、国際生活機能分類（ＩＣＦ）、健康のとらえ方等の学習を踏まえ、現代社会で発生している諸問題などを関連づけて考えていく力を身につける。
到達目標	1. 身体構造と心身の機能について、人の成長・発達と老化をふまえて理解する 2. 様々な疾病や障害の概要について、日常生活と関連づけて理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する 4. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要と健康のとらえ方について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：授業のガイダンス 身体の成長・発達、人体部位の名称、生殖器、先天性疾患　岡田　眞人 第 2 回：心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧　岡田　眞人 第 3 回：腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患　岡田　眞人 第 4 回：精神の成長・発達、知的障害、発達障害　杉山せつ子 第 5 回：老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と医療費　杉山せつ子 第 6 回：呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策　鈴木千佳代 第 7回：内分泌器官、生活習慣と未病、糖尿病と内分泌疾患 国民健康づくり対策　鈴木千佳代 第 8回：消化と吸収、水分と脱水、血液の成分、消化器疾患、 血液疾患と膠原病、歯科保健　鈴木千佳代 第 9 回：神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病　鈴木千佳代 第 10 回：認知症、高次脳機能障害、精神障害　鈴木千佳代 第 11 回：支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由　鈴木千佳代 第12 回：感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患 視覚障害、聴覚障害　鈴木千佳代 第13 回：悪性腫瘍、終末期医療と緩和ケア、内部障害、 健康の概念、日本の人口統計、産業保健　鈴木千佳代 第 14 回：リハビリテーション　鈴木千佳代 第15 回：国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方 まとめ　鈴木千佳代

アクティブラーニング	主体的に参加できるよう工夫をします。
評価方法	試験 100％
課題に対するフィードバック	毎回、リアクションペーパーを配布し、学びのポイントや気づきにマークし、疑問に答えたり、コメントを付けたりし、返却する。
指定図書	『新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：毎回の授業で予習を指示 事後指導：毎回の授業で復習を指示（目安時間　40 分）
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	キリスト教社会福祉
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　４セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本講義では、これまでの社会福祉の学びを振り返りつつ、日本の社会福祉形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者、あるいは強い使命感を持って実践した人々の生き様を学ぶ。これを通して、人間の「多様性」を受容・共感する態度を具体的に習得し、人や社会に協調できる共生の価値観を涵養する。受講者数によっては演習形式で進めることもある。
到達目標	1. 今まで学修を通して理解した、人間の「多様性」を踏まえ、共生の価値観をもつ。 2. その価値観を土台にして、受容的・共感的態度をもって、人や社会と協調できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : はじめに―キリスト教社会福祉における人物史研究の視点 野口幽香の生涯と慈善・救済事業　坂本 第 2 回 : 岩永マキの生涯と慈善・救済事業　坂本 第 3 回 : 石井十次の生涯と慈善・救済事業　坂本 第 4 回 : 石井亮一と筆子の生涯と慈善・救済事業①　坂本 第 5 回 : 石井亮一と筆子の生涯と慈善・救済事業②　坂本 第 6 回 : 石井亮一と筆子の生涯と慈善・救済事業③　坂本 第 7 回 : 留岡幸助の生涯と慈善・感化事業　坂本 第 8 回 : 賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動①　坂本 第 9 回 : 賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動②　坂本 第 10 回 : 井深八重の生涯と社会福祉活動　坂本 第 11 回 : 田内千鶴子の生涯と福祉活動　坂本 第 12 回 : 糸賀一雄の生涯と福祉活動　坂本 第 13 回 : 澤田美喜の生涯と福祉活動①　坂本 第 14 回 : 澤田美喜の生涯と福祉活動②　坂本 第 15 回 : まとめ――対人援助の根底思想としての「ディアコニア」　ゲストスピーカー・坂本

アクティブラーニング	事前に人物についての要約、自己学習を課する。授業後は学びを振り返り言語化する。これらの繰り返しにより、主体的な学びの方法を身につけ、知識の定着を図る。
評価方法	授業態度 20%、毎回授業時提出小レポート 30%、期末試験レポート 50%（評価基準はルーブリックで示す）
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	室田保夫 2006『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房
参考図書	室田保夫 2013『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房 一番ヶ瀬康子監修『シリーズ　福祉に生きる』1〜63 巻　大空社 阿部志郎・岡本榮一監修・日本キリスト教社会福祉学会編 2014『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房 取り上げた人物の参考図書は授業中に提示する
事前・事後学修	事前学修において、テキストを少なくとも 1 度は読み、それぞれの人物の「生い立ち」や「行ったこと」について理解しておくこと。事後学修では、知識を定着させるために、さらにテキストを熟読すること（目安時間 40 分）
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する

科目名	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
科目責任者	担当指導教員
単位数他	２単位（30 時間）　必修　　Ⅰ＝６セメスター、Ⅱ・Ⅲ＝７・８セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。（総合演習ガイダンス参照） 6 セメスター ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する 7 セメスター ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読み、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 ・テーマをまとめ、発表する 8 セメスター ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する ＊詳細は担当指導教員の Web シラバス参照

アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。
評価方法	＜社会福祉学科・介護福祉学科＞ Ⅰ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅱ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅲ：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度）40%、最終提出物60% ＜こども教育福祉学科＞ Ⅰ：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% Ⅱ：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度）40%、最終提出物60% ・最終提出物はルーブリック（moodleに掲載）を用いて評価する。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	＊担当指導教員のWebシラバス参照
参考図書	＊担当指導教員のWebシラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える ※　原則として、40分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オフィスアワー	＊担当指導教員のWebシラバス参照

科目名	社会福祉学概論Ⅱ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　６セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	社会福祉学概論Ⅰ、障害、高齢者、児童、公的扶助、地域の福祉関係各論、ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク実習など、これまでの学びを踏まえ、あらためて社会福祉とは何かについて、社会福祉の思想と原理、福祉政策・制度の役割と現状、さらに社会福祉を取り巻く教育、住宅、労働等諸政策と福祉政策の関連、国際的な福祉の動向などの学びをとおして考える。
到達目標	１．現代社会における福祉制度の意義や 理念、福祉政策との関係について理解できる ２．福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる ３．福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ４．福祉政策と関連政策（教育政策、住宅 政策、労働政策を含む。）の関係について理解できる ５．福祉政策、ソーシャルワークの課題について理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：ガイダンス、今までの学びの振り返り　佐藤順子 第２回：生活問題と社会福祉　大友信勝 第３回：社会福祉の原理と理論　大友信勝 第４回：国際動向からみた社会福祉政策の諸問題　大友信勝 第５回：社会福祉政策の策定過程　佐藤順子 第６回：社会福祉制度　佐藤順子 第７回：福祉ニーズとその把握　佐藤順子 第８回：中間テスト 福祉サービスの供給　佐藤順子 第９回：福祉関連政策　①　医療政策と福祉　佐藤順子 第 10 回：　〃　②　教育政策と福祉　佐藤順子 第 11 回：　〃　③　住宅政策と福祉　佐藤順子 第 12 回：　〃　④　労働政策と福祉　佐藤順子 第 13 回：　〃　⑤　権利擁護政策と福祉　佐藤順子 第 14 回：諸外国における福祉制度　佐藤順子 第 15 回：これからの福祉政策、ソーシャルワークの課題　佐藤順子

アクティブラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、中間テストを取り入れる
評価方法	定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。
指定図書	「社会福祉概論Ⅰ　現代社会と福祉」　全社協（社会福祉学習双書　編集委員会編） （社会福祉学概論Ⅰですでに購入済のもの）
参考図書	岩田正美『社会福祉への招待』放送大学教育振興会 大友信勝・永岡正己編著『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版
事前・事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む （事前・事後学修　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅱ
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位（30 時間）　選択 ２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰと同様に、ジェネラリストとしての相談援助の基盤と専門職について理解させることを目的としている。具体的には、「面接場面」の視覚教材を積み上げ方式で用い、次の 3 点を理解させる。①相談援助の概念と範囲　②専門職倫理と倫理的ジレンマ　③総合的かつ包括的援助と他職種連携（チームアプローチ）の意義と内容。これらによって、専門職の役割と機能や専門性を学び、専門家像を形成する。
到達目標	1. 対人援助・社会支援の意義、機能および役割を理解する。 2. 他者を様々な側面から理解できるようになる。 3. 人権尊重および社会正義に関心をもつようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1 回：ソーシャルワーク総論Ⅰの振り返りと、本講義の概要 第2 回：相談援助の概念と範囲　①――ＳＷにかかる各種の国際定義 第3 回：相談援助の概念と範囲　②――ＳＷの理論と動向（前史・誕生・論争・批判・統合） 第4 回：相談援助の概念と範囲　③――ＳＷの理論と動向（胎動・ＧＷ・ＣＷ・日本・欧米） 第5 回：相談援助の理念　①――相談援助ｻｰﾋﾞｽの視座（価値・知識・技術、専門性、視点） 第 6 回：　相談援助の理念　②――相談援助ｻｰﾋﾞｽの視座（ｼﾞｪﾈﾗﾘｽﾄ、利用者主体、権利擁護、ｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄ、ｽﾄﾚﾝｸﾞｽ、尊厳の保持、社会的包摂、自立支援） 第7 回：中間テスト、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容　①――ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰの機能、さまざまの職種等との連携・協働 第8 回～第12 回：総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容　②③④⑤――ｼﾞｪﾈﾗﾘｽﾄとしての社会福祉援助活動の展開過程 第13 回：相談援助における権利擁護の意義――社会福祉士が捉える権利擁護 第14 回：専門職倫理と倫理的ジレンマ－－社会福祉士の価値と倫理 第15 回：相談援助にかかる専門職の概念と範囲－－契約下における援助のあり方、諸外国の動向

アクティブラーニング	授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。毎時、授業の終わりにリアクションペーパーを記入し、学びを振り返る。15 回終了時に返却された 15 回分のリアクションペーパーによって、半年の学びを振り返る。
評価方法	授業態度 10%、毎回授業時提出小レポート 20%、中間レポート 30%、定期試験 40%
課題に対するフィードバック	授業のなかで行う。また最後の授業で 15 回分の振り返りを行う。
指定図書	ソーシャルワーク総論Ⅰから引き続き『ソーシャルワーク』空閑浩人 2015 ミネルヴァ書房を用いる
参考図書	宮本節子 2013『ソーシャルワーカーという仕事』ちくまプリマー新書 木下大生 2015『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事』岩波ブックレット 赤羽克子 2015『3 福祉士の仕事がわかる本』日本実業出版社 八木亜紀子 2012『相談援助職の記録の書き方――短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	1，授業中に配布された資料や指定図書を事前・事後に熟読し、授業内容を理解する 2，生活の中で、授業によって得た知識を、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める （目安時間 40 分）
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する

科目名	社会保障論Ⅰ
科目責任者	国京　則幸
単位数他	２単位（30 時間）　選択　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	（社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて） 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し、問題のとらえ方・考え方を深める。そしてその理解の上に、社会実態的な問題とのかかわりで取り組まねばならない課題等について検討する。
到達目標	1. 社会保障制度、特に金銭給付型の制度の構造およびその問題・課題について理解する。 2. 日本の社会に現実にある社会実態的な問題を把握し理解する。 3. 社会保障の論理を修得する。　－検討の「方法」（方法論）
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：履修案内（講義概要と履修計画等について） 第 2 回：社会保障とは何か①　：社会保障のモンダイ　【教科書　第１章　1】 ⇒社会保障にまつわる出来事 第 3 回：社会保障とは何か②　：社会保障の歴史と体系　【教科書　第１章　2】 ⇒社会保障の展開過程・歴史 第 4 回：社会保障とは何か③　：社会保障の方法　【教科書　第７章】 ⇒社会保障制度の基本的な方法 第 5 回：医療保障①　：医療保障とは？　【教科書　第２章　1】 ⇒医療保障とは／保険とは 第 6 回：医療保障②　：日本の医療保障（健保）　【教科書　第２章　2】 ⇒健保制度のしくみ 第 7 回：医療保障③　：日本の医療保障（健保／国保）　【教科書　第２章　2】 ⇒健保制度のしくみ（給付）／国保制度のしくみ 第 8 回：医療保障④　：日本の医療保障（国保、医療制度、医療保険と医療制度のつながり） 【教科書　第２章　2】 ⇒医療制度のしくみ／医療保険制度と医療制度とのつながり 第 9 回：医療保障⑤　：医療保障の課題　【教科書　第２章　3】 ⇒医療保障をめぐる問題／世界の医療保障 第 10 回：社会福祉①　：社会福祉とは？　【教科書　第１０章　1】 ⇒社会福祉とは 第 11 回：社会福祉②　：児童福祉・家族福祉　【教科書　第１０章　2、第８章】 ⇒児童虐待を巡る制度のしくみ／保育所を巡る制度のしくみ 第 12 回：社会福祉③　：障害者福祉　【教科書　第１０章　3】 ⇒障害者総合支援制度のしくみ 第 13 回：社会福祉④　：高齢者福祉　【教科書　第１０章　4】 ⇒介護を巡る問題・課題 第 14 回：社会福祉⑤　：介護保険　【教科書　第３章】 ⇒介護保険制度のしくみ 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	講義各回後にMoodleを介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行う。
評価方法	定期試験（筆記試験）70%＋②小テスト30%（授業中の発言等の考慮含む）
課題に対するフィードバック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっている。
指定図書	『新・初めての社会保障論　第2版』古橋エツ子編（法律文化社、2018年）
参考図書	なし
事前・事後学修	・あらかじめ該当する箇所（【　】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。 ・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（＋予習）を。（目安時間40分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	社会保障論Ⅱ
科目責任者	国京　則幸
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	（社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて） 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し、問題のとらえ方・考え方を深める。そしてその理解の上に、社会実態的な問題とのかかわりで取り組まねばならない課題等について検討する。
到達目標	1. 社会保障制度、特に金銭給付型の制度の構造およびその問題・課題について理解する。 2. 日本の社会に現実にある社会実態的な問題を把握し理解する。 3. 社会保障の論理を修得する。　－検討の「方法」（方法論）
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：社会保障論Ⅰの振り返り（医療保障　その１）　【教科書　第２章】 ⇒保険のしくみ／健康保険制度のしくみ 第 2 回：社会保障論Ⅰの振り返り（医療保障　その２） ⇒国民健康保険制度のしくみ／医療保険制度と医療制度のつながり 第 3 回：社会保障論Ⅰの振り返り（社会福祉　その１）　【教科書　第３章、第７～10 章】 ⇒社会福祉基礎構造改革 第 4 回：社会保障論Ⅰの振り返り（社会福祉　その２） ⇒介護保険制度のしくみ 第 5 回：年金保険①　：年金とは？＋基礎年金　【教科書　第４章　１、２】 ⇒年金の基本的考え方／基礎年金制度のしくみ 第 6 回：年金保険②　：基礎年金、厚生年金　【教科書　第４章　２、】 ⇒基礎年金制度の給付（老齢・障害・遺族）／厚生年金制度のしくみ 第 7 回：年金保険③　：厚生年金、年金の課題　【教科書　第４章　２、３】 ⇒厚生年金制度の給付（老齢・障害・遺族）／課題の検討 第 8 回：生活保護①　：生活保護とは？　【教科書　第 12 章　１】 ⇒貧困とは、生活保護とは 第 9 回：生活保護②　：生活保護のしくみ　【教科書　第 12 章　２】 ⇒生活保護制度のしくみ 第 10 回：生活保護③　：生活保護の課題　【教科書　第 12 章　３】 ⇒生活保護の課題 第 11 回：労働保険①　：労働者災害補償保険（労災）とは？　【教科書　第５章　１、２】 ⇒労災とは 第 12 回：労働保険②　：労災のしくみ　【教科書　第５章　２】 ⇒労災制度のしくみ 第 13 回：労働保険③　：雇用保険とは？　【教科書　第５章　３】 ⇒雇用保険とは 第 14 回：労働保険④　：雇用保険のしくみ　【教科書　第５章　３】 ⇒雇用保険制度のしくみ 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	講義各回後にMoodleを介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行う。
評価方法	定期試験（筆記試験）70%＋②小テスト30%（授業中の発言等の考慮含む）
課題に対するフィードバック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっている。
指定図書	『新・初めての社会保障論　第2版』古橋エツ子編（法律文化社、2018年）
参考図書	なし
事前・事後学修	・あらかじめ該当する箇所（【　】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。 ・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（＋予習）を。（目安時間40分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	公的扶助論
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　選択　４セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	公的扶助は、国が「国民的最低限」の生活を国民に保障する制度であり、その中核をなす生活保護制度は、日本国憲法第 25 条「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という生存権を国家の義務として具体化したもので、あらゆる社会保障制度の基礎となる制度である。 生活とは何か。そして貧困とは何か。それらを明らかにしつつ、公的扶助の社会的意義について考えたい。
到達目標	1. 現代社会における貧困の実態と貧困や格差が生じる社会構造を理解する 2. 生活保護制度を体系的に理解する 3. 公的扶助の社会的意義を歴史的に理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：現代社会における貧困と格差 第 2 回：現代社会の労働と生活 第 3 回：貧困とは何か（1）貧困理論の歴史 第 4 回：貧困とは何か（2）現代の貧困理論 第 5 回：貧困とは何か（3）事例分析による貧困の構造的理解（グループワーク） 第 6 回：公的扶助の歴史的展開 第 7 回：生活保護制度（1）憲法と社会保障 第 8 回：生活保護制度（2）基本原理と実施上の原則 第 9 回：生活保護制度（3）保護基準と保護の種類（グループワーク） 第 10 回：生活保護制度（4）保護の実施体制と関連分野 第 11 回：保護世帯の実態 第 12 回：ホームレス状態にある人々への支援（ゲスト講義：社会活動家） 第 13 回：　子どもの貧困対策の現状と課題（グループワーク） 第 14 回：生活保護制度と自立支援 第 15 回：まとめ　公的扶助とは何か

アクティブラーニング	グループでの事例検討を通して「貧困とは何か」について理解を深める。 グループで最低生活費を計算する。 子どもの貧困対策について現状を理解し、その課題についてグループで検討する。
評価方法	授業への取り組み姿勢　30%、　中間レポート　20%、　定期試験　50%
課題に対するフィードバック	中間レポートについて、授業においてコメントする。
指定図書	『新版 公的扶助論』(2008) 川上昌子　光生館
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・事後学修	事前学修として、講義のテーマに則してその概要をテキストにより理解しておくこと。 事後学修として、講義で配布する資料に沿って理解を深めること。 (目安時間 40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ「援助関係形成の意義と方法」を基盤とし、ソーシャルワークの理論および実践の実際を学修することに主眼をおき、①ソーシャルワーク理論の歴史を理解すること、②ソーシャルワークの展開過程の実際を理解すること、③初回面接技術の実際を理解することを目的としている。
到達目標	1. ソーシャルワークの展開過程を理解している。 2. 分析的な思考にもとづいて、他者を様々な側面から理解しようとする。 3. ソーシャルワークの理論・実践史を理解している。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：講義概要・自己紹介 第 2 回：初回面接の技術 第 3 回：ソーシャルワークの展開過程①（インテーク） 第 4 回：ソーシャルワークの展開過程②（アセスメント） 第 5 回：ソーシャルワークの展開過程③（アセスメントツール） 第 6 回：ソーシャルワークの展開過程④（プランニング・介入） 第 7 回：ソーシャルワークの展開過程⑤（モニタリング） 第 8 回：ソーシャルワークの展開過程⑥（終結・評価） 第 9 回：ソーシャルワークの歴史①（1890 年代末～1910 年代） 第 10 回：ソーシャルワークの歴史②（1920～1940 年代） 第 11 回：ソーシャルワークの歴史③（1950 年以降①） 第 12 回：ソーシャルワークの歴史④（1950 年以降②） 第 13 回：ソーシャルワークの歴史⑤（まとめ） 第 14 回：ソーシャルワークの歴史（小テストの予定） 第 15 回：まとめ ＜その他＞ ・国家試験受験で、ソーシャルワークの歴史は必ず出題され、暗記が必要とされる。ただし、単なる暗記ではなく、歴史を自分の専門家としての成長と重ね合わせながら聞いてほしい。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
評価方法	小テスト 20%、課題レポート 20%、定期試験 50%、授業への取り組み 10%として評価する。 ＜小テスト・定期試験＞ ・事前に出題範囲を告知する（過去の社会福祉士国家試験問題を含む)。 ・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。 ＜課題レポート＞ 映画『あしがらさん』に登場する人物をアセスメントし、支援計画をたてる。 ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	復習テスト及び小テストを実施し、その場で解答を提示する。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 渡辺律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際』医歯薬出版
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	事後に復習テストにかかわる授業内容を復習しておくこと。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅲ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで修得した内容を基盤として、①グループワーク（集団援助）の理論と実際、②スーパービジョン、③相談援助における個人情報及び ICT の活用について理解することを目的としている。
到達目標	1.　グループワークの理論と実践について、利用者のニーズと結びつけて理解することができる。 2. スーパービジョンに関する学習を通して、自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 3. 対人援助・社会支援のさまざまな関連施策、特に個人情報について理解している。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第 1 回：講義概要　福田俊子 第 2 回：グループワークとは　福田俊子 第 3 回：特徴的なグループワーク（回想法など）　福田俊子 第 4 回：グループワークの原則と援助関係　福田俊子 第 5 回：グループワークの展開過程①　福田俊子 第 6 回：グループワークの展開過程②　福田俊子 第 7 回：グループワークの展開過程③　福田俊子 第 8 回：セルフヘルプ・グループ　福田俊子 第 9 回：グループワークの歴史　福田俊子 第 10 回：グループワークのまとめ　福田俊子 第 11 回：スーパービジョンの意義・目的・方法　川向雅弘 第 12 回：スーパービジョンの実際①　川向雅弘 第 13 回：スーパービジョンの実際②　川向雅弘 第 14 回：相談援助における個人情報の保護　川向雅弘 第 15 回：まとめ　川向雅弘 ＜その他＞ ・「覚えること」と同時に「考えること」も大切にすること。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	復習テストなどを実施し、その場で解答を提示する。
評価方法	小レポート 20%、定期試験 60%、授業への取り組み 20%として評価する。 ＜小レポート＞ ・集団生活における集団援助の意義と役割ー『カッコーの巣の上で』からー ＜定期試験＞ ・事前に出題範囲を告知する。 ・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。 ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・あなたがおススメの文献の紹介分の作成（Moodle）
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容やMoodle で作成した資料をもとに、グループディスカッション等を、適宜取り入れる。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣 社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	・事前に該当する教科書の単元を必ず読んでくること。 ・事後にも、該当する教科書の単元を読み直すこと。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅳ
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した内容を基盤として、①ケアマネジメント、②コーディネーション・ネットワーキング・アウトリーチ、③スーパービジョンについて理解し、実践で活用できる力を身につけることを目的としている。
到達目標	1. ケアマネジメント等の学習を通して、エンパワメントを意識した人と環境との調整支援の重要性を理解する。また、人間という存在および様々な社会資源と関わる意欲をもつことができる。 2.　外部講師による専門職としての自己変容の物語を聴くことを通じて、自分の実習体験などを振り返りながら、専門職としての自己の生成について理解することができる。 3. 分析的志向にもとづいた行動目標が設定できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：講義概要　福田俊子・川向雅弘 第 2 回：ケースマネジメントの基本事例①（事例の共有）　川向雅弘 第 3 回：ケースマネジメントの基本事例①（事例の検討）　川向雅弘 第 4 回：ケースマネジメントの基本事例①（報告とまとめ）　川向雅弘 第 5 回：ケースマネジメントの基本事例②（事例の共有）　川向雅弘 第 6 回：ケースマネジメントの基本事例②（事例の検討）　川向雅弘 第 7 回：ケースマネジメントの基本事例②（報告とまとめ）　川向雅弘 第 8 回：ケースマネジメントの基本事例③（事例の共有）　川向雅弘 第 9 回：ケースマネジメントの基本事例③（事例の検討）　川向雅弘 第 10 回：ケースマネジメントの基本事例③（報告とまとめ）　川向雅弘 第 11 回：スーパービジョンを受けるということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 12 回：スーパービジョンを受けるということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 13 回：スーパービジョンを受ける・するということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 14 回：スーパービジョンを受ける・するということ　ゲストスピーカー・福田俊子 第 15 回：まとめ　福田俊子・川向雅弘 ＜その他＞ ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。

アクティブラーニング	グループ学修やPBLなどを用いながら授業を進める。
評価方法	レポート60%、定期試験40%として評価する。 レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。 ＜レポート＞ ・事例検討を通じて考えたことなどをテーマとしたレポートを課す。 ＜定期試験＞ ・事前に出題範囲を告知する。 ・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。 ＜授業への取り組み＞ ・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。 ・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容やMoodleで作成した資料をもとに、グループディスカッションを、適宜取り入れる。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 北川清一他監修『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	・事前に該当する教科書の単元や配布資料を必ず読んでくること。 ・事後にも、該当する教科書の単元を読み直すこと。
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	ソーシャルワーク実習
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	４単位（180 時間）　選択 ５～６セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	社会福祉機関・施設において 23 日間、180 時間以上の配属実習を行う。 配属実習における利用者や職員との長期的なかかわりを通じて、学内の講義、演習で学習した知識や技術が、学生自身の「身についた力」、つまり「実践力」となること、そして学生が自分の力で次につながる自己課題を明確化していくことをめざす。
到達目標	これまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、実習先で出会う対象者の発達段階やニーズに合わせた支援をする実践力につなげることができる。 １．利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成をはかることができる。 ２．利用者理解とその需要の把握、及び支援計画作成に必要な後技術を習得する。 ３．利用者やその関係者との援助関係の形成をはかることができる。 ４．利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価について理解できる。 ５．他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの必要性を理解できる。 ６．社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定ついて、組織の一員としての役割と責任について理解できる。 ７．施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際について理解できる。 ８．当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることについて、および具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解できる。 ９．具体的体験や相談援助を専門援助技術として概念化・理論化し体系化する能力が身に付く。
授業計画	＜担当教員名＞ 川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子、落合克能 ＜授業内容・テーマ等＞ 「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」に基づき厚生労働省が別に定める施設及び事業にて、180 時間の実習を行う。 実習先の実習指導者並びにソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。特に実習担当教員は、実習中の巡回や帰校日の指導を通して、学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を取得できていることが履修の前提になる。

アクティブラーニング	実習科目である。
評価方法	実習生としての責務の遂行、積極的な取り組みの姿勢、記録等を総合して行う。
課題に対するフィードバック	帰校日、実習巡回においてスーパービジョンを実施する。
指定図書	使用しない
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	実習指導者、教員によるスーパービジョンの際には、それまでの実習を振り返り、自分の感じたこと、考えたこと、話し合いたいことなどを予め考えておく。また、事前学習・事後学習として、毎日の実習ノートの作成、実習指導者からの指導コメントの振り返りにしっかり取り組むこと。（目安時間、４０分）
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	１単位（30 時間）　選択　３～４セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実習の事前指導として位置づけられる。 ３セメスターでは、学生が希望する実習先を選択できるよう、各領域・実習先の概要、実習で必要とされるソーシャルワークの知識と技術等について、現場の専門職による講義をとおして学習する。希望する実習領域・実習先が確定する４セメスターでは、それぞれで必要とされる知識・技術についてグループ学習を行う
到達目標	実践で必要とされる社会福祉専門職としての技術について理解し、ある程度使用できることをめざす。あわせてグループ学習をとおして他者の意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につける。 １．実習の意義、目的等を理解する。 ２．自分の関心に沿った実習先を選択する上で必要となる知識と技術を習得する。 ３．配属実習を行う際に必要となる実際的な知識、技術等を習得する。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子、落合克能 ＜授業内容・テーマ等＞ **【3セメスター】** 第１回：ソーシャルワーク実習の意義と目的・目標　川向 **実習の分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会における実習形態　各領域担当者** 第２回：外部講師による実習先を選択する上での学習　①こども領域　坂本 第３回：〃　②障がい領域（知的等）　川向 第４回：〃　③障がい領域（救護等）　福田 第５回：〃　④高齢者領域　落合・村上 第６回：〃　⑤社協領域　佐藤 第７回：全体オリエンテーション　今後のスケジュール　川向 担当教員による領域別説明会　各領域担当 各領域の実習先の活動内容・特徴の理解、実習生としての課題の理解 第８回：担当教員による領域別説明会　各領域担当 担当教員による相談会 第９回：実習達成課題　川向 **【4セメスター】** 第 10 回：領域別学習　実習領域と施設・機関・団体に関する基本的な理解　各領域担当 第 11 回：〃　実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する基本的な理解　〃 第 12 回：〃　学習のまとめ　〃 第 13 回：〃　実習先で必要とされるソーシャルワークの知識　〃 第 14 回：〃　実習先で必要とされるソーシャルワークの技術　〃 第 15 回：全体授業　実習計画書の作成について、個人票の書き方について　川向 領域別学習　各領域担当

アクティブラーニング	実習科目である。
評価方法	授業参加態度 25%、領域別学習課題・レポート 75%。
課題に対するフィードバック	各実習領域ごとの個別学習でフィードバックを行う。
指定図書	『社会福祉用語辞典』〈第９版〉ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	今での実習体験を振り返り、ノートを読み直すなどをした上で臨む。３セメの外部講師の授業の前には、必ず予習をして臨む。 ４セメスターの領域別学習の際は、実習先施設・事業所について、自ら課題を設定したうえで制度的・実践的両面での予習・復習を行いながら臨む。　（目安時間　40 分）
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示する。 各領域担当教員のオフィスアワーを確認しておくこと。

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位（60 時間）　選択　５～６セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目はソーシャルワーク実習の直前学習、事後学習として位置づけられる。 直前学習では、配属実習を行う上での最終的な準備を整えることが主な授業内容となる。 事後学習では、配属実習の振り返り、学習のまとめ、実習報告会での発表、学習総括レポートの作成を行う。そのプロセスはグループ及び個別スーパービジョンによって進められる。
到達目標	ソーシャルワーク実習に向けて、それまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、対象者の発達段階やニーズに合わせた支援を行うための直前準備をする。また、実習後は、その経験を振り返り、対人援助・社会支援のための知識を深め、技術を高めるとともに、実習経験を通じて自己覚知を深めようとする姿勢をもつ。 １．配属実習を行う際に実際に必要となる知識、技術等を習得する。 ２．社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ３．具体的な体験や援助活動をソーシャルワークとして概念化し理論化し、体系立てることができる。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子、落合克能 ＜授業内容・テーマ等＞ **【実習の直前学習】** 第１回：全体授業：事前準備の概要、実習計画書の作成、事前訪問の意義、訪問の仕方、記録の意義、実習ノートの書き方(川向)、領域別学習（各担当教員） 第２回：領域別学習(各担当教員)　実習領域と施設・事業所・機関・団体に関する理解 第３回：　〃　実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する理解 第４回：　〃　必要とされるソーシャルワークの知識・技術の修得 第５回：　〃　必要とされるソーシャルワークの技術、実習計画書作成 第６回：実習先事前訪問 第７回：全体授業：スーパービジョン、評価票の記入の仕方、活用方法、プライバシーの尊重と守秘義務、実習生の役割(川向)、領域別学習（各担当教員） 第８回：個別指導(各担当教員)　実習計画書の書き方指導 第９回：　〃　実習計画書の書き方指導 第 10 回：　〃　実習計画書の書き方指導、その他 **【実習の事後学習】** 第 11 回：配属実習終了後のオリエンテーション(川向) 第 12 回：グループスーパービジョン(各担当教員)　オリエンテーション 第 13 回：　〃　実習体験を共有する① 第 14 回：　〃　実習体験を共有する② 第 15 回：　〃　自己の実習体験を多面的にとらえる① 第 16 回：　〃　自己の実習体験を多面的にとらえる② 第 17 回：　〃　自己の実習体験の意味付けを行う① 第 18 回：　〃　自己の実習体験の意味づけを行う② 第 19 回：　〃　実習での成果と学習題をまとめる 第 20 回：グループワーク(各担当教員)　実習報告会に向けて　方針検討 第 21 回：　〃　〃　発表内容をまとめる 第 22 回　〃　〃　発表内容の検討 第 23 回：　〃　〃　プレゼン方法の検討 第 24～26 回（3 コマ連続授業）：実習報告会 第 27 回：全体授業　実習報告会振り返り（教員全員から） 第 28 回：個別スーパービジョン(各担当教員)　自己の学習内容の言語化 第 29 回：　〃　自己の課題の明確化 第 30 回：　〃　レポート指導

アクティブラーニング	実習科目である。
評価方法	領域別授業（事前・事後）、報告会に向けての準備等への参加状況・学習状況（提出物・実習計画書含む）40%、総括レポート 60%で評価する。
課題に対するフィードバック	スーパービジョンにてフードバックする。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する
事前・事後学修	実習の直前学習においては、実習指導Ⅰでの学びの振り返り、新たな課題についての調べ学習、実習計画書の作成が課題となる。 実習の事後学習においては、実習体験の振り返り、実習記録の読み込み、実習での学びの整理がグループスーパービジョンに臨むにあたって必要となる。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。

科目名	高齢者福祉論
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）　選択　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	・高齢者の精神的・身体的特徴や障害や高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ、支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。 ・高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学ぶとともに相談援助活動において必要となる介高齢者福祉・介護保険制度やその他の社会福祉サービスについて理解する。
到達目標	１．保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識を理解できる。 ２．現代社会における諸問題について、特に高齢者の特徴を多面的にとらえ、発生問題や経過、解決について説明できる。 ３．高齢者を取り巻く問題や生活課題について説明できる。 ４．高齢社会対策についての基礎知識を得る。 ５．介護保険制度を理解できる。 ６．高齢者に関する制度や社会福祉サービスの活用を、相談援助活動を想定して支援計画を作成できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：高齢者を取り巻く社会環境の変遷 第 2 回：高齢者福祉制度の発展過程 第 3 回：高齢者福祉に関する現代的課題 第 4 回：高齢者の保健福祉の発展と現行制度　小テスト① 第 5 回：老人福祉法 第 6 回：高齢者虐待の防止　高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法） 第 7 回：日常生活自立支援事業と成年後見制度　小テスト② 第 8 回：高齢者の生活を支える制度と専門職（介護保険制度導入の経緯） 第 9 回：介護保険制度①：介護保険制度の目的、保険者と被保険者 第 10 回：介護保険制度②：保険財政と要介護認定の仕組み　小テスト③ 第 11 回：介護保険制度③：保険給付／居宅サービスの種類 第 12 回：介護保険制度④：保険給付／施設サービスの種類 第 13 回：介護保険制度⑤：介護認定審査会、介護保険審査会、国保連の役割　小テスト④ 第 14 回：地域支援事業：地域包括ケアシステム 第 15 回：まとめ　小テスト⑤ 【備考】授業態度及び課題提出物を重視します。主体的に授業への参加を希望します。本教科は社会福祉士受験資格取得に必要とされる指定科目です

アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
評価方法	小テスト5回（25%）、課題・提出物等（15%）、定期試験（60%）
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やMoodleなどを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	新・社会福祉士養成講座　第3版　13 高齢者に対する支援と介護保険制度　中央法規
参考図書	黒澤貞夫「福祉に学び福祉に尽くす」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので準備して下さい 【事後学修】配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習して下さい （事前：事後学修　目安時間40分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉論
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）　選択　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	・高齢者の精神的・身体的特徴や障害について理解し、高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。 ・生活を多面的な視点からとらえ、高齢者や障害をもつ人の人生を支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。
到達目標	1.　対人援助・社会支援にかかわる基本的枠組（理論・対象・方法・歴史）及び専門職連携について説明でき、高齢者の特徴を多面的にとらえ、説明できる。 2.　高齢者の生活実態をふまえ、高齢者の福祉需要や介護需要について説明できる。 3.　認知症ケアや終末期ケアについて基本的な考え方を習得し、人間観と倫理について学ぶ。 4.　高齢者の心身の状態に応じた住環境について理解し、他者に伝えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：介護の概念や対象：介護等に関する諸問題・実践構造 第 2 回：介護の理念：高齢者の生活実態（福祉需要） 第 3 回：介護の対象：要介護高齢者や認知症高齢者の生活実態（介護需要・介護の概念や対象） 第 4 回：介護各論①：自立支援(自立に向けた介護)　小テスト① 第 5 回：介護各論②：家事における自立支援 第 6 回：介護各論③：介護技術（移動・食事・入浴・排泄他） 第 7 回：認知症ケア①：認知症ケアの基本的考え方　小テスト② 第 8 回：認知症ケア②：介護する家族の支援・認知症高齢者を取り巻く地域支援 第 9 回：終末期ケア 第 10 回：介護過程 第 11 回：高齢者支援の方法と実際 第 12 回：高齢者を支援する専門職の役割と実際 第 13 回：高齢者を支援する組織と役割①：行政機関の役割　小テスト④ 第 14 回：高齢者を支援する組織と役割②：社会福祉協議会 第 15 回：高齢者を支援する組織と役割③：ボランティア団体・非営利民間活動 小テスト⑤ 【備考】授業態度及び課題提出物を重視します。主体的に授業への参加を希望します。本教科は社会福祉士受験資格取得に必要とされる指定科目です。

アクティブラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
評価方法	小テスト5回（25%）、課題・提出物等（15%）、定期試験（60%）
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内やMoodleなどを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	新・社会福祉士養成講座　第3版　13 高齢者に対する支援と介護保険制度　中央法規
参考図書	パットムーア「私は三年間老人だった」朝日出版社
事前・事後学修	【事前学習】次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので40分程度準備して下さい 【事後学修】配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習として40分程度をして下さい
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	障害者福祉論
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位（30 時間）　選択　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「障害」を理解し、障がいのある人の生活を理解する科目です。障がいのある人に関わる福祉施策やサービス・利用できる社会資源、さらに、障害者福祉の基盤にあるノーマライゼーションや自立生活にかかわる思想・価値、人権についての理解を深めます。
到達目標	１．「障害」とは何か、「障害児・者」の定義が説明できる ２．障がいのある人が置かれてきた歴史を説明できる。 ３．障害者福祉制度の変遷やその特徴を説明できる。 ４．障害者総合支援法（障害者自立支援法）の意義・現状・課題が説明できる。 ５．障がいのある人への支援について、法制度とサービスの関連づけを説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回 ：オリエンテーション（「障害者」とは誰か 第２回 ：「障害（者）」の定義と概念（ICIDH と ICF の特徴） 第３回 ：障がいのある人が置かれた歴史的状況と障害者運動の歩み 第４回 ：障害者福祉の理念（自立） 第５回 ：障害者福祉の理念（ノーマライゼーション） 第６回 ：社会福祉基礎構造改革と障害者福祉の方向性 第７回 ：障害者福祉にかかわる法体系 第８回 ：障害者総合支援法（理念と考え方） 第９回 ：障害者総合支援法（サービス体系・財源・自己負担） 第 10 回：障がいのある人を支援する機関と専門職、多職種連携 第 11 回：身体に障がいのある人への支援 第 12 回：知的な障がいのある人への支援 第 13 回：精神に障がいのある人への支援 第 14 回：障害者関連施策と地域サポート体制（雇用・住宅・教育等） 第 15 回：障がいのある人と人権

アクティブラーニング	小テストを実施します。
評価方法	授業態度：20%、レポート：40%、定期試験：40%
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーでフィードバックを行います。
指定図書	・新・社会福祉士養成講座 14『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規 ・『シリーズ 社会福祉の視座 社会福祉への招待』ミネルヴァ書房 ・宮坂道夫『ハンセン病 重監房の記録』集英社新書
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	【事前】毎回簡単な事前課題を提示致します。また、指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。 【事後】授業の中で指摘したキーワードを調べ、ノートにまとめること。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示する。

科目名	児童・家庭福祉論
科目責任者	村田　哲康
単位数他	２単位（30 時間）　選択　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本講義は児童家庭福祉の専門的知識を学び、その実践的取り組みがどのようなシステムや仕組みによって具現化されているか概観する。 特に社会的養護の在り方に注目し、今後の展望を明らかにしてみたい。
到達目標	1.「子どもとは何か」子ども観を学び考える。 2.児童家庭福祉の概念について理解する。 3.社会的養護の概念とその実際について理解する。 4.児童家庭福祉の専門職と関係機関の働きについて理解する。
授業計画	第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法等の説明） 第 2 回：子ども家庭福祉の理念と重要概念 第 3 回：子ども家庭福祉の歴史的展開 第 4 回：子ども家庭福祉の法体系と実施体制 第 5 回：子ども観の変遷 第 6 回：子どもの権利保障 第 7 回：社会的養護の基礎概念 第 8 回：社会的養護の実際の取り組み 第 9 回：子どもの貧困の現状と課題 第 10 回：子どもの貧困についての事例検証 第 11 回：子ども虐待の現状と課題 第 12 回：子ども虐待の対応と予防の事例検証 第 13 回：里親制度の概要と動向 第 14 回：子ども家庭福祉における専門職と関係機関 第 15 回：子ども家庭福祉の今後の課題と展望 【備考】授業時には毎回、最新の社会福祉六法及び社会福祉小辞典を持参し活用して下さい。（現物はどこの出版社のものでもよいので、各自で検討し購入して下さい。）

アクティブラーニング	講義内で発問を多くし、主体的に関連科目の復習や理解度の確認を行う
評価方法	授業態度（30%）、課題リポート（70%）を勘案し、総合評価する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに対してコメントするなどを通し、学びを共有する。
指定図書	『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規
参考図書	授業中に随時紹介
事前・事後学修	事前：関係資料等をよく読んでおくこと。 事後：授業内容の復習を行い、自分の考えをまとめておくこと。 （事前・事後学修で 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	地域福祉論Ⅰ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30時間）　選択　　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	近年、特に社会福祉法成立により、地域福祉は社会福祉の一分野にとどまらず、社会福祉の今後のあり方に関わる概念として重視されている。そこでこの科目では主に地域福祉の理論について学習する。
到達目標	福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、現代社会に生起する諸問題について、地域社会における生活との関わりで理解し、その解決の現状について説明できることを目指す。 １．地域福祉の発展過程について理解できる ２．地域福祉の基本的考え方について理解できる ３．地域福祉の主体と対象について理解できる ４．地域福祉に係る組織、団体、専門職の役割と実際について理解できる ５．地域福祉計画、地域福祉の財源ついて理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：ガイダンス 、ビデオ視聴 第２回：地域社会と生活 第３回：地域福祉が重視される背景と展開 ①地域福祉の源流 第４回：　〃　②戦後社会福祉の発展と地域福祉 第５回：近年の地域福祉政策の動向と課題 第６回：　地域福祉の概要理解　日常生活圏域における地域福祉活動の実践例 第７回：地域福祉の基本的考え方① 地域福祉の理念と概念 第８回：中間テスト 地域福祉の基本的考え方② 地域福祉における住民参加の意義 第９回：　地域福祉の主体と対象 第10回：　地域福祉に係る組織、団体、専門職等① 社会福祉協議会と社会福祉法人等 第11回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等② 特定非営利活動法人と民生委員・児童委員 等 第12回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等③ 地方自治体 、行政組織、専門職 第13回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等④ 地域福祉推進基礎組織、住民参加型在宅福祉サービス、その他 第14回：地域福祉の財源　共同募金 第15回：学習のまとめ

アクティブラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、中間テストを取り入れるなどして知識の定着・確認を促す
評価方法	定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。
指定図書	『地域福祉論　地域福祉の理論と方法』全社協（「社会福祉学習双書編集委員会」編）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論　理論と実践』法律文化社
事前・事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む （事前・事後学修　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	地域福祉論Ⅱ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30時間）　選択　　４セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	地域福祉論Ⅰの「地域福祉の理論」についての学習を踏まえ、本科目では「地域福祉の方法」について学習する。
到達目標	福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、地域社会とそこで生活する福祉サービスを必要とする人々について、適切なニーズ把握、支援の道筋を指摘できる。 １．地域福祉の動向とソーシャルワークの新たな課題について理解できる ２．地域福祉方法論の発展過程が理解できる ３．地域福祉における地域包括ケアの意義が理解できる ４．地域福祉の具体的な推進方法について指摘できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：ガイダンス　　ビデオ視聴 第２回：近年の社会福祉の動向と実践課題、ソーシャルワークの新たな課題 第３回：　地域福祉の方法論と発展のあゆみ 第４回：コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク 第５回：中間テスト ビデオ視聴 第６回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際①地域に根差した多様な実践 第７回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際②日常生活自立支援事業 第８回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際③ ソーシャルサポートネットワークと地域包括ケアシステム 第９回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際①　地域アセスメント 第10回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際②　福祉ニーズの把握、アウトリーチ 第11回：社会資源の活用・調整・開発 第12回：住民参加の意義（復習）とその促進方法 第13回：福祉教育とボランティア育成 第14回：地域福祉計画の概要と意義 第15回：地域における福祉サービス評価と質の確保　　学習のまとめ

アクティブラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、グループ討議、中間テストを取り入れる
評価方法	定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。
指定図書	『地域福祉論　地域福祉の理論と方法』全社協（「社会福祉学習双書編集委員会」編）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論　理論と実践』法律文化社
事前・事後学修	事前学修：毎回の授業については、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくことのほか、講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学修：関連する国家試験過去問などに取り組む （事前・事後学修　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	社会福祉経営論
科目責任者	落合 克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	福祉サービスの経営管理を担当している方々の講義を通して、福祉サービスにかかる組織や団体および、福祉サービスの経営と管理運営に関する基礎的知識を修得することを目的としている。社会福祉法人制度、財源、働きやすい労働環境の整備などについて学び、そのことが様々なニーズを持った利用者への適切な支援、地域共生社会の実現につながることを理解する。
到達目標	以下の到達目標を達成し、社会福祉サービス提供組織の経営管理に関する様々な事象について、専門用語を使って説明できるようになる。 1. 福祉サービスの制度および福祉サービスの組織と経営の基礎的知識を修得する。 2. 福祉サービスの管理運営の方法に関する知識を修得するとともに、その実際を理解する。
授業計画	【担当教員】武居　敏、落合克能 ＜回数・日程（6 限）＞　＜授業内容・テーマ等＞　＜担当講師＞ 第 1 回：オリエンテーション、福祉サービス提供組織の経営とは　武居　敏 第 2 回：福祉サービスにおける組織と経営　落合克能 ・福祉サービスにおける組織・経営、福祉サービスと制度 第 3 回：福祉サービスの管理運営の方法①　人事管理と労務管理　鎌田裕子 ・福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成 第 4 回：福祉サービスの管理運営の方法②　会計管理と財務管理　井上英樹 ・社会福祉法人会計基準、、経営分析、経営と財務等 第 5 回：福祉サービスの管理運営の方法④　サービス管理　野村則国 ・サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント 第 6 回：福祉サービスの管理運営の方法③　情報・施設管理　西澤基示郎 ・利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等 第 7 回：福祉サービスにかかわる組織や団体　落合克能 ・社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体 第 8 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム　川合厚志 第 9 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：措置関連施設　長谷川清太 第 10 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：障害者施設　宮﨑弘光 第 11 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：保育所　冨永裕美 第 12 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会　吉岡誠仁 第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論　落合克能 第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営　武居　敏 第 15 回：本科目全体のまとめ　落合克能 ※都合により、講師の順番が入れ替わることがあります。

アクティブラーニング	Moodle を活用した履修者からのリアクションや質問へのフィードバックなどを行い、履修者との対話を重視した授業進行を心がけます。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取り組み状況 30%、小レポート 20%、定期試験 50%として評価します。 【小レポート】 「社会福祉法人の制度改革」に関する文献（授業で指定）を通読し、重要ポイントと所感（考察）を 1200 字程度で記述して頂きます。 【定期試験】 記述、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、Moodle 等で事前に告知します。 【授業への取り組み】 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。
課題に対するフィードバック	毎回 Moodle に入力してもらうリアクションを各外部講師にお送りし、授業の冒頭でフィードバックします。また、中間レポート課題に関しても授業内でフィードバックします。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営　第 5 版』中央法規　2017 年
参考図書	『見て覚える　国試ナビ 2019』中央法規　2018　発刊予定
事前・事後学修	【事前学修】第 1 回～第 9 回は、事前に指定図書の当該授業部分を一読して来て下さい 【事後学修】授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに Moodle に入力して頂きます。また、事後学習としての中間レポート課題を課します。 （目安時間　40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。

科目名	医療福祉論
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	疾病にともなう生活問題と国民生活の実態、そして医療ソーシャルワーカーの歴史的な任務、そこから保健医療機関における生活にかかわる相談事業の社会的な必要を明らかにし、医療福祉とは何かを考える。 さらに、保健医療機関における対人援助の方法と、そのための専門職連携および地域のネットワークづくりの視点と方法について学習する。
到達目標	1. 医療福祉の歴史と社会的任務を理解する 2. 医療福祉の対象とそれを取り巻く社会を理解する 3. 医療福祉における実践の理論を学ぶ
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：医療福祉の今日的課題 第 2 回：医療福祉の歴史 第 3 回：医療保険制度 第 4 回：診療報酬制度 第 5 回：医療機関における各専門職の役割とチーム医療 第 6 回：医療ソーシャルワーカーの業務 第 7 回：医療福祉の実践と理論の変遷 第 8 回：医療福祉のアセスメント（グループワーク） 第 9 回：退院援助業務とその課題 第 10 回：地域包括ケアと医療福祉のネットワーク 第 11 回：住まいの貧困とソーシャルワークの課題 第 12 回：医療・介護制度改革とソーシャルワーク（ゲスト講義：ケアマネジャー） 第 13 回：医療法と医療施設の概要 第 14 回：がん医療と医療福祉の課題 第 15 回：医療福祉とは何か　―その対象と方法

アクティブラーニング	地域のネットワークづくりの方法についてグループで検討する。 医療福祉のアセスメントについてワークショップを行う。
評価方法	授業への取り組み姿勢　30%、　中間レポート　20%、　定期試験　50%
課題に対するフィードバック	中間レポートについて、授業においてコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・事後学修	授業ごとに図書などを紹介する。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。

科目名	社会福祉行政論
科目責任者	河村　等
単位数他	１単位（15 時間）　選択　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	社会福祉行政の動向や法制度の展開、国と地方自治体の関係を理解する。また、国や地方自治体の福祉計画の仕組み、特徴、役割を学び、問題点や課題を理解する
到達目標	社会福祉と行政の関係を組織・財政・計画の観点から理解する 社会福祉専門職者として、福祉行財政並びに福祉計画に関する仕組みと役割を理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法等の説明・福祉と制度） 第 2 回：福祉の法制度の展開・福祉計画の概要 第 3 回：　行政の骨格・社会福祉と法制度 第 4 回：　福祉行政の組織・社会福祉基礎構造 第 5 回：　財政と社会福祉・一般会計予算と社会保障関係費の動向 　　地方自治体の財政と民生費の動向 第 6 回：　民間社会福祉事業の財源・福祉サービスの利用と費用負担 第 7 回：　社会福祉基礎構造改革・相談過程・相談体制 第 8 回：　専門諸機関・地域の相談システム・専門職

アクティブラーニング	グループ学修を取り入れ、グループの意見集約、グループ間の発表、全体討論等を行う。
評価方法	筆記試験（60%）、課題レポート（40%）で評価する
課題に対するフィードバック	課題レポートへのコメントやリアクションペーパーの質問への解説で行う
指定図書	新・社会福祉士養成講座１０「福祉行財政と福祉計画」第５版　中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：ｼﾗﾊﾞｽに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと。 事後学修：授業内容について、振り返り、整理しておくこと。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	福祉計画論
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	１単位（15時間）選択　５セメスター
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる
科目概要	福祉計画の必要性や意義、目的、主体を理解し、その策定方法を学ぶとともに、実際の福祉計画について理解や考察を深めることを目的とする
到達目標	１．福祉計画についての現状とニーズ、歴史的背景を理解する ２．福祉計画の意義・目的・主体・評価方法などを説明できる ３．分野別福祉計画の実際を説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第１回　オリエンテーション 福祉計画の意義と目的、福祉行財政と福祉計画　　佐藤順子 第２回　福祉計画の主体と住民参加の意義　　佐藤順子 第３回　福祉計画の種類と実際①　高齢者関係計画　　野田由佳里 第４回　福祉計画の種類と実際②　障害者関係計画　　川向雅弘 第５回　福祉計画の種類と実際③　こども・若者関係計画　　大場義貴 第６回：福祉計画の種類と実際④　地域福祉関係計画　　佐藤順子 第７回　福祉計画の策定過程と留意点　　佐藤順子 第８回　福祉計画の評価方法　まとめ　　佐藤順子

アクティブラーニング	講義内で発問を多くし、主体的に関連科目の復習や理解度の確認を行う
評価方法	授業態度10％　定期試験90％
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーに対するコメントを講義内で、またはMoodle などを活用して行う
指定図書	新・社会福祉士養成講座「福祉行財政と福祉計画」中央法規
参考図書	授業の中で提示する
事前・事後学修	事前学修：居住市町村における各福祉計画を市町村ＨＰで検索し、概要をまとめる その他、講義予定表を確認の上、履修済み科目との関連や当該科目でのポイントを整理した上で授業に臨む 事後学修：関連する国家試験過去問などに取り組む 各講義で学んだ法律、制度などを時系列で整理し、年表などを作成する （事前・事後学修　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	就労支援論
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	１単位(15 時間)　選択　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「人が働くということ」を様々な角度から考え、職を得て働き続けることを支える社会の仕組みを学びます。「働くこと」をめぐる「意味」「権利」「自立」「支援」等と社会保障との関連に着目しながら、社会的に不利な立場にある人の就労支援の現状について検討します。
到達目標	１．社会的に不利な立場にある人の就労を支える社会制度の現状について理解する。 ２．個人の生活保障のあり方についての視点をもつ。 ３．以上のことと、社会福祉、労働政策、教育政策、社会的理解との関係と課題を理解する。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション（歴史にみる「人」と「労働」） 第２回：雇用・就労の動向と社会保障の関係 第３回：雇用・就労と社会的支援が必要な人 第４回：就労支援の現状と課題①―障害者と就労支援 第５回：就労支援の現状と課題②―低所得者と就労支援 第６回：就労支援の現状と課題③―生活保護制度の中の就労支援 第７回：就労支援と教育・福祉・労働にかかわる機関と専門職の役割、その連携 第８回：まとめ（社会的に不利な立場にある人と就労支援）

アクティブラーニング	Moodle を活用し小テスト等を行います。
評価方法	授業態度:２０％、定期試験：８０％
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーを用いてフィードバックを行います。
指定図書	MINERVA 社会福祉士養テキストブック 16「就労支援」ミネルヴァ書房
参考図書	『シリーズ 社会福祉の視座 社会福祉への招待』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	【事前】毎回の授業終了時に提示する次回授業のキーワードを調べておく。 【事後】受講後は特に配布した資料を整理し、関連する問題等を調べてみる。(目安時間　40 分)
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示する。

科目名	司法福祉論
科目責任者	山本 幸則
単位数他	１単位（15 時間）選択　６セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「司法福祉」の意味・範囲は一義的ではない。ただ中心となるのは「更生保護制度」である。刑事司法手続きの流れ、刑務所の現状、福祉的視点及び福祉職関与の必要性などの基礎知識の習得を目指す。
到達目標	司法福祉諸分野制度等について俯瞰的な理解を得る。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞山本幸則、堂元京子 第 1 回：司法福祉及び犯罪の概念整理並びに刑務所の現状　　山本幸則 第 2 回：成人の刑事司法手続き①　　山本幸則 第 3 回：成人の刑事司法手続き②　　山本幸則 第 4 回：非行少年　　山本幸則 第 5 回：罪を犯した人びとの現状　　山本幸則 （知的障害者、精神障害者、高齢者） 第 6 回：刑事司法にかかわる人びと　　山本幸則 第 7 回：実践現場における事例の検討　　堂元京子 第 8 回：まとめ　　山本幸則

アクティブラーニング	なし
評価方法	筆記試験 100%による
課題に対するフィードバック	筆記試験の回答例を提示する
指定図書	『司法福祉　罪を犯した人への支援の理論と実践』 加藤幸雄・ 前田忠弘監修　藤原正範・ 古川隆司編　法律文化社
参考図書	『獄窓記』『累犯障害者』いずれも山本譲司著　新潮文庫
事前・事後学修	予習としてはテキストの該当箇所におおまかに目を通すこと，復習として授業で扱った箇所を精読していただきたい。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	社会調査論
科目責任者	落合 克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	社会調査とは国や地方自治体、企業や学校、社会福祉などの各種法人、または個人が、ある社会的な問題意識に基づいて情報（データ）を収集し、収集したデータを演繹的又は帰納的に描写、解釈、分析し、調査対象について理解を深め、課題を整理したり、対応策を立案したりする一連の営みである。本科目では社会調査の意義と目的及び方法の概要、統計法の概要、社会調査における倫理について理解し、量的および質的なデータの整理と分析の方法について学習する。
到達目標	・倫理を含む社会調査における基礎的知識を修得できる。 ・社会調査における量的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。 ・社会調査における質的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：社会調査の基礎 1（社会調査とは、社会福祉分野における社会調査） 第　2 回：社会調査の基礎 2（社会調査の意義、目的、統計法の概要）調査対象と方法） 第　3 回：社会調査の基礎 3（社会調査における倫理と個人情報保護、IT の活用） 第　4 回：量的調査の方法 1　（量的調査の特徴と種類） 第　5 回：量的調査の方法 2　（調査票の作成方法、調査票の配布と回収） 第　6 回：量的データと分析法 1（単純集計、表計算ソフトの具体的活用方法） 第　7 回：量的データと分析法 2（1 変量の性質を表す記述統計量） 第　8 回：量的データと分析法 3　（2 変量の性質を表す記述統計量） 第　9 回：量的データと分析法のまとめ 第 10 回：質的調査の方法 1　（質的調査の特徴と種類） 第 11 回：質的調査の方法 2　（調査設計と対象者の選定） 第 12 回：質的調査の方法 3　（調査手法と調査の実施） 第 13 回：質的データと分析法 1（KJ 法・グラウンデッドセオリー） 第 14 回：質的データと分析法 2（KJ 法を体験的に理解する） 第 15 回：質的データと分析法のまとめ

アクティブラーニング	エクセルを使用した量的調査結果の処理過程に関しては、コンピュータールームにおいて実践的な講義を行います。また、授業内ではチャレンジ問題を用いて学修の成果を確認しながら授業を進めます。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取り組み状況 30%、中間レポート 20%、定期試験　50%として評価します。 【小レポート】 　指定データ（授業時に配信）をエクセルにより分析処理したファイルを提出して頂きます。分析処理は、度数分布表の作成、クロス表の作成、グラフの作成を行って頂きます。 【定期試験】 　記述、計算、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授　業内、Moodle 等で事前に告知します。 【授業への取り組み】 　毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」5　社会調査の基礎　第 3 版』中央法規（2015）
参考図書	『社会調査の基礎　社会調査士 A･B･C･D 科目対応』弘文堂 2012 『ソーシャルワーク・リサーチの方法』相川書房 2004
課題に対するフィードバック	毎回 Moodle に入力してもらうリアクションに対しては、次回の授業の冒頭でフィードバックします。また、中間レポート課題に関しても授業内でフィードバックします。
事前・事後学修	【事前学修】授業前に指定図書の予定授業範囲を読み、分からない箇所に下線を引いてきて下さい。また、授業前に配信される量的データに関して自分なりの分析を試みて下さい。 【事後学修】授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに Moodle に入力して頂きます。また、授業で行った内容に関する中間レポート課題を提出して頂きます。 （目安時間　40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。

科目名	社会福祉発達史
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福　こども　４セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	隔年開講科目なので、2017 年度は開講しない。来年度は西洋社会福祉の歴史、特に人物史に焦点を当て、社会福祉はどのように発達したのかについて考察を深める。テキストによって、イギリスやヨーロッパ諸国、アメリカで活躍した著名な人物の生きざまを通して、近代西洋社会福祉における福祉の展開を学び、自らの福祉への取り組みの原点を考察する。
到達目標	1. 社会福祉の基本的な考えに基づき、近現代社会における諸問題を理解する。 2. 近現代社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明できる。 3. 人物史を学ぶことによって、自らの福祉を学ぶ姿勢を考察する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション，人物史研究の視点，近代西洋社会福祉の歴史概要 第 2 回 : ジョン・ハワード，トマス・チャルマーズ 第 3 回 : ジョージ・ミュラー，ルイ・ブライユ，ヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルン 第 4 回 : ウィリアム・ブース，F.E.C. ウィラード，ファーザー・ダミアン 第 5 回 : オクタヴィア・ヒル，バーネット夫妻 第 6 回 : チャールズ・ブース，エレン・ケイ 第 7 回 : トーマス・ジョン・バーナード，レオン・ブルジョワ 第 8 回 : ジェーン・アダムス，ウェッブ夫妻 第 9 回 : ヘレン・ボーザンケット，M. リッチモンド 第 10 回 : アリス・ザロモン，ヤヌシュ・コルチャック 第 11 回 : ウィリアム・ベヴァリッジ，ヘレン・ケラー 第 12 回 : ヘレン・ハリス・パールマン，リチャード・ティトマス 第 13 回 :　ウィリアム・シュワルツ，マーティン・ルーサー・キング・ジュニア 第 14 回 : ホイットニー・ヤング，N.E. バンクーミケルセン 第 15 回 : エド・ロバーツ，マザー・テレサ，まとめ

アクティブラーニング	人数によっては演習形式で進めることもある。
評価方法	授業態度４０％、定期試験レポート６０％
課題に対するフィードバック	授業中に提示する
指定図書	室田保夫 2013『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：興味ある人物について調べ、発表する準備をする。また、テキストや資料を熟読することにより、大きな流れと基本知識を理解する 事後学修：再度テキストや資料を熟読することにより、知識を定着させ、学ぶ楽しみを味わう。 （目安時間　40 分）
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　時間は授業で提示する

科目名	福祉文化論
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　７セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	福祉文化論には隣接する学問が多くあり、その考えと実践は、単に福祉の分野だけでなく、生きることすべてに関わる問題です。本講座では、多くの実践活動を学ぶことを通して、大学卒業後に現場で役立つ福祉文化の基本を身につけ、考え創造する力を育んでいきます。
到達目標	1. 対人援助・社会支援の対象を多角的に理解し、それぞれのニーズや背景要因を理解する。 2. 他者をさまざまな側面から理解できる。 3.「福祉文化」のものの見方を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 授業は、ビデオ教材や見学を含め、多くの実践に触れながら以下のような内容で実施します。 1. 福祉文化とは何か、パイオニアからの学び 第 1 回：オリエンテーション：「文化」の「福祉化」と「福祉」の「文化化」 第 2 回：福祉現場での福祉文化実践のあり方 第 3 回：歴史の中に福祉文化の源流を探る①――福祉のルーツの再考 第 4 回：　〃　②――制度と実践のはざまで 第 5 回：福祉文化学会の活動 2. 福祉文化の実践例(見学含む) 第 6 回：芸術活動と福祉文化（音楽・絵画・書道、陶芸等）ゲストスピーカー 第 7 回：生活と福祉文化（衣食住、美容、交通、デザイン等） 第 8 回：遊びと福祉文化（余暇、レクリエーション、趣味、旅行、生涯教育等） 第 9 回：健康・スポーツと福祉文化 第 10 回：自然・動物と福祉文化（ペット、動物、園芸等） 3. 福祉文化としての展開――地域に築く福祉文化 第 11 回：子ども・若者と福祉文化 第 12 回：高齢者と福祉文化 第 13 回：障害者と福祉文化 第 14 回：女性と福祉文化 第 15 回：外国人と福祉文化、海外の福祉文化

アクティブラーニング	人数によっては演習形式で進めることもある
評価方法	授業態度 30%、中間レポート 20%、定期試験レポート 50%（評価基準はルーブリックで示す）
課題に対するフィードバック	授業のなかで取り上げる
指定図書	印刷物を随時提示する
参考図書	増子勝義 2017『福祉文化の協奏』北樹出版 小椋喜一郎 2013『福祉文化史実践論』中央法規 日本福祉文化学会『実践。福祉文化シリーズ全 5 巻』『新・福祉文化シリーズ全 5 巻』明石書店
事前・事後学修	１，授業中に配布された資料等を事前・事後ともに熟読し、授業内容を理解する(40 分) ２，授業によって得た知識を、生活の中で実体験や社会問題との関連性について考察を深める(40 分)
オフィスアワー	坂本研究室（2612）時間は授業で提示する

科目名	臨床心理学
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福　４セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	臨床心理学は、心理学を中心とした知識や理論を用いて、こころの問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を研究・実践する学問であり、現代社会において関心が高まっている学問である。主には、心理検査・心理治療・地域援助という３領域から成り立っており、各領域は、有機的なつながりをもちながら対人援助を実践する。歴史や理論を辿りながら、臨床心理学がどのように地域社会で発展し役に立ってきたのかを学ぶ。
到達目標	１．臨床心理学の基本的な知識を習得し、包括的に理解する。 ２．福祉現場における保育士やソーシャル・ワーカーとして、心理学的な知見を活用できる態度や知識を身につける。 ３．日常生活において活用できる臨床心理学の知識を習得・体験しながら、自己理解に努める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：　パーソナリティの心理 第２回：　パーソナリティをみる　―パーソナリティ検査法― 第３回：　心の成り立ち　―交流分析とエゴグラム― 第４回：　無意識のはたらき　―夢とコンプレックス― 第５回：　自己を見つめる　―自己評価― 第６回：　自己をつかむ　―自我同一性― 第７回：　対人関係の心理 第８回：　乳幼児期と母子関係 第９回：　対人関係を振り返る　―対人地図― 第 10 回：対人態度を知る　―基本的対人態度― 第 11 回：人とのかかわり方　―社会的スキル― 第 12 回：心理臨床の実際　―乳幼児期― 第 13 回：心理臨床の実際　―児童期― 第 14 回：心理臨床の実際　―思春期から成人期― 第 15 回：心理臨床の地域活動と領域

アクティブラーニング	心理テスト等を使用しながら、実際のパーソナリティのアセスメント等を学ぶ。
評価方法	平常点（30%）、定期試験（70%）（平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「これからを生きる心理学」　川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩　著　　ナカニシヤ出版
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。事後学習はノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。（目安時間　各 40 分）
オフィスアワー	２号館６階の 2610 研究室。時間については初回授業時に提示します。

科目名	発達心理学
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　こども　３セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達心理学の概論ではありません。生涯発達を見通しつつ、その初期段階としての乳幼児期と児童期を教科書や DVD を使って丁寧に見ながら、発達とその援助を心理学的に理解する授業です。受動的に授業を受講するだけでなく、学んだことを主体的にまとめ、関連した事柄を調べ、最終的に各年齢についての自分の学びを 1 冊のファイルにして提出する必要があります。
到達目標	1. 保育・教育の実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。 2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。 3. 発達が人やモノとの相互的かかわりの中で起こることを理解し、説明できる。 4. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性を理解し、それと保育・教育との関連性が説明できる。
授業計画	＜授業計画・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・評価基準・生涯発達と発達援助 第 2 回：子どもの「自分づくり」の発達過程と保育・教育 第 3 回：0 歳児前半の発達 第 4 回：0 歳児後半の発達 第 5 回：1〜2 歳児の発達 第 6 回：2〜3 歳児の発達 第 7 回：ポートフォリオ中間発表会 第 8 回：3〜4 歳児の発達 第 9 回：4〜5 歳児の発達 第 10 回：5〜6 歳児の発達 第 11 回：学童期以降の発達・青年期の発達・老年期の発達 第 12 回：発達障害と発達支援 第 13 回：「発達」とは何か？　：子ども観と教育観・社会文化的アプローチ 第 14 回：心理学理論のまとめ ①ピアジェ・ヴィゴツキー 第 15 回：心理学理論のまとめ ②エリクソン・ロゴフ

アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
評価方法	ポートフォリオ100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	河原紀子『0 歳～6 歳　子どもの発達と保育の本』(学研) その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。
参考図書	田中昌人『子どもの発達と診断１～５』(大月書店)、田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』(ぎょうせい)、園と家庭を結ぶ「げんき」編集部『乳児の発達と保育 : 遊びと育児』(エイデル研究所)、
事前・事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む（10 分） 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。(60 分)
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。

科目名	児童心理
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福・こども　５セメスター　介護　７セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
到達目標	１．乳児期から児童期の子どもの心の発達過程とその援助方法を説明できる。 ２．子どもの心理の現代的問題とその支援方法について説明できる。 ３．子どもの心の問題を心理学的観点から分析して捉えることができる。
科目概要	授業の前半では、子どもにかかわる対人援助職として理解しておくべき子どもの心の発達過程とその援助方法を学ぶ。そして授業の後半では、そうした子どもの心の基本的理解を踏まえた上で、子どもの心をめぐる現代的問題とその支援方法、主にブリーフセラピーの手法についてテキストの事例をもとに学ぶ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： オリエンテーション：科目の概要 第 2 回： 乳児期の心の発達とその援助方法 第 3 回： 幼児前期の心の発達とその援助方法 第 4 回： 幼児中期の心の発達とその援助方法 第 5 回： 幼児後期の心の発達とその援助方法 第 6 回： 児童期の心の発達とその援助方法 第 7 回： 学生の課題の発表と討議 第 8 回： 事例の検討１：場面緘黙傾向のあるＡ男 第 9 回： 事例の検討２：乱暴で攻撃的なＢ男 第 10 回： 事例の検討３：「怖い、でも行きたい」不登校のＣ子 第 11 回： 事例の検討４：情緒不安定な保健室登校のＤ男 第 12 回： 事例の検討５：学級崩壊を起こす暴力的なＥ男 第 13 回： 事例の検討６：恐怖心から登校できないＦ子 第 14 回： 事例の検討７：いじめをきっかけに不登校になったＧ子 第 15 回： まとめ

アクティブラーニング	事例をもとに討論を行う。
評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	模範解答を示す。
指定図書	黒沢幸子『指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック』（金子書房）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前：事前課題等を行ない、テキストを予習してくること。 事後：テキストのHomework等を行ない、復習すること。（目安時間40分）
オフィスアワー	初回授業時に示す。

科目名	レクリエーション活動の実際
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	２単位（30 時間）　選択　　社福　１セメスター　　介護・こども　５セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	レクリエーションの本質とその手段としてのレクリエーション活動の関係を理解し、様々なレクリエーション活動の楽しさ、援助法にふれたうえで、グループごとに福祉現場を想定した集団レクリエーション活動を体験、計画、演習、評価する。
到達目標	1. レクリエーションの本質と手段としてのレクリエーション活動への理解が深まる。 2. 目的や対象に合わせたレクリエーション計画が作成できるようになる。 3. 様々なレクリエーション活動を体験し、その楽しさを実感し、援助方法を学ぶ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　〈担当教員〉和久田　佳代、野末　あけみ 第 1回：ガイダンス　コミュニケーションワークⅠ（ホスピタリティとは） 第 2回：コミュニケーションワークⅡ(ホスピタリティの示し方) 第 3回：コミュニケーションワークⅢ（アイスブレイキングとは） 第 4回：コミュニケーションワークⅣ（アイスブレイキングの体験と方法） 第 5回：目的に合わせたレクリエーションワーク（目的に沿ったアクテブティの選択） 第 6回：目的に合わせたレクリエーションワーク（アクティビティの展開方法の体験） 第 7回：目的に合わせたレクリエーションワーク（相互作用の活用方法①） 第 8回：目的に合わせたレクリエーションワーク（相互作用の活用方法②） 第 9回：目的に合わせたレクリエーションワーク（グループによる計画、準備） 第10回：目的に合わせたレクリエーションワーク（グループによる発表と評価） 第11回：対象に合わせたレクリエーションワーク（対象を想定したレクリエーション支援の体験） 第12回：対象に合わせたレクリエーションワーク（対象に合わせたアレンジ方法） 第13回：対象に合わせたレクリエーションワーク（グループによる計画、準備） 第14回：対象に合わせたレクリエーションワーク（グループによる発表と評価） 第15回：まとめ　多様なレクリエーション活動種目の理解（満足度とＱＯＬ） ＜受講生へのメッセージ＞ 1. 第１回目の授業は必ず出席すること（やむをえない理由がある場合は事前に申し出る） 2. グループワークを組む関係で開始 20 分後の遅刻参加は認められない。

アクティブラーニング	レクリエーション活動の実践やグループワークが主体です。積極的な参加態度が求められます。受け身でなく自らが行動を起こす参加意欲や態度が必要です。
評価方法	定期試験としてのレポート 40% 授業へ取り組み（グループ活動への取り組み）40% 授業時の課題レポート 20% ・演習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	『日本の歌 101』のばら社
参考図書	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』日本レクリエーション協会
事前・事後学修	グループワークでの準備を積極的に行ってください。 また、授業での学びを日常生活や実習に活かしていきましょう。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示

科目名	福祉レクリエーション論
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	２単位（30時間）　選択　　７セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	福祉現場でより良いサービスを目指すとき、福祉レクリエーションの視点が欠かせない。授業では、福祉レクリエーションの基本的な考え方、レジャー・レクリエーションに関する理論等について、学修を深める。また、福祉現場でのレクリエーション実践者をゲストスピーカーとして、地域活動や介護予防の取り組みについて学ぶ。
到達目標	1. 福祉レクリエーションとは何かを理解し、これからの福祉レクリエーションはどうあるべきかを考えることができる。 2. 福祉レクリエーション援助の全体像、福祉レクリエーション支援者の役割が理解できる。
授業計画	〈授業内容・テーマ等〉 第1回：オリエンテーション 「福祉レクリエーション・ワーカー」資格取得に向けて 第2回：福祉レクリエーションがめざすこと 第3回：楽しさの追及の支援 第4回：レジャーとレクリエーション 第5回：レジャーとレクリエーションに関する理論 第6回：　自己決定の段階 第7回：福祉レクリエーションの援助のプロセス 第8回：セラピューティック・レクリエーション 第9回：レジャーアビリティーモデル　ヘルスプロモーションモデル 第10回：　行動変容と自己効力感 第11-12回：福祉レクリエーションの必要性（1）　- 地域における活動 - 第13-14回：福祉レクリエーションの必要性（2）　- 介護予防の取り組み - 第15回：支援者の役割と心構え 受講者へのメッセージ： ①福祉レクリエーション・ワーカー指定科目です。福祉レクリエーションを現場でいかしたいと思う学生は、資格取得希望にかかわらず履修できます。 ②第 1 回目から出席してください。やむをえない事情で欠席する場合は、事前に申し出てください。

アクティブラーニング	少人数でのゼミ形式で、グループ学修、グループ討議を行う。
評価方法	筆記試験 60% 授業時の課題レポート 20% 授業への取組 20%
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。試験結果は期間を決めて問い合わせに答える。
指定図書	『楽しさの追及を支える理論と支援の方法』日本レクリエーション協会 『日本の歌 101』のばら社
参考図書	『楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施』日本レクリエーション協会 『楽しさの追求を支えるための介入技術』日本レクリエーション協会
事前・事後学修	教科書の該当箇所を読んで、理解する。 社会福祉現場の中で、どう活用できるか考える。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示

科目名	福祉レクリエーション援助論
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	２単位（30時間）　選択　８セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	福祉レクリエーション論の学修をもとに、福祉現場での援助法を具体的に学ぶ。福祉レクリエーション総合計画、個別レクリエーションサービス計画の作成、グループレクリエーション計画の作成、財の活動分析、社会資源の活用について学修し、福祉現場で生かせるようになる。
到達目標	１ 福祉レクリエーション援助の体系、プロセスを理解し、実践できるようになる。 ２ 利用者に応じた個別レクリエーションサービス計画を作成し、実施、評価できるようになる。 ３ グループレクリエーション計画を作成し、実施、評価できるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション 授業の進め方 福祉レクリエーション援助とは（復習） 第２回：福祉レクリエーション総合計画 第３回：個別レクリエーションサービス計画の作成（1） 事例から個別援助計画を作成する 第４回：個別レクリエーションサービス計画の作成（2） 足りない情報は何か 妥当性のある計画か 第５回：グループレクリエーションの計画(1)アセスメント 第６回：グループレクリエーションの計画(2)プランニング 第７回： 福祉レクリエーション支援の評価 第８回：レクリエーション財の活動分析 第９回：レクリエーション財の開発・アレンジの実際 第 10 回：福祉レクリエーションのための環境づくり 第 11 回：社会資源の活用 第 12 回： 福祉レクリエーション援助現場の見学 第 13 回： 福祉レクリエーション援助現場の体験 第 14 回： 学内審査・実技発表に向けて 第 15 回：福祉レクリエーション援助の実践(実技発表含む) 受講者へのメッセージ： 「福祉レクリエーション援助技術」と 2 コマ続きで実施するので、両方履修することが望ましい。

アクティブラーニング	グループ学修、グループ討議を多く行う。
評価方法	授業への取組・授業時の課題 50% 実技発表 50%
課題に対するフィードバック	少人数での演習や実技を通し、授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	『楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施』日本レクリエーション協会 『日本の歌 101』のばら社
参考図書	『楽しさの追及を支える理論と支援の方法』日本レクリエーション協会 『楽しさの追求を支えるための介入技術』日本レクリエーション協会
事前・事後学修	教科書の該当箇所を読んで、理解する。 社会福祉現場の中で、どう活用できるか考える。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示

科目名	福祉レクリエーション援助技術
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	２単位（30時間）　選択　８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	福祉レクリエーション論・援助論の学修をもとに、より実践的な援助技術について学び、実践能力を修得する。
到達目標	1. 演習や体験を通して、福祉レクリエーション援助技術の実践能力を修得する。 2. 様々なレクリエーション分野の技術を体験し、現場で生かせる方法を学ぶ。 3. レクリエーションプログラムの展開方法を実践を通して学ぶ。
授業計画	〈授業内容・テーマ等〉　〈担当教員〉 第 1回 : オリエンテーション 授業の進め方　和久田佳代 福祉レクリエーション援助とは（復習） 第 2回 : 福祉レクリエーション総合計画の作成　和久田佳代 第 3回 : ①デイサービスセンターでの福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第 4回 : ②小規模多機能型施設での福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第 5回 : ③特別養護老人ホームでの福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第 6回 : ④地域の高齢者支援活動での福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第 7回 : ⑤障害児・障害者を対象にした福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第 8回 : ⑥障害者施設での福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第 9回 : ⑦子育て支援サービスでの福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第10回 : ⑧子育て支援サークルでの福祉レクリエーション支援の方法　野末あけみ 第11回 : 福祉レクリエーション援助の実際　計画　和久田佳代 第12回 : 福祉レクリエーション援助の実際　準備　和久田佳代 第13回 : 福祉レクリエーション援助の実際　実施　和久田佳代 第14回 : 学内審査・実技発表に向けて　和久田佳代 第15回 : レクリエーション援助の実践(実技発表を含む)　和久田佳代 受講者へのメッセージ : 「福祉レクリエーション援助論」と２コマ続きで実施するので、両方履修することが望ましい。

アクティブラーニング	福祉現場を想定した少人数での演習や実技の時間を多く取り入れ、実践する。
評価方法	授業への取組・授業時の課題 50% 実技発表 50%
課題に対するフィードバック	少人数での演習や実技を通し、授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	『楽しさの追求を支えるための介入技術』日本レクリエーション協会 『日本の歌 101』のばら社
参考図書	『楽しさの追及を支える理論と支援の方法』日本レクリエーション協会 『楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施』日本レクリエーション協会
事前・事後学修	教科書の該当箇所を読んで、理解する。 学びを自らの就職先など社会福祉現場の中で、どう活用できるか考える。 （目安時間　40 分）
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示します

科目名	絵画と表現
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　 2 セメスター　 介護・こども　8 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	絵画表現の実技を通して、介護や保育・教育現場における絵画表現活動の価値を検討すると共に、基本的な知識や技術、支援方法などを身につける。
到達目標	1. 絵画表現に必要な材料、道具の使い方を知る。 2. 絵画表現における基本的な知識・技術を習得する。 3. 介護・保育教育現場での実践的な絵画表現技術や知識、支援方法を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション「子供の絵を読む」 絵の鑑賞から子供の表現を受信する保育者・大人の関わりを考察する。 第 2 回： アートゲームを楽しむ 絵の鑑賞「アートゲーム」から、実際の子供の表現のよさや価値を検討する。 第 3 回：クレヨン･パスによる表現の広がり① クレヨンやパスなどの違いを知り、それを活かした表現体験をする。 第 4 回：クレヨン･パスによる表現の広がり② クレヨンやパスなどを使った様々な技法遊びを体験する。 第 5 回：クレヨン･パスによる表現の広がり③ クレヨンやパスなどを使った様々な技法をもとに作品を制作し、そのよさを味わう。 第 6 回：絵の具による表現の広がり① 水彩絵の具などを使った様々な技法と、それを活かした表現に挑む。 第 7 回：作品鑑賞 世界児童画展などの児童作品から近隣入所施設の様々な作品を鑑賞しその価値に触れる。 第 8 回：作品展示方法の検討 児童作品から近隣入所施設の様々な作品をもとに現場での実践や展示方法を検討する。 第 9 回：展覧会の企画や運営 作者や鑑賞者双方が満足できる展覧会の企画や運営について実際的に検討・実践する。 第 10 回：絵画療育・療法に学ぶ 介護現場従事者・保育者の実践概要を知り、絵画療育や療法について考察する。 第 11 回：塗り絵に挑戦① 子供から大人まで幅広く楽しまれている塗り絵のよさを味わう。 第 12 回：塗り絵に挑戦② 塗り絵のよさを活かした保育･介護現場での可能性を検討･考察する。 第 13 回：版に表す① 手軽にできる凹版（スチレン版画）と凸版（紙版画）の特徴を知り、版作りをする。 第 14 回：版に表す② 印刷の工程を知り、版画を印刷する楽しさを味わう。 第 15 回：和の文化に親しむ・学習のまとめ 水墨画に挑戦し、墨や筆、紙の特徴を活かした表現の味わいを知り、自分なりに絵画制作する ことを楽しむ。学習全体の振り返りをする。

アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 実際的な絵画展や現場実践の検討や考察、協議 聖灯祭をもとにした実際的な企画・運営の検討
評価方法	（1）授業で課した課題・作品（スケッチブック・ポートフォリオ）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60% ※ルーブリックについて スケッチブック･ポートフォリオで評価するが、ルーブリックは用いない。ただし、毎時間スケッチブックや作品の相互鑑賞をして、評価の観点を示す。
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 制作された作品を相互鑑賞し、合評会によりフィードバックする。
指定図書	資料配布
参考図書	槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（改訂版）」（日本文教出版）
事前・事後学修	各授業の際に内容・課題を提示するので、それに沿って実施してください。概ね 40 分を目安に事前・事後学修に取り組まれるような内容で、主には作品の制作とポートフォリオの整理です。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	音楽と身体表現
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（60 時間）選択　社福２セメスター　介護・こども６セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	情報化社会に生きる現代の我々はストレスを抱え、半健康と言われる現代病と共に生きている。かつて日本は確固とした身体技法の文化を持っていたのである。身体を整えることで心をコントロールすることができることを学ぶ。
到達目標	１．古伝の身体技法の一端でも再現されることで、我々がバランスの悪い身体の操作で生きているという事実と向きあうことが出来、その結果各々の感性が瑞瑞しく自然を感じられるようになることができる。 2.介護する側もされる側にも、負担のかからない身体技法を知ることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ＞ 第１回：一本歯の下駄の体験・後腹式呼吸とヨガ 第 2 回：「DVD 甲野善紀の身体技法」「DVD オペラ座の怪人」の鑑賞・身体運用法 第 3 回：心と身体ほぐし操作 第 4 回：気持ちのいい生活の基本動作について 第 5 回：ナンバ動きとナンバ走り 第 6 回：新しい未知な体感　「手指の形と抵抗力」の関係 第 7 回：「虎ひしぎ」の体験 第 8 回：「虎ひしぎ」の効果を探る 第 9 回：　音楽療法について 第 10 回：音楽の要素とその働きについて 第 11 回：モーツアルト[魔笛]の鑑賞 第 12 回：今までの体術の介護への応用 第 13 回：介護方法の検討 第 14 回：総合的な動き 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	実技等による演習
評価方法	授業への参加度 60%　レポート 40%、
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパに対してフィードバックを行う
指定図書	プリントを配布する
参考図書	なし
事前・事後学修	各授業において課題を提示する
オフィスアワー	初回の授業で提示する

科目名	生涯学習論
科目責任者	木見尻　哲生
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　１セメスター　介護　７セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	この授業では、生涯学習（社会教育）の具体的なイメージをつかむことから始めて、生涯学習の代表的な論点を取り上げながら、その歴史的変遷や理念、法律、今日的な課題や問題点などを学ぶ。その際、学習プログラムを作成するなど体験型学習を通じて、生涯学習の具体的なイメージを取得することを目指す。
到達目標	1. 生涯学習の意義や社会教育の仕組みが理解できる。 2. 社会教育の問題点や課題を知り、積極的に取り組む姿勢を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 授業の進め方、大人が学ぶということ 第 2 回 : 身近な社会教育施設（公民館・図書館・博物館） 第 3 回 : 教育基本法と生涯学習社会の理念 第 4 回 : 生涯学習の国際的動向（1）― ユネスコの生涯教育論 第 5 回 : 生涯学習の国際的動向（2）― 「学習権宣言」の意義 第 6 回 : 生涯学習の国際的動向（3）― 国際識字年と識字教育 第 7 回 : 映画「学校」(1) ―夜間中学について考える 第 8 回 : 映画「学校」(2) ― 識字教育の課題を探る 第 9 回 : 戦後日本の社会教育（1）― 戦後社会教育の理念 第 10 回 : 戦後日本の社会教育（2）― 臨時教育審議会と教育改革 第 11 回 : 戦後日本の社会教育（3）― 民間活力と指定管理者制度 第 12 回 : 戦後日本の社会教育（4）― 「開かれた学校」の課題 第 13 回 : 学習プログラム（1）― 学級・講座（大人の学びの実際） 第 14 回 : 学習プログラム（2）― 体験型学習の考え方 第 15 回 : 学習プログラム（3）― 学習プログラムの作成

アクティブラーニング	自分が住んでいる町の社会教育を調べ、発表する。 オリジナルの学習プログラムを作成し、グループで交流する。
評価方法	授業の参加状況（ミニレポート、学習プログラムなど）50%、定期試験　50%
課題に対するフィードバック	小レポートへのコメント 社会教育の事例調査の発表と交流 学習プログラムへの論評
指定図書	なし
参考図書	随時紹介
事前・事後学修	自分が住んでいる地域の社会教育・生涯学習の施設を意識的に利用して、社会教育・生涯学習のイメージをつかんでおくこと。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	トップマネジメント論　※社会福祉学科
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	１単位（15時間）　選択　社福　７セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	トップマネジメントとは一般的に経営層のことを指すが、特に方針、目標を決め、その目標を達成する「マネジメントシステム」の責任を負う人を意味する。 本講義では、質の高い福祉サービスを安定的に提供するために必要なマネジメントに関わる“ヒト、モノ、カネ、情報”等の資源に関する専門的知識・技術を学び、所属する施設・事業所や法人のマネジメントについて深く理解し、関わることのできる組織の一員になること、そして将来、直接マネジメントに携わることのできる人材の養成をめざす
到達目標	１．施設・事業所、法人等のマネジメントについて「チームリーダー」の立場で理解できる ２．福祉サービスの基本理念と倫理の徹底・浸透のための方法を理解できる ３．福祉マネジメントに必要な“ヒト、モノ、カネ、情報”等に関する専門的な考え方を理解できる ４．所属する施設・事業所、法人の使命・計画、運営・経営に関することを理解した組織の一員となる準備ができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：オリエンテーション　福祉サービスの基本理念と倫理　佐藤順子 第２回：トップマネジメントとは、組織の戦略と事業計画　落合克能 第３回：法人・事業所のガバナンス　落合克能 第４回：人材育成、労務管理　佐藤順子 第５回：財務管理・会計管理　落合克能 第６回：リーダーシップ論　落合克能 第７回：チームアプローチと他職種連携、地域協働　佐藤順子 第８回：社会福祉法人の地域貢献　佐藤順子 （マネジメントコース学生は本科目とマネジメント演習の少なくとも１科目は必ず履修すること）

アクティブラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、グループ学習などを取り入れる
評価方法	定期試験80%、授業態度20%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。
指定図書	『福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト　チームリーダー編』　全国社会福祉協議会
参考図書	必要に応じ、授業の中で提示する
事前・事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む （事前・事後学修　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	トップマネジメント論　　※介護福祉学科・こども教育福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30時間）　選択　介護・こども　７セメスター
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	本講義では、福祉サービス提供事業所において、ニーズに対応した質の高い福祉サービスを安定的に提供するために必要な“人、物、金、時間、情報”等の資源とそのマネジメントに関する専門的知識・技術、地域共生社会の実現について学修する。
到達目標	１．福祉サービス提供組織における経営資源とそのマネジメントに関する専門的視点、考え方、具体的方法論が理解できるようになる ２．福祉サービス提供組織の理念、事業展開を的確に理解し、組織の一員として必要な行動を関係者と共に考え、実践するための基礎的知識を身につける
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 １ 回：オリエンテーション　福祉サービスの基本理念と倫理　　佐藤順子・落合克能 第 ２ 回：トップマネジメントとは、組織の戦略と事業計画　　落合克能 第 ３ 回：法人・事業所のガバナンス　　落合克能 第 ４ 回：人材育成、労務管理　　佐藤順子 第 ５ 回：財務管理・会計管理　　落合克能 第 ６ 回：リーダーシップ論　　落合克能 第 ７ 回：チームアプローチと他職種連携、地域協働　　佐藤順子 第 ８ 回：社会福祉法人の地域貢献　　佐藤順子 第 ９ 回：社会福祉法人の地域貢献～地域共生社会の実現～　　落合克能 第１０回：サービスマネジメントの実際　　落合克能 第１１回：法人・事業所におけるコンプライアンスの実際　　落合克能 第１２回：リーダーシップとスーパービジョン　　落合克能 第１３回：スーパービジョン体制の構築のための人材育成　　落合克能 第１４回：多職種連携の実際～阻害要因への具体的アプローチ～　　落合克能 第１５回：総括　　落合克能

アクティブラーニング	授業内で適時受講生が自分の考え、意見を述べたり、質問をしてもらえる機会を設け、双方向の授業展開をします。
評価方法	受講態度 40%　定期試験 60%として評価します。
課題に対するフィードバック	毎回 Moodle に入力してもらうリアクションに対しては、次回の授業の冒頭でフィードバックします。
指定図書	『福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト　チームリーダー編』全国社会福祉協議会
参考図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営　第 5 版』中央法規
事前・事後学修	【事前学修】シラバスに示したテキスト、事前配布資料の該当箇所を熟読しておく。 【事後学修】課題や授業へのリアクションを期日までに Moodle に入力して頂きます。 （目安時間　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室（2613）において自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	国際福祉実習Ⅰ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（90 時間）　選択　４～８セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に海外に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）　※　国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2 週間の場合は、Ⅰのみ履修。4 週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6 週間・8 週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	１．　聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 ２．訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 ３．日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 ４．自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 ５．価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞古川和稔　太田雅子　佐藤順子 実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について−「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる−実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国　東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） ブラジル希望の家福祉協会（重症心身障害者施設） 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	事前指導・事後指導においてはグループ学修を中心に実施する
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表
課題に対するフィードバック	事前指導の中の調べ学習については適宜報告を行い、フィードバックを行う 実習後は実習報告会を実施し、発表内容についてフィードバックを行う
指定図書	なし　資料配布
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化、社会福祉制度等調べる（60 分） 事後学習：発表時における質問やアドバイスを踏まえて、さらに調べて学修する（60 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2712 です。時間については授業時に提示します。

科目名	国際福祉実習Ⅱ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（90 時間）　選択　４～８セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に海外に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）　※　国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2 週間の場合は、Ⅰのみ履修。4 週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6 週間・8 週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	１．　聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 ２．訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 ３．日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 ４．自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 ５．価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞古川和稔　太田雅子　佐藤順子 実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について−「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる−実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国　東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） ブラジル希望の家福祉協会（重症心身障害者施設） 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	事前指導・事後指導においてはグループ学修を中心に実施する
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表
課題に対するフィードバック	事前指導の中の調べ学習については適宜報告を行い、フィードバックを行う 実習後は実習報告会を実施し、発表内容についてフィードバックを行う
指定図書	なし　資料配布
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化、社会福祉制度等調べる（60 分） 事後学習：発表時における質問やアドバイスを踏まえて、さらに調べて学修する（60 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2712 です。時間については授業時に提示します。

科目名	国際福祉実習Ⅲ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（90 時間）　選択　４～８セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に海外に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）　※　国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2 週間の場合は、Ⅰのみ履修。4 週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6 週間・8 週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	１．　聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 ２．訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 ３．日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 ４．自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 ５．価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞古川和稔　太田雅子　佐藤順子 実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について−「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる−実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国　東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） ブラジル希望の家福祉協会（重症心身障害者施設） 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	事前指導・事後指導においてはグループ学修を中心に実施する
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表
課題に対するフィードバック	事前指導の中の調べ学習については適宜報告を行い、フィードバックを行う 実習後は実習報告会を実施し、発表内容についてフィードバックを行う
指定図書	なし　資料配布
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化、社会福祉制度等調べる（60 分） 事後学習：発表時における質問やアドバイスを踏まえて、さらに調べて学修する（60 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2712 です。時間については授業時に提示します。

科目名	国際福祉実習Ⅳ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（90 時間）　選択　４～８セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に海外に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う（アクティブラーニング）　※　国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2 週間の場合は、Ⅰのみ履修。4 週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6 週間・8 週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	１．　聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 ２．訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 ３．日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 ４．自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 ５．価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞古川和稔　太田雅子　佐藤順子 実習事前指導（渡航前） 国際福祉実習の目的について−「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる−実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習 実習先： インド聖隷希望の家（知的障害者教育施設） 韓国　東明高齢者福祉センター（高齢者施設）・東明児童福祉センター（児童養護施設） ブラジル希望の家福祉協会（重症心身障害者施設） 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） 自己評価（評価表の項目に沿って）を行う 個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する

アクティブラーニング	事前指導・事後指導においてはグループ学修を中心に実施する
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表
課題に対するフィードバック	事前指導の中の調べ学習については適宜報告を行い、フィードバックを行う 実習後は実習報告会を実施し、発表内容についてフィードバックを行う
指定図書	なし　資料配布
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化、社会福祉制度等調べる（60 分） 事後学習：発表時における質問やアドバイスを踏まえて、さらに調べて学修する（60 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2712 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ　※社会福祉学科
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 時間）　必修　社福　２セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる講義科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術を実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、①実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解）、②他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養い、ソーシャルワークの相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の習得を図る。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 自らの役割を理解し、他者と協働しようとする姿勢をもつ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員＞　佐々木正和、福田俊子 第 1 回：オリエンテーション、自己紹介・他己紹介 第 2 回：自己理解と他者理解 ①―エゴグラム等心理性格テストによる自己理解 第 3 回：自己理解と他者理解 ②―ジョハリの窓等を活用した自己理解 第 4 回：自己理解と他者理解 ③―食べさせられる体験、聞こえない体験 第 5 回：自己理解と他者理解 ④―話せない体験、見えない体験 第 6 回：自己理解と他者理解 ⑤―車いす体験、高齢者体験、振り返り 第 7 回：コミュニケーションの基礎 ①―ラポールを確立するための面接者の態度（ビデオ） 第 8 回：コミュニケーションの基礎 ②―ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際 第 9 回：コミュニケーションの基礎 ③―面接におけるラポールと傾聴の重要性（ビデオ） 第 10 回：コミュニケーションの基礎 ④―バーバルコミュニケーションの実際 ① 第 11 回：コミュニケーションの基礎 ④―バーバルコミュニケーションの実際 ② 第 12 回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ①―促しの技法、繰返しの技法、要約の技法 第 13 回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ②―共感の技法、開いた質問、閉じた質問、 対決の技法、沈黙の技法 第 14 回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ③―面接場面のロールプレイ 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	ムードルでの課題提示等
評価方法	授業への取組姿勢50% 、レポート50% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	岩間伸之著「逐語で学ぶ21の技法「対人援助のための相談面接技術」
事前・事後学修	事前に配布する資料を予習、復習しておく　　（目安時間40分）
オフィスアワー	研究室は2605研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ　※社会福祉学科
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福３セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について実践的に習得することを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、基本的な面接技法を習得するために、「価値」と「面接におけるコミュニケーション」の2つの内容に焦点化する。
到達目標	１．自己覚知の必要性を理解し、それを深める。 ２．受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。 ３．相談援助における価値と倫理について理解を深める。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘、村上武敏、落合克能 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション　川向・村上・落合 第２回：社会福祉専門職の価値 ①（価値と倫理）　村上・川向 第３回：社会福祉専門職の価値 ②（社会正義）　村上・川向 第４回：社会福祉専門職の価値 ③（社会公正）　村上・川向 第５回：自他の価値 ①（価値と価値観）　川向・村上 第６回：自他の価値 ②（個人的価値と社会的価値）　川向・村上 第７回：自他の価値 ③（価値の形成）　川向・村上 第８回：自他の価値 ④（価値の変位）　川向・村上 第９回：自他の価値 ⑤（価値の定着）　川向・村上 第10回：面接におけるコミュニケーション ①（援助者の基本姿勢と原則）　川向・村上・落合 第11回：面接におけるコミュニケーション ②（基本的コミュニケーション）川向・村上・落合 第12回：面接におけるコミュニケーション ③（基本的応答技法とその活用）川向・村上・落合 第13回：面接におけるコミュニケーション ④（傾聴・共感・指示・焦点化）川向・村上・落合 第14回：面接におけるコミュニケーション ⑤（対象者の意味世界を捉える）川向・村上・落合 第15回：まとめ　川向・村上・落合

アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	授業への取り組み姿勢：30%、 前半レポート：40%、後半レポート：30% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	演習グループに教員が随時関与しフィードバックします。
指定図書	『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介します。
事前・事後学修	次回演習への準備が事前課題となります。また、次回演習への準備には学びの整理（事後学修）が必須です。演習のリアクションにはMoodleを活用します。（目安時間40分）
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学科：2705 研究室）時間帯については初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ　※社会福祉学科
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的とする。そのために、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントの手法（インテークからアセスメント）を、様々な事例を用い理解・習得する。
到達目標	１．高齢者、児童、障がい、低所得、社会的排除など、危機状態にある事例をとおして相談援助の実際を理解する ２．上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞　大場義貴、佐々木正和 第　１回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 面接技法の復習（促し、繰り返し、要約、解釈、共感等） 第　２回：社会的排除にかかわる事例の理解 第　３回：児童にかかわる事例①　事例の理解 第　４回：児童にかかわる事例②　インテーク面接 第　５回：児童にかかわる事例③　アセスメント 第　６回：児童にかかわる事例④　まとめ 第　７回：高齢者にかかわる事例①　事例の理解 第　８回：高齢者にかかわる事例②　インテーク面接 第　９回：高齢者にかかわる事例③　アセスメント 第１０回：高齢者にかかわる事例④　まとめ 第１１回：低所得者・知的障害にかかわる事例①　事例の理解 第１２回：低所得者・知的障害にかかわる事例②　インテーク面接 第１３回：低所得者・知的障害にかかわる事例③　アセスメント 第１４回：低所得者・知的障害にかかわる事例④　まとめ 第１５回：まとめ

アクティブラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第4回、第8回、第12回ではロールプレイングやワークシートを使用します。 課題提出などは、Moodleを活用します。
評価方法	授業への取り組み姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②Moodleへのリアクション・事後学修課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008 『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房2017
事前・事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 事後学修：授業中に当回の事後学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 （目安時間40分）
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ　※社会福祉学科
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）社福　選択　５セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、総合的かつ包括的な援助にかかわる相談援助事例を体系的に取り上げる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定して実技指導を行う。
到達目標	1. 個人や家族を対象とした相談援助の実際について理解を深め、対象に合わせてさまざまな関連施策を適用できる。 2. 事例をもとにアセスメントから評価まで、できる力を養う。 3. グループ討議を通じて、自分の役割を把握し、的確にその役割を果たすことができる。
授業計画	＜担当教員名＞福田俊子、大場義貴 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 第 2 回：事例研究①－支援計画① （① 役割の決定　②事例の理解　③何を聴くかの整理・面接の準備） 第 3 回：事例研究①－支援計画② （① 模擬面接（援助計画作成のための面接）②不足情報の収集） 第 4 回：事例研究①－支援計画③（援助計画の策定：本人・環境のニーズの整理） 第 5 回：事例研究①－支援計画④（援助計画の策定）：ニーズと社会資源のマッチング） 第 6 回：事例研究①－支援計画⑤（援助計画の策定）：まとめ 第 7 回：事例研究①－支援計画⑥（①事例の発表　②ロールプレイの実施） 第 8 回：事例研究①のまとめ 第 9 回：事例研究②－①（事例研究①で作成した支援計画からその後の大まかな展開を検討する） 第 10 回：事例研究②－②（「支援の実施」→「支援の実施の結果」までの詳細な物語を創る） 第 11 回：事例研究②－③「支援の実施の結果」→「モニタリング」までの物語を創る） 第 12 回：事例研究②－④発表会にむけてこれまで作成してきた物語の提示の仕方などを検討し、準備を整える：①発表会に向けての役割分担　②発表の予行演習 第 13～14 回：発表会 第 15 回：効果測定、終結、アフターケアに関する解説およびまとめ

アクティブラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート）50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。あらかじめ必要な知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ　※社会福祉学科
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し実技指導を行う。
到達目標	福祉に関する地域社会のニーズや背景を論理的に把握し、専門職として貢献することができる実践力を身につける １．地域福祉の援助技術の概要を理解する ２．地域・コミュニティ、住民の意味を理解する ３．コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークの方法として 住民ニーズの把握方法、住民参加の促進方法、社会資源の活用・開発、要援護者に関する情報収集、アウトリーチ、ネットワークづくりについて理解し、技術を習得する ４．コミュニティワークの方法として ボランティアコーディネーション、福祉教育のプログラムづくりについて理解し、技術を習得する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞佐藤順子、川向雅弘 第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 地域福祉推進のための援助技術とは 第2回：「地域」とは何か～コミュニティの意味 第3回：地域を知る 第4回：住民を知る 第5回：地域住民のニーズを知る 第6回：地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）検討 第7回：地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）発表 第８回：福祉教育のプログラムづくり 第９回：ボランティアコーディネーションの意味を学ぶ 第10回：個別相談をどのように受け止めるか 第11回：ネットワークをつくる 第12回：　実践的ネットワークをつくる①　検討 第13回：　〃　②　発表 第14回：地域における権利擁護活動 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	演習科目です
評価方法	授業への取組姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価します。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	毎回グループワークで取り組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	なし　授業中に資料を配布
参考図書	筒井のり子著『ワークブック社会福祉援助技術演習　コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：地域福祉論Ⅰ・Ⅱの内容、特に地域福祉の実践例や推進方法について、復習をしておくこと。また、地域住民の一人として、自分や家族の地域での生活に関する意識、地域での助け合い活動などに対する考えを把握して臨むこと。さらには、過去の実習体験を振り返り、社会福祉施設・事業所、利用者と地域との関係についてあらかじめ考察しておくこと。 事後学修：事後学修課題を提示するので期日までにMoodleに入力すること。 （目安時間40分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ　※社会福祉学科
科目責任者	福田　俊子
単位数他	１単位（15 時間）　選択　社福　７セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。ソーシャルワーク実習での個別的体験を踏まえ、具体的な相談援助事例を学生自ら作成することで、相談援助に係る実践的な知識と技術を習得できるようになることを目的とする。
到達目標	1. 実習体験の中から利用者とのかかわりから事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標を設定できる。 2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。 3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。
授業計画	＜担当教員＞福田俊子、川向雅弘 演習グループを 4 グループ編成し、各教員が 2 グループを担当する。 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション・ガイダンス（小グループでの実習の学びの振り返り） 第 2 回：ジレンマ事例の作成①（ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成） 第 3 回：ジレンマ事例の作成②（大まかな筋書きの作成） 第 4 回：ジレンマ事例の作成③（大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備） 第 5 回：ジレンマ事例の作成④（プレゼンテーションの準備） 第 6 回：ジレンマ事例の作成⑤（発表会の予行演習） 第 7・8 回：事例発表会・まとめ ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する。(20 分発表×グループ数)

アクティブラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート）50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	臨床原論
科目責任者	福田　俊子
単位数他	１単位（15 時間）　必修　社福　７～８セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	本科目は、ソーシャルワークの原点や原理に立ち戻り、学科所属教員らによる「支援とは何か」「専門性とは何か」といったテーマに基づいた講義をきくことで、学生自身がこれらのテーマについて調べ、考え、そして自らの言葉で表現できるようになることを目的とし、社会福祉学科において積み重ねてきた講義、演習、実習の学修を総括する。
到達目標	1.　多様な人間や社会のありようを再認識し、自己の価値観を確認する。 2.　これまでの学修を振り返りながら、自己の将来像を表現できるようになる。 3.　自分の言葉を用いて、各テーマにかかわる意見を表現できるようになる。
授業計画	大場義貴、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、佐々木正和、村上武敏 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第１回：　講義概要　福田俊子 第２回：専門家であること　福田俊子 第３回：社会福祉実践とは何か　村上武敏 第４回：思春期のメンタルヘルス　大場義貴 第５回：　ソーシャルワーカーの訪問支援　佐々木正和 第６回：　ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー　川向雅弘 第７回：福祉コミュニティをつくる　佐藤順子 第８回：まとめ

アクティブラーニング	テーマに沿ったグループディスカッション、Moodle への課題提出などがなされる。
評価方法	毎回の小レポート 40%（5 点×8 回） 総括レポート 60% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	各回の授業冒頭で、前回の授業を担当した教員より、フィードバックがなされる。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	・事前：Moodle 等に提示された事前課題には必ず取り組むこと。 ・事後：授業で取り上げられたことだけでなく、自主的に調べた内容も加味してレポートを作成すること。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	社会福祉入門
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位(30 時間)　必修　社福　１セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、「専門職連携の基礎」と連動した科目であり、ソーシャルワークの基盤である「ソーシャルワーカーの意義と役割」「他職種の専門性と役割」を学ぶ。当事者、外部講師、他学部教員の講義を通して、前半は、社会福祉の対象者の生活に関わる専門職の実践について、後半は、ソーシャルワーカーが連携する他職種の実践について理解を目標とする。
到達目標	１．社会福祉現場の実際にふれることで、社会福祉の学びへの意識が高まる。 ２．社会福祉専門職がおこなう社会福祉活動を知る。 ３．連携する他職種の支援の実際を理解し、専門職連携の意味を知る。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘 ＜授業内容・テーマ等＞ 【春セメスター】 第１回：オリエンテーション：社会福祉の支援領域について　川向雅弘 第２回：ソーシャルワーカーの役割と実際①（医療福祉領域）　ゲストスピーカー 第３回：ソーシャルワーカーの役割と実際②（精神保健福祉領域）　ゲストスピーカー 第４回：ソーシャルワーカーの役割と実際③（社会的排除の領域）　ゲストスピーカー 第５回：ソーシャルワーカーの役割と実際④（司法福祉領域）　ゲストスピーカー 第６回：ソーシャルワーカーの役割と実際⑤（就労支援領域）　ゲストスピーカー 第７回：自らの実践から振り返る「ソーシャルワーカー」　社会福祉学科教員 第８回：春セメスター講義の振り返り（ グループディスカッション）　川向雅弘 【秋セメスター】 第 ９回：看護師の役割と実際①（病棟ケア）　看護学部教員 第 10 回：看護師の役割と実際②（在宅ケア）　看護学部教員 第 11 回：養護教諭の役割と実際　看護学部教員 第 12 回:作業療法士の役割と実際　リハビリテーション学部教員 第 13 回：臨床心理士の役割と実際　ゲストスピーカー 第 14 回：自らの実践から振り返る「多専門職連携」　社会福祉学科教員 第 15 回：秋セメスター講義の振り返り（ グループディスカッション）　川向雅弘

アクティブラーニング	グループ学習を取り入れる。
評価方法	授業への取り組み:４０%、期末レポート：６０% レポートについては、ルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	各セメスター最終回にゲストスピーカーの講義に対するフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する。
事前・事後学修	事前学習として、次回テーマ領域について、新聞記事等を確認して望むこと。また、各回の講義内容に関する文献・新聞記事等について事後学習を行うこと。(目安時間 40 分)
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示する。

科目名	社会福祉演習
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　社福　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	基礎演習Ⅰ・Ⅱをふまえ、社会福祉の専門的な学修を進めるうえで必要となる能力や知識を修得しながら、各自が社会福祉のどのような領域や課題について専門的に学んでいきたいのかを考え、自らの専門性を培うための足がかりとする。
到達目標	1. 現代社会に生きるさまざまな人たちの暮らしについて、考えることができる。 2. 社会福祉のさまざまな領域を知り、興味・関心を持つことができる。 3. 図書館で文献資料の収集ができ、関心のある論文などを見つけ、要約することができる。 4. 自分の興味・関心と社会福祉の領域を結びつけ、レポートをまとめ、発表することができる。
授業計画	＜担当教員名＞福田俊子、大場義貴、村上武敏　（3 名で 3 グループを担当する） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 今後の授業の進め方等についての話し合い、アイスブレイクによるグループ作り 第 2 回：基本的な文献の読解① 教員によるプレゼンテーションを通して、文献の読み方、レジュメの作成方法、文献や注引用方法等のモデル提示 第 3 回：文献の収集方法の理解 図書館を活用して専門的な文献資料の収集方法の理解 第 4 回：文献リストの作成 文献検索機能を用い、各自の興味あるテーマについての参考文献リストの試行的作成 第 5 回：基本的な文献の読解② 学生が分担しあい、担当箇所についてレジュメを準備し発表（学生をグループ①～⑤に分ける）、それをふまえてのグループ討議 学生グループ① 第 6 回：　〃　学生グループ② 第 7 回：　〃　学生グループ③ 第 8 回：　〃　学生グループ④ 第 9 回：　〃　学生グループ⑤ 第 10 回：自分の興味・関心あるテーマの絞り込み テーマレポート作成に向け、各自がテーマを決定。 テーマレポートの個別指導を経て、発表（学生をグループ①～⑤に分ける）、それを踏まえてのグループ討議　学生グループ① 第 11 回：　〃　学生グループ② 第 12 回：　〃　学生グループ③ 第 13 回：　〃　学生グループ④ 第 14 回：　〃　学生グループ⑤ 第 15 回：　授業のまとめ グループにわかれ、一人の担当教員の演習に所属することになります。担当教員は、皆さんと一緒に考え、それぞれの興味・関心を自分のテーマに結び付けていくお手伝いをさせていただきます。少人数のグループだからこそ、積極的なディスカッションへの参加をお願いします。

アクティブラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取り組み状況（60%）、テーマレポート（40%） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	提示された課題に対しては、あらかじめ必要な知識を復習すること。 共通の文献を分担発表する場合は、必ず当該部分を予め通読して授業に臨むこと グループ発表にあたっては、授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておくこと。 個人発表の場合は、ゼミメンバーに内容が伝わりやすいレジュメなどを準備しておくこと （目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	インターンシップ入門
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（60 時間）　必修　社福　１～２セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	社会福祉施設の利用者や職員との交流を通して、それらに対する理解を促進し、これから受講する様々な講義において具体的なイメージをもって学習に取り組めるようにする。また、実習の手続きや実習を通して、今後の実習のための基礎をつくるとともに社会人としての育成を図る。
到達目標	事前学習 １．これから様々な実習に臨み、さらに社会福祉の実践者となるための心構えをする。 ２．実習プログラムの流れを理解する。 ３．実習先となる社会福祉施設の概要と、その根拠となる法律について理解する。 実習 １．福祉施設利用者や職員とのコミュニケーション、関係づくりの基礎を習得する。 ２．利用者の生活を理解する。 ３．職員の日常業務を理解する。 ４．実習施設の概要と社会的な意義について理解する。 事後学習 １．実習体験を多面的に捉えなおす。 ２．実習体験をグループでまとめて報告する。 ３．実習体験をレポートにまとめる。
授業計画	＜担当教員＞村上武敏、大場義貴、川向雅弘、佐々木正和 ＜授業内容・テーマ等＞ 事前学習（春セメスター） 第１回：　オリエンテーション 第２回：　実習の心構え・実習記録の書き方 第３回：　報告会　①施設の概要　②根拠となる法律 第４回：　実習の準備と実習中の諸注意 実習（9 月）　4 日間、社会福祉施設にて実習 事後学習（秋セメスター） 第５回：　実習体験の振り返り 第６回：　グループスーパービジョン 第７回：　実習報告会のための準備 ①　報告資料の作成 第８回：　実習報告会のための準備 ②　中間報告とスーパービジョン 第９回～第 10 回：　実習報告会（障害者領域・高齢者領域）
アクティブ ラーニング	実習科目である

評価方法	実習への取り組み姿勢（事前訪問、実習への参加、実習先の評価、記録物の内容）　60% 授業への取り組み姿勢（授業への参加、報告会に向けた取り組み、期末レポート）　40% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	報告会については、終了後に各教員がコメントする。 期末レポートについては、担当教員ごとにコメントする。
指定図書	なし
参考図書	担当教員ごとに提示する。
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要や根拠法を把握しておくこと 実習後は、実習報告会と期末レポートの作成に向けて、実習体験を整理しておくこと （目安時間 40 分）
オフィスアワー	担当教員それぞれの研究室にて実施。時間は初回の授業において提示する。

科目名	インターンシップⅠ　※社会福祉学科
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（90 時間）　必修　社福　４セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	１年次のインターンシップ入門における学修をふまえ、学生が自分の目指す社会福祉援助者像を明確化していくために、本科目は 10 日間程度の配属実習を含んだ授業構成となっている。多様な社会福祉施設等の利用者とのコミュニケーションを通じて、その現状を理解するとともに、社会福祉援助者として必要とされる実践力とは何かについて、考察することを目的とする。また、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。 なお、実習の事後学習は、インターンシップⅠ実習指導で行われる。
到達目標	1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる。 2. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。 3. 他の学生や職員とのチームワークを考えながら行動できる。
授業計画	＜担当教員＞福田俊子、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和 ＜授業内容・テーマ等＞ １．事前学習プログラム 第１回：オリエンテーション・ガイダンス 第２回： 実習記録の書き方及び実習中の諸注意 第３回：グループ別学習①（実習施設の概要及び利用者の理解） 第４回：グループ別学習②（事前訪問のための準備、３年生からの引き継ぎ） 第５回：事前訪問 第６回：グループ別学習③（事前訪問のフィードバック、実習テーマの共有） ２．配属実習 国家資格の取得及び３年次のソーシャルワーク実習先にかかわる希望、使用可能な交通手段など総合的に勘案した結果決定された、大学の近隣にある実習先において、10 月から 12 月までの 10 日間程度、週１回半日の配属実習を行う。 ※実習中のスーパービジョン並びに事後学習については、社会福祉演習Ⅱの授業で行う。 ＜その他＞ ・実習を含む授業科目であるため、積極的な授業への参加が重要であることを理解して履修してほしい。 ・「インターンシップⅠ実習指導」も必ず履修すること。

アクティブラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。
評価方法	授業への取り組み状況 20%（事前学習への参加状況） 実習への取り組み状況 80%（事前訪問・実習への参加状況、記録物の内容） 実習への取り組みはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	事前学習プログラムでは、リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	・事前：提示された課題はすべて ・事後（配属実習）：実習ノートは、必ず、その日のうちに記録すること。実習中に分からないことがあった場合、できるだけ自主的に調べてみること。　（目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	インターンシップⅠ実習指導
科目責任者	福田　俊子
単位数他	２単位（30 時間）必修　社福　４セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目は、インターンシップⅠの実習中における学内スーパービジョン及び事後学習として位置づけられる。10 日間程度の配属実習を行った後、グループ並びに個別スーパービジョンを適宜実施しながら、配属実習全体を振り返り、まとめる。実習体験の総括は、実習報告会及びレポートの作成によって行われる。
到達目標	1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる 2. 他の学生の語りに耳を傾け、自らの実習体験を振り返ることができる。 3. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。 4. 社会福祉援助者に必要とされる実践力とは何か、自分の言葉を使って表現できる。 5. さまざまなかかわりを通して、自己理解を深める。
授業計画	＜担当教員＞福田俊子、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和 ＜授業内容・テーマ等＞ 教員ごとに小グループに分かれ、以下の授業を展開する。 １．配属実習中のスーパービジョン 第１回：実習初日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む） 第２回：実習２日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む） 第３回：実習３日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第４回：実習４日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第５回：実習５日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（前半実習のまとめを含む） 第６回：実習６日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第７回：実習７日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第８回：実習８日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第９回：実習９日目の実習体験にかかわるスーパービジョン 第 10 回：実習最終日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習全体のまとめを含む） ２．事後学習プログラム 第 11 回：全体授業、オリエンテーション、グループ別学習①） 第 12 回：グループ別学習②（実習報告会にむけた発表準備：テーマの設定） 第 13 回：グループ別学習③（実習報告会にむけた発表準備：内容、発表方法の検討） 第 14・15 回：実習報告会、まとめ ＜その他＞ ・インターンシップⅠを必ず履修すること。

アクティブラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取り組み状況 50%（実習中のスーパービジョン・事後学習への参加状況） 総括レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	精神保健福祉制度論Ⅰ
科目責任者	上原　久
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1. 精神保健福祉に関する法律や制度の変遷と内容を理解する。 2. 精神保健福祉実践に関する現状と課題および精神保健福祉士の役割について理解する。
到達目標	障害者自立支援法、精神保健福祉法、精神保健福祉士法など、わが国の精神障害者福祉に関係する法律を中心に、その歴史的変遷と内容を理解する。そのうえで、精神保健福祉に関する行政組織、施設・機関の現状および精神保健福祉施策(関連施策を含む)の現状と課題を明らかにする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：授業オリエンテーション 第 2 回：精神病者監護法から精神保健法成立までの経緯 第 3 回：精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯 第 4 回：精神保健福祉法成立の意義とその後の変化 第 5 回：障害者自立支援法成立による変化 第 6 回：施設見学 第 7 回：精神保健福祉法の構成 第 8 回：精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割 第 9 回：精神保健福祉法の最近の動向 第 10 回：障害者基本法と精神障害者施策との関わり 第 11 回：障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際 第 12 回：精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際 第 13 回：精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法 第 14 回：相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの相互作用の理解 第 15 回：全体の整理

アクティブラーニング	障害者総合支援法による施設を数カ所見学する。
評価方法	レポート 60%、課題提出物（リアクションペーパー）20%、議論への参加姿勢 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	授業の理解度をリアクションペーパー等で把握し、次回授業で解説する。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑥精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム（第６版）へるす出版
参考図書	随時紹介
事前・事後学修	事前学習についてはシラバスを参考に指定図書の該当ページを読んでおくこと（20 分程度）。事後学習については、授業の配布物を再度読み込んでおくこと（20 分程度）。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	精神保健福祉制度論Ⅱ
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　５セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	精神障害者に関連する社会保障制度の概要を理解する。また、更生保護制度（概要と精神障害者福祉との関係、更生保護制度における関係機関や団体との連携）および医療観察法（概要と医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割）について学ぶ。さらに、社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用について事例を用いながら学ぶ。
到達目標	1. 精神障害者の制度政策の概要の理解を深める。 2. 司法における精神保健福祉士の役割を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞佐々木正和・外部講師 第 1 回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要①　社会政策と社会福祉制度 第 2 回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要②　医療保険制度・介護保険制度 第 3 回：相談援助に係る行政組織と民間組織 第 4 回：福祉サービス提供施設・機関の役割 第 5 回：専門職や地域の支援者等 第 6 回：刑事司法と更生保護制度 第 7 回：保護観察所と更生保護制度の担い手 第 8 回：司法・医療・福祉の連携の必要性と実際 第 9 回：医療観察法の意義と内容・医療観察法の審判と精神保健参与員の役割 第 10 回：指定入院医療機関における処遇・地域における処遇 第 11 回：社会復帰調整官の役割と実際・精神保健福祉士の仕事 第 12 回：社会調査の意義と目的・対象・倫理 第 13 回：量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点・ICT の活用方法 第 14 回：社会調査をもとに社会資源の調整・開発に結び付けた事例 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑥精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム(第６版) へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する法律条文等プリントを事後に繰り返し学習しておく。　（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	精神保健生活支援システム論
科目責任者	海野　洋一郎
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福　７～８セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神障害者（精神科受診の発達障害者を含む）の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。また、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）及び行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。
到達目標	１．精神障害者の概念、精神障害者の生活の実際、精神障害者の生活と人権について理解する。 ２．精神障害者の居住支援、精神障害者の就労支援、精神障害者の生活支援システム、市町村における相談援助及びその他の行政機関における相談援助について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ （春セメスター） 第 1 回：障害者基本法・精神保健福祉法における精神障害、精神障害者の特性 第 2 回： 精神障害者の生活と人権、精神障害者と家族の状況 第 3 回：精神障害者と地域社会 第 4 回：精神障害者の生活支援の理念と概念 第 5 回：精神障害者の居住支援制度の歴史的展開、居住の場の確保と精神保健福祉士の役割 第 6 回： 精神障害者の居住支援に関わる専門職と役割、今後の居住支援 第 7 回：行政機関における相談援助システム 第 8 回：地域生活支援システム（精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム） （秋セメスター） 第 9 回： 就労とは～働くことの意義 第 10 回： 精神障害者の雇用・就業支援制度の概要、歴史的展開 第 11 回： 精神障害者の雇用・就業支援に関わる専門職、支援の実際 第 12 回：福祉的就労における支援の実際、雇用・就労支援における近年の動向 第 13 回：社会参加、余暇活動 第 14 回：ソーシャルサポートネットワークとクライシスケアシステム 第 15 回：地域生活支援システムの実際

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションを行います
評価方法	授業態度 10%、リアクションペーパー10%、レポート 80%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座　第 7 巻『精神障害者の生活支援システム』中央法規出版
参考図書	『精神障害者のための就労支援ガイドブック』野中猛・松為信雄編　金剛出版
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前学修として事前に目を通してきてください。 事後学修としては各回の授業内容のプリントを配布しますので、復習に利用してください。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	精神保健ソーシャルワーク総論
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 単位）　選択　社福　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神保健ソーシャルワーカー総論の講義では、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割を理解していく。ソーシャルワーク理論を歴史的に概観していくことで、ソーシャルワークの定義と、構成要素である知識・価値・技術を理解していく。また、実際のソーシャルワーク事例をふまえながら実践でのソーシャルワークの理解を深めていく。
到達目標	①ソーシャルワーク理論の基礎的な理解を深める ②精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談の概要について理解する ③精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について、事例検討しながら理解していく
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士①　精神保健福祉士の役割と意義 第 2 回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士②　現代社会と精神保健福祉士（ソーシャルワーカーの実践） 第 3 回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士③　現代社会と精神保健福祉士（チームアプローチ、他職種連携） 第 4 回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素①　ソーシャルワーカーの定義と構成要素①ソーシャルワーカーの価値・理念と原則 第 5 回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素②　ソーシャルワーク関係における価値、理念と原則 第 6 回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史①　諸外国の歴史 第 7 回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史②　日本の歴史 第 8 回：ソーシャルワーク理論と展開過程①　実践モデル、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーの意義 第 9 回：ソーシャルワーク理論と展開過程②　地域を基盤として生活支援としてのソーシャルワーク 第 10 回：ソーシャルワーク理論と展開過程③　協働作業としてのソーシャルワークの展開過程〈インテーク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施〉　ロールプレイ実施 第 11 回：ソーシャルワーク理論と展開過程④精神科当事者の活動　ゲストスピーカー 第 12 回：ソーシャルワーク理論と展開過程⑤　社会福祉調査・研究 第 13 回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク①　チームアプローチと他職種連携（IPW） 第 14 回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク②　精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援 第 15 回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク③　メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割：

アクティブラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向で情報提供を行います。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー③　『精神保健福祉相談援助の基盤〈基礎〉(専門)』 へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する歴史年表等プリントを事後に繰り返し学習しておく。　　(目安時間 40 分)
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。 備考：[履修上の注意]　精神保健福祉士指定科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅰ
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。
到達目標	1. 精神保健医療福祉の歴史と動向を理解すると共に、精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識を得る。 2. 相談援助の過程及び対象との援助関係について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：障害者福祉の理念と精神障害①　ノーマライゼーション・リハビリテーション 第 2 回：障害者福祉の理念と精神障害②　生活の質（QOL）・自立支援・ソーシャルインクルージョン 第 3 回：精神障害者の人権 第 4 回：障害者権利条約の理念 第 5 回：精神保健福祉の歴史と理念　　精神保健福祉の歴史①（治安対策と監護） 第 6 回：精神保健福祉の歴史②（地域ケアと入院医療） 第 7 回：精神保健福祉の歴史③（地域ケアと社会復帰） 第 8 回：精神保健福祉の現状と課題 第 9 回：精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 第 10 回：精神科医療における権利擁護 第 11 回：日本の PSW の歴史・精神保健福祉士の国家資格化 第 12 回：精神保健福祉士の専門性と倫理①　導入期・混乱期 第 13 回：精神保健福祉士の専門性と倫理②　展開期・拡大期 第 14 回：精神保健福祉士の倫理と業務 第 15 回：まとめ　具体的事例検討

アクティブラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー④　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（第６版） へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する歴史年表等プリントを事後に繰り返し学習しておく。　（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅱ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方、技法について学ぶ。また、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について学ぶ。
到達目標	１．相談援助活動のための面接技術及び相談援助・家族調整・支援の実際と事例の支援過程（医療機関、福祉事業所、地域社会を含む）について理解する。 ２．地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む）について理解する。
授業計画	＜担当教員名＞　大場義貴 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　精神障害者を対象とした精神保健福祉士の面接の構造と技術 第２回　面接に必要な精神保健福祉士の資質、技術、態度 第３回　精神保健ソーシャルワーク面接の特徴 第４回　グループ支援の展開過程・概要と理論 第５回　精神科デイケア・SST の実際　ゲストスピーカー 第６回　精神保健福祉士が行う家族への個別支援・家族心理教育 第７回　精神保健福祉士が行う家族 SST・家族教室 第８回　事例分析①（背景と個別性の理解） 第９回　事例分析②（関連専門職種との連携） 第 10 回　精神保健福祉士が行う訪問型支援（ACT・生活訓練訪問型・訪問看護） 第 11 回　個別支援とネットワーク型支援 第 12 回　精神障害者を対象としたケアマネジメント 第 13 回　チーム医療における精神保健福祉士の役割・生活支援の理念と精神保健福祉士の役割 第 14 回　災害時における精神保健福祉士の役割 第 15 回　スーパービジョンとコンサルテーション

アクティブラーニング	毎回グループ学修、反転授業を行います。 第8・9回は発表（プレゼンテーション）を行います。 課題提出などは、Moodleを活用します。
評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）70%、授業への取り組み・発表20%、事前事後学修提出状況10%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー4（第6版）精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　へるす出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 事後学修：授業中に当回の事後学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 （目安時間40分）
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福　7セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を涵養する。
到達目標	１．総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に理解する。 ２．それらから、解決に向けた総合的かつ包括的な相談援助について実践的に習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：精神保健福祉士としての価値 第 2 回：精神保健福祉士としての技術 第 3 回：精神保健福祉士としての視点 第 4 回：退院支援、地域移行①インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング 第 5 回：退院支援、地域移行②効果測定と支援の評価・終結とアフターケア 第 6 回：就労（雇用）支援①　インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング 第 7 回：就労（雇用）支援②　効果測定と支援の評価・終結とアフターケア 第 8 回：ネットワーキング・ 社会資源の活用・調整・開発 第 9 回：地域における精神保健（自殺、ひきこもり等） 第 10 回：実習場面のふりかえり①　(当事者理解) 第 11 回：実習場面のふりかえり②　(医療機関の機能と精神保健福祉士) 第 12 回：実習場面のふりかえり③　(福祉事業所・行政等機能との精神保健福祉士) 第 13 回：実習場面のふりかえり④　(発表と評価) 第 14 回：地域における精神保健福祉啓発活動開発①（グループワーク） 第 15 回：地域における精神保健福祉啓発活動開発②（発表と評価）

アクティブラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第4回、第6回ではロールプレイングを行います。 課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodle に入力して下さい。） 事後学修：授業中に当回の事後学修課題を提示します。期日までにMoodle に入力して下さい。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位(30 時間)　 選択　社福　８セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習の経験を踏まえ、長期入院をしている精神障害者の生活上の課題や、必要な支援やについて把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、体系化し、実践できる能力を涵養するため、個別並びに集団による実技指導を行う。
到達目標	１．個人指導並びに集団指導による、精神障害者への具体的な援助場面を想定した、模擬面接（ロールプレイ）を実施し、インテーク（受理面接)、 アセスメント（課題分析)、 プランニング（支援の計画)、 支援の実施、 モニタリング（経過観察）を組み立てる。 ２．家族面接への模擬面接や、関係者との模擬調整会議を企画、実施できる。
授業計画	＜担当教員名＞　大場義貴 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　オリエンテーション・精神保健福祉士の行う相談援助の原則・事例の理解 第 2 回：　第１回目　模擬面接の準備（クライエントの理解、かかわり方の検討) 第 3 回：　初回面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント 第４回：　アセスメントと第２回目面接の準備 第５回：　第２回目面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント 第６回：　家族（弟）面接の準備 第７回：　家族（弟）面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント 第８回：　個別支援計画のプランニング①　クライエントに関する情報の整理 第９回：　ロールプレイを通してクライエントと家族関係の多面性を理解する 第 10 回：個別支援計画のプランニング②　個別支援計画の作成 第 11 回：個別支援計画の立案③　個別支援計画の説明の準備 第 12 回：クライエントに対して支援計画の説明（ロールプレイ） 第 13 回：モニタリングと個別支援計画の再プランニング 第 14 回：効果測定と支援の評価・終結とアフターケア 第 15 回：精神保健福祉士の行う相談援助の実際・スーパービジョン

アクティブラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第3・5・7・9・12回ではロールプレイングを行います。 課題提出などは、Moodleを活用します。
評価方法	100点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 事後学修：授業中に当回の事後学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 （目安時間40分）
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習指導
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	３単位(90 時間)　選択　社福　６～８セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習を通して、精神障害者のおかれている現状や生活の実態や生活上の困難について理解すると共に、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を習得するための、事前準備、事後の振り返りを行う。精神保健ソーシャルワーク実習を効果的にすすめるために、「実習の手引き」及び「ワークシート」を活用する。実習後においては、必要な個別指導を行う。
到達目標	１．精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ２．精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	＜担当教員名＞　佐々木正和　大場義貴（両名が１回から４５回まで担当） ＜授業内容・テーマ等＞ 実習前 第 1 回：実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義　佐々木・大場 第 2 回：実習現場の理解（各論）：就労支援①（講義）　(ゲストスピーカー) 第 3 回：実習現場の理解（各論）：就労支援②（グループワーク）佐々木･大場 (ゲストスピーカー) 第 4 回：実習現場の理解（各論）：行政機関①（講義）　(ゲストスピーカー) 第 5 回：実習現場の理解（各論）：行政機関②(グループワーク）佐々木･大場 (ゲストスピーカー) 第 6 回：実習現場の理解（各論）：精神科病院①（講義）　(ゲストスピーカー) 第 7 回：実習現場の理解（各論）：精神科病院②(グループワーク）佐々木･大場 (ゲストスピーカー) 第 8 回：実習現場の理解（各論）：地域活動支援センター・相談支援事業所など　佐々木･大場 第 9 回：実習現場の理解（各論）：精神科デイケア・訪問看護など　佐々木・大場 第 10・11 回：実習先を選択するための学習・個別課題の設定　(グループワーク・個別指導) 第 12 回：実習先で必要とされる専門的知識と技術に関する理解　佐々木・大場 第 13 回：「実習記録」の記録内容及び記録方法に関する理解　佐々木・大場 第 14・15 回：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解　佐々木・大場 第 16・17 回：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解　佐々木・大場 第 18・19 回：巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）の意義について　佐々木・大場 第 20～22 回：実習先の特徴の整理・実習計画書の作成　佐々木・大場 第 23・24 回：実習計画の発表　佐々木・大場 第 25・26 回：中間報告会　佐々木・大場 第 27・28 回：中間報告会 実習後 第 29・30 回：グループスーパービジョン　佐々木・大場 第 31～36 回：実習の振り返りと実習報告会準備　佐々木・大場 第 37～40 回：実習報告会　佐々木・大場 第 41 回：実習報告会振りかえり 第 42 回：専門職としての理解：当事者からの学び①（講義）　(ゲストスピーカー) 第 43 回：専門職としての理解：当事者からの学び②(グループワーク)　佐々木・大場 (ゲストスピーカー) 第 44 回：専門職としての理解：家族からの学び①（講義）　(ゲストスピーカー) 第 45 回：専門職としての理解：家族からの学び②(グループワーク）佐々木・大場 (ゲストスピーカー)

アクティブラーニング	グループワークやロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向で情報提供を行います
評価方法	授業への取り組み 50%、定期試験（レポート）50%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	① 株）みらい 『ソーシャルワーク実習ノート（第２版)』 ②実習の手引き
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の進行に応じて、課題を課しますので、事前学修をして授業に臨んで下さい。また、事後学習として、講義で学んだことを振り返るための課題を課します。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習
科目責任者	佐々木　正和
単位数他	５単位(210 時間)　選択　７セメスター
科目の 位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得すると共に、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 学生が以下に示す達成課題に取り組むことができるように、実習先の実習指導者並びに実習担当教員は、実習状況を把握し、適宜指導を行う。
到達目標	１．精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ２．精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
授業計画	＜担当教員＞　　佐々木正和　大場義貴（実習巡回指導は両名が行う） ＜授業内容・テーマ等＞ 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ②退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 ①治療中の患者及びその家族への相談援助 ②日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ③地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、原則的に次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。また、不足する内容に関しては、精神保健ソーシャルワーク実習にて補う。 ①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティ等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ③利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 ④利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援とその評価 ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

アクティブラーニング	ムードル上で講義や講演会の情報等の情報交換を双方向で行う。
評価方法	実習への取り組み 70%、定期試験（レポート）30%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。。
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	①（株）みらい『ソーシャルワーク実習ノート（第 2 版)』(3 年次購入済み)、②実習の手引き 各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。 また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。 また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します. 各回２０分程度の復習と、２０分程度の予習をして実習に臨んでください。
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	精神障害リハビリテーションⅠ
科目責任者	菅原　小夜子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神障害リハビリテーションの理念、意義を理解し、精神障害者が「主体的に生きる」ことを支えるための構成及びプロセスについて具体的に学習する。さらにその実際の中で精神保健福祉士としての視点、役割を確認し、精神障害リハビリテーションにおける専門性に基づいた精神保健福祉士の実践を理解する。
到達目標	1. 歴史的経過を踏まえた精神科リハビリテーションの意義を理解できる。 2. 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の実践の意義を理解できる。 3. 生活支援の視点を理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1回　講義のオリエンテーション 第　2回　リハビリテーションの概念、定義 第　3回　リハビリテーションの分野、理念と意義、基本原則 第　4回　精神科リハビリテーションの歴史と概念 ／精神科リハビリテーションの理念と意義　① （セルフヘルプ活動・クラブハウスモデル） 第　5回　精神科リハビリテーションの理念と意義　② （ストレングス・エンパワメント・リカバリー） 第　6回　精神科リハビリテーションの基本原則 第　7回　精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割／専門職との連携 第　8回　精神科リハビリテーションの対象／精神科リハビリテーションにかかわる専門職 第　9回　精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業　① 第 10 回　精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業　② 第 11 回　精神科リハビリテーションのプロセス（基本プロセス） 第 12 回　精神科リハビリテーションのプロセス（展開） 第 13 回　精神科リハビリテーションのプロセス（地域におけるリハビリテーション） 第 14 回　精神科リハビリテーションのプロセス（疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション） 第 15 回　まとめ

アクティブラーニング	該当なし
評価方法	リアクションペーパー20%、レポート 80%
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑤　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第６版） へるす出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	本科目での学習内容を、他科目での学習されたことや現場実習等での体験とつなぎ合わせ、予習復習を行ってください。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	精神障害リハビリテーションⅡ
科目責任者	増田　喜信
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　７セメスター
科目の 位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	精神科リハビリテーションの基本的枠組みの理解と具体的な目的技法を知る。 地域生活の支援のあり方、社会資源の活用、地域相談や関係機関との連携など、ケアマネージメント、コミュニティーワークの実際を理解する。
到達目標	１．精神科医療におけるリハビリテーションの目的や基本的考え方、技法を理解する。 ２．社会生活を基礎とした支援、専門職として連携の在り方について理解を深める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：授業の概要説明・精神科医療の実際 第 2 回：　精神科リハビリテーションの基本的枠組み・構成と展開 第 3 回：支援方法とプロセス（作業療法等） 第 4 回：集団精神療法、認知行動療法について 第 5 回：認知行動療法の実際　ＳＳＴ等 第 6 回：心理教育（方法や、プログラム、効果） 第 7 回：チームアプローチ（意義・類型、評価） 第 8 回：精神科リハビリテーションサービス（デイケア・ナイトケア） 第 9 回：居住支援（歴史・現状・課題） 第 10 回：就労支援（歴史・活動・課題） 第 11 回：地域生活支援とネットワーキング　ケアマネージメント 第 12 回：地域生活支援　訪問支援・アウトリーチ 第 13 回：仲間による地域生活支援　ピアサポート等 第 14 回：精神保健福祉ボランテアの育成と活用 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	ＤＶＤ鑑賞・ロールプレイングを含むグループワークを取り入れる。 実例に基づく架空事例を作成し、それらを通し一連の流れのなかでリハビリテーションが行われていることを説明する。
評価方法	レポート７０％・課題提出物３０％　　合計１００％
課題に対するフィードバック	講義後リアクションペーパーを記入、理解した内容や感想などをまとめる。 リアクションペーパーのコメントを次回以降の講義時に返却する。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑤　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第 6 版）　へるす出版　（精神保健リハビリテーション学Ⅰの使用テキスト）
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習として、次回講義で取り扱う個所を読み予習し不明な点を確認する。事後学習としては、講義内容の振り返りをし、不明点を明確にする。　（目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	精神医学Ⅰ
科目責任者	山末　英典
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神保健福祉士は精神障がい者に対する心理社会的サポートを提供する際、中心的役割を担うため精神医学に関する知識が欠かせない。本科目では精神医学の成り立ち、精神疾患の症状やその評価法、代表的な精神疾患の概要などについて学習する。
到達目標	1.　精神医学の成り立ち、精神疾患の概念と診断について理解する。 2.　一般的な精神疾患について基礎知識を身に着け、説明することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等（担当教員名）＞ 第 1 回：ガイダンス・精神医学とは（山末英典） 第 2 回：精神現象の生物学的理解（市川太祐） 第 3 回：精神医学の歴史・精神障害の概念と分類（市川太祐） 第 4 回：精神症状学（横倉正倫） 第 5 回：診断の手順と方法（横倉正倫） 第 6 回：精神科で行われる検査法（竹林淳和） 第 7 回：器質性・症状性精神障害（竹林淳和） 第 8 回：中毒性精神障害・依存と嗜癖（和久田智靖） 第 9 回：統合失調症（和久田智靖） 第 10 回：気分障害（うつ病、双極性障害）（桑原斉） 第 11 回：神経症（不安障害、ストレス障害など）（池谷和） 第 12 回：摂食障害・睡眠障害・性機能不全（亀野陽亮） 第 13 回：神経発達障害（栗田大輔） 第 14 回：行動と情緒の障害（岩城貴美枝） 第 15 回：総括（土屋賢治）

アクティブラーニング	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『新・精神保健福祉士養成講座（1）精神疾患とその治療 第２版』 中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害―臨床記述と診療ガイドライン―』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院
事前・事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	科目責任者の所属学部、研究室：浜松医科大学医学部医学科、精神医学講座 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	精神医学Ⅱ
科目責任者	山末　英典
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　５セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	本科目では、精神科ではどのような治療が、どのような環境・法制度のもとで行われているのかについて基本的な知識を学ぶ。
到達目標	1. 精神疾患に対する治療法を知り、どのような精神疾患に対して用いられるかを理解する。 2. 精神科の治療構造を知り、それぞれどのような疾患、病状に適応されるかを理解する。 3. 精神疾患に対する治療の一般的な流れについて理解する。 4. 精神医学に関連した法制度について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等（担当教員名）＞ 第 1 回：ガイダンス・精神科医療とは（山末英典） 第 2 回：精神障害の治療（1）薬物療法（栗田大輔） 第 3 回：精神障害の治療（2）精神療法（栗田大輔） 第 4 回：精神障害の治療（3）精神科リハビリテーション（高貝就） 第 5 回：精神障害の治療（4）環境・社会療法（高貝就） 第 6 回：精神科医療機関の治療構造（1）疾病構造の変化（亀野陽亮） 第 7 回：精神科医療機関の治療構造（2）外来診療／在宅医療（亀野陽亮） 第 8 回：精神科医療機関の治療構造（3）入院診療（岩城貴美枝） 第 9 回：精神科医療機関の治療構造（4）医療観察法（岩城貴美枝） 第 10 回：精神科医療における人権擁護（1）精神科治療と入院形態（桑原斉） 第 11 回：精神科医療における人権擁護（2）インフォームド・コンセント（桑原斉） 第 12 回：精神科医療における人権擁護（3）隔離・拘束（池谷和） 第 13 回：精神科医療における人権擁護（4）精神科救急システム／移送制度（池谷和） 第 14 回：関連諸機関同士の連携（1）治療の導入／再発予防／退院促進（土屋賢治） 第 15 回：総括（土屋賢治）

アクティブラーニング	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『新・精神保健福祉士養成講座（1）精神疾患とその治療 第２版』中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害―臨床記述と診療ガイドライン―』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院
事前・事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	科目責任者の所属学部、研究室：浜松医科大学医学部医学科、精神医学講座 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	精神保健学Ⅰ
科目責任者	堀　雅博
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	・精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要を学ぶ。 ・精神保健の視点からみた現代社会における課題とアプローチを、家族、学校教育、勤労者の問題を通して学ぶ。
到達目標	1. 精神の健康についての基本的な考え方と精神保健学の役割について、近代日本社会の変貌を念頭に置きながら理解する。 2. 精神保健福祉士として人々の精神保健を維持・増進するために、専門機関や関係職種の役割と連携について 理解する。
授業計画	〈授業内容・テーマ〉 第 1 回：精神保健の概要と課題　(p1～p14) 第 2 回：精神の健康とその要因①　社会構造の変化と新しい健康観(p15～p23) 第 3 回：精神の健康とその要因②　ﾗｲﾌｻｲｸﾙと精神の健康(p24～p35) 第 4 回：精神の健康とその要因③　ｽﾄﾚｽと精神の健康(p36～p40) 第 5 回：精神の健康とその要因④　生活習慣と精神の健康／精神の健康･精神疾患(p41～p50) 第 6 回：精神の健康への関与と支援　(p51～p75) 第 7 回：家族の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ①　現代日本の家族特徴／結婚生活／出産･育児(p77～p101) 第 8 回：家族の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ②　社会的ひきこもり／病気療養と介護／高齢者(p102～p116) 第 9 回：家族の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ③　相談する機関／精神保健福祉士の役割(p117～p133) 第 10 回：学校教育の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ①　現代日本の学校教育と生徒児童の特徴(p135～p161) 第 11 回：学校教育の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ②　教職員の精神保健／専門職と関係法規(p162～p177) 第 12 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ①　現代日本の労働環境(p179～p185) 第 13 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ②　うつ病と過労自殺(p186～p192) 第 14 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ③　飲酒やｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ／心身症と生活習慣病(p193～p203) 第 15 回：勤労者の課題とｱﾌﾟﾛｰﾁ④　問題解決のための機関と法規／PSW の役割(p204～p216) （注）(p　～p　)は、指定図書の該当ﾍﾟｰｼﾞを示しています。 各授業内容に関連した項目をその都度解説します。（たとえば第 13 回では「うつ病について」）

アクティブラーニング	なし
評価方法	定期試験(65%)とレポート(35%)の評価を総合的に判断し、合否を決定します。 レポートのテーマと作成の要点については、授業中に随時指示します。
課題に対するフィードバック	定期試験の内容を早めに予告し、解答例を提示します。 個々のリアクションペーパーを総括し、次回の授業の冒頭に総合的なコメントを行います。
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座『第2巻　精神保健の課題と支援』(第3版) 中央法規出版
参考図書	授業中に随時指示します。
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前に該当ページに目を通してきてください。 各回の授業内容をまとめたプリントを配布しますので、事後学修に利用してください。 1コマあたりの事前・事後学修時間の目安は、合計約40分とします。
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	精神保健学Ⅱ
科目責任者	山田　谷一
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	・精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。 ・国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。
到達目標	1. 精神保健の視点から見た現代社会の課題における精神保健学上の課題や対策を学び、精神保健福祉士の役割を理解する。 2. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題を学び、精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割①　発達障害者に対する対策 第 2 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割②　アルコール問題/薬物依存対策 第 3 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割③　うつ病と自殺防止対策 第 4 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割④　認知症高齢者に対する対策 第 5 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑤　社会的ひきこもりに対する対策 第 6 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑥　災害時の精神保健に対する対策/PSW の役割 第 7 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ① 現代社会と精神保健/災害被災者の精神保健／犯罪被害者の精神保健 第 8 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ② ニート・若年無業者と精神保健／ホームレス及び貧困問題と精神保健 第 9 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③ 性同一性障害と精神保健／多文化と精神保健 第 10 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ④　ターミナルケアと精神保健 第 11 回：地域精神保健に関する諸活動①　精神保健に関する調査／資源開発 第 12 回：地域精神保健に関する諸活動②　ネットワークづくり 第 13 回：地域精神保健に関する諸活動③　地域精神保健と関係法規/精神保健にかかわる人材育成 第 14 回：諸外国の精神保健活動の現状及び対策 世界の精神保健の現状／WHOなどの国際機関の活動／諸外国の精神保健医療の実情 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	グループワークを行います。
評価方法	授業態度 10%、リアクションペーパー10%、筆記試験 80%　計 100%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント、筆記試験の結果と復習の提示
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座『第 2 巻　精神保健の課題と支援』第 3 版　中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前学修として事前に目を通してきてください。 事後学修としては各回の授業内容のプリントを配布しますので、復習に利用してください。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	社会福祉特論Ⅲ
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30時間）　選択　社福　７セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	社会福祉経営論、トップマネジメント論で理論的に学んだことが、社会福祉施設・事業所、法人等の現場でどのように運用・実践されているのかについて、フィールドワークをとおして具体的に学ぶとともに、施設・事業所、法人のマネジメントに関わる現代的課題について、主体的に探索し、学修し、理解を深める。
到達目標	福祉専門職に求められるマネジメントの基本的な知識・理論をもとに、現場で求められる課題設定の視点、解決に向けた展望を描くことができる。 １．社会福祉施設・事業所、法人の運営、経営について、実際に現場に赴いて関係者から説明を受ける中で、具体性、現実性をもって理解できる ２．施設・事業所、法人などの組織運営をする上での現代的課題について、主体的に課題設定し解決策を導くことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　：オリエンテーション 第２回：A法人　運営の実際①　見学 第３回：　〃　　運営の実際②　講話 第４回：　〃　　学びのまとめ 第５回：B法人　運営の実際①　　見学 第６回：　〃　　運営の実際②　　講義 第７回：　〃　　学びのまとめ 第８回：C法人　運営の実際①　　見学 第９回：　〃　　運営の実際②　　講義 第10回：　〃　　学びのまとめ 第11回：マネジメントに関する自由研究・発表① 第12回：マネジメントに関する自由研究・発表② 第13回：マネジメントに関する自由研究・発表③ 第14回：マネジメントに関する自由研究・発表④ 第15回：まとめ （(マネジメント･ICT コースが推奨するトップマネジメント論もあわせて受講することが望ましい）

アクティブラーニング	演習科目である
評価方法	授業への参加態度　30%　毎回の授業のまとめ　30%　定期試験（レポート）　40% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業のまとめ、リアクションペーパーについては、毎回フィードバックする
指定図書	授業の中で、毎回関連する資料を配布する
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前学修：社会福祉経営論や、（履修している学生はトップマネジメント論）の復習をする 実際の施設・事業所・法人見学に際しては、予習をする。 マネジメントに関する自由研究・発表に向けた学修を進める 事後学修：毎回の授業のまとめ（感想、考察）を提出する （事前・事後学修　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ライフサイクルとソーシャルワークⅠ
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　１セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、社会福祉学科の独自科目であり、２セメスターのライフサイクルとソーシャルワークⅡとの連続性を持っている選択必修の科目である。ライフステージの前半部分の「こども・若者」が現代社会において直面しやすい諸問題を、社会福祉学的視点から理解することに主眼をおく。教員からの講義、グループワーク、学生の発表を１セットとする学修形式を通して、保健医療福祉の専門職者としての必要な知識を身につける。
到達目標	1. 現代社会のこども・若者の諸問題を保健医療福祉の専門職者として、社会福祉学的視点から理解できる 2. グループワークを通して、活発に意見交換ができ、発表資料を作成することができる
授業計画	＜担当教員名＞　：大場義貴 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：子ども・若者を巡る現代社会の諸問題と政策の動向 第 2 回：若者の社会的自立・若者の自殺（講義） 第 3 回：若者の社会的自立・若者の自殺（グループワーク） 第 4 回：若者の社会的自立・若者の自殺（発表） 第 5 回：不登校・ひきこもり（講義） 第 6 回：不登校・ひきこもり（グループワーク） 第 7 回：不登校・ひきこもり（発表） 第 8 回：ライフサイクルと心理・社会的支援（講義） 第 9 回：発達障害・いじめ（講義）　ゲストスピーカー（大須賀優子） 第 10 回：発達障害・いじめ（グループワーク） 第 11 回：発達障害・いじめ（発表） 第 12 回：母子保健・子育て（講義）　ゲストスピーカー（山名礼子） 第 13 回：母子保健・子育て（グループワーク） 第 14 回：母子保健・子育て（発表） 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	第3・6・10・13回はグループ学修を行います。 第4・7・11・14回は発表（プレゼンテーション）を行います。 課題提出などは、Moodleを活用します。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート）60%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況40%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	子ども・若者政策のフロンティア ; 伊藤 良高, 大津 尚志, 中谷 彪, 永野 典詞: 晃洋書房
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 事後学修：授業中に当回の事後学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 （目安時間40分）
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	ライフサイクルとソーシャルワークⅡ
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ライフサイクルは、ラウントリーの貧困研究から明らかにされた生涯を通してみたときの生活水準の波動のことであり、これにより社会保障制度による国民への生活保障の必要が認識されることとなった。 本科目では、児童期および青年期を含めつつ成人期から老年期により着目して、人の一生「ゆりかごから墓場まで」を支援するソーシャルワーカーにおいて必要な視点を獲得する。医療機関、行政機関、高齢者施設などにおいてソーシャルワーカーを志す方は必ず履修していただきたい。
到達目標	1. それぞれのライフステージにおける生活課題の特徴と共通する課題を理解する 2. それぞれのライフステージにおけるソーシャルワークの課題を理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション―ライフサイクルとは何か、ソーシャルワークとは何か 第 2 回：現代社会における貧困と格差――子どもの貧困と高齢者の貧困（講義） 第 3 回：現代社会における貧困と格差（グループワーク） 第 4 回：現代社会における貧困と格差（グループワーク） 第 5 回：現代社会における貧困と格差（研究発表） 第 6 回：医療・介護をめぐる課題について（講義） 第 7 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（ゲスト講義） ――医療福祉相談室から 第 8 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 9 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 10 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク（研究発表） 第 11 回：高齢者の介護問題とソーシャルワーク（ゲスト講義） ――地域包括支援センターから 第 12 回：高齢者の介護問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 13 回：高齢者の介護問題とソーシャルワーク（グループワーク） 第 14 回：高齢者の介護問題とソーシャルワーク（研究発表） 第 15 回：まとめ――ライフサイクルとソーシャルワークの課題
アクティブラーニング	現代社会の貧困と格差、さらに傷病にともなう生活問題と高齢者の介護問題、これら 3 つのテーマについてグループ学習をおこなう。

評価方法	授業への取り組み姿勢　70%、　期末レポート　30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	研究発表後にコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業において提示する。
事前・事後学修	毎日新聞に目を通すこと。そして、私たちが暮らす社会について問題意識を持つこと。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。

科目名	マネジメント演習
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30時間）　選択　社福　７セメスター
科目の 位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	社会福祉経営論、トップマネジメント論で理論的に学んだことが、社会福祉施設・事業所、法人等の現場でどのように運用・実践されているのかについて、フィールドワークをとおして具体的に学ぶとともに、施設・事業所、法人のマネジメントに関わる現代的課題について、主体的に探索し、学修し、理解を深める。
到達目標	福祉専門職に求められるマネジメントの基本的な知識・理論をもとに、現場で求められる課題設定の視点、解決に向けた展望を描くことができる。 １．社会福祉施設・事業所、法人の運営、経営について、実際に現場に赴いて関係者から説明を受ける中で、具体性、現実性をもって理解できる ２．施設・事業所、法人などの組織運営をする上での現代的課題について、主体的に課題設定し解決策を導くことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　：オリエンテーション 第２回：Ａ法人　運営の実際①　見学 第３回：　〃　　運営の実際②　講話 第４回：　〃　　学びのまとめ 第５回：Ｂ法人　運営の実際①　　見学 第６回：　〃　　運営の実際②　　講義 第７回：　〃　　学びのまとめ 第８回：Ｃ法人　運営の実際①　　見学 第９回：　〃　　運営の実際②　　講義 第10回：　〃　　学びのまとめ 第11回：マネジメントに関する自由研究・発表① 第12回：マネジメントに関する自由研究・発表② 第13回：マネジメントに関する自由研究・発表③ 第14回：マネジメントに関する自由研究・発表④ 第15回：まとめ （マネジメントコース学生は本科目とトップマネジメント論の少なくとも１科目は必ず履修すること）

アクティブラーニング	演習科目である
評価方法	授業への参加態度　30%　毎回の授業のまとめ　30%　定期試験（レポート）　40% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業のまとめ、リアクションペーパーについては、毎回フィードバックする
指定図書	授業の中で、毎回関連する資料を配布する
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前学修：社会福祉経営論や、（履修している学生はトップマネジメント論）の復習をする 実際の施設・事業所・法人見学に際しては、予習をする。 マネジメントに関する自由研究・発表に向けた学修を進める 事後学修：毎回の授業のまとめ（感想、考察）を提出する （事前・事後学修　40 分）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	特別支援教育論
科目責任者	姉崎　弘
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	従来からわが国においては、教育の機会均等を図るために、障がいのある子どもを対象に「特殊教育(Special Education)」が進められてきた。そして平成 19 年 4 月に学校教育法の一部が改正され、新たに「特別支援教育(Special Needs Education)」が制度化され、推進されている。そして今日特別支援教育は、共生社会の形成を目指した「インクルーシブ教育システム」の構築が課題であることを理解する。特別支援教育の考え方は、あらゆる教育の基礎であると言われる。この講義では、特別支援教育の基礎知識を学び、地域における障がい児者及び保護者の理解とその支援の姿勢や態度を身に付けることを目的とする。
到達目標	1.　特殊教育と特別支援教育の違い、インクルーシブ教育システムの構想について理解する。 2.　新しい障がい観、自立観、教育観、障がい児者本人・家族(保護者)について理解する。 3.　今後のあるべき姿と自分たちができることを考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：特殊教育から特別支援教育への変遷の歴史、制度について学ぶ。 第 2 回：特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室、通常学級における特別なニーズのある子どもたちの教育の現状と課題について知る。 第 3 回：共生社会の形成やインクルーシブ教育システム構想について学ぶ。 第 4 回：障がい、自立、教育について各自が自分なりに考えた上で、新しい障がい観、新しい自立観、新しい教育観について学ぶ。 第 5 回：視覚障がい児者および聴覚障がい児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 6 回：知的障がい児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 7 回：自閉症児者(知的障がいを伴う）の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 8 回：肢体不自由児・身体障がい者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 9 回：病弱・身体虚弱児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 10 回：重度・重複障がい(重症心身障がい)児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 11 回：言語障がい児者および情緒障がい児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 12 回：学習障がい(LD)児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 13 回：注意欠陥/多動性障がい(ADHD)児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 14 回：自閉症スペクトラム障がい(高機能自閉症等）児者の心理・行動特性を知り、教育現場や家庭・地域における現状と正しい支援方法について学ぶ。 第 15 回：特別支援教育論の全授業を振り返り、特別支援教育のあるべき姿について考える。そして、今自分たちができること、今後やっていきたいことについて考える。

アクティブラーニング	なし
評価方法	定期試験 60%、小テスト 20%、課題提出物(リアクションペーパー)20%
課題に対するフィードバック	毎回の授業終了時の学生のリアクションペーパーでの質問事項等に対して次時の授業でコメントを行ったり、小テストの解説を行っている。
指定図書	姉崎　弘著『特別支援教育　第 4 版』(大学教育出版)をテキストとして使用する。
参考図書	姉崎　弘著『保・幼・小・中・高校における発達障害のある子を支援する教育』ナカニシヤ出版
事前・事後学修	テキストで学んだ箇所と次回学ぶ箇所の復習・予習を、原則 40 分間は行うようにして下さい。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	国際社会福祉論
科目責任者	佐藤　順子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本講義は国際社会福祉の概念と今日的動向をグローバリゼーションの視点を通して具体的に学ぶ。特に、従来型福祉の展開ではなく、参加型開発に基づく開発型福祉を踏まえ、社会福祉の南北問題の実例を検証する。
到達目標	1. グローバリゼーションの構造的理解をする。 2. 南北問題を通して、社会福祉の諸問題を考える。 3. 開発型福祉の実践的検証に学ぶ。 4. 国際協力の在り方を考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法等の説明） 第 2 回：グローバリゼーションと社会福祉 第 3 回：グローバリゼーションと社会福祉問題の実相 第 4 回：国際社会福祉の概念 第 5 回：国際社会福祉の理論 第 6 回：国際社会福祉と南北問題 第 7 回：世界人権宣言と国際人権規約の概要 第 8 回：子どもの人権と思想 第 9 回：子どもの人権に関する具体的事例検証 第 10 回：貧困問題の背景と構造的理解 第 11 回：国際機関と国際 NGO の貧困撲滅に関する事例検証 第 12 回：開発型社会福祉の概念 第 13 回：開発型社会福祉の事例検証 第 14 回：国際社会福祉における国際協力（ODA と NGO）の理念と実際 第 15 回：国際社会福祉の今後の課題と展望

アクティブラーニング	グループワークによる学生同士の意見交換、調べ学習などを取り入れる。
評価方法	授業態度（30%）、課題リポート（70%）を勘案し、総合評価する。
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。
指定図書	プリント配布
参考図書	なし
事前・事後学修	普段から地球規模の問題や課題に積極的に関心を抱き、問題意識を深めること。 事前：関係資料等をよく読んでおくこと。 事後：授業内容の復習を行い自分の考えをまとめておくこと。（４０分程度）
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	スクール（学校）ソーシャルワーク論
科目責任者	平川　悦子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
到達目標	１．今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する ２．スクールソーシャルワークの発展過程について理解する ３．海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解する ４．スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解する ５．スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解する
科目概要	スクールソーシャルワークの理論と実践を学ぶことにより、子ども（児童生徒）達が健やかに育つ環境をつくるために、現代の日本の社会においてスクールソーシャルワークは何をすべきかを考える。 今日の児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の現状を把握したうえで、スクールソーシャルワークの国内外における発展過程、実践モデル等について学ぶ。事例も取り入れ、実践的な理解も深める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：オリエンテーション 第　2 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題① 学校における問題（不登校、非行、いじめ等） 第　3 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題② 家庭の抱える課題（児童虐待、子どもの貧困等） 第　4 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題③ 発達障がいと特別支援教育 第　5 回：スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理 第　6 回：海外におけるスクールソーシャルワークの発展と現状 第　7 回：日本におけるスクールソーシャルワークの展開と課題 第　8 回：スクールソーシャルワークの実践モデル 第　9 回：スクールソーシャルワークの支援方法（ミクロレベル） 第 10 回：スクールソーシャルワークの支援方法（メゾレベル） 第 11 回：支援ケース会議の重要性、進め方 第 12 回：スクールソーシャルワークの支援方法（マクロレベル） 第 13 回：スーパービジョン体制、方法 第 14 回：日本の教育施策の動向とスクールソーシャルワークの役割 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	グループディスカッションによる事例検討を行います。
評価方法	授業への取り組み５０％ レポート５０％
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーについては、コメントを付記し次回授業時に返却します。
指定図書	山野則子・野田正人・半羽利美佳編著「よくわかるスクールソーシャルワーク　第2版」 ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介
事前・ 事後学修	学校、地域、子ども家庭に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。 配布資料について熟読し理解を深めてください。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	スクールソーシャルワーク演習
科目責任者	帖佐　加代
単位数他	１単位（15 時間）　選択　社福　６セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について学び、スクールソーシャルワークの基盤となる理論と実践について理解し、実際に活用する力をつける。 学校や教育機関という福祉とは異なった現場において、子どもたちの最善の利益を目標にソーシャルワークを実践するスクールソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得できるように、グループワークやロールプレイなどの演習を行い、様々な事例や場面について体験できるようにする。
到達目標	1. ミクロ実践として具体的な事例に対しアセスメント、プランニング、モニタリングを実際に展開することができる。 2. メゾ実践として、ケース会議をロールプレイにおいて運営することができる。 3. マクロ実践として、ニーズに対してどのようにアプローチを行うか検討し、新たな仕組みを開発する視点をもつことができる。 4. スクールソーシャルワーク実践を記録化すること、それを通してスクールソーシャルワークの視点を説明できると同時に、記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画や方法の説明） 学校教育現場が抱える課題と学校教育現場におけるソーシャルワークの価値 第２回：ソーシャルワークの対象者理解（子ども、家庭、地域のアセスメント） 第３回：ソーシャルワークの対象者理解（学校理解とチーム学校） 第４回：スクールソーシャルワーク実践（ミクロプラクティス１） 第５回：スクールソーシャルワーク実践（ミクロプラクティス２） 第６回：スクールソーシャルワーク実践（メゾプラクティス） 第７回：スクールソーシャルワーク実践（マクロプラクティス） 第８回：スクールソーシャルワークを維持・発展させる力（記録やデータの蓄積を行うこと、スーパービジョン、評価）

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションを行います。
評価方法	授業への取り組み５０％ レポート５０％
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。
指定図書	『学校ソーシャルワーク演習』門田光司・鈴木庸裕編著　ミネルヴァ書房
参考図書	『スクールソーシャルワーカーの学校理解』鈴木庸裕編著　ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカー実践事例集』門田光司・奥村賢一監修 中央法規
事前・事後学修	学校、地域、子ども家庭に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。 配布資料について熟読し理解を深めてください。　（目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	スクールソーシャルワーク実習指導
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（30 時間）　選択　社福　６～７セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	スクールソーシャルワーク実習の意義について理解するために、学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。また、スクールソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 講義（実習指導）と、グループ学習及び個別指導を通して、主体的にスクールソーシャルワーク実習の準備を行う。
到達目標	1.教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。 2.具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。 3.ソーシャルワークが展開されるべく新しい現場に入るという意味を理解し、開拓の視点を養う。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第6セメスター 第　1回：オリエンテーション・スクールソーシャルワーク実習の意義 第　2回：スクールソーシャルワークの対象となる児童生徒、家族の理解 第　3回：学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解 第　4回：実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解 第　5回：実習先で必要とされるチームで対応する力やケース会議に係る知識と技術に関する理解 第　6回：浜松市の子ども相談体制についての理解　ゲストスピーカー 第　7回：スクールソーシャルワークの実際（個別面接、ケース会議、連携会議など） 第　8回：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解 第　9回：実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解 第7セメスター 第 10回：実習計画の作成 第 11回：実習計画の発表 第 12回：巡回指導 第 13回：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 第 14回：ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成 第 15回：実習の評価全体総括会（実習報告会）

アクティブラーニング	グループ学修を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向で情報提供を行います
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%、定期試験（レポート）および実習報告書 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	Moodle にてリアクションペーパーを記述してください。次回の講義でリアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	『学校ソーシャルワーク演習』門田光司・鈴木庸裕編著　ミネルヴァ書房
参考図書	『スクールソーシャルワーカーの学校理解』鈴木庸裕編著　ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカー実践事例集』門田光司・奥村賢一監修 中央法規
事前・事後学修	各回の進行に応じて、課題を課しますので、事前学修をして授業に臨んで下さい。また、事後学習として、講義で学んだことを振り返るための課題を課します。　（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	スクールソーシャルワーク実習
科目責任者	大場　義貴
単位数他	２単位（90 時間）　選択　社福　６～７セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	１.児童生徒たちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。 ２.スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 ３.教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 ４.子どもや家族､教職員から自己に求められる課題把握等､総合的に対応できる能力を習得する。 ・学生は、実習担当者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受けるものとする。 ・スクールソーシャルワーク実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、学生及び実習担当者（スクールソーシャルワーカー、教育委員会や学校）との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。
到達目標	１.学校組織の理解が深まり、スクールソーシャルワーカーとして求められる教育現場における課題が理解できる。 ２.教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。 ３.子どもや家族、教職員に対し、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 大学が指定する学校・機関・組織にて９０時間以上実習を行い、以下の内容を修得する。 ①児童生徒・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、ニーズ把握と支援計画の作成 ②児童生徒、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションを通した、円滑な人間関係の形成 ③児童生徒・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成 ④児童生徒・家族への権利擁護、学校、教育委員会など含めての支援（エンパワーメント含む）と評価 ⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際 ⑥校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際 ⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際 ⑨市の児童生徒への相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	100 点満点とし、実習への取り組み 70%、報告書（報告会用）30%にて行う。
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	①株）みらい『ソーシャルワーク実習ノート（第 2 版)』(精神保健ソーシャルワーク実習と同一図書)、②実習の手引き
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	ファミリーソーシャルワーク
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2 単位（30 時間数）　選択　　7 セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に理解している。
科目概要	家族の多様化がすすんでいる。家族の形態だけでなく、家族の内容や、家族の発生のプロセスと家族崩壊のプロセス等も多様化している。それにつれて家族にたいしての価値観もゆらぎ、何をもって家族とよべるか、家族の機能はなにかも根本からみなおさなくてはならない。この混沌とした家族の状況のなかで、子どもが様々な行動をおこし、社会に問題をなげかけている。子はまさに社会の鏡であり家族の鏡である。 本講義では、子どもと家族をめぐる問題を具体的にどのように解決していくか、解決の際にどのような手法や理論や技術をもちいて関わるか体験をとおして学習する。対人援助職に就こうと計画している学生は是非この科目を履修してほしい。かならず現場で役にたつ理論・技法・倫理観などが体験学習から取得できるだろう。
到達目標	1. 対人援助職に就こうと計画している学生が卒業後に職場で遭遇する状況を設定し、個人の背後にある家族システムの理解と、そのシステムに働きかけ、解決に資する働きを具体的に学習する。 2. 到達目標としては、①家族がシステムであることの理解、②問題はシステム上にあることの理解、③問題は社会システムからも影響うけていることへの理解である。 3. 人間関係が開かれたシステムであることの理解する。システムの特性と可能性。欧米では社会福祉の援助技術として汎用されているが、その意義と目的を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ ＜授業内容・テーマ等＞　　＜石川瞭子＞ 第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　現代における家族とは　家族のいろいろ 第 3 回　家族の問題のいろいろ 第 4 回　いろいろな家族に対して過去、どのような解決方法を実践してきたか 第 5 回　偽解決とは　偽解決からの脱出法　解決努力が問題をつくる? 第 6 回　事例に応じて用いる家族療法の技法はちがう　家族構造と家族の連鎖 第 7 回　システムとは　問題を構成するシステムとは 第 8 回　事例に応じてシステムを解明する　重大事件から底辺に流れる家族システムを解明 第 9 回　社会構成主義とは　「世界は言葉によって構成される」とは? 第 10 回　ナラティブモデル　ドナントストーリーとオルタナティブストーリー「不登校の解決」 第 11 回　ナラティブモデルを描画で応用する　子どもの心身症の問題の解決 第 12 回　ナラティブモデルと短期療法　ブリーフセラピーで夫婦の問題を解決する 第 13 回　短期療法で問題を解決する　思い込からの脱出　うつ病の治療の例 第 14 回　システック家族療法と家族の構造　その中の短期療法　事例から 第 15 回　まとめ　　エコシステック認識論の今後

アクティブラーニング	体験学習を中心に自らの言葉で学習を深め、時にはnet検索から知識を拡大して家族の置かれている現実を多角的に理解し解決を思考する参加型の授業形態をとる。
評価方法	授業内容を記述式リアクションペーパーにまとめて提出する　40% 最終回に提出する課題でのテスト60%
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーは次回の授業前にコメントともに返却する。各自の学習を振りかえり、到達状況を教員と学生相互に確認し、一人一人の成長に寄り添い指導する。
指定図書	問題が多岐にわたるので指定する図書はない。タブレット端末から最新情報を集め、時事問題との関係で支援方法を検索し、検討を行う。
参考図書	参考図書は「統合的短期型ソーシャルワーク　ISTTの理解と実践」エダ・ゴールドシュタイン、メアリーエレン・ヌーナン著　福山和女・小原眞知子監訳　金剛出版2014年
事前・事後学修	事前学習では、指示するテーマに関する事件や出来事の情報を事前に集めておく(40分)、事後学習では、取り上げた事件や事例の周辺の社会事象を調べ理解を深める(40分)。 日々、時事問題に関心を持ち新聞等を読む(30分)。
オフィスアワー	ryoko-i@seirei.ac.jp　質問等があったらメールにて問い合わせができます。研究室は5号館7階の5709研究室です。大学院生の指導予定が入っている場合がありますので、できたらあらかじめメールで都合を聞いてください。あいている時間は来室を歓迎します。

科目名	ジョブコーチ論
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	１単位(15 時間)　選択　社福　７セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	障害者雇用制度の基礎、障害者雇用及び就労支援の現状を把握し、ジョブコーチ支援の考え方と支援方法の基礎を理解します。特に、障害者雇用における職場環境の工夫、仕事を分かりやすく教える方法、ナチュラルサポートの形成方法などの実際を現場実務者から学びます。
到達目標	１．障害者雇用制度の基礎知識を身につける。 ２．就労支援に関わる社会資源や制度の基礎知識を身につける。 ３．ジョブコーチの支援を理解する。
授業計画	＜担当教員＞ 川向雅弘、佐々木正和 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回 ：オリエンテーション（ジョブコーチの登場と歴史）　川向 第２回 ：ジョブコーチの概要（DVD 学習）　川向 第３回 ：障害者雇用と法制度、機関　川向 第４回 ：知的障害者と就労支援①　川向 第５回 ：知的障害者と就労支援②（現場学習）　川向 第６回 ：精神障害者と就労支援①　佐々木 第７回 ：精神障害者と就労支援②（現場学習）　佐々木 第８回 ：ジョブコーチ支援の実際　川向 ゲストスピーカー（支援機関のジョブコーチ） ※アクティブライフコースを選択した学生は、本科目あるいは「ファミリーソーシャルワーク」 を必ず履修すること。

アクティブラーニング	現場学習やゲストスピーカーから支援の実際を学びます。
評価方法	授業態度:20%、現場学習レポート：40%、期末レポート：40% レポートはルーブリックを用いて評価する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーへのコメント・解説等を行います。
指定図書	なし。プリント等を配布します。
参考図書	小川浩編著『ジョブコーチハンドブック』エンパワメント研究所
事前・事後学修	【事前】自分自身のアルバイト体験や家族の労働を通して、人が「働く」こと、「労働」の意味を考えて下さい。また、障害者就労支援事業所を見学するにあたって障害者総合支援法についての事前学修が必要になります。 【事後】自身の生活場面（アルバイト先等）で障害者の就労の可能性をイメージして下さい。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示します。

科目名	医療ソーシャルワーク演習
科目責任者	村上　武敏
単位数他	１単位（15 時間）　選択　社福　５セメスター
科目の 位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	保健医療機関において、子どもから高齢者まであらゆる年齢階層の人たちが直面する生活問題について、医療職種をはじめとする様々な専門職との協働により、いかに解決に導くのか。その方法論の習得を目的として、グループ学習を行う。 医療提供体制の効率化と地域包括ケアシステムの構築、「医療から介護へ」という流れのなかで医療職種と協働して問題解決にあたる必要のある医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センターの社会福祉士、ケアマネジャー、行政の社会福祉士などを志す方に受講を勧めたい。
到達目標	1.疾病にともなう生活問題の解決に向けた方法論を習得する 2.医療職を含む多職種協働と地域のネットワークづくりの方法について習得する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　医療・介護制度改革とソーシャルワーク 第 2 回：　病院の組織と医療福祉相談室の役割　　聖隷三方原病院訪問 （ゲスト講義：ソーシャルワーカー） 第 3 回：　医療福祉にかかわる制度の活用（グループワーク） 第 4 回：　多職種協働における視点と方法（グループワーク） 第 5 回：　ソーシャルワーカーに求められる医学知識（グループワーク） 第 6 回：　経済的援助におけるインテーク・アセスメント・支援計画の実際 （グループワーク） 第 7 回：　退院援助におけるインテーク・アセスメント・支援計画の実際 （ゲスト講義：ソーシャルワーカー） 第 8 回：　地域のネットワークづくりの視点と方法（グループワーク）

アクティブラーニング	演習科目である
評価方法	授業への取り組み姿勢　70%、　期末レポート　30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	期末レポートについてコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業において提示する。
事前・事後学修	毎回、授業の終了時に、事前・事後学修の内容について説明する。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。

科目名	医療ソーシャルワーク実習指導
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）社福　選択　６～７セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	「医療ソーシャルワーク実習」をより実り多いものとするために、事前学習として、実習で必要となる知識を習得するとともに、そのなかで問題意識を明確にして実習計画を作成する。 また、事後学習として、スーパービジョンやグループ学習を通して実習体験を理論的に整理するとともに実習報告会を実施する。
到達目標	１．実習において必要とされる知識を習得する ２．実習の目的にかなう実習計画書を作成する ３．医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する ４．医療福祉の対象と方法について理解する。 ５．医療福祉を取り巻く環境について理解する。 ６．実習体験を体系的に報告する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 事前学習（6 セメスター） 第 1 回：　オリエンテーション 第 2 回：　実習施設の概要（実習を体験した 4 年生） 第 3 回：　医療ソーシャルワークの実際と実習の概要①　急性期（ゲスト講師） 第 4 回：　医療ソーシャルワークの実際と実習の概要②　回復期（ゲスト講師） 第 5 回：　医療ソーシャルワークの実際と実習の概要③　急性期（病院訪問） 第 6 回：　実習計画①　学習内容と実習計画の概要の発表 第 7 回：　実習計画②　実習計画の発表と計画書の提出 第 8 回：　実習計画③　実習計画書の修正・実習に向けて最終確認 事後学習（7 セメスター） 第 9 回：　グループスーパービジョン 第 10 回：　個別スーパービジョン① 第 11 回：　個別スーパービジョン② 第 12 回：　実習報告会の準備① 第 13 回：　実習報告会の準備② 第 14 回～15 回：　実習報告会
アクティブ ラーニング	実習科目である
評価方法	授業への取り組み姿勢　70%、　期末レポート　30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。

課題に対するフィードバック	報告会においてコメントする。 期末レポートについてコメントする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	授業ごとに課題を提示する。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。

科目名	医療ソーシャルワーク実習
科目責任者	村上　武敏
単位数他	２単位（30 時間）　選択　６～７セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	医療機関（病院・診療所・老人保健施設）またはその関連施設の医療福祉部門において、10 日間の配属実習を行う。「医療ソーシャルワーク実習指導」と合わせて、医療機関と医療福祉について理解を深める。 本科目の履修においては、「医療福祉論」と「医療ソーシャルワーク演習」の単位取得が原則となるが、編入学など個別事情に配慮する。
到達目標	１．医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する。 ２．医療福祉の対象と方法について理解する。 ３．医療福祉を取り巻く環境について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 10 日間の配属実習を行う。 実習先の実習指導者ならびに医療ソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。また、実習担当教員は、実習中の巡回などを通して学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。

アクティブラーニング	実習科目である
評価方法	実習への取り組み姿勢や実習記録等を総合して評価する。
課題に対するフィードバック	評価後に実習記録をお返しする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	一日の実習の振り返りと実習記録の作成に2時間、翌日の実習計画の作成に30分を必要とする。
オフィスアワー	2613研究室にて実施。時間は初回の授業において提示する。

科目名	生活サポート演習Ⅰ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）選択　社福　１セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目は、初年次における大学での学びとして社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけて使用できることや、様々な立場や意見を尊重しながら自らの意見を伝達し説得できるコミュニケーション力を身につけることを目的としている。したがって、利用者の障害特性に応じたコミュニケーションを理解し、適切に対応できるコミュニケーションスキルを身につける。
到達目標	1. 社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につける。 2. 福祉現場で遭遇する利用者のコミュニケーション障害の原因、型、症状などを理解する。 3. それぞれの障害を抱える人の生活やコミュニケーションの特性を理解できる。 4. コミュニケーション障害のアセスメントの方法、対応法の在り方及び評価法を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス、コミュニケーション方法を学ぶ意義と目的 コミュニケーション障害を伴う利用者とは 第 2 回： コミュニケーション障害のアセスメント（言語による観察の視点） 第 3 回： コミュニケーション障害のアセスメント（非言語による観察の視点） 第 4 回：対応の技術①：高次脳機能障害（認知系）の利用者への対応 第 5 回：対応の技術②：高次脳機能障害（行為系）の利用者への対応 第 6 回：対応の技術③：失語症（運動性失語）の利用者への対応 第 7 回：対応の技術④：失語症（感覚性失語）の利用者への対応 第 8 回：対応の技術⑤：構音障害・発声障害の利用者への対応 第 9 回：対応の技術⑥：聴力障害（難聴・聾）の利用者への対応 第 10 回：対応の技術⑦：視力障害（弱視）の利用者への対応 第 11 回： 対応の技術⑧：視力障害（盲）の利用者への対応 第 12 回： 対応の技術⑨：発達障害・知的障害の利用者への対応 第 13 回： 対応の技術⑩：精神障害の利用者への対応（認知症は別途） 第 14 回：対応の技術⑪：身体に障害がある高齢の利用者への対応 第 15 回：対応の技術⑫： 認知症がある高齢の利用者への対応

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート50%、課題提出物（リアクションペーパー）30%、授業参加度20%
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	なし。講義時に資料等を配布。
参考図書	授業時に紹介
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 （目安時間40分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	生活サポート演習Ⅱ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　社福　２セメスター
科目の 位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけ、介護技術を安全に安楽に活用できるために、身体の構造・機能を理解した上で演習をおこない、介護現場で応用できる生活支援技術を習得する。演習を通して相手の気持ちに寄り添うためのコミュニケーション能力を習得する。
到達目標	１．生活支援技術の原理と原則が理解できる。 ２．ボディメカニクスを応用し、安全で安楽な介護技術が活用できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション、ボディメカニクスの原理と応用（講義・演習） 第 2 回 : ベッドメイキング・シーツ交換（講義・演習） 第 3 回 : ベッド上での移動の方法の理解と技術（演習） 第 4 回 : 持ち上げない移動・移乗技術（演習） 第 5 回 : 車いすについての知識と技術（演習） 第 6 回 : 食事援助の原則と食事介護を受ける体験（講義・演習） 第 7 回 : 車いす上、ベッド上での食事介護を受ける体験（演習） 第 8 回 : 座位での更衣動作と介護（講義・演習） 第 9 回 : 寝たきりでの更衣動作と介護（演習） 第 10 回 : 排泄動作と介護―トイレ・ポータブルトイレ（講義・演習） 第 11 回 : 排泄動作と介護―おむつ（演習） 第 12 回 : 清潔動作―口腔ケア及び義歯の洗浄（講義・演習） 第 13 回 : 清潔動作―入浴及び清拭（演習） 第 14 回 : 生活サポートと 環境整備 第 15 回 : 生活サポートの再確認とまとめ

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業への参加態度及び振り返りレポート40%、課題レポート60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	写真でわかる生活支援技術/インターメディカ
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。 事後学修：演習の手順と留意点をリポートにまとめる。　（目安時間40分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	人間の尊厳と自立
科目責任者	黒澤　貞夫
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　２セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。。
科目概要	人間の尊厳と自立の意義について学ぶ。人間の尊厳と自立の思想は、社会福祉・介護の理論と実践の思想的な基盤であること、そしてこの思想は人間の歴史における人権と文化の発展から生まれたことを学ぶ。この思想は理念として憲法や法規範に取り入れられ、人びとの幸せを保障するための国家、社会の指標となっていることを学ぶ。
到達目標	１．人間と自立の意義を示し、この思想が介護の思想的基盤となっていることを理解する。 ２．人間の尊厳と自立は、人権思想から導かれる社会の価値であること、そして人権としての自由権、生存権が現行制度の基盤となっていることを理解する。 ３．介護における人間の尊厳と自立を様々な実践場面から理解する。
授業計画	＜授業の内容・テーマ等＞ 第 1 回：人間の尊厳の意義 第 2 回：自立の意義 第 3 回：人間の尊厳と自立における理念と現実 第 4 回：人間の尊厳と自立におけるニーズの理解 第 5 回：自立と健康で文化的な生活の関係 第 6 階：自立とリハビリテーションの関係 第 7 回：人権の思想から導かれる人間の尊厳と自立 第 8 回：基本的人権と介護の理論と実践 第 9 回：法制度・社会の仕組みからみた人間の尊厳と自立 第 10 回：人間の尊厳と自立をふまえた介護の理論と実践 第 11 回：人間の尊厳と自立における人間関係の形成 第 12 回：人間の尊厳と権利擁護 第 13 回：価値と倫理 第 14 回：事例からみる人間の尊厳の自立 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	該当なし
評価方法	定期試験８０％　中間試験２０％
課題に対するフィードバック	その日の授業について、次回の授業までに考えておくべき課題を提示し、授業のフィードバックをおこなう。
指定図書	「人間の尊厳と自立」黒澤貞夫著　建帛社
参考図書	必要に応じてプリント配布する。
事前・事後学修	授業後は復習をするよう心掛けてください。事前に予習をしておいてください。予習復習で 40 分程度。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 授業の前後に時間をつくるようにします。

科目名	発達と老化Ⅰ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	対人援助・社会支援を必要とする高齢者が尊厳ある生活を獲得するために、発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得するための授業を行う。高齢期における身体的、心理的、社会的側面から心身の機能と日常生活への影響について学習する。
到達目標	1. 人間の成長と発達の基礎的理解ができる。 2. 老年期の発達と成熟について理解できる。 3. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響について理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：人間の成長と発達の基礎的理解①・・・人間の成長と発達 第２回：人間の成長と発達の基礎的理解②・・・人間の発達段階と発達課題 第３回：人間の成長と発達の基礎的理解③・・・発達と個人差 第４回：老年期の発達と成熟①・・・・・・・・老年期の定義 第５回：老年期の発達と成熟②・・・・・・・・老年期の発達課題 第６回：老化が及ぼす心理的影響 第７回：老いの価値観・受容①・・・・・・・・主観的幸福感、QOL・生きがいの視点 第８回：老いの価値観・受容②・・・・・・・・老年期の適応課題とパーソナリティ 第９回：高齢者のこころの問題と精神障害 第 10 回：老化に伴うこころとからだの変化と日常生活・・・老化に伴う心身の変化の特徴 演習：高齢者疑似体験によるグループワーク 第 11 回：老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響①・・・ 外見上の変化、免疫機能の変化、感覚機能の変化 第 12 回：老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響②・・・ 咀嚼機能・消化機能の変化、循環器の機能の変化、呼吸器の機能の変化 第 13 回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響③・・・ 筋・骨・関節の機能の変化・泌尿器・生殖機能の変化、体温維持機能の変化 第 14 回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活のへの影響・・・ 記憶機能の変化、認知機能の変化 第 15 回：高齢者の心理

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）20%　　定期試験６0% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	新・介護福祉士養成講座11巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	発達と老化Ⅱ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	対人援助・社会支援を必要とする高齢者が尊厳ある生活を獲得するために、発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得するための授業を行う。高齢期に特徴的な疾病の作用機序や症状、日常生活の留意点や保健医療職との連携について学習する。
到達目標	１．高齢者に多い疾患とその症状の現れ方の特徴が理解できる。 ２．実際に生活する場面の中で高齢者の健康状態を理解できる。 ３．生活支援の中でいつもとの違いを感じとり、保健医療職との連携が理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：高齢者と健康①・・・高齢期の健康、慢性、複数疾患非定型的な症状、 第２回：高齢者と健康②・・・閉じこもりと廃用症候群、社会・家族環境の影響 第３回：高齢者の疾病と生活上の留意点①・・・痛み（腹痛・骨・筋肉・関節）、めまい 第４回：高齢者の疾病と生活上の留意点②・・・体重減少・食欲不振、しびれ、浮腫 第５回：高齢者の症状・疾患の特徴①・・・咳・痰、息切れ・息苦しさ、掻痒感 第６回：高齢者の症状・疾患の特徴②・・・眠（睡眠障害）、便秘、下痢 第７回：高齢者の症状・疾患の特徴③・・・誤嚥、出血、熱中症 第８回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点①・・・生活習慣病 第９回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点②・・・骨・関節系の病気 第 10 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点③・・・ 歯・口腔の病気、目の病気、耳の病気、皮膚の病気 第 11 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点④・・・ 呼吸器系の病気、腎・泌尿器系の病気、 第 12 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点⑤・・・ 婦人科系の病気、消化器系の病気 第 13 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点⑥・・・ 循環器系の病気、脳・神経系の病気、精神の病気 第 14 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点⑦・・・介護保険の特定疾患、感染症 第 15 回：保健医療職との連携・・・保健医療職とのチームケアの必要性・連携のポイント

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）20%　　定期試験６0% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	新・介護福祉士養成講座11巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	認知症の理解Ⅰ
科目責任者	植田　裕太朗
単位数他	２単位数（30 時間）　必修　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識を理解し、ニーズに合わせた対人援助に必要な知識を習得する。認知症に関する基礎的知識を修得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学修する。
到達目標	1. 認知症を取り巻く状況を理解し、医学的側面、社会的側面、心理的側面、福祉的側面から、認知症の症状、原因、生活困難やこころとからだの変化について説明できる。 2. 認知症について基本的な知識を習得し、生活支援技術の実践や介護過程の展開、そして家族への支援などで必要なことについて説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス、認知症とは　-定義、他 第 2 回：認知症を取り巻く状況①　-認知症ケアの歴史、理念 第 3 回：認知症を取り巻く状況②　-認知症高齢者の現状と今後　行政の方針と施策 第 4 回：医学的側面からみた認知症の基礎①　　認知症による障害（記憶障害） 第 5 回：医学的側面からみた認知症の基礎②　　認知症による障害（見当識障害） 第 6 回：医学的側面からみた認知症の基礎③　　認知症による障害（失語症、失行、失認、他） 第 7 回：認知症と間違えられやすい症状　-うつ病、せん妄、幻覚、妄想、他 第 8 回：認知症の原因となる主な病気の症状の特徴①　-アルツハイマー病 第 9 回：認知症の原因となる主な病気の症状の特徴②　-脳血管性疾患 第 10 回：認知症の原因となる主な病気の症状の特徴③　-レビー小体病、ピック病他 第 11 回：若年性認知症 第 12 回：病院で行われる検査・治療の実際　-検査、治療、予防、他 第 13 回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（総論） 第 14 回：認知症が及ぼす心理的影響と日常生活 第 15 回：認知症の人の特徴的な行動障害（総論）

アクティブラーニング	必要に応じてグループ学修、ロールプレイングを行います。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%
課題に対するフィードバック	授業内容の前に前回の授業の振り返りを行います。 授業終了後に提出するリアクションペーパーへは教員がコメントを記入し次授業に返却します。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座 12　認知症の理解』　中央法規
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オフィスアワー	介護福祉専門学校教員室にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	認知症の理解Ⅱ
科目責任者	植田　裕太朗
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識を理解し、ニーズに合わせた対人援助に必要な知識を習得する。認知症の症状に伴うこころとからだの変化と日常生活を理解し、認知症の方への支援、家族への支援、多職種間の連携と協働の在り方について学修する。
到達目標	1. 認知症の方の抱える生活困難な状態や心身の変化などを学び、必要とされる介護支援が理解するとともに、自分の言葉で説明できる。 2. 認知症の方の支援と併せ、地域や家族をサポートする介護福祉士の役割や実践について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：認知症の人の特徴的な行動障害①　−繰り返し行為 第 2 回：認知症の人の特徴的な行動障害②　−思い違い現象 第 3 回：認知症の人の特徴的な行動障害③　−目的未達成現象（徘徊、他） 第 4 回：認知症の人の特徴的な行動障害④　−生理的行為の過剰反応（食事拒否、他） 第 5 回：認知症の人の特徴的なこころの理解　−不安、混乱、怯え、孤独感、怒り、悲しみ、他 第 6 回：認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響　-アセスメントの視点 第 7 回：認知症の人の特性を踏まえたアセスメント①　−低下する機能の把握 第 8 回：認知症の人の特性を踏まえたアセスメント②　−保持される機能の把握 第 9 回：認知症の人の特性を踏まえたアセスメント③　−認知症の型、自立度、ＱＯＬ、家族関係 第 10 回：環境変化が認知症の人に与える影響　−馴染みの人間関係、居住環境、他 第 11 回：認知症の人へのサポートのポイント　-居宅介護の場合 第 12 回：認知症の人へのサポートのポイント　-施設介護の場合 第 13 回：連携と協働　　-地域包括支援センターの役割・機能 第 14 回：地域におけるサポート体制　−ボランティア、サポーターの役割・機能、チームアプローチ 第 15 回：家族への支援　-家族のレスパイト、認知症受容の過程での支援

アクティブラーニング	必要に応じてグループ学修、ロールプレイングを行います。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%
課題に対するフィードバック	授業内容の前に前回の授業の振り返りを行います。 授業終了後に提出するリアクションペーパーへは教員がコメントを記入し次授業に返却します。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座 12　認知症の理解』　中央法規
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)
オフィスアワー	介護福祉専門学校教員室にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	障害の理解
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解し、障害のある人に対する適切な支援方法について説明できる。 2. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、障害の医学的側面の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：障害の医学的側面の基礎的知識　身体障害(1) 視覚障害の種類と原因、特性について理解する。 第 2 回：障害の医学的側面の基礎的知識　身体障害(2) 聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性について理解する。 第 3 回：障害の医学的側面の基礎的知識　身体障害(3) 重複障害のある人の生活について理解する。 第 4 回：障害の医学的側面の基礎的知識　身体障害(4)　＜ゲストスピーカー　伏見隆次＞ 肢体不自由の種類と原因、特性について理解する 第 5 回：障害の医学的側面の基礎的知識　身体障害(5) 内部障害の種類と原因、特性について理解する。 第 6 回：障害の医学的側面の基礎的知識 知的障害の種類と原因、特性について理解する。 第 7 回：障害の医学的側面の基礎的知識 精神障害の種類と原因、特性について理解する。 第 8 回：障害の医学的側面の基礎的知識 高次脳機能障害高次脳機能障害の種類と原因、特性について理解する。 第 9 回：障害の医学的側面の基礎的知識 発達障害の種類と原因、特性について理解する。 第 10 回：障害の医学的側面の基礎的知識 重症心身障害重症心身障害のある人の生活について理解する 第 11 回：障害の医学的側面の基礎的知識　難病の種類と原因、特性について理解する。 第 12 回：障害の医学的側面の基礎的知識　障害のある人の心理 障害の受容、適応と適応機制について理解する。 第 13 回：障害の医学的側面の基礎的知識　障害に伴う機能の変化と日常生活への影響 障害のある人の特性を踏まえたアセスメントについて理解する。 第 14 回：家族への支援　介護負担の軽減について理解する。 第 15 回：連携と協働　チームアプローチ他職種との連携について理解する。

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座13　障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡します
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	こころとからだⅠ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　１セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	生活支援の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学修とする。支援の根拠となる基礎的な知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために、対人援助に必要なこころのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 他者をさまざまな側面から理解するために、生活支援の根拠となる人体の構造や機能について、適切な用語で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：こころのしくみの理解(1)　健康とは何かについて理解する。 第 2 回：こころのしくみの理解(2)　人間の欲求、自己概念と尊厳について理解する。 第 3 回：こころのしくみの理解(3)　こころのしくみの基礎について理解する。 第 4 回：こころのしくみの理解(4)　認知のしくみについて理解する。 第 5 回：こころのしくみの理解(5)　意欲・動機づけのしくみについて理解する。 第 6 回：こころのしくみの理解(6)　適応のしくみ、防衛機制について理解する。 第 7 回：からだのしくみの理解(1)　からだのしくみの基礎について理解する。 第 8 回：からだのしくみの理解(2)　神経系の名称について理解する。 第 9 回：からだのしくみの理解(3)　骨・筋系の名称について理解する。 第 10 回：からだのしくみの理解(4)　感覚器系の名称について理解する。 第 11 回：からだのしくみの理解(5)　呼吸器・消化器系の名称について理解する。 第 12 回：からだのしくみの理解(6)　生殖器・内分泌系の名称について理解する。 第 13 回：からだのしくみの理解(7)　循環器系の名称について理解する。 第 14 回：からだのしくみの理解(8)　からだの動き、関節の運動と関節可動域について理解する。 第 15 回：からだのしくみの理解(9)　ボディメカニクスについて理解する。

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座14　こころとからだのしくみ』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	こころとからだⅡ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	生活支援の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学修とする。支援の根拠となる基礎的な知識について講義を行う。身じたく、移動、食事の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、身じたく、移動、食事に関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：身じたくに関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第２回：身じたくに関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第３回：機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響について理解する。 第４回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第５回：咀嚼と嚥下から口腔機能について理解する。 第６回：移動に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第７回：移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第８回：機能の低下・障害が及ぼす移動への影響について理解する。 第９回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。 第 10 回：移動能力向上が生活に与える影響を理解する。 第 11 回：食事に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 12 回：食事に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 13 回：機能の低下・障害が及ぼす食事への影響について理解する。 第14回:生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第 15 回：食事摂取能力向上が生活に与える影響を理解する。

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座14　こころとからだのしくみ』中央法規
参考図書	授業中に随時紹介
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	こころとからだⅢ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	生活支援の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。入浴、清潔保持、排泄、睡眠、終末期の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、入浴、清潔保持、排泄、睡眠、終末期に関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 2 回：入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 3 回：機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響について理解する。 第 4 回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第 5 回：排泄に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 6 回：排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 7 回：機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響について理解する。 第 8 回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。 第 9 回：睡眠に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。 第 10 回：睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 第 11 回：機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響について理解する。 第 12 回:生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。 第 13 回：死にゆく人のこころとからだのしくみ 「死」の捉え方、終末期から危篤、死亡時のからだについて理解する。 第 14 回：「死」に対するこころについて理解する。 第 15 回：　終末期における医療職との連携について理解する。

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座14　こころとからだのしくみ』中央法規
参考図書	授業中に随時紹介
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護の基本Ⅰ
科目責任者	横尾　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　１セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	尊厳の保持」という新しい介護の考え方を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。 「そのひとらしさ（生活史・価値観・生活様式他の多様性）を理解する。
到達目標	１．介護の歴史や介護問題の背景等介護を取りまく状況を理解する。 ２．介護を必要とする人について、人間の多様性・複雑性をふまえて考えることができる。 ３．障がい者や高齢者の暮らしの実際を理解する。 ４．介護を必要とする人の生活環境を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：　人の多様性について(価値観) 第　2 回：聖隷で介護福祉を学ぶ意義 第　3 回：大学で介護福祉を学ぶために(介護、介護福祉の概念･定義) 第　4 回：介護福祉を取り巻く状況(介護問題の背景) 第　5 回：他者への共感的かかわり（他者理解･自己理解) 第　6 回：　個別ケアの考え方と介護観 第　7 回：自立と自律に向けた支援 第　8 回：私たちの生活の理解 第　9 回：高齢者の暮らし 第 10 回：認知症高齢者の暮らし 第 11 回：障害のある人の暮らし 第 12 回：さまざまな生活支援とその意義(事例検討) 第 13 回：尊厳を支える介護(事例検討) 第 14 回：介護福祉士としての専門性 第 15 回：生活を支えるサービスの現状と課題

アクティブラーニング	iPAD を使用して授業展開をします。またグループで話し合って意見をまとめて発表することもあります。
評価方法	小テスト（10%）、課題・提出物等（20%）、定期試験（70%）
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーや課題はその都度コメントをつけて返却をします。 小テストは実施授業時に答合わせをします。
指定図書	新・介護福祉士養成講座　第2版　3介護の基本Ⅰ　中央法規
参考図書	特になし
事前・事後学修	事前学習：次回の授業の重要語句を事前に提示する。その言葉を調べてくる。 授業後に課題プリントを配布する。プリントを毎回授業開始時に提出する。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	介護の基本Ⅱ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（30 時間）　必修　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習とする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学修とする。
到達目標	1.　人権尊重について理解を深め、QOL やノーマライゼーションの用語を用いて、尊厳を支える介護について説明できる。 2. 対人援助の意義、機能および役割について理解を深め、ICF やリハビリテーションの用語を用いて、自立に向けた介護について説明できる。 3. 介護サービスとは何かを理解し、 介護サービスを提供する場の特性について説明できる。 4. 介護保険制度・障害者総合支援制度におけるサービスの内容と利用方法を理解し、多職種連携について説明でき
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 介護が必要な人々の人権擁護について理解し、利用者主体の介護実践について考える。 第 2 回 : 身体拘束をなくすための具体的な支援方法を理解する。 第 3 回 : 感情労働としての介護を理解する。 第 4 回 : 尊厳を支える介護　QOL（Quality of Life）について理解する。 第 5 回 : ノーマライゼーションの考え方とその実現について理解する。 第 6 回 : 自立・自律の考え方を理解し、自己決定・自己選択、自立支援について考える。 自立支援介護の基礎理論と自己決定に基づく自立支援について理解する。 第 7 回 : 生活意欲への働きかけとエンパワメント、利用者主体について理解する。 第 8 回 : 介護における ICF のとらえ方について理解する。 第 9 回 : ICF を活かしたアセスメントの視点を理解し、個別ケアについて考える。 第 10 回 : 自立に向けた介護　介護実践におけるリハビリテーションの考え方を理解する。 自立支援介護の実践と国際的な広がりについて理解する。 第 11 回 : リハビリテーションの考え方を活かした介護予防、自立支援介護について理解する。 第 12 回 : リハビリテーション専門職との連携について理解する。 第 13 回 : 自立支援介護の実践例をみて、その支援方法を理解する。 第 14 回 : 事例をもとに、病院・施設、および在宅でのリハビリテーションについて理解する。 第 15 回 : 少子高齢化の国際的な状況と、介護福祉実践の国際化について理解する。

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座3　介護の基本Ⅰ』中央法規
参考図書	授業中に随時提示
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護の基本Ⅲ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	・介護サービスの意義と目的・役割・機能を支えるしくみを理解し、内容と提供方法および利用方法を学び、近未来的な福祉工学の活用に関する示唆を得る科目です。 ・介護従事者の倫理として、尊厳の保持を実践する介護の在り方や、自立した生活を支える機能維持の在り方、リハビリテーションやＩＣＦの考え方と実践の在り方、サービスを利用しながら生活することの利点や課題を考え、理解を深めることができる科目です。 ・地域共生社会における介護福祉士の役割や、複合型施設の役割や専門職の働き方について考える科目です。
到達目標	1. 現代社会における諸問題について、その発生問題や経過、解決について説明できる。 2. 社会福祉士及び介護福祉士法、専門職能団体の活動について理解できる。 3. 介護サービスの意義と目的などの概要・提供する場の特性が理解できる。 4. 介護福祉士が関わる様々な生活支援の意義やニーズを理解し、様々なニーズを抱える利用者に対して、尊厳の保持や概念ＩＣＦやリハビリテーションの意義と役割を理解し、利用者のＱＯＬ及び利用者を主体的に捉え、かつその向上を目指す適切な生活支援につなげられる。 5. 職業倫理・利用者の人権と介護・プライバシー保護について理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス及び介護の基本Ⅲの学習内容の説明と進め方「介護サービスとは」 第 2 回：介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護 第 3 回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の定義・業務（名称独占・業務独占） 第 4 回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の果たす役割やその業務内容 日本介護福祉士会倫理綱領（介護従事者の職業倫理・プライバシー保護　個人情報保護） 第 5 回：養成制度・登録状況・介護における専門職集団としての役割・機能 第 6 回：介護職が行う生活支援（身体拘束禁止・高齢者虐待・児童虐待　他） 第 7 回：身体介護・相談援助・家族支援の意義と介護福祉士の専門性・独自性」 第 8 回：生きがいを大切にする生活支援・日常生活の拡大に向けた生活支援の進め方 第 9 回：尊厳ある介護実践の意義と利用者のＱＯＬ、ノーマライゼーションとの関係 第 10 回：ＩＣＦの視点に基づくアセスメントによる生活支援の特徴〈生活意欲・エンパワメント〉福祉用具の利用および近未来的な福祉工学の活用 第 11 回：ケアプラン・ケアマネジメントの流れ・意味と仕組み 第 12 回：介護保険制度の理解（介護保険のサービスの種類・サービス報酬・算定基準） 地域共生型施設におけるケアの実際 第 13 回：介護サービスの概要　居宅系サービス・施設系サービスの提供の場と特性 第 14 回：介護実践におけるリハビリテーション・居住環境の違い（病院・施設・介護予防） 第 15 回：リハビリテーションスタッフとの連携を活かす介護実践の進め方 【備考】授業態度及び課題提出物を重視します。主体的に授業への参加を希望します。本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされる指定科目です。

アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします
評価方法	授業への参加態度（10%）振り返りレポート毎回（45%） 定期レポート3回（45%　1回あたり15パーセント） レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	・毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『新・介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ』中央法規
参考図書	筒井孝子「介護サービス論」有斐閣
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護の基本Ⅳ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	対人援助・社会支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で尊厳ある生活を獲得するために、課題や問題を特定し、解決に必要な多職種連携や地域連携のあり方の実際について学習する。さらに、介護における安全対策や介護従事者自身の健康管理について習得する。 介護実践における連携について理解を深め、介護従事者の安全の確保とリスクマネジメントについて実践例を紹介しながら講義を行う。
到達目標	1.　介護福祉実践における多職種および地域との連携について説明できる。 2. 介護福祉実践における完全確保の方策について説明できる。 3. 自立に向けた介護、介護従事者の安全の確保について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：介護実践における連携　多職種連携（チームアプローチ）の意義と目的 第２回：協働職種の理解と連携のあり方 第３回：利用者を取り巻く多職種連携の実際 第４回：地域連携の意義と目的 第５回：地域連携にかかわる機関の理解 第６回：利用者を取り巻く地域連携の実際 第７回：介護従事者の安全 介護における安全の確保の重要性、介護における安全の確保とリスクマネジメント 第８回：事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ 第９回：事故を回避したり軽減したりするための方策 第 10 回：事故防止と安全対策のためのリスクマネジメント 第 11 回：生活のなかのリスクと対策　　演習ー事例によるグループワーク 第 12 回：生活の場での感染対策、高齢者介護施設と感染対策、感染対策とリスクマネジメント 第 13 回：感染対策の基礎知識、感染発生時の対応 第 14 回：介護従事者の心身の健康管理①・・・こころの健康管理 第 15 回：介護従事者の心身の健康管理②・・・からだの健康管理、労働環境

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）20%　　定期試験６0% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	新・介護福祉士養成講座４　『介護の基本Ⅱ』中央法規
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護の基本Ⅴ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、対人援助・社会支援の問題を解決するための方法を説明できることが目的である。また、「尊厳の保持」「自立支援」の観点から自立を促すことの危険を予防するために何をするべきか、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて援助者側と利用者側双方の立場から考え事例検討を主体に学ぶ科目である。
到達目標	1. 介護職と利用者の安全を確保するための留意点が理解できる。 2. 介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法について理解できる。 3. 施設及び在宅介護に伴う事故について知識を深め、その予防方法と対処法が理解できる。 4. 事故防止・安全対策・感染対策について考えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：自立に向けた介護①　介護における安全の確保とリスクマネジメント 第 2 回：自立に向けた介護②　介護における安全の確保 第 3 回：自立に向けた介護③　観察の視点・正確な生活支援技術 第 4 回：介護従事者の安全①　介護事故とヒヤリハット（予測・分析） 第 5 回：介護従事者の安全②　事故防止と安全対策 第 6 回：介護従事者の安全③　環境改善とリスクマネジメント（セーフティマネジメント） 第 7 回：自立に向けた介護④　服薬・生活医行為・受診援助 第 8 回：自立に向けた介護⑤　医療職とのアプローチ（転倒・転落防止・骨折予防） 第 9 回：介護従事者の安全④　防火・防災対策・地域とのネットワーク（緊急連絡システム） 第 10 回：介護従事者の安全⑤　感染対策と感染予防の意義 第 11 回：自立に向けた介護⑥　感染予防の基礎知識と技術 第 12 回：自立に向けた介護⑦　衛生管理・利用者の生活の安全（消費者被害） 第 13 回：介護従事者の安全⑥　介護従事者の健康管理(1)腰痛予防と対策 第 14 回：介護従事者の安全⑦　介護従事者の健康管理(2)感染予防と対策（感染管理） 第 15 回：介護従事者の安全⑧　リスクマネジメント

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	筆記試験60%、課題提出（リアクションペーパー）20%、授業参加度20%
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護の基本Ⅵ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　７セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	対人援助・社会支援を必要とする高齢者や障害者が尊厳ある生活を獲得するために、介護福祉士が備えるべき職業倫理を多角的に理解し、利用者のニーズとその背景要因の関連について学習する。 介護実践おいての身体拘束の廃止や個人情報保護、人権擁護など事例検討を中心に学習する。
到達目標	1. 介護従事者にかかわる職業倫理が説明できる 2. 身体拘束、高齢者・障害者・児童虐待など利用者の人権擁護が説明できる。 3. プライバシーに配慮した介護をについて説明できる。 4.　介護従事者として必要な接遇とマナーが説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：倫理とは、介護従事者の倫理とは 第 2 回：介護従事者の職業倫理、日本介護福祉士会倫理綱領 第 3 回：利用者の人権擁護、生活支援の中での尊厳の保持と人権 第 4 回：利用者の人権擁護と介護 第 5 回：身体拘束の禁止 第 6 回：身体拘束廃止にむけての事例検討 第 7 回：プライバシーの保護と介護の倫理 第 8 回：ケアカンファレンスにおける個人情報の保護と記録 第 9 回：高齢者虐待、高齢者虐待防止法 第 10 回：高齢者虐待の事例検討 第 11 回：障害者虐待、障害者虐待防止法 第 12 回：障害者虐待事例検討 第 13 回：児童虐待、児童虐待防止法 第 14 回：児童虐待の事例検討 第 15 回：介護従事者の接遇とマナー

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）20%　　定期試験60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	新・介護福祉士養成講座4　『介護の基本Ⅱ』中央法規
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：当日授業の単元のテキストの該当箇所を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業での学習ポイントをノートにまとめ、内容について自らの言葉で説明できるようにする。疑問点を調べる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護生活支援論Ⅰ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　１セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	介護生活支援論Ⅰでは、利用者の日常生活を理解し、「自立支援」を目指す介護の基本的な考え方を学ぶとともに、「住環境」「生活」などの具体的な介護方法や「福祉用具」の使用方法を学ぶ。また本科目は、対人援助・社会支援にかかわる基本的枠組（理論・対象・方法・歴史）及び専門職連携について説明できることが目的である。
到達目標	1. 利用者の生活・心身の状況に応じた介護を提供するため、支援の根拠を明らかにした介護を学ぶため利用者の生活を理解し、支援の基本である福祉用具を理解する。 2.現代社会における「日常生活」「住環境」を理解する。 3.自立に向けた生活支援のための住環境の整備や利用者の身体の変化を理解した福祉用具の選択ができる。特に『生活』のしづらさはどこにあるのかに焦点をあてて、介護福祉士としての生活支援の考え方を理解する。 4.尊厳の保持の観点から、心身の状況に応じた介護技術の根拠を、介護実践に即応した提供ができるよう安全面への配慮を踏まえ、心身の状況に応じた展開を理解する。 5.生活支援の意義の理解を中心に、自立に向けた居住環境の整備の重要性を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：生活支援とは：生活の理解、生活支援、居住環境の理解（バリアフリー） 第 2 回：自立に向けた居住環境の整備：居住環境整備の意義と目的 第 3 回：生活空間の介護、居住環境の理解（居室環境：居間） 第 4 回：居住環境の理解（入浴環境：浴室・洗面所）、（排泄環境：トイレ） 第 5 回：居住環境の理解（食事環境：台所・食堂） 第 6 回：居住環境の理解（外出を視点に置いた居住空間／ICF に基づく居住環境アセスメント） 第 7 回：施設等での集住の場合の工夫・留意、施設環境の理解（ユニットケア／多床室） 第 8 回：施設環境の理解（排泄環境：トイレ／入浴環境：浴室・洗面所） 第 9 回：施設環境の理解（共同フロア・居室） 第 10 回：福祉用具利用の意義 第 11 回：福祉用具を考えよう（福祉用具とは何かを知る） 第 12 回：福祉用具を考えよう（障害に合わせた福祉用具） 第 13 回：福祉用具を考えよう（福祉用具を製作する） 第 14 回：生活環境における自立支援を目指す介護福祉士の役割　①知識や技術を駆使する姿勢②柔軟性と専門性③他職種の役割と協働 第 15 回：安全で心地よい生活の場づくり：住み心地の良さとは

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	筆記試験60%、課題提出（リアクションペーパー）20%、授業参加度20%
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護生活支援論Ⅱ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、対人援助・社会支援の問題を特定し、それを適切に理解するための手続きを説明できることを目的とする。また、生活支援を必要とする人々を理解し基礎的知識を身につけ、専門職として障害や疾患がもたらす生活困難を理解し、対人援助の実践能力を養うことが目的である。
到達目標	1.内部障害の理解と、症状に応じた生活支援方法が理解できる。 2.多職種連携の重要性と、職種の理解ができる。
授業計画	＜担当教員名＞井川 淳史、秋山 恵美子 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第 1 回：　ガイダンス、内部障害に応じた介護の理解　井川 淳史 第 2 回：心臓機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備　秋山 恵美子 第 3 回：心臓機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携　秋山 恵美子 第 4 回：呼吸器機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備　秋山 恵美子 第 5 回：呼吸器機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携　秋山 恵美子 第 6 回：肝機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備　秋山 恵美子 第 7 回：肝機能障害のある人への支援　②生活支援・多職種連携　秋山 恵美子 第 8 回：腎機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備　秋山 恵美子 第 9 回：腎機能障害のある人への支援　②生活支援・他職種連携　秋山 恵美子 第 10 回：膀胱・直腸機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備　秋山 恵美子 第 11 回：膀胱・直腸機能障害のある人への支援　②生活支援・他職種連携　秋山 恵美子 第 12 回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援　①利用者理解・環境整備　井川 淳史 第 13 回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援　②生活支援・他職種連携　井川 淳史 第 14 回：内部障害のある方への生活支援についてのグループワーク、発表準備　井川 淳史 第 15 回：内部障害のある方への生活支援についてのグループワーク、発表　井川 淳史

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	筆記試験60%、課題提出（リアクションペーパー）20%、授業参加度20%
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座8　生活支援技術Ⅲ』　中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	生活支援技術基礎Ⅰ
科目責任者	佐野　仁美
単位数他	２単位（60 時間）　必修　介護　１セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する科目です。
到達目標	1.他者を様々な側面から理解するために必要な生活支援について説明ができる。 2.「居住環境整備の支援」「身じたくの支援」「移動の支援」の意義を理解し、利用者役、支援者役、観察者役を通して、多角的な支援を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：ガイダンス、生活とは何か（生活の理解）、生活支援の基本的な考え方 安全で心地よい生活の場づくり、自立へ向けた居住環境のアセスメント、整備 第　2 回：ボディメカニクス、ベッドメイキング講義 第　3 回：ベッドメイキング（2 人で行う） 第　4 回：ベッドメイキング（1 人で行う） 第　5 回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合①） 第　6 回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合②） 第　7 回：実技確認　ベッドメイキング 第　8 回：自立へ向けた移動の介護：移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント 安全で気兼ねなく動けることを支える介護、介護の工夫、安全で的確な移動・移乗 第　9 回：車いすの準備、使用方法 第 10 回：ベッド上での移動 第 11 回：起き上がりの介護、立ち上がりの介護 第 12 回：移乗の介護（端座位⇔車いす） 第 13 回：移乗の介護（仰臥位⇔車いす） 第 14 回：移乗の介護（椅座位⇔車いす） 第 15 回：移乗の介護（福祉用具を用いた移乗） 第 16 回：実技確認　移動の介助、移乗の介助 第 17 回：車いすでの移動　講義 第 18 回：車いすでの移動　演習 第 19 回：2 動作歩行、3 動作歩行、杖歩行の方法 第 20 回：歩行、杖歩行の介護 第 21 回：実技確認　歩行、杖歩行の介護 第 22 回：自立に向けた身じたくの介護、身じたくの意義と目的 身じたくに関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみを支える介護 第 23 回：衣服の着脱介護（座位、かぶり） 第 24 回：衣服の着脱介護（座位、前開き） 第 25 回：衣服の着脱介護（臥位） 第 26 回：実技確認　衣類の着脱介護 第 27 回：整容行動に関するアセスメントと介助の技法 第 28 回：整容　演習 第 29 回：口腔ケア　演習 第 30 回：まとめ

アクティブラーニング	演習科目です
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 30%、課題提出物（リアクションペーパー）10%、計 100%
課題に対するフィードバック	・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います
指定図書	『新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術基礎Ⅱ』中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示された指定図書の該当箇所を熟読しておく（40 分程度） 事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する（40 分程度）
オフィスアワー	所属：介護福祉専門学校 場所：専門学校棟 1 階教員室 時間：時間については初回授業時に提示します

科目名	生活支援技術基礎Ⅱ
科目責任者	佐野　仁美
単位数他	２単位（60 時間）　必修　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する科目です。
到達目標	1.他者を様々な側面から理解するために必要な生活支援について説明ができる。 2.「入浴・清潔保持の支援」「排泄の支援」「食事の支援」「睡眠の支援」の意義を理解し、利用者役、支援者役、観察者役を通して、多角的な支援を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：ガイダンス、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、入浴の意義と目的 入浴の基礎知識、爽快感・安楽を支える介護、他の職種の役割と協同 第　2 回：入浴に関する利用者のアセスメント、安全・的確な入浴・清潔保持の介護の技法 第　3 回：一般浴（小浴槽）における支援技法① 第　4 回：一般浴（小浴槽）における支援技法② 第　5 回：機械浴槽（特殊浴槽）を使った介助① 第　6 回：機械浴槽（特殊浴槽）を使った介助② 第　7 回：さまざまな清潔保持の技法 シャワー浴 第　8 回：さまざまな清潔保持の技法 手浴、足浴 第　9 回：さまざまな清潔保持の技法 全身清拭、陰部洗浄 第 10 回：さまざまな清潔保持の技法 ベッド上での洗髪 第 11 回：自立に向けた排泄の介護、排泄の意義・目的、排泄に関する利用者のアセスメント 排泄に関する基礎知識、気持ちよい排泄を支える介護、 安全・的確な排泄介助の技法、他の職種の役割と協働 第 12 回：排泄の介助　トイレでの排泄① 第 13 回：排泄の介助　トイレでの排泄② 第 14 回：排泄の介助　ポータブルトイレでの排泄① 第 15 回：排泄の介助　ポータブルトイレでの排泄② 第 16 回：排泄の介助　ベッド上での排泄（尿器、差し込み便器） 第 17 回：排泄の介助　ベッド上での排泄（オムツ①） 第 18 回：排泄の介助　ベッド上での排泄（オムツ②） 第 19 回：実技確認　排泄の介助① 第 20 回：実技確認　排泄の介助② 第 21 回：自立に向けた食事の介護、食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 食事に関する基礎知識、「おいしく食べる」ことを支える介護 第 22 回：安全で的確な食事介助の技法、他の職種の役割と協同 食事に使用するさまざまな福祉用具、食事の介助　脱水予防 第 23 回：食事の介助　食事時の姿勢保持 第 24 回：食事の介助　常食 第 25 回：食事の介助　さまざまな食事形態 第 26 回：食事の介助　ベッド上での食事の介護、口腔ケア 第 27 回：自立に向けた睡眠の介護、睡眠の意義・目的、睡眠に関する利用者のアセスメント 不眠の原因と不眠時の対応及び安眠のための介護、 睡眠の介護における他の職種の役割と協働 第 28 回：安眠を促す介助の技法 第 29 回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 第 30 回：まとめ

アクティブラーニング	演習科目です
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 30%、課題提出物（リアクションペーパー）10%、計 100%
課題に対するフィードバック	・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います
指定図書	『新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術基礎Ⅱ』中央法規
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示された指定図書の該当箇所を熟読しておく（40 分程度） 事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する（40 分程度）
オフィスアワー	所属：介護福祉専門学校 場所：専門学校棟 1 階教員室 時間：時間については初回授業時に提示します

科目名	生活支援技術Ⅰ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（60 時間）　選択　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本科目は、建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養と、対人援助・社会支援のための自己覚地の必要性を理解し、演習を通じて深めようとする姿勢を身につけることが目的である。また、尊厳保持の観点から、利用者の障害などで生ずる様々な生活困難に対し、家事援助技法、生活様式に応じたその人らしい終末期を過ごすための実践技法を学修する。
到達目標	1.障害を抱える利用者に対し、適切な介護サービスが提供できる技術を習得する。 2.嚥下のメカニズム・高齢者の食事・栄養確保の介助方法や理論を取得する。
授業計画	＜担当教員名＞秋山恵美子・佐藤豊展・金谷節子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　：　ガイダンス、生活支援技術と医学、家政学、リハビリテーション学、宗教学などの関係・自立に向けた居住環境の整備　＜秋山＞ 第 2 回　：　住環境整備の意義、目的、他職種との連携　＜秋山＞ 第 3 回　：　生活空間と介護①生活の場、住み慣れた地域での生活　＜秋山＞ 第 4 回　：　生活空間と介護②居住環境のアセスメント（ICF の視点）　＜秋山＞ 第 5 回　：　浴室、台所、安全性、快適性、プライバシー・バリアフリー　＜秋山＞ 第 6 回　：　ユニバーサルデザイン、ユニットケア　＜秋山＞ 第 7 回　：　施設、在宅等での住宅の工夫　＜秋山＞ 第 8 回　：　嚥下のメカニズム・嚥下に関する用語の理解　＜佐藤・秋山＞ 第 9 回　：　発達と老化・嚥下訓練におけるチームアプローチ　＜佐藤・秋山＞ 第 10 回　：　嚥下訓練におけるチームアプローチ・嚥下調整食　＜佐藤・秋山＞ 第 11 回　：　嚥下障害の直接訓練・介助方法、認知症へのアプローチ　＜佐藤・秋山＞ 第 12 回　：　自立に向けた家事の介護　高齢者・嚥下障害者の食事　＜金谷・秋山＞ 第 13 回　：　嚥下調整食ピラミッド　＜金谷・秋山＞ 第 14 回　：　嚥下調整食の基本・水分摂取　＜金谷・秋山＞ 第 15 回　：　調理実習【人気のある嚥下調整食】　＜金谷・秋山＞ 第 16 回　：　個別対応の実際・パッククッキング・訪問時の調理　＜金谷・秋山＞ 第 17 回　：　在宅訪問の実際・簡易的栄養評価の仕方　＜金谷・秋山＞ 第 18 回　：　自立に向けた家事の介護の意義・目的　＜秋山＞ 第 19 回　：　家事の介助の技法①－買い物＜家庭経営、家計の管理＞　＜秋山＞ 第 20 回　：　家事の介助の技法②－調理　＜秋山＞ 第 21 回　：　家事の介助の技法③－掃除　＜秋山＞ 第 22 回　：　家事の介助の技法④－洗濯・裁縫　＜秋山＞ 第 23 回　：　家事の介助の技法⑤－衣類・寝具の衛生管理　＜秋山＞ 第 24 回　：　家事に参加することを支える支援・利用者の状況に応じた介助＜秋山＞ 第 25 回　：　家事に関する利用者の ICF の視点に基づくアセスメント　＜秋山＞ 第 26 回　：　終末期介護の意義、介護の実践のあり方　＜秋山＞ 第 27 回　：　臥床状態の寝具交換、グリーフケア、尊厳の保持・事前意思確認＜秋山＞ 第 28 回　：　終末期における利用者ＩＣＦに基づくアセスメント　＜秋山＞ 第 29 回　：　終末期のケア―介護実践の技法、医療との連携　＜秋山＞ 第 30 回　：　看取りのための制度、臨終時の対応　＜秋山＞

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します
評価方法	定期試験 60%、課題提出物 30%(振り返りレポート(毎回)15%、演習終了時レポート 15%)、授業態度 10% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	・毎回の課題提出を Moodle 利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	金谷節子著「嚥下食のすべて」医歯薬出版 「新・介護福祉士養成講座第 7 巻　生活支援技術Ⅱ」中央法規
参考図書	最新介護福祉全書 6　生活支援技術Ⅱ（障害編）/メヂカルフレンド社
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	生活支援技術Ⅱ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（60 時間）選択　介護　４セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本科目は、対人援助・社会支援のための自己覚地の必要性を理解し、演習を通じて深めようとする姿勢を身につけることが目的である。また、尊厳保持の観点から、利用者がどの様な状態であっても、その人の自立・自律を尊重し潜在能力を引き出し、見守りも含めた安全に援助できる技術や知識を学修する。
到達目標	1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。 2. 自らの役割を理解し、必要に応じて他者と協働することができる。 3. 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス、利用者の状態に応じた介助の留意点 第 2 回：利用者の状況に応じた介助の留意点 第 3 回：視覚障害の様々な特性についての理解 第 4 回：視覚障害リハビリテーションについての理解 第 5 回：視覚障害者に関する諸制度 第 6 回：視覚障害者のガイド、生活の質を向上させる福祉機器を知る 第 7 回：視覚障害者の生活支援、就労支援についての理解 第 8 回：聴覚障害者の様々な特性についての理解 第 9 回：聴覚障害者のリハビリテーションについての理解 第 10 回：聴覚障害者に関する諸制度 第 11 回：聴覚障害者の生活の質を向上させる福祉機器を知る 第 12 回：聴覚障害者の生活支援、就労支援についての理解 第 13 回：知的障害のある人の生活の理解、生活支援 第 14 回：知的障害に応じた介護 第 15 回：知的障害のある人の介護過程の展開 第 16 回：精神障害のある人の生活の理解、生活支援 第 17 回：精神障害に応じた介護過程の展開 第 18 回：発達障害のある人の生活の理解 第 19 回：発達障害のある人の生活支援 第 20 回：発達障害に応じた介護、環境整備、介護過程の展開 第 21 回：高次脳機能障害のある人の生活の理解、生活支援 第 22 回：高次脳機能障害に応じた介護、介護過程の展開 第 23 回：内部障害のある人の様々な特性についての理解 第 24 回：内部障害の生活の質を向上させる福祉機器を知る 第 25 回：重複障害（盲ろう）のある人の生活の理解、生活支援 第 26 回：重複障害（盲ろう）に応じた介護、介護過程の展開 第 27 回：重症心身障害のある人の生活の理解、生活支援 第 28 回：重症心身障害に応じた介護、介護過程の展開 第 29 回：感覚・運動機能が低下している人の介助の留意点（まとめ１） 第 30 回：認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点（まとめ 2）

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	筆記試験60%、課題提出（リアクションペーパー）20%、授業参加度20%
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座8　生活支援技術Ⅲ』　中央法規 『新・介護福祉士養成講座13　障害の理解』　中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護過程基礎論Ⅰ
科目責任者	岡本　浄実
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	・他学科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するための基礎となるもので人間関係の成立過程、課題解決課程の中の人間関係の成立過程に注目した科目である。 ・対象者理解に焦点をあてて学習する。
到達目標	1.　対人援助における基本的枠組みを理解できる 2.　介護過程の意義を理解できる。 3.　人間関係の成立過程の基礎である自己理解、他者理解、ができる。 4.　対象者のくらし、時代の背景が理解できる。 5.　かかわりの意義を理解できる。 6.　プロセスレコードを用いて人間関係を形成できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　：ガイダンス　　介護過程の意義と目的 第２回　：利用者理解　　「関心」「観察」とは 第３回　：利用者理解　　かんしんを持つとは・・・GW発表 第４回　：利用者理解　　介護過程と生活（くらし）とは 第５回　：利用者理解　　「くらし」　60 代、70 代、80 代の生きた時代を キーワードから比較する（第１回目レポート） 第６回　：利用者理解　　利用者（対象者）の「くらし」 生きてきた時代の理解 第７回　：利用者理解　　人生の選択を考える（第２回目レポート） 第８回　：利用者理解　　中間発表会 第９回　：人間関係形成　　かかわり（観察）の重要性　偏見とは・・ 思い込み　正常異常　認知症老人の詩 第 10 回　：人間関係形成　　自己理解・他者理解 第 11 回　：人間関係形成　　介護過程と人間関係の成立過程 プロセスレコード 第 12 回　：人間関係形成　　プロセスレコード　　講義 第 13 回　：人間関係形成　　プロセスレコード　　演習 第 14 回　：人間関係形成　　介護過程の視点に気づく（第３回レポート） 第 15 回　：人間関係形成　　気づきを介護過程の展開に活かす・まとめ

アクティブラーニング	グループワーク・アクティビティ（レクリエーション活動・アイスブレイク等）などを行います。実習をイメージし、主体的に参加できる構成にします。また、他者に説明する・状況に合わせた言葉かけ・集団の観察や関わりの作り方等を体験し共有する授業内容にします。
評価方法	課題レポート1回目・2回（それぞれ25%） 課題レポート3回目(50%)
課題に対するフィードバック	第1回目・2回目のレポートは授業内でフィードバックをします。 第3回目のレポートはMoodleでフィードバックをします。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座　9　介護過程』中央法規
参考図書	『楽しさをとおした心の元気づくり』～レクリエーション支援の理論と方法～、日本レクリエーション協会、2017 『楽しさの追求を支えるための介入技術』～見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法～、日本レクリエーション協会、2013
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また、初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを15分以上読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、40分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	介護過程基礎論Ⅱ
科目責任者	富安　奈穂美
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	・他学科で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し適切な介護サービスが提供できる能力を養うための基礎的学習を行う。
到達目標	1.　介護過程の意義、目的を理解できる。 2.　構成要素のアセスメントの目的・方法が習得できる。 3.　構成要素の計画立案の目的・方法が習得できる。 4.　構成要素の実施、評価の意義、方法、視点が理解できる。 5.　事例を通して一連の流れを理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス　介護過程の意義・目的、必要性 第 2 回：介護過程の展開　介護過程の構成要素 第 3 回：情報収集　情報収集の目的・方法 事実の客観的な把握と正確に記録をする。 第 4 回：情報収集　情報の解釈・分析（個人） なぜその情報が必要か。何につながる情報か理解できる。 第 5 回：情報収集　情報の解釈・分析（グループワーク） 第 6 回：情報収集　それぞれの情報をどのように統合するのか。 統合化によってどのような課題が見出せるか。 第 7 回：計画立案　介護者が見出した課題と利用者本人の持つ要望について 目標の設定、長期目標・短期目標 第 8 回：計画立案　具体的な計画の立て方 第 9 回：計画実施・評価　実施、評価の内容、留意点 第 10 回：事例　情報収集、解釈・分析（個人） 第 11 回：事例　計画立案（個人） 第 12 回：事例　グループワーク 第 13 回：事例　解釈・分析、計画立案（個人） 第 14 回：事例　実施、評価 第 15 回：まとめ　介護過程における介護計画の立案の意味

アクティブラーニング	講義内で主体的に参加できるよう発問や教材の工夫を行い、学びを深めるようにします。
評価方法	課題レポート2回（各50%）
課題に対するフィードバック	講義内でフィードバックを行います。最終課題のフィードバックは書面で行います。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座　9　介護過程』中央法規
参考図書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	【事前学習】事前課題を提示致しますので取り組むようにしてください。 また、指定図書の該当項目を熟読してから講義に臨んでください。 【事後学習】講義後、毎回ポイントをまとめてください。（目安時間40分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	介護過程展開法Ⅰ
科目責任者	岡本　浄実
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	・他科目で学んだ知識や技術を統合し、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案、実施、評価までの一連の思考過程を介護実習Ⅱの事例や追体験できる。 ・ICF の概念に基づいた介護過程の展開事例を活用し、介護過程の展開方法について理解を深め、利用者の心身の状況に応じた介護過程の実践的展開能力を身につける。
到達目標	1.　高い倫理観と介護福祉士として必要な豊かな教養を身につける。 2.　受容的・共感的態度を形成しつつ、基本的なコミュニケーションや生活支援技術を使用できる。 3.　介護過程の展開方法について理解を深めることができる。 4.　介護過程の実践的展開能力を習得することができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 受容・共感　第１回：ガイダンス、介護過程の意義、介護過程の構成要素復習　追体験の目的 介護過程展開方法①　第２回：アセスメントの実際ーテキストの関連図と「介護過程の展開における情報の関連図」 介護過程展開方法②　第３回：アセスメントの実際―演習介護実習Ⅱの情報の関連図の作成　生活支援の課題の抽出 介護過程展開方法③　第４回　：アセスメントの実際―演習介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化および発表 介護過程の展開方法④　第５回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈の適切性） 介護過程の展開方法⑤　第６回目：アセスメントの実際―演習介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化の発表 豊かな教養①　第７回：総合支援事業 豊かな教養②　第８回：災害時の高齢者支援（第１回目レポート） 介護過程展開①　第９回：「介護過程の展開ツール」の紹介 介護過程展開②　第 10 回：「ICF に基づく介護過程の展開」と「展開ツールの比較」 介護過程展開①　第 11 回：介護過程の実践的展開―利用者の状態に応じた展開　介護老人保健施設で生活する A さんの事例 介護過程展開②　第 12 回：介護過程の実践的展開―事例検討「H さんの結果に対する評価のありかた」 介護過程展開③　第 13 回：介護過程の実践的展開―利用者の状況に応じた展開　障害者支援施設で生活する E さんの事例 介護過程展開④　第 14 回：介護過程の実践的展開―事例検討「J さんの結果に対する評価のありかた」 介護過程展開⑤　第 15 回：まとめ　（第２回目レポート）

アクティブラーニング	グループワークなど学生が主体的に参加できる構成や授業内容にします
評価方法	課題レポート２回（それぞれ50%）
課題に対するフィードバック	第１回目のレポートは授業内でフィードバックをします。 第２回目のレポートはMoodleでフィードバックをします。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座第９巻　介護過程』中央法規
参考図書	授業時に随時紹介する
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを15分以上読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、40分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	介護過程展開法Ⅱ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	・介護実習で行った介護過程の実践を総合的に評価し、介護福祉士に必要な思考方法及び知識や技術を倫理的かつ包括的に整理し理解する。 ・事例研究や発表等を通じて、自己の提供した介護実践（生活支援）を、根拠を持って表現し、説明できる能力を身につける。
到達目標	1.　受容的・共感的態度を形成しつつ、基本的なコミュニケーションや生活支援技術を使用できる 2.　介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。 3.　人間形成過程から保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身に着けることができる。 4.　自己に対する評価が適切にできる。 5.　事例研究や発表体験等を通して、根拠をふまえた報告ができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス・ケーススタディの意義 第 2 回：介護実習Ⅲの事例検討（情報収集に対する解釈の適切性） 第 3 回：介護実習Ⅲの事例検討（情報収集に対する分析の適切性） 第 4 回：アセスメントの実際―演習／介護実習Ⅲの文章化 第 5 回：アセスメントの実際―演習／介護実習Ⅲの文章化・発表 第 6 回：ケーススタディとは 第 7 回：ケーススタディの作成①　実習記録の振り返り 第 8 回：ケーススタディの作成②　骨格形成・情報の根拠 第 9 回：ケーススタディの作成③　背景 第 10 回：ケーススタディの作成④　展開のまとめ 第 11 回：ケーススタディの作成⑤　学びの整理 第 12 回：ケーススタディの作成⑥　内容の筋書き 第 13 回：ケーススタディの作成⑦　構成 第 14 回：ケーススタディの作成⑧　指導を受けての修正 第 15 回：ケーススタディの文章化・発表

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します
評価方法	ポスター発表課題（50%）・ケーススタディ（50%） 評価はルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	・毎回の課題提出をMoodle利用し、まとめなどをフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『新・介護福祉士養成講座第9巻　介護過程』中央法規
参考図書	森　繁樹「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。 【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 （目安時間40分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護過程展開法Ⅲ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。。
科目概要	・本科目では、「介護実習Ⅲ」での体験を振り返り、保健・医療・福祉のチームアプローチの手段である介護保険制度におけるケアマネジメント過程のケアプランと介護過程の個別介護計画の関係について学ぶ。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を理解し、介護過程とチームアプローチについて理解を深める。
到達目標	1.　高い倫理観と介護福祉士として必要な豊かな教養を身につける。 2.　受容的・共感的態度を形成しつつ、基本的なコミュニケーションや生活支援技術を使用できる 3.　ケアマネジメントとは何かを説明できる。 4.　ケアプランと個別介護計画の関係性について説明できる。 5.　チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を説明できる。 介護過程とチームアプローチについて説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : ガイダンス　介護過程とは 第 2 回 :　介護過程とケアマネジメント 第 3 回 : ケースカンファレンス 第 4 回 : サービス担当者会議 第 5 回 : サービス担当者会議のＶＴＲ視聴 第 6 回 : ケアマネジメント過程と介護過程 第 7 回 : ケアプランと介護計画の関係 第 8 回 : 介護サービスの実際　ＶＴＲ視聴 第 9 回 : チームアプローチにおける介護福祉士の役割 第 10 回 : 他職種連携 第 11 回 : 介護過程とチームアプローチ 第 12 回 : 事例検討１ 第 13 回 : 事例検討２ 第 14 回 : 事例検討３ 第 15 回 : 介護過程の今後とまとめ

アクティブラーニング	事例検討ではグループワークを行うので、グループ内のディスカッションに積極的に参加すること。
評価方法	レポート 50%、課題提出物 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	『新・介護福祉士養成講座第 9 巻　介護過程』中央法規
参考図書	矢原隆行「よくわかる介護福祉研究入門」保育社
事前・事後学修	【事前学習】シラバスに示した指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。 【事後学習】授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 （yukari-n@seirei.ac.jp）

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　１セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	利用者・家族とのコミュニケーション技法やチーム連携を図るためのコミュニケーション方法を修得する。さらに、様々な人の立場や意見を尊重し、自らの意思伝達や説得できるコミュニケーション力を身に付け、人と環境またはその相互接触面について理解し、そこにかかわる意欲がもてる。
到達目標	1. 利用者・家族とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢や技法が理解できる。 2. チーム連携を図るためのコミュニケーションとして、記録・報告・会議の意義と目的が理解できる。 3. 記録の具体的な書き方や留意点が理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 介護におけるコミュニケーションの基本 第 2 回 : 介護におけるコミュニケーションの意義、目的 第 3 回 : 介護におけるコミュニケーションの役割 第 4 回 : 受容・共感・傾聴 第 5 回 : 利用者・家族との関係づくり 第 6 回 : 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 第 7 回 : 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 第 8 回 : 利用者の意欲を引き出す技法 第 9 回 : 利用者や家族の意向を引き出す技法 第 10 回 : 介護におけるチームのコミュニケーション 第 11 回 : 介護における記録の意義と目的 第 12 回 : 記録による情報の共有化 第 13 回 : 報告・連絡・相談 第 14 回 : 会議 第 15 回 : 事例による記録の演習

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート50%、課題提出物（リアクションペーパー）30%、授業参加度20% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術』　中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の特性に応じたコミュニケーションの基本的理論を学び、技術を習得する科目である。また、本科目は、対人援助・社会支援の為の自己覚知の必要性を理解し、学生同士の演習を通じて深めようとする姿勢ができ、様々な人の立場や意見を尊重しながら、自らの意思伝達や説得できるコミュニケーション力を身に付ける。
到達目標	1. コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態や障害の症状、生活困難や意思疎通の在り方が理解できる。 2. 利用者の特性、障害に応じたコミュニケーションが適切に行える実践理論を学び、基礎知識や技術が修得できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：ガイダンス、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 第 2 回：コミュニケーション機能の障害を抱える利用者と介護 第 3 回：コミュニケーション機能の障害の原因と症状 第 4 回：障害に・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 第 5 回：感覚機能が低下している人とのコミュニケーション 第 6 回：失語症の特性に応じたコミュニケーション 第 7 回：構音障害の特性に応じたコミュニケーション 第 8 回：視力の障害に応じたコミュニケーション 第 9 回：聴力（聞こえ）の障害に応じたコミュニケーション 第 10 回：知的障害の特性に応じたコミュニケーション 第 11 回：精神障害の特性に応じたコミュニケーション 第 12 回：認知症の特性に応じたコミュニケーション 第 13 回：若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション 第 14 回：コミュニケーション支援ツールの理解と作成 第 15 回：事例による特性に応じたコミュニケーション演習

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート50%、課題提出物（リアクションペーパー）30%、授業参加度20% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術』　中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	医療的ケアⅠ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	介護福祉士として医療的ケアを必要とする高齢者・障害者に対して、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・正確な技術を修得する。 医療的ケアを実施するにあたり、関連する法制度や倫理、関連職種との役割、救急蘇生法、感染予防、健康状態の把握など医療的ケアの実施の基礎知識を習得する。
到達目標	１．介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景について説明できる。 ２．医療的ケアの実施に関して、チームとして医療職との連携の必要性を説明できる。 ３．安全に喀痰吸引や経管栄養を実施するための重要性を説明できる。 ４．感染予防、利用者の健康状態について説明できる。 ５．呼吸のしくみと喀痰の吸引について説明できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：医療的ケア実施の基礎・・・介護職員と医療的ケア、制度の背景 第２回：人間と社会・・・医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解 第３回：保健医療制度とチーム医療 第４回：安全な療養生活①・・・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 第５回：安全な療養生活②・・・救急蘇生法 第６回：清潔保持と感染予防①・・・感染予防の基本、スタンダードプリコーションについて 第７回：清潔保持と感染予防②・・・介護職員の感染予防 演習－ガウンテクニック、手袋・マスクの扱い方等 第８回：清潔保持と感染予防③・・・療養環境の清潔 第９回：清潔保持と感染予防④・・・滅菌と消毒 第 10 回：健康状態の把握①・・・健康状態の観察 第 11 回：健康状態の把握②・・・バイタルサインについて 演習―バイタルサインのチェックの方法 第 12 回：健康状態の把握③・・・身体・精神の健康、急変状態について 第 13 回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論①・・・呼吸器系のしくみとはたらき 第 14 回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論②・・・いつもと違う呼吸状態について 第 15 回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論③・・・喀痰吸引とは

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）20%　　定期試験６0% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための　喀痰吸引・経管栄養　ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	介護職員のための医療的ケア/ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　５セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	介護福祉士として医療的ケアを必要とする高齢者・障害者に対して、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・正確な技術を修得する。 喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引方法、急変時の対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識を習得する。 経管栄養に必要な人体の構造と機能、高齢者及び障害児・者の経管栄養の方法、急変時の対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識を習得する。
到達目標	１．呼吸器系の感染と予防として実施すべきことが説明できる。 ２．吸引により生じる危険の種類と危険防止のための留意点が説明できる。 ３．消化器のしくみと経管栄養について説明できる。 ４．経管栄養実施上の留意点が説明できる。 ５．経管栄養により生じる危険の種類と危険防止のための留意点が説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論①・・・人工呼吸器とは 第 2 回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論②・・・子どもの吸引、 第 3 回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論③・・・ 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、呼吸器系の感染と予防 第 4 回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論④・・・ 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変･事故発生時の対応と事前対策 第 5 回：　高齢者および障害児・者の経管栄養概論①・・・消化器系のしくみとはたらき、 第 6 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論②・・・消化器の症状 第 7 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論③・・・経管栄養とは、 第 8 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論④・・・注入する内容に関する知識 第 9 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論⑤・・・経管栄養実施上の留意点 第 10 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論⑥・・・子どもの経管栄養、 第 11 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論⑦・・・経管栄養に関係する感染と予防 第 12 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論⑧・・・ 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 第 13 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論⑨・・・ 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、 第 14 回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論⑩・・・急変・事故発生時の対応 第 15 回：喀痰吸引・経管栄養のまとめ

アクティブラーニング	グループ調べ学修、グループディスカッション、グループ発表を実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%　確認小テスト（奇数授業回）20%　　定期試験６0% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための　喀痰吸引・経管栄養　ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	介護職員のための医療的ケア/ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	医療的ケアⅢ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	介護福祉士として医療的ケアを必要とする高齢者・障害者に対して、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・正確な技術を修得する。 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養、救急蘇生法の基礎的知識・実施手順とその留意点を学習し、シミュレーターを用いた演習により、安全に確実に実施できるための知識と技術を習得する。
到達目標	1. シミュレーターを用いた喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）が、実施手順に沿って安全に確実に実施できる。 2. シミュレーターを用いた経管栄養（経鼻経管・胃瘻）が、実施手順に沿って安全に確実に実施できる。 3. シミュレーターを用いた救急蘇生法が実施できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞秋山恵美子、富安奈穂美 第１回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順②・・・ 喀痰吸引の必要物品と消毒法、吸引の技術と留意点 第２回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順②・・・ 痰の吸引に伴うケア、報告及び記録 第３回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順③・・・ 口腔内・鼻腔内吸引の手順と留意点 第４回：喀痰吸引の基礎的知識・実施手順④・・・ 気管カニューレ内吸引の手順と留意点 第５回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて口腔内吸引の集中演習（1～5 回以上） 第６回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて鼻腔内吸引の集中演習（1～5 回以上） 第７回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて気管カニューレ内吸引の集中演習（1～5 回以上） 第８回：経管栄養の基礎的知識・実施手順①・・・ 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持、経管栄養の技術と留意点 第９回：経管栄養の基礎的知識・実施手順②・・・ 経管栄養に必要なケア、報告及び記録 第 10 回：経管栄養の基礎的知識・実施手順③・・・胃瘻（腸瘻）による経管栄養 第 11 回：経管栄養の基礎的知識・実施手順④・・・経鼻経管栄養 第 12 回：経管栄養のシミュレーターを用いて経鼻経管栄養の集中演習（1～3 回） 第 13 回：経管栄養のシミュレーターを用いて経鼻経管栄養の集中演習（4～5 回以上） 第 14 回：経管栄養のシミュレーターを用いて胃瘻による経管栄養の集中演習（1～5 回以上） 第 15 回：シミュレーターを用いて救急蘇生法の集中演習

アクティブラーニング	グループ学修により作成した手順書に沿って、 事前学修として、手順や留意点について、moodle の DVD を 3 回以上視聴し、演習に臨む。
評価方法	授業態度 20%、実技試験 80% 実技試験では、喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内）、経管栄養（経鼻経管、胃瘻）それぞれの 5 項目について、5 回目に項目手順に沿って確実に実施でき合格となる。(国の規定) ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodle にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護職のための　喀痰吸引・経管栄養　ビジュアルガイド」/メディカ出版
参考図書	介護職員のための医療的ケア/ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修：当日授業の単元のテキスト部分を熟読し、DVD を 3 回以上視聴する。(40 分) 事後学修：講義のポイントを手順書にまとめる。 演習の手順と留意点を手順書にまとめ、グループ学修に備える。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護総合演習Ⅰ
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　１セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	・実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解する。介護実習Ⅰ①に向けての心構え、予備知識、動機づけの準備を行い、介護実習Ⅰの目的・目標を理解し、目標に向けて達成できるようにする。 ・実習内容の知識の確認・実習記録の意義や記入方法について理解する。
到達目標	1.　専門職に必要な基礎技術を身につけ使用することができる。 2.　実習に必要な事前学習ができる。 3.　実習の心構えを述べることができる。 4.　実習の事前準備　（記録物、身なりなど）ができる。 5.　実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。 6.　実習後の振り返りを行い、改善することができる。
授業計画	＜担当教員名＞野田由佳里、ゲストスピーカー（介護実習Ⅰ①実習先　特養・通所介護） ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（介護実習の位置づけⅠ・Ⅱ・Ⅲ段階） 実習要項配布・実習のイメージＤＶＤ・介護総合演習Ⅰの概要説明 第 2 回：介護実習の流れの理解　①実習種別 第 3 回：介護実習の流れの理解　②実習先種別 第 4 回：実習の意義・実習目的・目標の理解・グループワークの説明〈高齢者の理解〉 第 5 回：実習先の理解（生活の場の理解・介護老人福祉施設　特別養護老人ホーム） ＊ゲストスピーカー 記録練習１・感性教育１〈季節感を感じよう『季語』〉 第 6 回：実習先の理解（通所介護）＊ゲストスピーカー 記録練習２・感性教育２〈クラフト制作・折り紙〉 第 7 回：実習先の理解〈障害者施設〉 記録練習３・感性教育３〈高齢者に馴染みのある唱歌〉 第 8 回：実習先についてのグループ発表・介護実習Ⅰオリエンテーション 第 9 回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第 10 回：介護実習記録の書き方・記録様式及び資料配布 第 11 回：配属発表・申し送りノート確認・模擬スーパービジョン 第 12 回：計画書の作成 第 13 回：身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第 14 回：先輩からの応援メッセージ・直前オリエンテーション（介護技術の確認　他） 第 15 回：事後指導 介護実習Ⅰ終了後のオリエンテーション 【備考】授業態度及び課題提出物を重視します。主体的に授業への参加を希望します。本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、初めての実習に向けての準備科目です。

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します
評価方法	振り返りレポート（40%）　課題・提出物（60%） レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	・毎回の課題提出をMoodle利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	後藤真澄「介護実習に役立つコミュニケーションの良い例・悪い例」中央法規
事前・事後学修	【事前学習】グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を40分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】グループワーク後の振り返りを行う。
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	１単位（30 時間）選択　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅰ①の振り返りと介護実習Ⅰ②にむけての準備の授業となる。目標の達成の計画を立て、実習が有意義に行えるための、実習に対する心構えや実習生としてのあり方について学ぶ。介護技術の確認や介護過程の展開の能力等について総合的な学習を行う。
到達目標	1. 専門職に必要な基礎技術を身につけ使用することができる。 2. 実習に必要な事前学習ができる。 3. 実習の心構えを述べることができる。 4. 実習の事前準備　（記録物、身なりなど）ができる。 5. 実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。 6. 実習後の振り返りを行い、改善することができる。
授業計画	＜担当教員名＞井川 淳史、野田 由佳里 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明　井川 淳史 第 2 回：実習報告会準備　野田 由佳里 第 3 回：実習報告会　野田 由佳里 第 4 回：実習報告会　野田 由佳里 第 5 回：実習目的・目標の理解　＊申し送りノート及び実習日誌提出　井川 淳史 グループワークの説明〈実習先・ロールクラフト〉 第 6 回：実習先の理解（訪問介護）　＊ゲストスピーカー　井川 淳史 感性教育１〈クラフト制作・ロールクラフト〉 第 7 回：実習先の理解（生活の場の理解・有料老人ホーム）＊ゲストスピーカー　井川 淳史 実習施設に関する事前学習・感性教育２〈エデンの園学会に参加〉 第 8 回：実習先についてのグループ発表・実習に必要な知識の事前学習　野田 由佳里 第 9 回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成）　野田 由佳里 第 10 回：介護実習記録の書き方＜良い記録＞・記録様式及び資料配布　野田 由佳里 第 11 回：配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン　野田 由佳里 第 12 回：計画書の作成　野田 由佳里 第 13 回：身だしなみ、実習における心構え・事前訪問　野田 由佳里 第 14 回：直前オリエンテーション　野田 由佳里 第 15 回：事後指導　井川 淳史 【備考】授業態度及び課題提出物を重視します。主体的に授業への参加を希望します。本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、二回目の実習に向けての準備科目です。

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します
評価方法	振り返りレポート（40%）　課題・提出物（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	・毎回の課題提出をMoodle利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を40分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】グループワーク後の振り返りを行う。
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護総合演習Ⅲ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	１単位（30 時間）選択　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	介護実習Ⅰ②の振り返りと介護実習Ⅱの目標に沿った事前学習・実習中の指導・実習後のまとめ方を学ぶ。 介護実習Ⅱにおいて、これまで学んだ学内の学びを統合して、介護過程を通し介護場面に適応できる柔軟性や応用力、判断力を習得する。
到達目標	1. 社会福祉の視点を捉え、自らのレポートや口頭発表を用いて実習成果を示すことができる。 2. 介護実習Ⅰ②後の振り返りと改善を行い、目標の達成を自ら評価することができる。 3. 介護実習Ⅰ②で培った学びを具体的に表現し、共有することができる。 4. 介護実習Ⅱの実習成果の向上のため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行い、実習に必要な知識や技術、介護過程の基礎の理解ができる。 5. 他科目で学習した知識や技術を統合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第２回：学びの共有・実習報告会準備 第３回：実習報告会 第４回：実習報告会 第５回：実習目的・目標の理解　＊申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明〈実習先・レクリエーション〉 第６回：実習先の理解（生活の場の理解・老人保健施設） 利用者の日内変動①身体面　②精神面 感性教育１〈季節感を感じよう『秋の味覚　芋きんとん・どら焼き』〉 第７回：実習先の理解（生活の場の理解・障害者施設） 感性教育２〈俳句を作ろう〉 第８回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成）・記録様式及び資料配布 第９回：配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 実習先についてのグループ発表・介護実習に必要な知識の確認 第 10 回：計画書の作成・介護過程の展開様式確認 身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第 11 回：ＩＣＦ視点の生活支援技術の基礎復習及び確認①移動・居住環境②排泄入浴食事 第 12 回：直前オリエンテーション 変則勤務が影響を及ぼす介護従事者の健康　①身体面　②精神面 第 13 回：介護実習Ⅱの帰校日指導　第１回目　　（主に記録の指導） 第 14 回：介護実習Ⅱの帰校日指導　第２回目　　（プロセスレコード検討会） 第 15 回：事後指導 介護過程の振り返り　①自己ケース　②モデルケース 【備考】授業態度及び課題提出物を重視します。主体的に授業への参加を希望します。本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、二年次生初めての実習に向けての準備科目です。

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	振り返りレポート（40%）　課題・提出物（60%） 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	新・介護福祉士養成講座10　『介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学習:グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を40分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。 事後学習:グループワーク後の振り返りを行う。
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護総合演習Ⅳ
科目責任者	井川　淳史
単位数他	１単位（30 時間）選択　介護　４セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目は、現代社会を社会福祉の視点を捉え、自らのレポートや口頭発表を用いて効果を示すことができることを目的としている。また、介護実習Ⅱの振り返りと介護実習Ⅲに向けての準備、教育効果を上げる科目である。実習の意義を理解した上で、実習先施設の特徴、および機能に応じた介護実践ができる知識、修得済みの技術を統合し、受容的・共感的な態度で対人関係を形成し、利用者理解に重点を置いて学修する。
到達目標	1. 介護実習Ⅱの振り返り、自己評価を踏まえまとめ発表することができる。 2. 介護実習Ⅲにむけて、介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解を深める。 3. 授業で習得した介護過程展開の理解を実習の利用者に提供できる能力を身につける。 4. 他科目で学習した知識や技術を統合し、実習で体得した知識や技術を統合した具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することができる。 5. 実習後の振り返りを行い、課題に対して改善し目標達成度を評価することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第２回：学びの共有・実習報告会準備 第３回：実習報告会 第４回：実習報告会 第５回：実習目的・目標の理解　＊申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明〈身体拘束・レクリエーション〉 第６回：利用者の理解①（「私の利用者」介護過程の展開相互チェック） 感性教育１〈浜松ゆうゆうの里学会参加〉 第７回：利用者の理解②（「私の利用者」介護過程の展開相互チェック） 感性教育２〈信生寮学会参加〉 第８回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成）・記録様式及び資料配布 第９回：配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン レクリエーションのグループ発表 第 10 回：計画書の作成・介護過程の展開様式確認 身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第 11 回：ＩＣＦ視点の生活支援技術の応用実践 第 12 回：直前オリエンテーション 第 13 回：介護実習Ⅲの帰校日指導　第１回目　　(アセスメント指導) 第 14 回：介護実習Ⅲの帰校日指導　第２回目　　(介護過程の展開指導) 第 15 回：事後指導・総合的な介護福祉サービスの理解

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。
評価方法	レポート 40%、課題提出物（リアクションペーパー等、実習関連書類）60% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目です。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：グループワーク発表に必要な内容について調べ、提出物作成は計画的に準備を行う。（40 分） 事後学修：グループワーク後の振り返りを行う。（40 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護実習Ⅰ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（90 時間）選択　介護　１～２セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	多種多様な暮らしの場の理解、基礎的な生活支援技術の習得、コミュニケーションの実践に重点をおいた実習を行う。
到達目標	1. 利用者を生活の主体者として尊重し積極的にコミュニケーションを図ることができる。 2. 各種生活施設・事業所などの概要・機能・役割また多様な介護サービス体系について説明できる。 3. 社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけ、状況に応じた対応ができる。
授業計画	＜担当教員名＞　古川和稔、野田由佳里、秋山恵美子、井川淳史 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習施設のスーパーバイザーの指導を受け、目標に沿った実習課題に取り組む 。

アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	実習要綱に記載された評価基準に基づいて評価を行う。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座第10巻　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）、野田由佳里研究室（2706研究室）、秋山恵美子研究室（2611研究室）、井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅰの初回授業時に提示します。

科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	４単位（180 時間）選択　介護　３セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	個別ケアを行うために必要な情報を収集し、統合・分析・解釈のプロセスを通じて、アセスメント能力を習得する。担当利用者の介護計画の作成を行い、一連の介護過程の展開について実習を通して学修する。
到達目標	1. 担当利用者とのコミュニケーションを通して、介護の二一ズが把握できる。 2. 担当利用者の個別介護計画を立案できる。 3. 施設の各専門職の役割や多職種協働・関係機関との連携を理解できる。 4. 獲得した専門分野の知識・理論や技術を総合的に活用し、それぞれの人に合わせて課題を解決する方法を学ぶ。
授業計画	＜担当教員名＞　古川和稔、野田由佳里、秋山恵美子、井川淳史 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習施設のスーパーバイザーの指導を受け、担当利用者のアセスメント および介護計画立案を行い、介護過程の展開について学修する。

アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	実習要綱に記載された評価基準に基づいて評価を行う。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座第 10 巻　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60 分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712 研究室）、野田由佳里研究室（2706 研究室）、秋山恵美子研究室（2611 研究室）、井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅲの初回授業時に提示します。

科目名	介護実習Ⅲ
科目責任者	古川　和稔
単位数他	４単位（180 時間）選択　介護　４セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	スーパービジョンを受けながら担当利用者の介護過程の展開を行う。また、介護福祉士としての職業倫理を身につけ、専門職者としての自己の介護観・死生観を確立することを目指した実習とする。
到達目標	1. ICFの考え方を基本として、受け持ち利用者の能力を活用し、自立支援を重視した介護過程の展開ができる。 2. 自己理解を深め自身の成長につなげることができる。 3. 介護福祉士の職業倫理についての理解を深め具体的に実践することができる。 4. 獲得した専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用し、それぞれの人に合わせて課題を解決する実践力を修得する。
授業計画	＜担当教員名＞　古川和稔、野田由佳里、秋山恵美子、井川淳史 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習施設のスーパーバイザーの指導を受け、担当利用者のアセスメント 介護計画立案、実施、評価までを行い、介護過程の展開について学修する。

アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	実習要綱に記載された評価基準に基づいて評価を行う。
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『新・介護福祉士養成講座第 10 巻　介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60 分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712 研究室）、野田由佳里研究室（2706 研究室）、秋山恵美子研究室（2611 研究室）、井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅳの初回授業時に提示します。

科目名	ビジネス・プレゼンテーション論
科目責任者	川向　雅弘
単位数他	２単位(30 時間)　選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	社会福祉活動を行う上で、住民、行政、関係機関等に活動内容を理解してもらい、賛同を得て活動を支援してもらうことは不可欠です。聞き手を明確に定義し、内容を論理的に構成し、聞き手の共感を得るプレゼンテーション力の獲得を目的とします。
到達目標	１．伝えたい内容を「分かりやすい説明」として構成できる。 ２．聞き手に伝わる、身振り、手振り、目線の配り方、および声の出し方が理解できる。 ３．プレゼンテーションの際に使用する資料が作成できる。
授業計画	第１回 ：オリエンテーション 第２回 ：演習―相手の立場に立つ 第３回 ：演習―自分の印象をコントロールする 第４回 ：演習―プレゼンの基礎力（アイコンタクト、姿勢、ジェスチャー、声） 第５回 ：演習―話し方の分析（成功パターンと失敗パターン） 第６回 ：演習―自分スタイルの発見（理想の自分に近づくための考え方） 第７回 ：演習―中間プレゼンテーション発表 第８回 ：演習―ロジックとパッションで人を動かす話し方①（ロジック） 第９回 ：演習―ロジカルな構成 第 10 回：演習―ロジックとパッションで人を動かす話し方②（パッション） 第 11 回：演習―パッションを演出するツール 第 12 回：演習―たとえ話のコツ・質問応答を見方にする 第 13 回：まとめ（共感を得るプレゼンテーションとは） 第 14 回：最終プレゼンテーション作成作業 第 15 回：演習―最終プレゼンテーション発表 ※毎回、プレゼンテーションの演習を行います。演習は他学生等の全員の前での発表となります。全員参加型の授業であることを理解して履修に臨んでください。

アクティブラーニング	演習授業となります。
評価方法	授業態度:50%、中間・最終プレゼンテーション：50%
課題に対するフィードバック	毎回の発表内容に対して学生どうしでフィードバックします。
指定図書	なし。ＤＶＤ学習を基本とします。テキストのコピーを配布します。
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前・事後】毎回プレゼンテーション課題があります。次回授業時の発表に向けて事前学習に取り組んで下さい。授業後は、就職面接、卒業研究発表等の場面を想定して実践してみること。（目安時間　40 分）
オフィスアワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：２７０５研究室 時間帯については初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　２セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる講義科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術を実践的に修得するため、実践場面を想定した実技指導により、①実践に必要な人間理解、②人と環境との相互作用の理解、③他者への情報伝達能力を養い、ソーシャルワークの相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の修得を図る。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 人間の多様性を通して、共生の価値観をもつ。
授業計画	＜担当教員名＞　落合克能、横尾惠美子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション、自己紹介・他己紹介 第 2 回：初めての人と会う時の「自分」理解-アイコンタクト･表情･姿勢についての自己分析 第 3 回：自己理解と他者理解 ①―エゴグラム等心理性格テストによる自己理解 第 4 回：自己理解と他者理解 ②―ジョハリの窓等を活用した自己理解 第 5 回：自己理解と他者理解 ③―話せない体験、見えない体験、聞こえない体験 第 6 回：自己理解と他者理解 ④―車いす体験、高齢者体験 第 7 回：自己理解と他者理解 ⑤―食べさせられる体験、振り返り 第 8 回：コミュニケーションの基礎 ①―ラポールを確立するための面接者の態度（ビデオ） 第 9 回：コミュニケーションの基礎 ②―ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際 第 10 回：コミュニケーションの基礎 ③―面接におけるラポールと傾聴の重要性（ビデオ） 第 11 回：コミュニケーションの基礎 ④―バーバルコミュニケーションの実際 第 12 回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ①―促しの技法、繰返しの技法、要約の技法 第 13 回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ②―共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法、沈黙の技法 第 14 回：コミュニケーション技法と面接の基礎 ③―面接場面のロールプレイ 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢（小レポート等の内容等含む）50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008
事前・事後学修	【事前学修】専門職として、対象者とコミュニケーションを図る上で必要な視点および対象者を理解する上で、自己理解が必要となる理由について考えてきてください。（20分） 【事後学修】課題やリアクションを期日までにMoodleに入力してください（20分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　３セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について実践的に習得することを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、基本的な面接技法を習得するために、「価値」と「面接におけるコミュニケーション」の2つの内容に焦点化する。
到達目標	１．自己覚知の必要性を理解し、それを深める。 ２．受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。 ３．相談援助における価値と倫理について理解を深める。
授業計画	＜担当教員＞落合克能、横尾惠美子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：オリエンテーション 第２回：社会福祉専門職の価値 ①（価値と倫理） 第３回：社会福祉専門職の価値 ②（社会正義） 第４回：社会福祉専門職の価値 ③（社会公正） 第５回：自他の価値 ①（価値と価値観） 第６回：自他の価値 ②（個人的価値と社会的価値） 第７回：自他の価値 ③（価値の形成） 第８回：自他の価値 ④（価値の変位） 第９回：自他の価値 ⑤（価値の定着） 第10回：面接におけるコミュニケーション ①（援助者の基本姿勢と原則） 第11回：面接におけるコミュニケーション ②（基本的コミュニケーション） 第12回：面接におけるコミュニケーション ③（基本的応答技法とその活用） 第13回：面接におけるコミュニケーション ④（傾聴・共感・指示・焦点化） 第14回：面接におけるコミュニケーション ⑤（対象者の意味世界を捉える） 第15回：まとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取り組み姿勢：30%、前半レポート：40%、後半レポート：30%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になります。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房 2017
参考図書	授業の際に配布します。
事前・事後学修	【事前学修】次回演習への準備をして頂きます。（20 分） 【事後学修】課題や授業へのリアクションを期日までにMoodleに入力して頂きます。（20分）
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　４セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的とする。そのために、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントの手法（インテークからアセスメント）を、様々な事例を用い理解・習得する。
到達目標	１．高齢者、児童、障がい、低所得、社会的排除など、危機状態にある事例をとおして相談援助の実際を理解する ２．上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する
授業計画	＜担当教員名＞　落合克能、横尾惠美子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第　１回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 面接技法の復習（促し、繰り返し、要約、解釈、共感等） 第　２回：社会的排除にかかわる事例の理解 第　３回：高齢者にかかわる事例①　事例の理解 第　４回：高齢者にかかわる事例②　インテーク面接 第　５回：高齢者にかかわる事例③　アセスメント 第　６回：高齢者にかかわる事例④　まとめ 第　７回：低所得者・知的障害にかかわる事例①　事例の理解 第　８回：低所得者・知的障害にかかわる事例②　インテーク面接 第　９回：低所得者・知的障害にかかわる事例③　アセスメント 第１０回：低所得者・知的障害④　まとめ 第１１回：児童にかかわる事例①　事例の理解 第１２回：児童にかかわる事例②　インテーク面接 第１３回：児童にかかわる事例③　アセスメント 第１４回：児童にかかわる事例④　まとめ 第１５回：全体のまとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションを行います。 第4回、第8回、第12回ではロールプレイングやワークシートを使用します。 課題提出などは、Moodleを活用します。
評価方法	授業への取り組み姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②Moodleへのリアクション・事後学修課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008 『シリーズ　社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房2017
事前・事後学修	【事前学修】次回の事前学修課題を期日までにMoodleに入力して下さい。 【事後学修】当回の事後学修課題を期日までにMoodleに入力して下さい。 （目安時間40分）
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。事前にメールで連絡をしてください。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	ケースマネジメント実践関連知識・技術（支援サイクル、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発）について、他の関連科目との関係性を含め実践的に習得することを目的としている。総合的かつ包括的な援助にかかわる相談援助事例を体系的に学ぶために、実践場面を想定した実技指導を中心に個別指導並びに集団指導を展開する。
到達目標	1. 個人や家族を対象とした相談援助の実際について理解を深め、対象に合わせてさまざまな関連施策を適用できる。 2. 事例をもとにアセスメントから評価まで、できる力を養う。 3. グループ討議を通じて、自分の役割を把握し、的確にその役割を果たすことができる。
授業計画	＜担当教員名＞　落合克能、横尾惠美子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 第 2 回：事例研究①－支援計画① （① 役割の決定　②事例の理解　③何を聴くかの整理・面接の準備） 第 3 回：事例研究①－支援計画② （① 模擬面接（援助計画作成のための面接）②不足情報の収集） 第 4 回：事例研究①－支援計画③（援助計画の策定：本人・環境のニーズの整理） 第 5 回：事例研究①－支援計画④（援助計画の策定）：ニーズと社会資源のマッチング） 第 6 回：事例研究①－支援計画⑤（援助計画の策定）：まとめ 第 7 回：事例研究①－支援計画⑥（①事例の発表　②ロールプレイの実施） 第 8 回：事例研究①のまとめ 第 9 回：事例研究②－①（事例研究①で作成した支援計画からその後の大まかな展開を検討する） 第 10 回：事例研究②－②（「支援の実施」→「支援の実施の結果」までの詳細な物語を創る） 第 11 回：事例研究②－③「支援の実施の結果」→「モニタリング」までの物語を創る） 第 12 回：事例研究②－④発表会にむけてこれまで作成してきた物語の提示の仕方などを検討し、準備を整える：①発表会に向けての役割分担　②発表の予行演習 第 13～14 回：発表会 第 15 回：効果測定、終結、アフターケアに関する解説およびまとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート）50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。
参考図書	『高齢者援助における相談面接の理論と実際　第 2 版　』医歯薬出版 2011
事前・事後学修	【事前学修】各回の授業で達成課題を提示します。ソーシャルワーク論で使用した（いる）テキストなどを用いてあらかじめ必要な知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておくことが必要となります。 【事後学修】上記の事前学修同様であり、事前事後学修は一体的となる。　（各 20 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し実技指導を行う。
到達目標	福祉に関する地域社会のニーズや背景を論理的に把握し、専門職として貢献することができる実践力を身につけるために以下の到達目標を上げる。 1. 地域福祉の援助技術の概要を理解する。 2. 地域・コミュニティ、住民の意味を理解する。 3. コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークの方法として住民ニーズの把握方法、住民参加の促進方法、社会資源の活用・開発、要援護者に関する情報収集、アウトリーチ、ネットワークづくりについて理解し、技術を習得する。 4. コミュニティワークの方法としてボランティアコーディネーション、福祉教育のプログラムづくりについて理解し、技術を習得する。
授業計画	＜担当教員＞　落合克能、横尾惠美子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 地域福祉推進のための援助技術とは 第 2 回：「地域」とは何か～コミュニティの意味 第 3 回： 地域を知る 第 4 回： 住民を知る 第 5 回： 地域住民のニーズを知る 第 6 回： 地域課題解決のためのプログラム案検討 第 7 回： 地域課題解決のためのプログラム案発表 第 8 回： 福祉教育のプログラムづくり 第 9 回： ボランティアコーディネーションの意味を学ぶ 第 10 回： 個別相談をどのように受け止めるか 第 11 回： ネットワークをつくる 第 12 回： 実践的ネットワークをつくる 第 13 回： 地域での展開を考える 第 14 回： 地域における権利擁護活動 第 15 回： まとめ

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②Moodle へのリアクション・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『社会福祉士相談援助演習』中央法規 『ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	【事前学修】地域福祉論Ⅰ・Ⅱの内容、特に地域福祉の実践例や推進方法について、復習をしておくこと。また、地域住民の一人として、自分や家族の地域での生活に関する意識、地域での助け合い活動などに対する考えを把握して臨むこと。さらには、過去の実習体験を振り返り、社会福祉施設・事業所、利用者と地域との関係についてあらかじめ考察しておくこと。(20 分) 【事後学修】事後学修課題を提示しますので、必ず取り組んでください。(20 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ　　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	１単位（15 時間）　選択　介護　７セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。ソーシャルワーク実習での個別的体験を踏まえ、具体的な相談援助事例を学生自ら作成することで、相談援助に係る実践的な知識と技術を習得できるようになることを目的とする。
到達目標	1. 実習体験の中から利用者とのかかわりから事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標を設定できる。 2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。 3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員＞　落合克能、横尾惠美子 第１回：オリエンテーション・ガイダンス 小グループに分かれて、実習での学びの振り返り 第２回：　ジレンマ事例の作成① ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成 第３回：　ジレンマ事例の作成② 大まかな筋書きの作成 第４回：　ジレンマ事例の作成③ 大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備 第５回：　ジレンマ事例の作成④ プレゼンテーションの準備 第６回：　ジレンマ事例の作成⑤ 発表会の予行演習 第７・８回：　事例発表会、まとめ ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する（1 グループ 20 分を予定）

アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢（小レポート等の内容等含む）50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対するフィードバック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。
参考図書	『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 2012
事前・事後学修	【事前・事後学修共通】各回の授業では、達成課題が提示されます。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となります。　（事前・事後各 20 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉管理論
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	本科目は、近隣施設との連携により、実際に高齢者福祉施設サービスの第三者評価を行うことを通して、リアリティーをもって介護福祉サービス提供組織の運営管理について理解することを目的としている。
到達目標	1. 介護福祉サービスの制度および福祉サービスの組織と経営の基礎的知識を修得する。 2. 介護福祉サービス事業を行う上で必要となる＜様々な連携＞を促進する要素としての対人関係形成に関する知識・技術やシステムについて理解できる。 3. 介護福祉サービス事業を行う組織における運営管理の実態について把握するとともに、実体験をもとに説明できるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション、介護保険サービスについて 第 2 回：特別養護老人ホームの概要 第 3 回：特別養護老人ホームの経営（理念・事業計画・人事・労務管理） 第 4 回：特別養護老人ホームの経営（財務・会計・経理） 第 5 回：特別養護老人ホームの経営を取り巻く環境（ﾆｰｽﾞの多様化、ICT、福祉工学の活用等） 第 6 回：福祉サービス第三者評価基準（静岡・特養版）前半部について 第 7 回：福祉サービス第三者評価基準（静岡・特養版）後半部について 第 8 回～11 回：A特別養護老人ホームにおける第三者評価実施　　※土曜日を１日活用 第 12 回：第三者評価結果に関する検討　※事前に調査後のまとめ（文書化）をしてくる。 ☞第 14 回までに自力で調査後の評価に関する合議結果をレポートにまとめる 第 13 回：第三者評価結果に関する報告書作成 第 14 回：第三者評価結果に関する施設へのフィードバック 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	産学協同による授業であり、授業として特別養護老人ホームに出向きサービスの第三者評価を実施する。評価結果を施設にフィードバックし共に改善点を探る。
評価方法	授業への取り組み状況（中間課題含む）40%、調査･報告の内容 30%、定期試験（レポート）30% ※定期試験レポートはルーブリックを用いて評価を行う
課題に対するフィードバック	中間課題やリアクションペーパーに関しては、次回の授業の冒頭でフィードバックします。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営』中央法規　2012 年
参考図書	『福ナビへＧＯ！－第三者評価を活用しよう　』　環境新聞社 2014 「静岡県福祉サービス第三者評価基準」
事前・事後学修	【事前・事後学修】①第 1 回～第 4 回では、対象施設の経営内容等に関する情報を「福祉サービス第三者評価」、「介護サービスの情報公表制度」等により調べてまとめて頂きます。②第 5 回～第 6 回では、第三者評価基準を把握してきて頂きます。③第 7 回（調査前）に施設の自己評価の読み込みをして頂きます。第 8 回～11 回では、調査後のまとめをして頂きます。第 13 回では、調査後の評価に関する合議結果をレポートにまとめて頂きます。（各 40 分）
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間には、初回授業時に提示します。

科目名	起業論
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　７セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	福祉生体工学によって介護学、リハビリテーション学等及びその実務における質の向上を図るための要素である生理学を身体の物理学の視点で学ぶ。これを基にして身体の観測、身体の保護、身体の動作について原理と方法を理解する。
到達目標	1.身体を計測し、解釈し、表現することを身体の物理学を使って考える。 2.介護動作の意味と負荷軽減の利点と欠点を物理学を使って考える。 3.日常生活動作、体操、ストレッチ等の意味と、効率よく安全に他を介護したり、自他の健康維持を図ったりすることを物理学を使って考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：導入ーライフサイエンスの中の福祉生体工学 第 2 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-1（脊柱と関節と筋） 第 3 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-2（てこの原理） 第 4 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-3（骨格筋の収縮活動と相補構造） 第 5 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-4（負荷と負荷軽減という相反性のもつ意義） 第 6 回：生体組織のゆるやかな変形（静的歪み。主動的な運動と受動的な運動） 第 7 回：生体組織の俊敏な変形（動的歪み。主動的な運動と受動的な運動） 第 8 回：細胞と組織の構造と機能／水の恩恵 第 9 回：重力の恩恵／廃用症候群 第 10 回：歩行様態から観える骨格筋の生理学(身体を電気で観る／力学で観る） 第 11 回：物理学の視点で観える循環器系の生理学(身体を電気で観る／力学で観る） 第 12 回：骨格筋と心筋における構造と機能の差異(制御、疲れ、痛み）（身体を電気で観る／力学で観る） 第 13 回：歩行、睡眠からわかる健康様態の変化 第 14 回：身体を光、電波、電磁波で観る（計測と治療） 第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのでなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活と健康について考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐ手段とする工学の視点を採り入れる。これらを一つにして考える工夫と意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	コーチング
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　７セメスター
科目の 位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	本科目は、対人援助・社会支援において、他者の役割が理解でき、自らの役割を果たしながら他者や組織と協働できることを目的とする。また、介護福祉実践現場においてリーダーシップが発揮できるスキルを身につけるため、様々な場面で活用できるコーチングスキルについて学ぶ科目である。
到達目標	1. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、コーチングの基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。 2. 自らの役割を理解し、他者と協働するために必要なコーチングの方法について、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：コーチングとは何か（コーチングの意義、目的） 第 2 回：ゴールを目指すコーチング　(GLOW モデルによる質問の流れ) 第 3 回：迷った時のコーチング 第 4 回：困った時のコーチング 第 5 回：よく使うコミュニケーション技法①（テクニックとスキルとマインド） 第 6 回：よく使うコミュニケーション技法②（うなずきと相槌、くり返しと要約、共感） 第 7 回：ロールプレイでコーチングを学ぶ①（「できる」を目指すロールプレイ） 第 8 回：ロールプレイでコーチングを学ぶ②（傾聴訓練でのアイスブレーク） 第 9 回：プロセスレコードでコーチングを学ぶ①（プロセスレコードの作成方法） 第 10 回：プロセスレコードでコーチングを学ぶ②（グループワーク） 第 11 回：複数を相手にするグループコーチング 第 12 回：一人でできるセルフコーチング 第 13 回：逆さまのピラミッドと目標管理 第 14 回：ティーチングとコーチングの使い分け 第 15 回：コーチングに関する実践事例（組織でのコーチング）

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート50%、課題提出（リアクションペーパー）30%、授業参加度20% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	なし。
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉指導法
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　７セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	本科目は、対人援助・社会支援において、他者の役割が理解でき、自らの役割を果たしながら他者や組織と協働できることを目的としている。また、より質の高い介護サービスの提供に向けて、介護福祉施設における指導・育成の知識や技術を学ぶ科目である。
到達目標	1. 介護福祉施設における組織の役割を理解することができる。 2. 職場のチームワークの向上のための指導法について考えることができる。 3. サービスの質の標準化の必要性とそのための指導について理解することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : 介護経営と個人、集団、組織 第 2 回 : 職員の満足度を高める指導法 第 3 回 : 利用者の満足度を高めるための仕組み 第 4 回 : 組織力を強化する理論と手法 第 5 回 : サービスの質の平常化のための指導法 第 6 回 : 自己変革を促す関わり方 第 7 回 : 自己成長を支える支援法 第 8 回 : 配置図と組織図 第 9 回 : 介護リーダーとしてのリーダーシップ 第 10 回 :　「実践したいケア」ができる組織作り 第 11 回 : 業務改善とは 第 12 回 : 事例　業務改善 第 13 回 : 集団とモチベーション 第 14 回 : 集団の負の側面 第 15 回 : リスクマネジメントの考え方

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート50%、課題提出（リアクションペーパー）30%、授業参加度20% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	包括的ケア論
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　７セメスター
科目概要	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
到達目標	1. 包括的ケアに関する必要な福祉サービス、他職種・他機関との連携について説明できる。 2. 自らの役割を理解し、他者と協働するために必要な包括的ケアの支援方法について、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：介護福祉士による生活支援、事例に基づく利用者理解 第 2 回：障害者への社会保障、社会福祉制度 第 3 回：退院支援と生活支援 第 4 回：退院後のサービス利用、障害福祉サービス事業所 第 5 回：頸髄損傷者の支援技術 第 6 回：自立生活運動への参加 第 7 回：近隣住民との連携、地域の事業所の理解 第 8 回：高齢者の福祉制度と障害者の福祉制度 第 9 回：高齢者となったこころとからだ 第 10 回：家族支援のための取り組み 第 11 回：住みやすいまちづくり　地域での生活の継続と介護福祉士の役割 第 12 回：親の介護　母親の認知症の症状出現 第 13 回：地域で生活を続ける 第 14 回：ケア単位の小規模化と個別ケア 第 15 回：地域包括ケアシステムと介護福祉士の今後

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『生活支援総論』光生館
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉の倫理
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。。
科目概要	社会福祉実践に欠くことのできない倫理について、各職能団体（社会福祉士会、介護福祉士会等）の倫理綱領やケアの倫理などに関する知識、視点について理解することを通して学ぶ。また、虐待や尊厳死などの具体的な事例を通して、これらの事象に関わる上で専門職倫理がどのような役割を果たすのか（果たすべきなのか）学修する。
到達目標	1. 実践事例を学ぶことを通して倫理綱領の必要性と具体的活用方法を理解する。 2. 福祉サービス提供組織におけるコンプライアンスについて理解する。 3. 対人援助･社会支援における倫理にかかわる問題を正しく認識することにより､適切な支援、対人援助専門職としての倫理に基づく内省ができるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション、福祉の倫理とは ※企業倫理と職業倫理という概念について／専門職の倫理綱領とは 第 2 回：ソーシャルワーカーの倫理綱領について①（前文・価値・原則） 第 3 回：ソーシャルワーカーの倫理綱領について②（倫理基準・行動規範） 第 4 回：介護福祉士会の倫理綱領について 第 5 回：高齢者分野の虐待事例に学ぶ①（居宅における事例） 第 6 回：高齢者分野の虐待事例に学ぶ②（施設内虐待） 第 7 回：高齢者分野の虐待事例に学ぶ③（高齢者虐待防止法について） 第 8 回：児童分野の虐待事例に学ぶ①（家庭内虐待） 第 9 回：児童分野の虐待事例に学ぶ②（児童施設内虐待） 第 10 回：児童、障がい領域における虐待防止関連法について 第 11 回：障がい者分野の虐待事例に学ぶ①（家庭内虐待） 第 12 回：障がい者分野の虐待事例に学ぶ②（施設、職場における虐待） 第 13 回：介護サービス事業所におけるコンプライアンスについて① ※介護サービス事業者に求められる法令遵守の要点 第 14 回：介護サービス事業所におけるコンプライアンスについて② ※介護サービス事業者における法令遵守責任者の役割 第 15 回：本科目全体のまとめ

アクティブラーニング	授業内で適時受講生が自分の考え、意見を述べたり、質問をしてもらえる機会を設け、双方向の授業展開をします。
評価方法	授業への取り組み状況 30%、小レポート 20%、定期試験(レポート)50%として評価します。 【授業への取り組み状況】 授業への参加度、リアクションの内容などを評価します。 【小レポート】 ケアの倫理に関する小レポートを作成して頂き、ルーブリックを用いて評価します。 【定期試験レポート】 授業で学んだ福祉の倫理に関するレポート（2000 字程度）を記述して頂きます。評価はルーブリックを用いて行います。
課題に対するフィードバック	毎回提出してもらうリアクションペーパーに関しては、次回の授業の冒頭でフィードバックし、小レポート課題等に関しても授業内でフィードバックする。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料を配布します。ビデオの視聴も行います。
参考図書	『ケースから学ぶ　高齢者ケアにおける介護倫理』医歯薬出版 2013
事前・事後学修	【事前学修】ソーシャルワーカーの倫理綱領、介護福祉士会の倫理綱領に事前に目を通しておいて下さい。また、第 7 回修了までにケアの倫理について調べてレポートを作成して頂きます。（レポート作成のために各回 20 分程度の事前学習が必要） 【事後学修】毎回の授業終了後に、社会福祉士、介護福祉士の倫理綱領に関してどのような存在価値があるかを自分なりに考察して下さい。（20 分）
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	組織と人材
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	組織と人材に関する理論を学ぶとともに、実際の介護福祉サービス提供組織に関する状況や人材育成・活用実践と理論を統合して理解できるようになることを目的とし、①組織に関しては、組織、連携、グループダイナミクス、リーダーシップに関する基礎的理論、各種組織のありようについて、②人材に関しては、人材とは何か、人材確保、人財育成の方法などについて学ぶ。
到達目標	1. 組織に関する理解を深めるとともに、実際の介護福祉サービス提供組織に関する状況や人材育成・活用実践と理論を統合して理解、説明できるようになる。 2. 人材に関する理解を深めるとともに、実際の介護福祉サービス提供組織における人材確保、人財育成の方法などの基礎的知識と状況を理解し、説明できるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション、組織とは 第 2 回：組織の成立意義と組織構造に関する理論 第 3 回：法人とは、社会福祉事業を担う組織のありかた 第 4 回：「営利法人・非営利法人」「財団法人・社団法人」とは 第 5 回：社会福祉法人概説 第 6 回：医療法人概説 第 7 回：ＮＰＯ法人概説 第 8 回：グループダイナミズムとリーダーシップ、多職種連携について 第 9 回：人材とは 第 10 回：介護福祉人材の状況と人材確保の方法 第 11 回：人材育成に関する理論 第 12 回：プリセプターシップのシステムについて 第 13 回：スーパービジョンについて 第 14 回：社会福祉法人における人材育成の実際 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	授業内で適時受講生が自分の考え、意見を述べたり、質問をしてもらえる機会を設け、双方向の授業展開をします。
評価方法	授業への取り組み状況 30%、小レポート 20%、定期試験（レポート）50%として評価します。 【授業への取り組み状況】 　授業への参加度、リアクションの内容などを評価します。 【小レポート】 　各種法人に関する小レポートを作成して頂き、ルーブリックで評価します。 【定期試験レポート】 　授業で学んだ組織と人材に関する総括レポート（2000 字程度）を記述して頂きます。評価は、ルーブリックを用いて行います。
課題に対するフィードバック	毎回提出してもらうリアクションペーパーに関しては、次回の授業の冒頭でフィードバックし、小レポート課題に関しても授業内でフィードバックします。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営　第 5 版　』中央法規 2017 年
参考図書	「OJT を効果的に行うためのプリセプターシップ」介護人材 Q&A 産労総合研究所 第 8 巻
事前・事後学修	【事前学修】シラバスに示したテキスト、事前配布資料の該当箇所を熟読して下さい。(20 分) 【事後学修】授業内容を復習し、内容を自らの言葉で説明できるようにして下さい。(20 分)
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間は、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉情報論
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の 位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	1.排泄の背景に観えた日本人の偉大さ－尊厳、畏敬、羞恥、健康。 2.道具を発明した理由とその効果。介護用具による支援の例と利点欠点。 3.寝たきりにさせない、しない、ならない、ためにすることとは。 4.職業としての介護があるからこそ考え得る健康と生活上にある健康要素。 5.各項目において工学、医学の基礎を盛り込む。
到達目標	1.日常における自分の生活上の動作・思考と、障害を持つ人の動作・思考を関連付けて考えるようになること。 2.　日常における自分の健康を社会や環境と関連付けて考えるようになること。 3.　職業としての福祉を福祉工学の視点を含めて考えるようになること。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1 回：導入―福祉と福祉工学 第 2 回：身体障害に対する支援-1(排泄の意味と排泄支援) 第 3 回：身体障害に対する支援-2（屋内生活活動の流れ、ベッド支援 移乗支援と移動支援） 第 4 回：身体以外の不足状態に対する支援-1(コミュニケーション支援) 第 5 回：身体以外の不足状態に対する支援-2(認知症者の支援、独居者の支援) ―健康見守り-1 第 6 回：道具の歴史、技術開発の歴史そしてロボット 第 7 回：医工学機器の発展と福祉機器の発展の相違点 第 8 回：興奮と癒し、遊びとしごと 第 9 回：寝たきりにさせない、しない、ならないためにどうするか 第 10 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-1（食に並存する健康要素と非健康要素） 第 11 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-2（住まいに並存する健康要素と非健康要素） 第 12 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-3（生活習慣に並存する健康要素と非健康要素） 第 13 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-4（社会環境と人） 第 14 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-5（自然環境と人） 第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのでなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活と健康について考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐ手段とする工学の視点を採り入れる。これらを一つにして考える工夫と意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	地域福祉演習
科目責任者	野田　由佳里
単位数他	１単位(30 時間)　選択　介護　６セメスター
科目の 位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	・地域福祉演習を通して管理者としての自覚を持ち、地域福祉における介護福祉士の特性を活かす活動について提案ができる力を修得し、対人援助職の役割を認識できる科目です。
到達目標	1.　保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚ができる。 2.　ニーズに合わせた支援の中で社会福祉専門職としての技術を用いることができる。 3.　介護福祉士養成教育で習得した知識を根拠づけて考えることができる。 4.　介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲで習得できた技術をもって利用者に主体的に関わることができる。 5.　管理職の機能及び実際的な役割の理解ができる。 6.　専門職教育の理解ができ、介護福祉士の専門性の再確認ができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 【地域福祉演習先の理解】 第 2 回：配属発表・配属先研究 第 3 回：問題意識の明確化・自己課題の抽出 第 4 回：地域福祉演習計画 【地域福祉演習の実際】 第 5 回：地域福祉演習【第一回】事前訪問 第 6 回：地域福祉演習【第二回】施設見学及び施設利用法 第 7 回：地域福祉演習の振り返り・スーパービジョン 第 8 回：地域福祉演習【第三回】配属部署の見学 第 9 回：地域福祉演習【第四回】配属先の会議への参加 第 10 回：地域福祉演習【第五回】配属先の管理者との面談 第 11 回：地域福祉演習の振り返り・スーパービジョン 【地域福祉演習を通しての専門職理解】 第 12 回：地域福祉演習体験の意味付け 第 13 回：地域福祉演習を通しての自己覚知 第 14 回：報告会準備 第 15 回：報告会

アクティブラーニング	・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします ・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します ・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します
評価方法	授業への参加態度及び振り返りレポート（40%）　　課題レポート（60%）
課題に対するフィードバック	・毎回の課題提出をMoodle利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードッバックを心掛けます
指定図書	『ケア・その思想と実践6　　ケアを実践するしかけ』岩波書店
参考図書	沢渡あまね「職場の問題地図」技術評論社
事前・事後学修	【事前学習】地域福祉演習計画の目的、毎回の目標をしっかり設定するために事前学習を丁寧に行いましょう。 【事後学修】地域福祉演習後、振り返りレポートをください。事後学習は必ず40分程度を行いましょう。振り返りをしっかり行い次回以降の地域福祉演習に活用して下さい
オフィスアワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	自立支援介護論
科目責任者	古川　和稔
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	自立支援介護の理論と実践方法の習得を目的とする。要介護高齢者の自立に向けた支援に必要な生理学、運郷学に基づく基礎理論を解説するとともに、先進施設における実践例なども紹介しながら講義を行う。
到達目標	1. 要介護高齢者の自立性回復に向けた支援のために必要な自立支援介護の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。 2. 自らの役割を理解し、他者と協働するために必要な自立支援介護の支援方法について、自らの言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：自立支援介護と生理学 自立支援介護および高齢者ケアの基本について理解する。 第 2 回：水の生理学(1) 体内における水分のはたらきについて理解する。 第 3 回：水の生理学(2) 水分のケアがもたらす効果について理解する。 第 4 回：水の生理学(3) 慢性心不全と水分ケアについて理解する。 第 5 回：食事ケアの生理学(1) 口腔機能の廃用症候群について理解する。 第 6 回：食事ケアの生理学(2) むせの原因とむせさせないための 5 原則について理解する。 第 7 回：食事ケアの生理学(3) 常食化のための基礎理論について理解する。 第 8 回：排泄ケアの生理学(1) 排泄をトイレで行うための 4 つのケアと戦略について理解する。 第 9 回：排泄ケアの生理学(2) 高齢者の便秘と下剤について理解する。 第 10 回：排泄ケアの生理学(3) おむつはずしのための支援方法について理解する。 第 11 回：歩行の生理学(1) 自立支援介護における歩行の重要性について理解する。 第 12 回：歩行の生理学(2) 歩行能力の再獲得について理解する。 第 13 回：歩行の生理学(3) 運動学習のステージについて理解する。 第 14 回：認知症ケアの生理学(1) 認知の構造について理解する。 第 15 回：認知症ケアの生理学(2) 認知症ケアの 4 原則について理解する。

アクティブラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20%によって評価する。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	授業中に随時提示
参考図書	『新版　介護基礎学』医歯薬出版、『介護の生理学』秀和システム
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の古川和稔研究室（2712研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	医療介護過程論
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について、自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	加齢や疾病、障害により、医療ニーズの高い利用者が増えるなか、さまざまな介護ニーズや背景のある人々が、医療や疾病と向き合い主体的な療養生活が送るための課題を論理的に把握し、エビデンスに基づいた介護過程の展開方法を学ぶ。 その人らしい療養生活、在宅での療養生活の視点から介護過程の展開を学び、医療における介護福祉の専門的役割を習得する。
到達目標	1. 看護過程と医療介護過程の相違について説明できる。 2. 退院後の在宅生活に着目した病院における医療介護過程の展開が説明できる。 3. 医療現場における介護福祉専門職の役割を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：医療介護過程の必要な背景 第２回：介護過程の復習 第３回：医療介護過程の基礎知識１（急性期病院） 第４回：医療介護過程の基礎知識２(回復期リハビリテーション病棟) 第５回：医療介護過程の基礎知識３(在宅医療) 第６回：医療介護過程の基礎知識４看護職・看護助手、チームケア)) 第７回：医療介護過程とは 第８回：看護過程の展開－事例検討１（病院での疾病） 第９回：看護過程の展開－事例検討２（在宅での疾病） 第 10 回：看護過程の展開－事例検討３（GW：看護過程の展開の理解） 第 11 回：看護過程の展開－事例検討３（資料準備） 第 12 回：医療介護過程の展開－展開事例の全体像の把握　　＊情報の関連図を描く 第 13 回：医療介護過程の展開－アセスメント 第 14 回：医療介護過程の展開－計画立案 第 15 回：医療介護過程の展開－発表

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%　　課題提出物20%　　定期試験６0% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図(第3版)/医学書院
参考図書	系統別高齢者フィジカル・メンタルアセスメント/日総研
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所、事前に配布したプリントを熟読する。(40分) 事後学修：授業での学習のポイントをノートにまとめ、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	チーム介護論
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　７セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	本科目は、大学で履修した講義、演習、実習を通して理解した人間の多様性を踏まえ、共生の価値観をもち人や社会と協調できることを目的とする。また、より質の高い介護サービス提供に向けて、介護福祉施設におけるチームの役割、多職種との連携を学ぶ科目である。
到達目標	1. 介護福祉施設における組織の役割を理解することができる。 2. 職場のチームワークの向上のための多職種連携について考えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： ガイダンス、チームとは 第 2 回：多職種の理解と介護福祉士の役割（基礎） 第 3 回：多職種の理解と介護福祉士の役割（事例検討） 第 4 回：多職種の理解と介護福祉士の役割（事例まとめ） 第 5 回：多職種の理解と介護福祉士の役割（発表） 第 6 回：チームメンバーの役割（基礎） 第 7 回：チームメンバーの役割（グループワーク） 第 8 回：チームメンバーの役割（グループワークまとめ、発表） 第 9 回：チームでのコミュニケーション（基礎） 第 10 回：チームでのコミュニケーション（グループワーク） 第 11 回：チームでのコミュニケーション（グループワークまとめ） 第 12 回：チームでのコミュニケーション（発表） 第 13 回：組織の中でのチームの役割（基礎） 第 14 回：組織の中でのチームの役割（グループワーク） 第 15 回：組織の中でのチームの役割（グループワークまとめ、発表）

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート50%、課題提出（リアクションペーパー）30%、授業参加度20% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。
課題に対するフィードバック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	リーダーシップ論
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　7セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	本科目では、リーダーシップの理論を学び、実践に活用できる力を身につけて頂きます。 主に介護福祉専門職が働く場である「介護福祉サービスを提供している組織」におけるリーダーシップのあり方について、様々なリーダーシップ理論のうち、どのような理論が適用できるのかなど、実践的な視点で思考し、発表して頂きます。
到達目標	1. リーダーシップの理論について理解、説明できるようになる。 2. リーダーシップの理論と介護福祉実践におけるリーダーシップのありようとを結びつけて考察し、表現することができるようになる。 3. これまでの学びを通して理解した＜人間の多様性＞を踏まえ、共生の価値観をもち、人や社会と協調し、様々な変革をもたらすことのできるリーダーシップを発揮できるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション、リーダーシップとは 第 2 回：　リーダーシップについて体験を元に分析・考察する 第 3 回：リーダーシップ理論の歴史（特性論から行動論そして条件適応理論へ） 第 4 回：レヴィンのリーダーシップ類型、三隅二不二の PM 理論 第 5 回：コンティンジェンシー理論　（フィードラー理論） 第 6 回：コンティンジェンシー理論　（パス・ゴール理論） 第 7 回：　サーバント・リーダーシップ理論の概要 第 8 回：　サーバント・リーダーシップ理論の実際 第 9 回：　サーバント・リーダーシップ理論の活用 第 10 回：リーダーシップのあり方について考える　ーハチドリの一滴ー 第 11 回：リーダーシップのあり方について考える　ーカモメになったペンギンー 第 12 回：リーダーシップのあり方について分析（図解化）する 第 13 回～14 回：リーダーシップのあり方に関する発表会 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	授業内で適時受講生が自分の考え、意見を述べたり、質問をしてもらえる機会を設け、双方向の授業展開をします。
評価方法	授業への取り組み状況（発表内容含む）50%、定期試験（レポート）50%として評価します。 【授業への取り組み状況】 　授業への参加度、リアクションの内容などを評価します。 【小レポート】 　サーバント・リーダーシップに関する小レポートを作成して頂き、ルーブリックを用いて評価をします。 【定期試験レポート】 　リーダーシップを学ぶことの意義に関するレポート（2000 字程度）を記述して頂きます。評価はルーブリックを用いて行います。
課題に対するフィードバック	毎回提出してもらうリアクションペーパーに関しては、次回の授業の冒頭でフィードバックし、発表内容に関しても授業内でフィードバックする。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11　福祉サービスの組織と経営』中央法規　2012 年
参考図書	『サーバントリーダーシップ入門』かんき出版 2007 年
事前・事後学修	【事前学修】リーダーシップ理論に関して、関連図書や WEB サイトで事前に調べてきて下さい。(20 分) 【事後学修】毎回の授業終了後、自分自身が体験してきた（いる）実際の事象においてリーダーシップがどのような形で表れていた（いる）のかを考察して下さい。(20 分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉教育論
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　７セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	介護福祉養成教育や介護領域の指導者にかかわる人材育成の質的向上を目指すために、利用者・障害者のあらゆる状態を論理的に把握し、分析的思考にもとづいた援助者の行動目標を設定するための介護の理論と実践の融合について学習する。 介護教育の思想的根拠の原理を携えた専門職育成のための教育方法論や、社会貢献能力について学習する。
到達目標	1.介護福祉士養成教育の目的を説明できる。 2.介護福祉士養成教育の内容を説明できる。 3.介護福祉士養成教育の教育課程編成が理解できる。 4. 介護福祉士養成教育の授業計画案が理解できる。 5.介護福祉士養成教育の指導案が理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１ 回 ガイダンス・介護福祉養成教育の全体像 第２ 回 介護福祉士養成教育の歴史と背景と制度の変遷 第３ 回 専門職としての介護福祉士がなぜ必要なのか 第４回介護福祉士養成教育の内容を考える 第５ 回 介護福祉を学ぶ学生の気質 第６回基本教育目標とその教育内容 第７ 回 「学習基礎演習Ⅰ」授業計画案と指導案 第８回「学習基礎演習Ⅱ」授業計画案と指導案」 第９ 回 「人間と社会」領域の教育方法 第10 回「選択科目」領域の教育方法 第11回 「こころとからだのしくみ」領域の教育方法 第12回 「介護」領域の教育方法 第13回 授業計画立案・指導計画立案・授業案作成（グループワーク） 第14回 グループ発表会 第15回 授業研究の視点から考察しまとめる。

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%、課題提出物20%　筆記試験60%、 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「介護教育方法論」　著者　川廷宗之　弘文堂
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40分) 事後学修：授業での学習ポイントをノートにまとめ、内容について自らの言葉で説明できるようにする。疑問点を調べる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉研究法
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	われわれは日々、種々の影響を含めサービスを受けながら生活している。または、サービスなしでは生きられない。本科目はこのような社会科学、人文科学、自然科学にわたる学際的広範囲な分野を満足の科学、健康の科学としてとらえた福祉工学を実践的に構成する一つの手法である。各項目において工学、医学の基礎を盛り込む。
到達目標	(1)我々は人、社会、人為環境、自然環境からサービスの提供を受けていることを理解する。 (2)そのサービスが心の満足、身体の満足を誘導し、その結果健康を作るということを理解する。 (3)他の人に提供するサービスが持つ意味を考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：導入―サービスを受けて生活していること（システム工学の考え方） 第 2 回：　することと、してもらうことの関係（提供者と被提供者） 第 3 回：心の満足・身体の満足と健康 第 4 回：モノ、情報、動作等というサービスがもたらす満足 第 5 回：言語と非言語によるコミュニケーション(意識・無意識との関連) 第 6 回：屋内環境が提供するサービスがもたらす満足 第 7 回：社会環境、自然環境が提供するサービスがもたらす満足 第 8 回：おもてなし(提供する心と享受する心の整合) 第 9 回：ストレスと満足と無関心 第 10 回：健康をつくる５個の要素 第 11 回：社会参加とコミュニティー 第 12 回：願望と畏敬が導いた満足と健康（道具の歴史に託された心） 第 13 回：身体の衣食住と心の衣食住 第 14 回：介護というサービスを提供する立場 第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのでなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活において我々は人、社会、自然からサービス（＝刺激）を受けている。逆に他の人にサービスを届けている。中には健康を作るものもあれば蝕むものもある。これを福祉工学の視点で具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐという視点を日々心がけることを求める。このため、新たな視点を学び気がつくという意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	介護福祉実践演習Ⅰ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　7セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。さまざまな対象者の課題解決に向け実践する能力を身につける。
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「人間と社会」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　人間と社会①・・・人間の尊厳と自立 第２回　人間と社会②・・・人間関係とコミュニケーション 第３回　人間と社会③・・・社会の理解 第４回　介護の基本①・・・介護福祉士を取り巻く状況、 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、尊厳を支える介護、 第５回　介護の基本②・・・自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解 介護サービス、介護実践における連携 第６回　介護の基本③・・・　介護従事者の倫理、介護従事者の安全、 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第７回　コミュニケーション技術①・・・介護におけるコミュニケーションの基本、 第８回　コミュニケーション技術②・・・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるコミュニケーション 第９回　生活支援技術①・・・生活支援、自立に向けた居住環境の整備、 自立に向けた身じたくの介護, 第 10 回　生活支援技術②・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、 第 11 回　生活支援技術③・・・自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、 第 12 回　生活支援技術④・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた移動の介護、 第 13 回　生活支援技術⑤・・・自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、 自立に向けた終末期の介護、 第 14 回　介護過程①・・・介護過程の意義、介護過程の展開 第 15 回　介護過程②・・・介護過程の実践的展開　、介護過程とチームアプローチ

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%、課題提出物20%、筆記試験60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	教科書全書
参考図書	介護福祉絶対合格テキスト/大和書房
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40分) 事後学修：演習問題の根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉実践演習Ⅱ
科目責任者	秋山　恵美子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　介護　８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「こころとからだのしくみ」の内容のすべてが理解できる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回　発達と老化の理解①・・・人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 第２回　発達と老化の理解②・・・高齢者と健康 第３回　認知症の理解①・・・認知症を取り巻く状況、 第４回　認知症の理解①・・・　医学的側面からみた認知症の基礎 第５回　認知症の理解②・・・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援 第６回　障害の理解①・・・障害の基礎的理解、 障害の医学的側面の基礎的理解（身体障害、精神障害） 第７回　障害の理解②・・・障害の医学的側面の基礎的理解（知的障害、発達障害、難病、障害のある人の心理、障害に伴う機能の変化と影響） 連携と協働、家族への支援 第８回　こころとからだのしくみ①・・・こころのしくみの理解、からだのしくみの理解 第９回　こころからだのしくみ②・・・ 身じたくに関連したこころとからだのしくみ、 移動に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ 第10回　こころとからだのしくみ③・・・ 入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ、 排泄に関連したこころとからだのしくみ 第11回　こころとからだのしくみ④・・・ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 死にゆく人のこころとからだのしくみ 第12回　医療的ケア・・・医療的ケア実施の基礎 第13回　医療的ケア・・・喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内） 経管栄養（胃ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養） 第14回　医療的ケア・・・総合問題 第15回　まとめ

アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	授業態度20%、課題提出物20%、筆記試験60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィードバック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	教科書全書
参考図書	介護福祉絶対合格テキスト/大和書房
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40分) 事後学修：演習問題の根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉支援工学入門
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	２単位（30 時間）　選択　介護　５セメスター
科目の 位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	1.排泄の背景に観えた日本人の偉大さ－尊厳、畏敬、羞恥、健康。 2.道具を発明した理由とその効果。介護用具による支援の例と利点欠点。 3.寝たきりにさせない、しない、ならない、ためにすることとは。 4.職業としての介護があるからこそ考え得る健康と生活上にある健康要素。 5.各項目において工学、医学の基礎を盛り込む。
到達目標	1.日常における自分の生活上の動作・思考と、障害を持つ人の動作・思考を関連付けて考えるようになること。 2.　日常における自分の健康を社会や環境と関連付けて考えるようになること。 3.　職業としての福祉を福祉工学の視点を含めて考えるようになること。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1 回：導入―福祉と福祉工学 第 2 回：身体障害に対する支援-1(排泄の意味と排泄支援) 第 3 回：身体障害に対する支援-2（屋内生活活動の流れ、ベッド支援 移乗支援と移動支援） 第 4 回：身体以外の不足状態に対する支援-1(コミュニケーション支援) 第 5 回：身体以外の不足状態に対する支援-2(認知症者の支援、独居者の支援) ―健康見守り-1 第 6 回：道具の歴史、技術開発の歴史そしてロボット 第 7 回：医工学機器の発展と福祉機器の発展の相違点 第 8 回：興奮と癒し、遊びとしごと 第 9 回：寝たきりにさせない、しない、ならないためにどうするか 第 10 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-1（食に並存する健康要素と非健康要素） 第 11 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-2（住まいに並存する健康要素と非健康要素） 第 12 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-3（生活習慣に並存する健康要素と非健康要素） 第 13 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-4（社会環境と人） 第 14 回：環境に対する福祉工学の視点と健康-5（自然環境と人） 第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのでなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活と健康について考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐ手段とする工学の視点を採り入れる。これらを一つにして考える工夫と意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	福祉サービス工学入門
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　６セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	われわれは日々、種々の影響を含めサービスを受けながら生活している。または、サービスなしでは生きられない。本科目はこのような社会科学、人文科学、自然科学にわたる学際的広範囲な分野を満足の科学、健康の科学としてとらえた福祉工学を実践的に構成する一つの手法である。各項目において工学、医学の基礎を盛り込む。
到達目標	(1)我々は人、社会、人為環境、自然環境からサービスの提供を受けていることを理解する。 (2)そのサービスが心の満足、身体の満足を誘導し、その結果健康を作るということを理解する。 (3)他の人に提供するサービスが持つ意味を考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1 回 : 導入―サービスを受けて生活していること（システム工学の考え方） 第 2 回 :　することと、してもらうことの関係（提供者と被提供者） 第 3 回 : 心の満足・身体の満足と健康 第 4 回 : モノ、情報、動作等というサービスがもたらす満足 第 5 回 : 言語と非言語によるコミュニケーション(意識・無意識との関連) 第 6 回 : 屋内環境が提供するサービスがもたらす満足 第 7 回 : 社会環境、自然環境が提供するサービスがもたらす満足 第 8 回 : おもてなし(提供する心と享受する心の整合) 第 9 回 : ストレスと満足と無関心 第 10 回 : 健康をつくる５個の要素 第 11 回 : 社会参加とコミュニティー 第 12 回 : 願望と畏敬が導いた満足と健康（道具の歴史に託された心） 第 13 回 : 身体の衣食住と心の衣食住 第 14 回 : 介護というサービスを提供する立場 第 15 回 : 職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのでなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活において我々は人、社会、自然からサービス（＝刺激）を受けている。逆に他の人にサービスを届けている。中には健康を作るものもあれば蝕むものもある。これを福祉工学の視点で具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐという視点を日々心がけることを求める。このため、新たな視点を学び気がつくという意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	福祉生体工学入門
科目責任者	大川井　宏明
単位数他	２単位（30 時間）選択　介護　７セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	福祉生体工学によって介護学、リハビリテーション学等及びその実務における質の向上を図るための要素である生理学を身体の物理学の視点で学ぶ。これを基にして身体の観測、身体の保護、身体の動作について原理と方法を理解する。
到達目標	1.身体を計測し、解釈し、表現することを身体の物理学を使って考える。 2.介護動作の意味と負荷軽減の利点と欠点を物理学を使って考える。 3.日常生活動作、体操、ストレッチ等の意味と、効率よく安全に他を介護したり、自他の健康維持を図ったりすることを物理学を使って考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：導入ーライフサイエンスの中の福祉生体工学 第 2 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-1（脊柱と関節と筋） 第 3 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-2（てこの原理） 第 4 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-3（骨格筋の収縮活動と相補構造） 第 5 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-4（負荷と負荷軽減という相反性のもつ意義） 第 6 回：生体組織のゆるやかな変形（静的歪み。主動的な運動と受動的な運動） 第 7 回：生体組織の俊敏な変形（動的歪み。主動的な運動と受動的な運動） 第 8 回：細胞と組織の構造と機能／水の恩恵 第 9 回：重力の恩恵／廃用症候群 第 10 回：歩行様態から観える骨格筋の生理学(身体を電気で観る／力学で観る） 第 11 回：物理学の視点で観える循環器系の生理学(身体を電気で観る／力学で観る） 第 12 回：骨格筋と心筋における構造と機能の差異(制御、疲れ、痛み）（身体を電気で観る／力学で観る） 第 13 回：歩行、睡眠からわかる健康様態の変化 第 14 回：身体を光、電波、電磁波で観る（計測と治療） 第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える

アクティブラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのでなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によっての講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活と健康について考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐ手段とする工学の視点を採り入れる。これらを一つにして考える工夫と意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	インターンシップⅠ　※介護福祉学科
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（90 時間）　選択　介護　５～８セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本科目は、インターンシップを通して管理者としての自覚を持ち、多角的に経営をする大規模法人における社会福祉及び地域福祉における介護福祉士の特性を活かす活動について提案ができる力を修得し、対人援助職の役割を理解することを目的としている。さらに、キャリアモデルについて考える機会を提供する科目である。
到達目標	1. 介護福祉士養成教育及び社会福祉士養成教育で習得した知識を就職への動機づけとして考えることができる。 2. 介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ・ソーシャルワーク実習で習得できた技術をもって利用者に主体的に関わることができる。 3. 地域貢献を目指す法人の機能及び実際的な役割の理解ができる。 4. 専門職教育の理解ができ、介護福祉士の専門性について言語化できる。 5. 大規模法人の役割・地域で果たす役割や地域資源について理解することができる。 6. 多くの職員や法人スタッフとの交流を通してキャリアデザインを描くことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　オリエンテーション 【インターンシップ先の理解】 第 2 回　配属発表・配属先研究 第 3 回　問題意識の明確化、自己課題の抽出 第 4 回　インターンシップ計画 【インターンシップの実際】 第 5 回　インターンシップ：事前訪問 第 6 回　インターンシップ：施設見学及び施設利用法 第 7 回　インターンシップの振り返り 第 8 回　インターンシップ：配属部署の見学 第 9 回　インターンシップ：配属先の会議への参加 第 10 回　インターンシップ：配属先の管理者との面談 第 11 回　インターンシップの振り返り 【インターンシップを通しての専門職理解】 第 12 回　インターンシップ体験に関するアウトプット 第 13 回　インターンシップを通しての自己覚知 第 14 回　報告会準備 第 15 回　報告会

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、課題はMoodleに提出する。
評価方法	課題レポート2回（100%）
課題に対するフィードバック	Moodleに提出された課題については、次の授業時にフィードバックを行う。
指定図書	渡辺三枝子　著『はじめてのインターンシップ』ARTES
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：インターンシップ計画の目的、毎回の目標をしっかり設定するために事前学習を丁寧に行いましょう。(40分) 事後学修：インターンシップ後、振り返りレポートの作成をしてください。事後学習は必ず40分程度を行いましょう。振り返りをしっかり行い、今後の就職活動に活用して下さい。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	インターンシップⅡ　※介護福祉学科
科目責任者	井川　淳史
単位数他	２単位（90 時間）　選択　介護　５～８セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本科目は、インターンシップを通して管理者としての自覚を持ち、地域福祉における介護福祉士の特性を活かす活動について提案ができる力を修得し、対人援助職の役割を理解することを目的としている。さらに、キャリアビジョンについて考える機会を提供する科目である。
到達目標	1. 介護福祉士養成教育及び社会福祉士養成教育で習得した知識を就職への動機づけとして考えることができる。 2. 介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ・ソーシャルワーク実習で習得できた技術をもって利用者に主体的に関わることができる。 3. 地域貢献を目指す法人の機能及び実際的な役割の理解ができる。 4. 専門職教育の理解ができ、介護福祉士の専門性について言語化できる。 5. 大規模法人の役割・地域で果たす役割や地域資源について理解することができる。 6. 多くの職員や法人スタッフとの交流を通してキャリアデザインを描くことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　オリエンテーション 【インターンシップ先の理解】 第 2 回　配属発表・配属先研究 第 3 回　問題意識の明確化、自己課題の抽出 第 4 回　インターンシップ計画 【インターンシップの実際】 第 5 回　インターンシップ：事前訪問 第 6 回　インターンシップ：施設見学及び施設利用法 第 7 回　インターンシップの振り返り 第 8 回　インターンシップ：配属部署の見学 第 9 回　インターンシップ：配属先の会議への参加 第 10 回　インターンシップ：配属先の管理者との面談 第 11 回　インターンシップの振り返り 【インターンシップを通しての専門職理解】 第 12 回　インターンシップ体験に関するアウトプット 第 13 回　インターンシップを通しての自己覚知 第 14 回　報告会準備 第 15 回　報告会

アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、課題はMoodleに提出する。
評価方法	課題レポート2回（100%）
課題に対するフィードバック	Moodleに提出された課題については、次の授業時にフィードバックを行う。
指定図書	黒越誠治　著『使えるインターンシップ　良い会社・悪い会社の見分け方』日経BP社
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習：インターンシップ計画の目的、毎回の目標をしっかり設定するために事前学習を丁寧に行いましょう。(40分) 事後学修：インターンシップ後、振り返りレポートの作成をしてください。振り返りをしっかり行い今後の就職活動に活用して下さい。(40分)
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉実習Ⅰ　※介護福祉学科
科目責任者	落合　克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】 　授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 　実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180 分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180 分)
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉実習Ⅱ　※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】 　授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 　実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180 分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180 分)
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉実習Ⅲ　※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】 　授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 　実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180 分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180 分)
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉実習Ⅳ　※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能
単位数他	２単位(90 時間)　選択　介護　４～８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。 注）福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。
到達目標	1. 福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。 2. 福祉職従事者の視点や実践方法（実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで）を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20% 【事前学習・事後学修】 　授業中への参加度、リアクション等により評価します。 【実習】 　実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対するフィードバック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180 分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180 分)
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。

科目名	キリスト教保育
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　４セメスター
科目の 位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	聖書に描き出されている世界観・こども観や、保育や育児の捉え方について学ぶ。聖書の言葉に生きた人々の実践からキリスト教保育に携わる者の在り方について考察する。さらに今日の日本におけるキリスト教教育・保育について、実践から検討する。キリスト教保育が一般の保育、現代社会の課題に対して持つ意義について理解する。
到達目標	1.　キリスト教保育における世界観・子ども観について理解を深める。 2.　聖書・キリスト教的価値観と現代の保育への影響について理解する。 3.　キリスト教保育の実践・保育者のあり方について理解する。 4.　提示された材料（資料・DVD・懇談）と向き合い、思考を活性化させる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　聖書の世界観・子ども（人間）について 第 2 回：　マザー・テレサの言葉と人間観・子ども観 第 3 回：　マザー・テレサの働きから見る「使命感」とは 第 4 回：　聖書の言葉に生きた人物たち 第 5 回：「愛する」ということについて　ーナルニア国物語より 第 6 回：「愛する」ということについて　ーC.S.　ルイスから 第 7 回：　人が育ち・いきいきと生きるために必要なこと（聖書は何と言っているか） 第 8 回：　人が育ち・いきいきと生きるために必要なこと（存在・主体性・回復） 第 9 回：　キリスト教保育の実践ー物語り 第 10 回：キリスト教保育の実践―ページェント・こども賛美歌（クリストファーこども園児） 第 11 回：キリスト教保育の実践―　祈り 第 12 回：キリスト教保育における保育・保育者（キリスト教保育指針が示す内容） 第 13 回：キリスト教保育における保育の 独自性 第 14 回：キリスト教保育と現代社会の課題 第 15 回：まとめ（レポート課題）

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料・実演）もとにグループディスカッションや発表等、 共同的な学びを行う。
評価方法	授業参加態度（課題を含む）：50%　　レポート課題：50%
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー（コラム）をもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。14 回終了までに全回が記入されたリアクションペーパーを返却。それを見ながら全体的な授業の振り返りを行う。 レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
指定図書	プリントを配布する。
参考図書	新キリスト教保育指針（キリスト教保育連盟）
事前・ 事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は 40 分）
オフィスアワー	初回事業に提示する。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　必修　こども　２セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目は保育士および社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚労省の「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的とする。特に①実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解②他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力の涵養③ソーシャルワークの相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の習得を意図し、④具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により行う。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 自らの役割を理解し、他者と協働しようとする姿勢をもつ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞＜担当教員＞坂本道子、藤田美枝子 第 1 回： オリエンテーション、自己紹介・他己紹介 第 2 回： 自己理解と他者理解 ①―エゴグラム等心理性格テストによる自己理解 第 3 回： 自己理解と他者理解 ②―ジョハリの窓等を活用した自己理解 第4 回： 自己理解と他者理解 ③―食べさせられる体験、聞こえない体験 第 5 回： 自己理解と他者理解 ④―話せない体験、見えない体験 第 6 回： 自己理解と他者理解 ⑤―車いす体験 第 7 回： 自己理解と他者理解 ⑥－高齢者体験 第8 回：コミュニケーションの基礎 ①―ラポールを確立するための面接者の態度 第9 回： コミュニケーションの基礎 ②―ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際 第10 回： コミュニケーションの基礎 ③―面接におけるラポールと傾聴の重要性 第11回： コミュニケーションの基礎 ④―バーバルコミュニケーションの実際 ① 第 12 回： コミュニケーションの基礎 ⑤―バーバルコミュニケーションの実際 ② 第 13 回： コミュニケーション技法と面接の基礎 ①―促しの技法、繰返しの技法、要約の技法 坂本・藤田 第 14 回： コミュニケーション技法と面接の基礎 ②―共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法、沈黙の技法 第 15 回： まとめと振り返り

アクティブラーニング	演習科目であるため、毎回、擬似体験を伴う自己学習の課題を提示します。授業には、出席するだけではなく、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
評価方法	授業への取組姿勢25% 、毎回授業時提出小レポート25%、定期試験レポート50%（今年度はルーブリックは用いない）
課題に対するフィードバック	15回終わったところで、14回分のリアクションペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をしていただきます。
指定図書	授業中に印刷物資料等で提示
参考図書	一番ヶ瀬康子監修・坂本道子・丹野真紀子編著『社会福祉援助技術演習』建帛社 諏訪茂樹『対人援助とコミュニケーション――主体的に学び、感性を磨く』中央法規
事前・事後学修	事前学修：前回行ったことを思い出し、プリント等を事前に読む 事後学修：授業内容を、①事実　②感想　③考察　に区分して言語化文字化する。 合わせて40分程度
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　　藤田研究室(2610)　　時間は授業で提示する

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　必修　こども　３セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目は保育士および社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚生労働省が指定する科目のねらいを反映し、「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的としている。なかでも、ソーシャルワーク演習Ⅰで行った「自己覚知」「基本的なコミュニケーション技術の習得」の学びを土台に、本科目では「基本的な面接技術の習得」および「倫理・価値」について、グループワークや具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を、演習形式により展開する。
到達目標	1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。 2. グループ討議を通して受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。 3. 人間の多様性を通して、共生の価値観をもつ。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞坂本道子、藤田美枝子 ＜担当教員＞　　(第１回目全体，２回目～８回及び９回～15 回　２クラス×２教員 第 1 回： オリエンテーション、グループ分け、グループワークについて 第 2 回： 自他の価値①―大切なもの、価値の順位 第 3 回： 自他の価値②―価値の対立、ジレンマ 第 4 回： 価値観と専門職①―倫理綱領 第 5 回： 価値観と専門職②―行動指針 第 6 回： 価値観と専門職③―事例検討（利用者のジレンマ） 第 7 回： 価値観と専門職④―事例検討（専門職としてのジレンマ） 第 8 回：自他、及び専門職としての価値のまとめ 第 9 回：面接におけるコミュニケーション①―援助者の基本姿勢と原則 第 10 回：面接におけるコミュニケーション②―基本的コミュニケーション 第 11 回：面接におけるコミュニケーション③―基本的応答技法 と活用 第 12 回：面接におけるコミュニケーション④―傾聴と共感、支持、焦点化 第 13 回：面接におけるコミュニケーション⑤―ロールプレイ（日常生活場面） 第 14 回：面接におけるコミュニケーション⑥―ロールプレイ（面接場面） 第 15 回：面接におけるコミュニケーション⑦― まとめ

アクティブラーニング	演習科目であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
評価方法	授業への取組姿勢25% 、毎回授業時提出小レポート25%、定期試験レポート50% (今年度はルーブリックを用いない)
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	授業中に印刷物資料等で提示
参考図書	一番ヶ瀬康子監修・坂本道子・丹野真紀子編著『社会福祉援助技術演習』建帛社 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 フレデリック・G.リーマー他『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規 岩間伸之『対人援助のための相談面接技術――逐語で学ぶ21の技法』中央法規
事前・ 事後学修	事前学修：前回行ったことを思い出し、プリント等を事前に読む 事後学修：授業内容を、①事実　②感想　③考察　に区分して言語化文字化する。 合わせて40分程度
オフィスアワー	坂本研究室（2612）　藤田研究室(2610)　　時間は授業で提示する

科目名	保育原理
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）　必修　こども　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子どもの育ちは、その社会環境に大きく影響をされる。現代における保育の課題は何か、それに対してどのような保育が求められるかを学ぶ。保育の思想・歴史・制度について理解を深める。保育所の役割と保育所保育（内容）の概要について理解する。保育に携わる者の在り方について考察をする。
到達目標	1.　保育の意義と目的について理解する（法的根拠・制度的位置づけを理解する） 2.　保育所保育指針に示される保育の目標・内容について理解する。 3.　保育の思想・歴史や制度の変遷について理解する。 4.　子どもを取り巻く社会の現状・課題と保育（育児）の在り方について理解する。 5.　保育に携わる者としての姿勢・使命について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：保育の意義と目的―保育所に関する法的根拠・保育所の役割（保育所保育の目的） 第 2 回：保育の目標・方法・環境、保育所の社会的責任（保育所保育指針） 第 3 回：保育のねらい及び内容（保育所保育指針） 第 4 回：子どもの発達と保育（遊びを通しての学び） 第 5 回：子どもの発達や学びと保育・モンテッソーリ・メッソドから考察する ゲストスピーカー 第 6 回：子どもの健全な育ちと子育て　モンテッソーリ・メッソドから考察する ゲストスピーカー 第 7 回：子どもの健康・安全 第 8 回：保護者支援（地域子育て支援） 第 9 回：日本における保育の思想・歴史的変遷・制度 第 10 回：北欧・オセアニア地域における保育の思想・歴史的変遷・制度 第 11 回：子どもの育ちと社会環境、現代の保育（育児）の課題と取り組み 第 12 回：保育に携わる者の姿勢 第 13 回：子どもの育ちを支えるという使命 第 14 回：保育・保育者の資質向上 第 15 回：まとめ（小テスト）

アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）もとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
評価方法	小テスト 40%、レポート課題 30%、授業への取り組み 30% レポート課題はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーを元に次の授業の中でフィードバックをする。
指定図書	2017 年改訂「保育所保育指針（解説付き）」
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。 原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オフィスアワー	初回に提示する。

科目名	教育原理
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位(30 時間)　必修　こども　１セメスター
科目の 位置付	教職 DP(1)教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。
科目概要	この授業では、「教育」や「こども」をめぐる思想や制度の歴史や多様性を学ぶことで、現代の教育を捉え直し、教育の基本をつかみます。それは自分を形成した「教育」から身を引き離し、新しい「教育」の主体として生まれ変わるプロセスです。たんに知識を受動的に覚えるのではなく、自らの考えを主体的に形成することが求められます。
到達目標	1.　教育の基礎的知識（意義・目的、思想と歴史的変遷、内容・方法、制度等）について説明できる。 2.　教育の現実（実践、今日的課題）を原理的に理解し、説明できる。 3.　日本の教育・保育の基本である「指針」「要領」の教育観を説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：なぜ教育者をめざすのか？：保育と教育・教育の意義・児童福祉との関連 第 2 回：だれのための教育か？：教育の目的とその変遷 第 3 回：園で子どもはどのように育つのか？：教育と家庭・地域・学校 第 4 回：子ども観と教育観の変遷 第 5 回：諸外国の教育の思想 ①古代ギリシア・コメニウス・ルソー・ペスタロッチ 第 6 回：諸外国の教育の思想 ②フレーベル・モンテッソーリ・デューイ 第 7 回：諸外国の教育の歴史 第 8 回：日本の教育の思想 第 9 回：日本の教育の歴史 第 10 回：教育法規と教育行政の基礎 第 11 回：教育制度の比較：日本と諸外国 第 12 回：教育実践の基礎理論―内容・方法・計画と評価― 第 13 回：教育実践の多様な取り組み 第 14 回：生涯学習社会と教育 第 15 回：現代の教育課題とまとめ

アクティブラーニング	各回のテーマに沿ったディスカッション・プレゼンテーション・リアクションペーパーへのコメント
評価方法	小テスト 50%、レポート 50%ですが、授業への貢献度などを含め、総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。
課題に対するフィードバック	テストに関しては模範解答を示す・レポートはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	『幼稚園教育要領解説』(文部科学省) 『保育所保育指針解説書』(厚生労働省)
参考図書	ルソー『エミール』(岩波文庫)、フレーベル『人間の教育』(岩波文庫)、モンテッソーリ『子どもから始まる新しい教育』(風鳴舎)
事前・事後学修	事前:指定された文献を読んでくる。あるいは、指定された課題に取り組む (20 分)。 事後:授業をふまえて自分の興味・関心に沿ってさらに探求し、まとめていく (20 分)。
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。

科目名	保育者論
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位数（30 時間）　必修　こども　１セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	保育のプロフェショナルを目指すとはどういうことなのかを考察します。保育者（主に保育士）の責務や倫理について理解を深めます。
到達目標	1.　保育者の役割と倫理について理解し説明することができる。 2.　保育士・幼稚園教諭（保育教諭）に求められる資質について理解する。 3.　保育者の専門性について理解する。 4.　保育者の協働について理解する。 5.　保育者の専門的成長について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：「いのち」を育むって？　保育って何？ 第 2 回：保育者を目指そうと思ったのはなぜ？ 第 3 回：保育園の目的・内容と保育士の役割・保育士の専門的な知識と技術とは？ 第 4 回：幼児教育の目的・内容と保育者の役割 第 5 回：「いのち」を守るって？ 第 6 回：保育者の資質として求められること 第 7 回：保育士の責務と倫理―子どもの最善の利益の尊重・子どもの発達保障 保護者との協力・プライバシーの保護 第 8 回：保育士の責務と倫理－利用者の代弁・地域子育て支援 専門職としての責務 第 9 回：連携・協動・チームワークに必要なこと－体験から理解しよう！ 第 10 回：保育観とは？ 第 11 回：自分の理想とする保育 第 12 回：子どもと保育の実際：保育現場見学（こども園） 第 13 回：こども園を見学して―ディスカッション 第 14 回：保育者を目指す者としての成長 第 15 回：まとめと今後の課題（小テスト）

アクティブラーニング	こども園見学・協同的ワーク等を通して体験的に理解する方法を用いる。提示された教材もとにグループディスカッションや発表を行う。
評価方法	小テスト 50%　　課題提出物 30%　授業への取り組み 20% 演習・課題提出物・小テストにより評価をするが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー（コラム）を次の回にコメントして返却する。及び授業の中でフィードバックをする。15 回終わったところで、全回が記入されたリアクションペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をする。
指定図書	2017 年改訂「保育所保育指針解説」 柏女霊峰監修「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会
参考図書	授業の中で随時提示します。
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。原則として 40 分程度の事前・事後学習をすること
オフィスアワー	初回授業において提示します。

科目名	保育・教育実践演習(幼稚園)
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位数（30 時間）　必修　こども　８セメスター
科目の位置付	教職 DP(2)教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	保育者を目指すためのこれまでの学修の総括を行う。保育職（教職）に求められる以下の４つの事項①使命感や愛情、②社会性や対人関係、③乳幼児理解やクラスマネージメント（学級経営)、④保育内容等の援助・指導力に関する自己評価を行い、課題を明らかにし、解決のための具体的方法を設定して実際化する。また保護者支援の要点や効果的な方法についてさらなる理解を深める。さらに幼稚園教諭・保育士として必要な協働・連携による教育・保育についての視点やコミュニケーション能力を獲得する。卒業を前にして改めて保育職（教職）に就くことの意味を問いながら、自らの人間性と専門性を向上に努めようという意志を持つことを目的とする。
到達目標	1.　保育者を目指す者としての自己の課題を明らかにし、課題解決に向けての方法を探る。 2.　保育職の意義や役割を確認する。 3.　クラス運営について理解する。 4.　保育者や保護者との連携・協力のために必要なスキル・姿勢について理解する。 5.　援助・指導力やコミュニケーション能力向上のための方法について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 太田雅子　鈴木光男　小川千晴　細田直哉 ４つの小グループに分け、各教員が担当する。 第 1 回：保育・教職実践演習とは。 実習等を通しての自己評価と今後の課題を明らかにする―保育者としての資質の確認 第 2 回：保育職の意義・保育者の役割　①　幼稚園教諭　グループディスカッションを行う 第 3 回：保育職の意義・保育者の役割　②　保育士（保育教諭） 園長等の話を聞いた後、グループディスカッションを行う 第 4 回：クラスマネージメント（学級経営)、タイムマネージメントについて① 新人職員としての課題―卒業生等の話を聞いた後、グループディスカッションを行う 第 5 回：　クラスマネージメント、タイムマネージメントについて② 理解したこと、実行したいことをグループごとにまとめて発表する 第 6 回：コミュニケーション能力①―保護者・保育者間の関係作り 第 7 回：コミュニケーション能力②―関係作りのためのワーク 第 8 回：子育て支援―親子プログラムの実践① 子どもが主体的に遊ぶための環境設定と援助　（準備） 第 9 回：子育て支援―親子プログラムの実践② 子どもが主体的に遊ぶための環境設定と援助　（実践） 第 10 回：子育て支援―親子プログラムの実践③ 親子の関わりを促す遊び・活動の計画と実践 第 11 回：保育者としての表現力①（計画） 第 12 回：保育者としての表現力②（実践） 第 13 回：保育における構想力と実践力①（計画） 第 14 回：保育における構想力と実践力②（実践） 第 15 回：―まとめ　保育者になることへの期待と希望

アクティブラーニング	学生自身が保育・子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けてのグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。
評価方法	授業態度（グループ課題の発表）60%　　レポート 40% レポート課題はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー（コラム）を次の回にコメントして返却する。及び授業の中でフィードバックをする。15 回終わったところで、全回が記入されたリアクションペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をする。
指定図書	その都度プリントを配布する
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40 分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い保育・子育て支援の実践準備をすること。
オフィスアワー	授業の初回に提示する。

科目名	社会的養護
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　こども　３セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	社会的養護を必要とする子どもとその家族の状況を理解し、日本における社会的養護の制度・内容・現状・問題点等について学ぶ。また、現在の大きな問題である子ども虐待について発見・対応・機関連携の方法の実際について学び、予防に向けた取り組みを考える。
到達目標	１．現代の子どもと家庭における問題の把握と、児童相談所への相談内容を学ぶ。 ２．社会的養護の意味を理解し、その意義と歴史について学ぶ ３．児童福祉施設について理解し、入所中の子どもおよび保護者への支援方法について学ぶ。 ４．子ども虐待の現状と対応について理解し、予防に向けた取り組みを考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　現代の多様な家族の特徴、要保護児童が生じる原因 第 2 回：　児童相談所への相談内容 第 3 回：社会的養護とは何か　～その意義と歴史～ 第 4 回：社会的養護の制度や実施体系 第 5 回：社会的養護の特質と基本原理 第 6 回：児童福祉施設の種類と特徴 第 7 回：社会的養護の相談機関 第 8 回：子ども虐待の定義・発見・対応・機関連携 第 9 回：子ども虐待が生じる背景と予防 第 10 回：　施設養護の実際①（日常生活および自立支援） 第 11 回：　施設養護の実際②（治療的支援） 第 12 回：　施設養護の実際③（家族・地域との関係調整） 第 13 回：　社会的養護とソーシャルワーク 第 14 回：　児童福祉施設職員の資質とメンタルヘルス 第 15 回：　今後の社会的養護のあり方と課題

アクティブラーニング	マスコミでとりあげられた最近の社会的養護における問題等を提示し、グループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。
評価方法	平常点（30%）、定期試験（70%） （平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「社会的養護」小池由佳・山縣文治編著　ミネルヴァ書房　2012
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	教科書および参考書を事前によく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	子どもの保健Ⅰ
科目責任者	市江　和子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	小児期における発達の特徴を知り、各発達段階における発達の形態・機能的側面、心理・社会的側面を理解する。また、小児の健康増進に必要な養護についての基礎的知識を深める。
到達目標	1. 小児各期の発達の特徴、各発達段階における発達の形態・機能的側面、心理・社会的側面について理解する。 2. 発達における親・家族の関係について理解する。 3. 小児の精神保健とその課題について学ぶ。 4. 施設等における小児の心身の健康および安全の実施の大切さについて学ぶ。 5. 小児の食生活、基本的生活習慣について理解する。 6. 小児保健の動向を知り、小児の健全な成長・発達を支える方法について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回　小児と家族の健康と保健の意義　市江　和子 成長・発達に関するワークシートと学習の進め方 第２回　小児の成長・発達（１）発達の概観　市江　和子 第３回　小児の成長・発達（２）発達の理論　市江　和子 第４回　小児の成長・発達（３）発達評価と意義　市江　和子 第５回　小児の精神保健（１）子どもの心身症　松下恵美子 第６回　小児の精神保健（２）子どもの発達障害　松下恵美子 第７回　小児の精神保健（３）発達障害の早期発見と早期療育のシステム　松下恵美子 第８回　子どもの虐待を取り巻く環境　松下恵美子 第９回　虐待が子どもに与える影響　松下恵美子 第 10 回　小児期の栄養と食生活　宮谷　恵 第 11 回　小児の基本的生活習慣（１）新生児期・乳児期　宮谷　恵 第 12 回　小児の基本的生活習慣（２）幼児期・学童期　宮谷　恵 第 13 回　発達と母子相互作用　市江　和子 第 14 回　小児保健の動向（１）小児を取り巻く社会環境と法律　市江　和子 小児保健に関するワークシートと学習の進め方 第 15 回　小児保健の動向（２）小児保健に関する統計　市江　和子

アクティブラーニング	「小児の成長・発達（3）発達評価と意義」においては、小グループで演習を取り入れ、発達評価を実施する。
評価方法	筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	学習内容に関するワークシートを課題とし学習の進め方を随時説明する。 授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2014
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、事前事後学修を 40 分進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修で復習を行ってください。
オフィスアワー	市江和子：金曜日午前（1712 研究室）　Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷　恵：月曜日午後（1713 研究室）　megumi-m@seirei.ac.jp

科目名	子どもの保健Ⅱ
科目責任者	遠藤　雄策
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子どもの身体発育や生理機能及び精神・運動機能の発達と保健との関与について学ぶ。また子どもの健康状態の把握と主な事故や疾病の特徴を理解し、その予防や適切な対応について習得する。
到達目標	1. 子どもの身体発育や生理機能の特徴及び精神・運動機能の発達の特徴について簡単に説明することができる。 2. 子どもの事故や主な疾病の特徴について述べることができ、その予防や適切な対応について説明することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：子どもの成長と発達と保健　遠藤雄策 第 2 回：子どもによくみられる微細な症状（指しゃぶり、爪噛み、お漏らし、チックなど）　遠藤雄策 第 3 回：症状からみる子どもの病気＊：熱、発疹、下痢、落ち着かない、腹痛など　遠藤雄策 第 4 回：子どもの疾病と保育（1）；子どもの感染症の特徴　朝比奈美輝 第 5 回：子どもの疾病と保育（2）；感染症① 主なウイルス感染症　朝比奈美輝 第 6 回：子どもの疾病と保育（3）；感染症②　主な細菌感染症　朝比奈美輝 第 7 回：子どもの疾病と保育（4）；予防接種と子どもの病気　朝比奈美輝 第 8 回：子どもの疾病と保育（5）；呼吸器、アレルギー、循環器疾患　本郷輝明 第 9 回：子どもの疾病と保育（6）＊；神経・こころ・精神①　知的障害を来たす疾患　遠藤雄策 第 10 回：子どもの疾病と保育（7）＊；神経・こころ・精神②　発達障害を来たす疾患　遠藤雄策 第 11 回：子どもの疾病と保育（8）＊；神経・こころ・精神③　身体障害を来たす疾患　遠藤雄策 第 12 回：子どもの疾病と保育（9）＊；泌尿器、骨と関節、皮膚、眼の疾患　遠藤雄策 第 13 回：子どもの疾病と保育（10）；血液・がん、消化器、内分泌代謝疾患　本郷輝明 第 14 回：子どもによくみられる事故とその予防対策　朝比奈美輝 第 15 回：集団生活と子どもの病気　遠藤雄策

アクティブラーニング	授業内容についてあらかじめグループ学習し、その内容について３分間で発表し、さらに他の学生から質問を受け、答える。テーマは上記授業内容。
評価方法	授業態度・出席 10%、発表 10%、小テスト 10%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	毎回授業の後に授業内容について 3−４問の小テストを行い、次回の授業時（あるいは小テスト回収後）に解説する。
指定図書	『園・学校でみられる子どもの病気百科』内海裕美編　少年写真新聞　2013
参考図書	なし
事前・事後学修	あらかじめ指定されたテーマについて、授業開始時に事前にグループ学習した内容を一人３分で発表し、発表した内容についてさらに質問を受ける、不足分は授業の中で解説する。(第２回目から２名ないし３名で、学生が受け持つテーマは第１回目に指定します)。 その他新聞等で取り上げられている子どもの病気や保健に関する話題をグループで拾い上げ学習し、その内容を５分以内で発表しても良い。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	子どもの保健Ⅲ
科目責任者	小川　千晴
単位数他	１単位（15 時間）　選択　こども　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	小児期の特徴的な症状、疾病、事故とその予防への援助について学習する。そして、小児の健康状態を把握するための観察と評価、健康管理、安全管理について、保育士として実践できる能力を養う。
到達目標	1. 子どもの健康および安全に係る保育活動の計画および評価について学ぶ。 2. 小児期の疾病とその予防に関する対応を習得する。 3. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。 4. 日常の保育の場で実践できる基礎的能力を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：ガイダンス　小川千晴 保育活動の計画および評価 第 2 回：小児の養護　太田雅子 第 3 回：小児の養護の実際（1）検温・計測・栄養　小川千晴 第 4 回：小児の養護の実際（2）移動　小川千晴 第 5 回：小児の事故とケガ　宮谷　恵 第 6 回：事故に対する応急処置　市江和子 第 7 回：心肺蘇生法・AED の実際　（ゲストスピーカー）　村上武明 第 8 回：気道内異物の除去・応急処置（ゲストスピーカー）　村上武明

アクティブラーニング	ＡＥＤの使用方法、心肺蘇生の方法、おむつ交換、着替え、授乳方法について人形を使用し実技を行います。
評価方法	定期試験（70%）、授業態度（10%）、演習実践【ＡＥＤ、第3回、第4回】の振り返りレポート（20%）、計100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示をmoodleにて実施します。レポートへのコメントをした後、返却します。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2014（子どもの保健Ⅰにて使用） 厚生労働省編『保育所保育指針（解説書付）』
参考図書	志村聡子編『はじめて学ぶ　乳児保育』同文書院
事前・事後学修	【事前学修】実践をする場合は、該当ページを事前に提示します。第7回、第8回の実践に関しては、事前に資料を読み実践をすることが前提となります（40分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリント、moodleの資料の整理をします。また、学んだ内容や今後の課題に関するレポートの作成をし、提出をします。第7回、第8回の授業は、第5回、第6回の内容の整理をする必要があります（60分）。
オフィスアワー	所属：こども教育福祉学科　研究室：1606 時間については、初回授業時に提示します。

科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	古橋　啓子
単位数他	２単位（30時間）選択　こども　２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	生体を構成する60兆個の細胞は、個人のもつDNAを原図に日々入れ替わっており、その原料となるのが1回、1回の食事である。これをターンオーバーと呼び、個人が持つ遺伝的要因と食事および食生活などの環境要因が大きく関与する。さらに遺伝的要因があっても、食事をデザインすることで遺伝子の発現を左右することも可能となっている。小児栄養の基本的理論を体系的に理解し、保育の実際との関連において実践的に理解する。 一方的に講義を聴くのではなく、討論への積極的参加を期待する。
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化の関りの中で理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 第 1 回：ガイダンス　　金谷節子、古橋啓子 第 2 回：栄養の基礎　　古橋啓子 第 3 回：生涯発達と食生活　　古橋啓子 第 4 回：子どもの食生活の現状と課題　　古橋啓子 第 5 回：小児期の特徴、身体発育と栄養　　古橋啓子 第 6 回：栄養状態の評価　　古橋啓子 第 7 回：食事摂取基準と献立作成、調理の基本　　古橋啓子 第 8 回：乳児期の栄養　　古橋啓子 第 9 回：幼児期の栄養　　古橋啓子 第10回：乳幼児演習　　古橋啓子 第11回：乳幼児演習　　古橋啓子 第12回：食物アレルギーのある子どもへの対応　　古橋啓子 第13回：小児の疾病の特徴と食生活　　古橋啓子 第14回：障害をもつ子どもの食生活、児童福祉施設の実際　　古橋啓子 第15回：食育基本法と食育の実際、まとめ　　古橋啓子

アクティブラーニング	該当なし
評価方法	定期試験 60%、授業態度 10%、レポート 30%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント・返却等、課題に対するフィードバック
指定図書	『新版　子どもの食生活　-栄養・食育・保育- 』上田玲子　編著　ななみ書房
参考図書	『乳幼児の食行動と食支援』巷野悟郎・向井美惠・今村榮一　監修　医歯薬出版株式会社
事前・事後学修	配布資料に従って予習・復習や課題を行うこと
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	家庭支援論
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	この講義では、現代の家族をとりまく社会環境と、家庭生活における人間関係についての理解を深め、なぜ「子育て支援」が必要となるのか、その背景要因を学ぶ。また、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策の提供に向けて、子どもと家族の福祉をはかるための種々の援助活動や関係機関との連携について理解を深める。
到達目標	１．現代家族を取り巻く社会的状況をふまえて子育て支援の必要性を把握する。 ２．子育て家庭の支援体制について、社会資源の面と制度施策の面から理解する。 ３．子育て支援の具体的な展開方法を、事例に即して検討し提案することができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：　家庭の意義とその機能 第２回：　家庭の変容と社会的状況 第３回：　現代家族をめぐる子育て環境 第４回：　現代家庭の子育てと支援の必要性 第５回：　子ども虐待への理解と対応 第６回：　特別な配慮を必要とする子どもを持つ親への支援 第７回：　ひとり親家庭への支援 第８回：　子育て支援の施策 第９回：　多様化する家庭支援のニーズ 第 10 回：　家庭支援の原理とその課題 第 11 回：　保護者の心を聴くために 第 12 回：　さまざまな家族とのかかわり 第 13 回：　保育所・幼稚園における家庭への支援 第 14 回：　社会的養護における家庭への支援 第 15 回：　児童家庭支援センターにおける家庭への支援

アクティブラーニング	グループ学習による実際の事例等を用いた家庭への支援についての演習を取り入れて行う。
評価方法	平常点（30%）、定期試験（70%） （平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「家庭支援論」　小田　豊・日浦直美・中橋美穂編著　　北大路書房
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また、授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	保育内容総論
科目責任者	坪川　紅美
単位数他	２単位(30 時間)　選択　こども　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	日本の幼児教育は、環境を通して行う教育である。その中で保育内容は、5 領域から発達を見通して組み立てている。そのため本科目においては、幼稚園や保育所において展開される保育内容を総合的に捉えなおし、保育実践につなげて理解することを目的とする。また保育内容を捉えるために保育カンファレンスの手法について学び、実践を行う
到達目標	・保育内容について長期的視点に立ちながら、保育計画を立てる必要を理解する ・子どもの主体性を引き出すための保育環境の構成について理解を深める
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　オリエンテーション　―保育実習の振り返りを通して― 第 2 回：　保育の基本と保育内容の理解 第 3 回：　乳児クラスの保育の実際と発達 第 4 回：　幼児クラスの保育の実際と発達 第 5 回：　保育内容の考え方の変遷 第 6 回：　保育内容と環境構成 第 7 回：　長期的視点に立った保育計画の必要性 第 8 回：　地域に根差した多様な保育展開 第 9 回：　幼保小の連携と接続 第 10 回：保育内容を客観的に捉える手法 第 11 回：保育内容を総合的に捉える① 第 12 回：保育カンファレンス① 第 13 回：保育内容を総合的に捉える② 第 14 回：保育カンファレンス② 第 15 回：保育内容の課題

アクティブラーニング	グループ討議や二人１組になって近隣の園の保育観察を行う
評価方法	定期試験（50%）、課題への取組（30%）、受講態度（20%）にて総合的に評価する
課題に対するフィードバック	課題に対してだされた疑問など適宜フィードバックを行う
指定図書	岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行「保育内容総論」同文書院
参考図書	文部科学省『幼稚園　教育要領解説』 厚生労働省『保育所　保育指針解説』 内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』
事前・事後学修	事前学習；2 月の保育実習を踏まえ、５つの領域の内容を整理します。 事後学習；事前学習での学びを学生間で共有しながら保育内容を捉えなおし、保育者としての役割について人的環境・物的環境から課題を明らかにし、レポートとして提出します。 （目安時間 40 分）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	乳児保育
科目責任者	細田　章子
単位数他	２単位(30 時間)　選択　こども　１セメスター
科目の 位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	乳児期の子どもの成長は速く個人差も大きいため、同じクラスであっても異なる発達段階の子どもたちに臨機応変に対応しなければならない。この授業では、乳児の発達を理解し、その生活の中で保育者が果たすべき役割を理解する。
到達目標	１．乳児期の発達と生活に関する基本的事項を説明できる。 ２．乳児期の親子の生活の実態とニーズについて実例を挙げながら説明できる。 ３．乳児保育における保育者の役割を説明し、実践できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション「乳児保育」とは 第 2 回 : ０歳児の発達　①0～3 ヶ月 第 3 回 : 実技・0～3 ヶ月のおむつ交換 第 4 回 : ０歳児の発達　②4～6 ヶ月 第 5 回 : ０歳児の発達　③7～9 ヶ月 第 6 回 : ０歳児の発達　④10～12 ヶ月 第 7 回 : ０歳児の保育　沐浴実習 第 8 回 : 手作りおもちゃの製作　①身近な素材で作る 第 9 回 : １歳児の発達　①13～15 ヶ月 第 10 回 : １歳児の発達　②16～24 ヶ月 第 11 回 : ２歳児の発達 第 12 回 : １歳児・２歳児の保育　まとめ 第 13 回 : 手作りおもちゃの製作　②製作計画 第 14 回 : 手作りおもちゃの製作　③発展と考察 第 15 回 : まとめ「乳児保育に求められるもの」

アクティブラーニング	乳児保育の援助方法に関しては実技を行います。
評価方法	試験５０%、レポート５０%、計１００%
課題に対するフィードバック	試験については解答例を提示します。 レポートについては、随時コメントの上、返却します。
指定図書	『乳児保育　一人ひとりが大切に育てられるために』吉本和子著（エイデル研究所）
参考図書	『やさしく学ぶからだの発達』林万リ著（全国障害者問題研究会） 『子どもの「手づかみ食べ」はなぜ良いのか？（IDP 新書)』山口平八・清水フサ子著（IDP 出版）
事前・事後学修	事前：次回の講義に使用するテキストの該当箇所を示すので読んできてください。製作物については指定期日までに仕上げてきてください。(60 分) 事後：復習のため、その日の学修内容を自分なりにノートにまとめておきましょう。(30 分)
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	障害児保育
科目責任者	松下　恵美子
単位数他	２単位（30時間）　選択　こども　１セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	障害のとらえ方や、障害児保育の考え方、保育における発達評価の大切さ、障害児保育が行われる現場について学ぶ。（注）保育士・幼稚園教諭免許のためには必修科目
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健･医療･福祉･教育等の現状と課題について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：障害児保育とは。 第 2 回：障害児保育の基本 第 3 回：障害の理解と保育（1） 第 4 回：障害の理解と保育（2） 第 5 回：発達が気になる子どもの理解と保育 第 6 回：障害の理解と保育（3） 第 7 回：子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価 第 8 回：個々の発達をうながす生活やあそびの環境 第 9 回：他者とのかかわりと育ちあい 第 10 回：職員間の協力関係 第 11 回：家庭や関係機関との連携 第 12 回：障害のある子どもの早期発見と支援 第 13 回：障害のある子どもの就学に向けての支援 第 14 回：障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題 第 15 回：支援の場の広がりとつながり

アクティブラーニング	グループ学習、演習も含む
評価方法	授業態度・感想文 10%、課題 10%、試験 80%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント、返却。
指定図書	『実践に生かす障害児保育』：前田泰弘編著　　萌文書林
参考図書	随時紹介
事前・事後学修	各授業の際に提示する内容に従って行ってください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	社会的養護内容
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	１単位(30 時間)　選択　こども　４セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	社会的養護の基本理念や体系など基本的知識をおさえた上で、現場で求められている支援とはどのようなものなのかを、事例検討やグループ討議で学ぶ。また、社会的養護にかかわる専門職として大切なソーシャルワークについて理解する。
到達目標	１．今日の社会的養護について理解する。 ２．子どもの権利条約を理解する。 ３．社会的養護の４つの支援（日常生活支援・自立支援・家庭支援・地域支援）の内容を学ぶ。 ４．社会的養護における自立支援計画について学び、子どもの成長や発達を促す支援のあり方を考える。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：今日の社会的養護 第 2 回：社会的養護と子どもの権利 第 3 回：施設養護の現状 第 4 回：家庭養護の現状 第 5 回：自立支援計画とは 第 6 回：社会的養護の４つの機能　①日常生活支援 第 7 回：社会的養護の４つの機能　②自立支援 第 8 回：社会的養護の４つの機能　③家庭支援 第 9 回：社会的養護の４つの機能　④地域支援 第 10 回：社会的養護にかかわる専門職に大切なこと 第 11 回：ソーシャルワークと社会的養護 第 12 回：施設の小規模化の流れ 第 13 回：社会的養護と地域 第 14 回：施設の役割と運営管理の在り方 第 15 回：社会的養護の課題とこれから

アクティブラーニング	マスコミでとりあげられた最近の社会的養護における問題等を提示し、グループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。
評価方法	平常点（30%）、定期試験（70%） （平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「社会的養護内容」谷口純世・山縣文治編著　ミネルヴァ書房　2014
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	教科書および参考書を事前によく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室。時間については初回授業時に提示します。

科目名	保育相談支援
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	１単位(30 時間)　選択　こども　６セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	保育士の役割として、子どもに対する保育と合わせて保護者に対する支援が重要であると位置付けられている。また、保育士の業務は保育所だけでなく、他の児童福祉施設などにおいても幅広く展開されている。 講義では、保育所や幼稚園、他の児童福祉施設における保育相談支援の意義や基本を把握すると同時に、事例に沿いながら保護者支援の実際を具体的に学ぶ。
到達目標	１．保育相談支援に必要なカウンセリングの基本と支援技術を学ぶ。 ２．保護者との信頼関係を形成し、支援基盤をつくる保育士の専門的な態度や技術について学ぶ。 ３．保育や教育の場面における保護者への支援の実際、家庭や地域の環境を踏まえた支援のあり方を考える。 ４．保育や教育の場面における保護者支援の特性を事例から学びながら、関係機関との連携を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第１回：保育カウンセリングとは何か 第２回：子どもの発達への援助　１（０歳から２歳） 第３回：子どもの発達への援助　２　（３歳から６歳） 第４回：子ども理解とアセスメント 第５回：カウンセリングの理論と方法 第６回：カウンセリング・マインドとは 第７回：園における相談活動の意義と活用 第８回：心理アセスメント―心理検査　１(発達検査・知能検査など) 第９回：心理アセスメント―心理検査　２(人格検査など) 第 10 回：心理療法　１（遊戯療法・家族療法など） 第 11 回：心理療法　２（行動療法・集団精神療法など） 第 12 回：保護者支援の方法と技術 第 13 回：保育現場における保護者支援 第 14 回：地域社会・関係機関との連携 第 15 回：保育者のメンタルヘルス

アクティブラーニング	グループ学習による、実際の保育場面等の演習を取り入れて行う。
評価方法	平常点（30%）、定期試験（70%） （平常点は、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「親・保育者のための子育て・保育カウンセリングワークブック」清水勇・阿部裕子 学事出版
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・ 事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また、授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにすること。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オフィスアワー	２号館６階の 2610 研究室。時間については初回授業時に提示する。

科目名	器楽Ⅰ
科目責任者	二宮　貴之
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　１～２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	幼児教育の現場では、ピアノによる弾き歌いの演奏技術が求められる。そのために器楽Ⅰでは最低限習得しなければならないピアノの奏法及び音楽理論、弾き歌いのためのピアノ伴奏法について重点的に学修する。授業は、個々のレベルに応じた個人レッスンの形態で行う。
到達目標	１．ピアノ演奏における基礎的な知識と奏法を身に付け、個々のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲を演奏することができる。 ２．子どもの歌の伴奏法を身に付け、個々のレベルに応じてピアノを弾きながら歌うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 二宮　笹瀬　黒崎　金山 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：ピアノを弾く姿勢、手の形、指使いについて 第 3 回：音部記号（ト音記号とヘ音記号）について 第 4 回：音符の種類、拍子、付点のリズムについて 第 5 回：変化記号、音階について 第 6 回：右手でト音記号の練習、左手でヘ音記号の練習をする 第 7 回：左手と右手のユニゾンと反進行の練習、指の交差について 第 8 回：調号について 第 9 回：長調について 第 10 回：短調について 第 11 回：速度、強弱、いろいろな記号や用語について 第 12 回：実技試験に向けてのレッスン①楽譜に照らし合わせて音の確認 第 13 回：実技試験に向けてのレッスン②両手で練習をする 第 14 回：実技試験に向けてのレッスン③表情をつけて弾く 第 15 回：実技試験にむけてのレッスン④曲想やダイナミクスをつけて仕上げる

アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏を披露したり、他者の演奏を聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。
評価方法	授業態度 30%　実技試験 70% 演習・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は別紙で配布する。
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする。
指定図書	・保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のあめのピアノテキスト　楽典・身体表現教材付 カワイ出版(２０１６) ・やさしく弾けるピアノ伴奏　保育のうた１２か月　新星出版社（２０１６） ※テキストが終了した者は個人レッスンを担当する教員と相談し次のテキストを購入すること
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲について、ドレミの譜読み、リズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 ※時間の目安：事前 2 時間、事後 2 時間程度は練習しておくこと
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。

科目名	器楽Ⅱ
科目責任者	二宮　貴之
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　３～４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	幼児教育の現場では、ピアノによる弾き歌いの演奏技術が求められる。そのために器楽Ⅱでは器楽Ⅰの内容を踏まえた上で発展的なピアノの奏法及び音楽理論、弾き歌いのためのピアノ伴奏法について重点的に学習する。授業は、個々のレベルに応じた個人レッスンの形態で行う。
到達目標	１．ピアノ演奏における知識と奏法を身に付けた上で、個々のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲を演奏することができる。 ２．様々な子どもの歌やピアノ曲を弾きレパートリーを広げることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 二宮　笹瀬　藤井　黒崎　金山 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：様々な調の練習①　ハ長調の音階とカデンツ 第 3 回：様々な調の練習②　ト長調とニ長調の音階とカデンツ 第 4 回：様々な調の練習③　ホ長調とイ長調の音階とカデンツ 第 5 回：様々な調の練習④　イ短調の音階とカデンツ 第 6 回：様々な調の練習⑤　ヘ長調の音階とカデンツ 第 7 回：ペダルの使い方について 第 8 回：アーティキュレーションの付け方について 第 9 回：装飾音の弾き方について 第 10 回：様々な演奏用語について 第 11 回：表現を工夫した演奏について 第 12 回：実技試験に向けたレッスン①　楽譜を見直し確認する 第 13 回：実技試験に向けたレッスン②　音楽用語を意識して演奏する 第 14 回：実技試験に向けたレッスン③　ダイナミクスをつけ音楽的な表情をつける 第 15 回：実技試験に向けたレッスン④　暗譜を心掛け最終仕上げ

アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、他者の演奏を聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。
評価方法	授業態度 30%　実技試験 70% 演習・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は別紙で配布する。
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする
指定図書	こどものうた２００チャイルド本社（２０１７） ※ピアノのテキストの購入は、個人のレベルに応じて担当教員と相談し購入すること
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲について、ドレミの譜読み、リズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 ※時間の目安：事前 2 時間、事後 2 時間程度は練習しておくこと
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。

科目名	子どもの歌と伴奏
科目責任者	二宮　貴之
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本科目は、幼児教育の現場で必要なピアノの弾き歌いに関する知識と技術について学修する。それぞれのレベルに応じた個人レッスンを中心に、グループ単位の実技のレッスンやクラス単位で音楽理論に関する講義も行う。過去の採用試験に出題されたピアノ曲や弾き歌い曲などにも挑戦する。
到達目標	１．弾き歌いに関する様々な伴奏法について理解できる。 ２．コード進行法を理解し、コード伴奏を使った弾き歌いができる。 ３．弾き歌いのレパートリーを広げ、保育・教育の現場で即座に実践できる弾き歌いができる。
授業計画	＜担当教員名＞ 二宮　笹瀬　金山 ＜授業内容・テーマ等＞ 保育士・幼稚園教諭として現場で弾き歌いができるよう、技術や表現力を個人レッスンによってみにつける 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：季節の歌①春　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ⅴ度）正しい発声 第 3 回：季節の歌②夏　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ⅴ度）響く声 第 4 回：季節の歌③秋　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ⅴ度）息の流れと共鳴のさせ方 第 5 回：季節の歌④冬　コード弾き（Ｉ度Ⅳ度Ⅴ度）頭声と胸声 第 6 回：生活の歌①登園時　朝、園で歌う歌などを中心にレッスンする 第 7 回：生活の歌②降園時　お片付けや帰り際に歌う歌などを中心にレッスンする 第 8 回：行事の歌①春～夏　入学時から春にかけての行事の歌をレッスンする 第 9 回：行事の歌②秋～冬　秋から冬にかけての行事の歌をレッスンする 第 10 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　テンポの速い曲 第 11 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　特徴的なリズムの曲 第 12 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　テンポの緩やかな曲 第 13 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　就職試験に出された曲 第 14 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　就職試験に出された曲 第 15 回：保育現場で使用する曲及び試験に向けて　　演奏会

アクティブラーニング	個人レッスンの中で技術に対する指導を受けたり、他者に向けて演奏したり、また聴くなどの双方向的な体験的学習を通して学びを深化させる。
評価方法	授業態度 30%　実技試験 70% 演習・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は別紙で配布する。
課題に対するフィードバック	個別レッスンを実施することで、個人が抱える技術的な問題等に対してフィードバックする
指定図書	なし
参考図書	・やさしく弾けるピアノ伴奏　保育のうた１２か月　新星出版社（２０１６） ・こどものうた２００チャイルド本社（２０１７）・ブルグミュラー・ソナチネ ※図書については担当教員と相談し購入すること
事前・事後学修	事前学修：レッスンを受ける曲についてリズム、指番号などを事前に確認し練習しておく。 事後学習：個人レッスンで学んだことを復習し反復練習し技術の定着と向上を目指す。 ※時間の目安：事前 2 時間、事後 2 時間程度は練習しておくこと
オフィスアワー	時間・場所については初回授業で提示します。

科目名	子どもと音楽表現
科目責任者	二宮　貴之
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　１～２セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子どもたちのプリミティブで遊びの精神に溢れた音楽活動ができる環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。音楽を構成する知識や、様々な楽器や歌の表現世界を体験し、その音楽的感覚を持って保育現場での音楽的活動の実践ができる技術を養う。
到達目標	１．楽器の構造や奏法を理解し演奏することが出来る。 ２．絵本に音楽をつけ、手話ソング等に取り組むことを通して表現の幅を広げることが出来る。 ３．ヘンデル作曲、メサイヤより「ハレルヤ」の合唱を通して芸術としての完成度の高い音楽を体験し、表現することの喜びを体験する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：　オリエンテーション　二宮・金山 第 2 回：ボディーパーカッション 第 3 回：絵本と音楽 第 4 回：音の傾聴とサウンドエデュケーション 第 5 回：器楽演奏　鍵盤楽器　合唱 第 6 回：器楽演奏　打楽器　　合唱 第 7 回：器楽演奏　合奏　　合唱 第 8 回：ミニコンサート 第 9 回：オリエンテーション 第 10 回：ハレルヤコーラス　パート分けと音取り 第 11 回：ハレルヤコーラス　音取りソプラノ・アルト 第 12 回：ハレルヤコーラス　音取りテノール・バス 第 13 回：ハレルヤコーラスと讃美歌 第 14 回：ハレルヤコーラスと讃美歌（リハーサル） 第 15 回：ミニコンサート

アクティブラーニング	器楽や歌唱の活動を通して体験的に学びます。
評価方法	授業態度 40%　感想レポート 20%　ハレルヤコーラスの演奏 40% 演習・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は別紙で配布する。
課題に対するフィードバック	器楽の演奏や歌唱を通して知識や技術面について口頭でフィードバックします。
指定図書	幼児のための音楽教育　教育芸術社（２０１７）
参考図書	なし
事前・事後学修	各自、課題となる曲の楽譜に目を通し、歌詞の意味を調べ、音程やリズムについて事前学修して授業に参加して下さい。授業で扱った曲については、音程、旋律、リズムに注意して楽譜を見直しておいて下さい。※時間の目安：事前１時間、事後１時間程度は練習しておくこと
オフィスアワー	初回時にお伝え致します。

科目名	子どもと身体表現
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	１単位（30時間）　選択 こども　１セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子どもは、言葉以上にその小さな身体をまるごと使って、自らの内面を表現している。全身で表出する段階から、模倣、見立てなど、生活や遊びのあらゆる場面で身体を使って表現している。 子どもの運動遊び及び身体表現活動を豊かに展開するために、子どもの発育･発達と運動機能や身体表現についての知識と技術を学び、見立てやごっこ遊びを生かし、発達にあった運動遊びを促すことができる環境構成、具体的展開のための技術を習得する。 子どもの援助者として、子どもの表現を受け止め共有できる開かれた身体をつくることを目標に、柔軟性を高め、姿勢や歩行のレッスンを行い、自らの身体や運動への意識を高める。
到達目標	1 子どもの発育発達過程をいかした運動あそびやリズムあそびの重要性を理解する。 2 発育発達過程をいかして運動あそびや身体表現を促すことができる環境設営、指導方法を習得する。 3 子どもの援助者にふさわしい姿勢、柔軟性を身につけ、身体への意識を高める。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：オリエンテーション 柔軟な身体の重要性 第2回：子どもの発育発達過程　姿勢の重要性 第3回：発育発達過程に沿った運動あそび 第4回：　コアキッズ体操 第5回：発育発達過程に沿ったリズムあそび 第6回：基本のリズムあそび 第7回：１人ずつ行うリズムあそび 第8回：２人組以上で行うリズムあそび 第9回：　ボールを使った運動あそび 第10回：　フープを使った運動あそび 第11回：なわを使った運動あそび 第12回：年齢に応じた運動あそび（2,3歳児） 第13回：年齢に応じた運動あそび（4,5歳児） 第14回：　実技発表 第15回：体力測定　まとめ ＊運動着、体育館シューズを用意してください。

アクティブラーニング	実技科目です。
評価方法	実技発表 50% ・授業時に評価基準を説明します。 授業への取組（意欲・積極性　Moodleでのフィードバック） 50%
課題に対するフィードバック	実技発表についてはその場で講評します。Moodle 上でも、毎回、意見・質問に対応します。
指定図書	なし（資料配布）
参考図書	宮下充正『子どものときの運動が一生の身体をつくる』明和出版 森本貴義『伸びる子どもの、からだの作り方』ポプラ社 斎藤公子『さくら・さくらんぼのリズムとうた』群羊社
事前・事後学修	子どもの支援者にふさわしいように健康状態、身なりを整えて、授業に臨む。 毎回、授業後に Moodle にてフィードバックを行う。 授業での学びを日常生活に活かし、姿勢を意識し、身体への意識を高め、生活する。 ストレッチなどの運動を習慣化する。（週 3 日以上）
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示

科目名	子どもと造形表現
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	１単位（30 時間）　選択 こども １セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本授業では、幼児の発達と表現活動の関係をふまえた材料や技法についての研究や、作品制作の実習を通して、学生自身が表現の楽しさや喜びを体験し、幼児の造形表現活動に適切な教材の選択や支援ができるようにする。
到達目標	1. 幼児の造形表現活動で使用される代表的な材料や用具の使用方法について正しく理解し、指導することができるようにする。 2. 幼児の造形表現活動のプロセスを検討することにより、その教育的な意義を理解する。 3. 造形表現活動の基盤となる造形美術の実習課題を通して、題材設定や環境設定のあり方や準備の要点など指導上の具体的な課題について検討し、実践できるようになる。
授業計画	第 1 回：「材料との出会い－１：紙との出会い」オリエンテーション（スケッチブックの準備など） 《学生の準備物》はさみ、のり 第 2 回：「材料との出会い－２：紙と対話する」 ・新聞紙をもとにした活動でアイスブレーキング　・紙への造形操作（切る・折る・曲げる…） 《学生の準備物》はさみ、カッターナイフ、のり、定規 第 3 回：「行為の楽しさ-１：粘土を知る」 《学生の準備物》学習途中では裸足で活動するので、裸足になりやすい服装、また エプロン・前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。手足をふくタオルなど。 第 4 回：「材料との出会い－３：パスとの出会い」 ・パスによる多様な表現技法 《学生の準備物》 パス（オイルパスもしくはクレヨン） 第 5 回：「行為の楽しさ-２：絵の具を知る（色水屋さんごっこ）」 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第 6 回：「行為の楽しさ-３：絵の具を知る（絵の具で描く・塗る）」 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第 7 回：「行為の楽しさ-４：絵の具をきわめる」 ・ローラー遊び　・スタンピング　・指絵の具　・デカルコマニー 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第 8 回：「行為の楽しさ-５：絵の具をきわめる」 ・スパッタリング　・バチック　・マーブリング など 《学生の準備物》エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第 9 回：「題材との出会い－１：版遊び・版画（スチレン版画）」 第 10 回：「題材との出会い－２：版遊び・版画（紙版画）」 第 11 回：「材料との出会い－５：水と墨の魅力」 《学生の準備物》割り箸、エプロン、前掛けなど汚れても良い服装を準備すること。 第 12 回：「子供と創る壁面構成-１：イメージの共有」 実際の幼稚園の壁面構成を鑑賞しながら、幼稚園における壁面構成の意味と課題を探る。 第 13 回：「子供と創る壁面構成-２：共有（様々な表現技法や材料の特徴を生かした壁面構成を考える。）」 第 14 回：「子供と創る壁面構成-２：共創（共同制作する。）」 第 15 回：「子供と創る壁面構成-３：鑑賞（展示し、鑑賞する。）」

アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 グループによる壁面構成デザインの立案と制作
評価方法	（1）授業で課した課題・作品（スケッチブック・ポートフォリオ）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60% ※ルーブリックについて スケッチブック･ポートフォリオで評価するが、ルーブリックは用いない。ただし、毎時間スケッチブックや作品の相互鑑賞をして、評価の観点を示す。
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。
指定図書	資料配布
参考図書	槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（改訂版）」（日本文教出版）
事前・事後学修	各授業の際に内容・課題を提示するので、それに沿って実施してください。概ね 40 分を目安に事前・事後学修に取り組まれるような内容で、主には学習の振り返り記述と作品の制作、ポートフォリオの整理です。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	子どもと言語表現
科目責任者	鈴木　まき子
単位数他	１単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	絵本、紙芝居、ストーリーテリング、劇遊び、わらべうた等に関する知識と技術を習得することを目的とする。子どもが児童文化財等について親しむことができるよう、保育現場での遊びへの導入についても演習を通して学修する。自分で作成した作品は、保育実習で生かす。
到達目標	・子どもの成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、エプロンシアター パネルシアター等の遊びを中心に保育現場での実践に必要な言葉の表現技術を養う。 ・わらべ唄について理解し、保育実践につなげる方法・技術を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第　1 回：オリエンテーション 「エプロンシアター」用の教材販売 乳幼児の言葉の発達、言葉遊び 第　2 回：赤ちゃんからの絵本の読み語り 第　3 回：読み語りから遊びへの発展（劇遊び） 第　4 回：劇遊びを発表　　紙芝居の演習 第　5 回：ペープサートの制作　（個人・グループ） 第　6 回：ペープサート作品発表　（個人・グループ） 第　7 回：片手遣いパペットの制作 第　8 回：人形劇発表（個人・グループ） 第　9 回：言葉遊びから絵本づくり 第 10 回：絵本作り（5 歳児の絵本作り） 第 11 回：からくり絵本を作ろう 絵本屋さんごっこをしよう 第 12 回：わらべ唄とは何か（わらべ唄の特徴） 第 13 回：わらべ唄と子どもの成長との関わり 第 14 回：エプロンシアター　個人発表 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	演習科目です
評価方法	レポート・発表（ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター・詩の朗読・創作絵本）60% 小テスト40%
課題に対するフィードバック	ペープサート・片手遣いパペット・パネルシアター・エプロンシアター・からくり絵本等自作の文化教材については、指定期日までに自主作成し、授業内でグループ発表をする。また、穴埋め式小(中間)テストについては、コメント等を入れ、添削して返却する。
指定図書	『CD付き　すぐ覚えられる　わらべうたあそび』木村はるみ著　成美堂出版（2012年　）
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	児童文化財についての理解は演習を通して深め、言葉に関する保育指導に連動していくよう事前課題を提供する。また、事後の振り返りを発表形式で行い、将来保育現場で、生かせるよう配慮する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	教職概論
科目責任者	成松　美枝
単位数他	２単位(30 時間)　選択　１セメスター
科目の 位置付	教職 DP(1)教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。
科目概要	教職免許状の取得を目指す学生として、教師とはどういう職業か、制度上の定義について理解を深める。幼稚園教諭として、職務内容、役割や使命感、身分保障の重要性、勤務条件や待遇などを教育基本法や学校教育法などに基づいて理解する。その上で、実際の教員の仕事を観察し、理解を深める。
到達目標	1　教職免許状の取得をめざす学生が、教職の意義や教員として果たすべき役割や使命、その職務内容等について理解し、説明できるようになる。 2　幼稚園・保育園の法律上の定義と特徴について説明できるようになる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　教員になるためにーオリエンテーション：講義内容の概要 第２回　教員免許状の種類と教職課程で学ぶこと 第３回　幼稚園教諭の職場１： 幼稚園の法的定義、幼稚園の制度的特徴(性格・管轄・法的根拠・目的・対象児・保育時間・担当職員) 第４回　幼稚園教諭の職場:職場の環境構成 第５回　幼稚園教諭の職場の歴史:幼児教育の歴史:古代・近代 第６回　幼稚園教諭の職場の歴史:現代:幼稚園教育の先駆者たち 第７回　教員の身分保障:権利と身分保障 第８回　教員の身分保障:懲戒と分限処分 第９回　幼稚園教諭の職務内容:一日の仕事の流れ 第 10 回　幼稚園教諭の職務内容:保育のあり方 第 11 回　幼稚園教諭の職務:　ゲストスピーカーの講演 第 12 回　幼稚園教諭のライフコース:ゲストスピーカーの講演 第 13 回　教員の研修制度と力量形成 第 14 回　幼保一元化問題と認定こども園制度の特徴 第 15 回　これから目指す教師像

アクティブラーニング	キーワード・レポート、復習テスト、ミニッツ・ペーパー
評価方法	授業内評価点60%(小テスト・提出課題・レポート・授業態度)　最終テスト40%で総合評価する
課題に対するフィードバック	各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する
参考図書	授業中に適時提示する。
事前・事後学修	事前・事後の学習として、毎回配布する授業のテキスト・プリントを最低３回は熟読してきて下さい。提出課題をしっかり完成させて提出して下さい。目安時間:1時間
オフィスアワー	火曜日４限目 1711研究室　E-mail: mie-n@seirei.ac.jp　で予約をして来室してください。

科目名	教育制度論
科目責任者	成松　美枝
単位数他	２単位(30 時間)　選択　６セメスター
科目の 位置付	教職 DP(1)教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。
科目概要	教育制度とは、教育の目的を達成するために社会的に公認されたしくみ、「公教育」の組織である。 本講義では、公教育制度の原理とその歴史について理解を深めるとともに、それらが教育現場においてどのように運用されているのか理解する。その上で、教育制度を運営する教育行政の機関としての「教育委員会制度」の理念とそのしくみを理解する。幼稚園教諭をめざす学生として、基本的な教育制度の知識を習得することを目的としている。
到達目標	1　現代社会の公教育は、どのような原則と理論的枠組みで組織されているか理解し、説明できるようにする。 2　教育制度を運営する、教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みについて理解を深め、説明できるようにする。 3　今日の公教育制度の問題点と教育制度改革について理解し、説明できるようにする。
授業計画	第１回 : 授業のガイダンス：公教育・私教育とは何か？ 第２回 :　公教育の制度的原理 第３回 : 教育制度の類型:アーティキュレーションとインテグレーション 第４回　 日本の教育制度の歴史:近代 第５回　 日本の教育制度の歴史:現代 第６回　 教育行政の組織と活動：国と地方の役割 第７回　 教育行政の組織と活動１：国の教育組織・文部科学省 第８回　 教育行政の組織と活動２：教育委員会の原理 第９回　 教育行政の組織と活動３：教育委員会 の仕組み 第 10 回　教育委員会の問題 第 11 回　教員に関する制度と教育行政：職務・身分・任用 1 第 12 回　保育行政:保育行政の歴史 第 13 回 子ども・子育て支援新制度について:調査レポート作成:　資料収集 第 14 回 子ども・子育て支援新制度について:調査レポート作成　文章化 第 15 回 子ども・子育て支援新制度:レポートの完成 まとめ

アクティブラーニング	キーワード・レポート、復習テスト、ミニッツ・ペーパー
評価方法	授業内評価点（60%　小テスト・提出レポート 50% ＋授業態度　10%）＋　最終テスト（40%） ＊毎回の授業の最後には、小テストを実施して平常点として評価します。
課題に対するフィードバック	各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する。
参考図書	授業中適時提示する。
事前・事後学修	事前学修:前回の配布プリントをしっかり 3 回読み直して下さい。 事後学修:毎回の提出課題をしっかり取り組んでください。減点された所を修正してきてください。目安時間:1 時間
オフィスアワー	火曜日 4 限目 1711 研究室　E-mail: mie-n@seirei.ac.jp　で予約をして来室してください。

科目名	教育課程論
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
科目の位置付	教職 DP(1)教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。
科目概要	教育（保育）課程とは、教育目標を達成するために、長・短期の教育内容を子どもたちの発達との関連から系統的かつに構築された教育計画である。 本授業では、教育課程作成上の基礎的事項、あるいは教育課程を作成するための基本的な手法を学ぶことを目的とする。さらに実習等の具体的な場面を想定し、教材研究・活用の仕方を踏まえて指導計画案作成し実践する。以上から教育課程の持つ意味を吟味する。
到達目標	1.　教育・保育課程の編成について理解する。 2.　指導計画の作成方法について理解する。 3.　教材研究を行い、指導計画（部分）を作成する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜科目担当＞ 太田雅子　鈴木まき子　小川千晴 第 1 回 : イントロダクション カリキュラム・マネジメントについて　太田 第 2 回 : 教育課程の編成（幼稚園教育要領）　鈴木 第 3 回 : 教育課程終了後の保育　鈴木 第 4 回 :「全体的な計画」の編成（保育所保育指針）　太田 第 5 回 : 認定こども園における保育に求められること　太田 第 6 回 : 保育の構想　鈴木 第 7 回 : 指導計画と実践①　ねらいと遊び・活動のつながり　鈴木 第 8 回 : 指導計画と実践②　遊び・活動の発展　鈴木 第 9 回 : 指導計画と実践③　集団ゲーム等の実践　鈴木 第 10 回 : 指導計画と実践④　教材研究　鈴木 第 11 回 : 長期指導計画（月案）の作成　太田 第 12 回 : 対話的・主体的・深い学びに向けての指導計画　太田 第 13 回 : 環境構成・教材の活用①　積木と発達　（ゲストスピーカー）　小川 第 14 回 : 環境構成・教材の活用②　積木活動の実際（ゲストスピーカー）　小川 第 15 回 : まとめと今後の課題（小テスト）　太田

アクティブラーニング	保育指導計画を作成し模擬保育を行う。さらに保育教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。
評価方法	授業態度 20%、課題提出物の評価　40%、小テスト 40% 評価は演習・課題提出物・小テストで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクション・ペーパー（コラム）をもとに、次の授業の中でフィードバックや解説を行う。15 回終わったところで、全回のリアクション・ペーパーをもとに、まとめ（授業の振り返り）を行う。
指定図書	平成 29 年改訂版「保育所保育指針解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動（遊び）や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40 分】
オフィスアワー	初回授業にて提示する。

科目名	教育方法論
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
科目の位置付	教職 DP(1)教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。
科目概要	幼児期にふさわしい教育の方法について理解を深める。子どもたち一人ひとりのうちに自己への信頼感と主体性を培うために、さらに生きる力や自律性を育むための援助・指導のあり方について理論的・実践的に学ぶ。
到達目標	・幼児期にふさわしい教育の内容・方法について理解する。 ・「環境を通しての保育」「遊び」の意義について理解する。 ・主体的な学び・自律のための具体的な方法について理解する。 ・教材研究・教材やコンピューターを活用した保育について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞太田雅子、橋本麻里衣　津森伸一＞ 第 1 回:オリエンテーション　幼児期にふさわしい教育とは　太田 第 2 回 : 幼稚園・保育園・認定こども園における保育のねらい・内容と展開　太田 第 3 回 : 環境を通しての保育とは？「遊び」の意義について　太田 第 4 回 : 環境と教育的価値（モンテッソーリ教育・保育の概要）　橋本 第 5 回 : 環境と教育的価値（モンテッソーリ教育・保育の特色）　橋本 第 6 回 : 環境と教育的価値（モンテッソーリ教具の概要）　橋本 第 7 回 : 環境と教育的価値（モンテッソーリ教具の適用）　橋本 第 8 回 : 主体的な学びと方法（発達の視点から）　橋本 第 9 回 : 秩序と自律　橋本 第 10 回 : 視聴覚教材の活用とは（ゲストスピーカー）　太田 第 11 回 : 視聴覚教材の活用の実際（ゲストスピーカー）　太田 第 12 回 : コンピューターを活用した保育とは　津森 第 13 回 : 情報活用能力の向上　津森 第 14 回 : 身近な教材を通して子ども主体の保育をプランする　太田 第 15 回 : 授業全体のまとめと振り返り（小テスト）　太田

アクティブラーニング	実際的な教材を作りや活用するためのプランを立てる。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。
評価方法	授業への取り組み：20%　　小テスト：50%　　課題提出物　：30% 評価は演習、課題提出物、小テストにより評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクション・ペーパー（コラム）を元に次の授業の中でフィードバックを行う。
指定図書	2017 年改訂版「幼稚園教育要領（解説付き）」・「保育所保育指針（解説付き）」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 プリントを配布する。
参考図書	授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	様々な保育方法論について学ぶ準備のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育実践(実習)と直結する具体性のある環境や援助について考察するための内容を提示する。 【目安時間 40 分】
オフィスアワー	授業の初回に提示する。

科目名	幼児教育相談
科目責任者	松下　恵美子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	教育相談を推進するための組織・運営の在り方、実態の把握の仕方、助言や支援の方法について学ぶ。（注）幼稚園教諭の免許取得の学生は必修
到達目標	保育・幼児教育を児童福祉や社会福祉といった広い視点でとらえ、子育て家庭を支援する力や、障害児など特別な支援を必要とする子どもに対する対応等を学び、保育実践と子育て支援活動をトータルに把握し、マネジメントする能力を養い、現場におけるリーダーとして不可欠な力量を身に付ける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション・幼児理解と教育相談 第 2 回：教育相談で出会う子どもたちの実態と理解 第 3 回：教育相談担当者の役割と資質 第 4 回：子どもの観察と実態把握からの幼児理解 第 5 回：子ども・保護者との信頼関係づくり 第 6 回：幼児理解と教育相談の基礎知識 第 7 回：教育相談のための事例と支援方法（1）　カウンセリングの原理 第 8 回：教育相談のための事例と支援方法（2）　カウンセリングの基本的進め方 第 9 回：教育相談のための事例と支援方法（3）　カウンセリングの基本的技法 第10 回：教育相談のための事例と支援方法（4）　カウンセリング・マインドとは 第11回：教育相談のための事例と支援方法（5）カウンセリング・マインドを活かした、登園拒否やいじめなどの相談と支援 第 12 回：発達障害の相談と支援（1）概念と診断 第 13 回：発達障害の相談と支援（2）生活と医療 第 14 回：教育相談関係機関とその利用 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	グループ討議、発表
評価方法	授業態度・感想文 10%、課題 10%、試験 80%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント、返却
指定図書	『保育臨床相談』小田 豊、菅野信夫、中橋美穂編、北大路書房
参考図書	随時紹介
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保育内容（健康）
科目責任者	和久田　佳代
単位数他	２単位（30時間）　選択　　こども　３セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子どもが「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことができるよう、「明るくのびのびと行動し充実感を味わう」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける」ことを支援する方法を研究する。 具体的には、生活リズム、遊び、運動、食事、排泄、清潔をテーマとしてとりあげ、今までの学びを整理し、意見を出し合い、グループで調べ、発表し合う。新聞記事や調査結果で現状を把握し、複数の参考図書を調べることで、幅広い考え方を知り、肯定的な支援ができるようになる。
到達目標	1 子どもの健康に関する現状を知り、健康的な生活を支援する方法をより幅広く考えることができる。 2 自身の健康について考え、支援者としてふさわしい健康習慣を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：オリエンテーション 健康とは 第2回：幼児期の健康な生活 第3回：現代社会における子どもの健康の現状 基本的生活習慣の重要性 第4回：1歳児の健康とその支援 第5回：2歳児の健康とその支援 第6回：3歳児の健康とその支援 第7回：4歳児の健康とその支援 第8回：5歳児の健康とその支援 第9回：健康な生活習慣の形成の援助 第10回：テーマ別研究　子どもの姿を知る 第11回：援助計画の作成 第12回：保護者向けおたよりの作成 第13回：ポスターセッション（グループ発表） 第14回：安全教育と安全管理 第 15 回：まとめ 支援者の健康習慣

アクティブラーニング	グループ学修を行い、ポスターセッションで発表する。
評価方法	筆記試験50% グループ発表30% 授業への取組20%（ワークシート、Moodleフィードバック）
課題に対するフィードバック	ワークシートを返却する。 グループ学修については授業内でフィードバックする。 試験結果は期間を決めて問い合わせに答える。
指定図書	井狩芳子「演習 保育内容 健康」萌文書林（第2版）
参考図書	谷田貝公昭「幼児の基本的生活習慣」一芸社 林万リ「やさしく学ぶからだの発達」全国障害者問題研究会 林万リ「やさしく学ぶからだの発達 part2」全国障害者問題研究会
事前・事後学修	指定図書の関連する部分を予習・復習する。（目安時間40分） 「保育内容」「子どもの保健Ⅰ」「発達心理学」等での学びと結びつける。 子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、視野を広げる。
オフィスアワー	和久田佳代　社会福祉学部　2709　　時間については初回授業時に提示します

科目名	保育内容（言葉）
科目責任者	鈴木　まき子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	本授業は講義と演習により構成され、講義を通して保育内容 5 領域全体の理解と「言葉」の領域の位置付けについて理解する。そのうえで保育実践のあり方、指導法について、子どもの発達段階、個人特性、および保育環境という視点から学ぶ。演習では、保育計画（指導案）を作成し、実際に教材を用いて授業で発表する。さらに、保育・幼稚教育の歴史的経緯、現代の保育現場の多様性、現代的課題についても学び、これからの多様な保育の二ーズに対応できる知識と実践力を身につける。
到達目標	「言葉」の領域のねらいに則り、保育の現場においてどのように具現化するか、その指導法について学び、子どもの特性や環境に配慮した保育実践を学ぶ。 ① 子どもの特性や発達段階に配慮した教材作成や言葉かけができる。 ② 保育の本質と保育と家庭生活の連続性を理解し、独自の保育指導案を作成する。 ③ 子どもの言葉を豊かに育む保育環境を構成し、実践する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1回：オリエンテーション　太田　雅子 「ことば」について考える 第 2回：幼稚園教育要領および保育所保育指針について　鈴木　まき子 幼保連携型認定こども園教育・保育要領.について 保育内容５領域の確認　鈴木　まき子 第 3回：保育の基本と領域「言葉」 第 4回：わらべ歌の演習　**ゲストスピーカー**　太田　雅子 第 5回：わらべ歌と乳幼児の言葉の発達　**ゲストスピーカー**　太田　雅子 第 6回：言葉とコミュニケーション、発達の道筋① 乳幼児期の言葉、コミュニケーション、社会性の発達　鈴木　まき子 第 7回：言葉とコミュニケーションの発達の道筋② 現代の乳幼児保育・教育の多様性と課題　鈴木　まき子 第 8回：保育者の役割と援助について　鈴木　まき子 第 9回：保育者が広げる物語の世界　鈴木　まき子 第 10 回：保育環境と言葉、体験を通して育つ言葉　鈴木　まき子 第 11 回：子育て広場での実践①乳児対象の絵本の読み語り　鈴木　まき子 第 12 回：子育て広場での実践②幼児対象の絵本の読み語り　鈴木　まき子 第 13 回：就学前の子どもを対象とした保育活動①　太田　雅子 ～附属こども園での実践のための活動計画の作成～ 第 14 回：就学前の子どもを対象とした保育活動②　太田　雅子 ～附属こども園での実践から行事とことばの関係を考える～ 第 15 回：まとめ　鈴木　まき子 ～実践での学びからことばを考える～

アクティブラーニング	演習科目です。体験的に学ぶ中で、保育をする上での要点について考え、洞察を深めたいと考えます。
評価方法	レポート・発表（指導案　模擬保育　付属園・子育て広場での取り組み）50% 小テスト50% 演習（発表、レポート、小テストで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	「子どもと言語表現」の授業と連動させる。子どもの成長・発達に合わせた言葉遊び、絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等の文化教材を中心に保育現場で活かせる必要な言葉の表現技術を養うことができたか、「子育て広場」「付属園」での実践により振り返る。多様な保育のニーズに対応できる知識と実践力を身につけることができたか、PDCAサイクルにて確認し、保育者としての自信をつける。
指定図書	保育内容指導法「言葉」田上貞一郎著　　高荒　正子著　　萌文書林 2017年改訂版　保育所保育指針（解説付き）・幼稚園教育要領（解説付き） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（解説付き）
参考図書	授業内にて随時提示する。
事前・事後学修	【事前学修】子育てひろば、附属こども園での実践にあたり、発達にあった視聴覚教材を選ぶこと、グループごとで活動内容に関する指導計画の作成と準備をします。 【事後学修】課題項目に基づいた振り返りを行い、レポートの提出をします。 （目安時間40分）
オフィスアワー	初回にお知らせいたします。

科目名	保育内容（人間関係）
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「人にかかわる力」を育む領域「人間関係」の原理と実践を学びます。「人にかかわる力」は適切な環境と援助のもとで育つ力です。また、子どもの「自分づくり」の発達過程に応じて必要な人間関係は異なるため、保育内容にもそれに応じた転換が必要になります。具体的な実践事例を通しこうした原理を学びます。
到達目標	1. 子どもの「自分づくり」の発達過程と人間関係との関連を理解し、説明できる。 2. 領域「人間関係」に必要な援助と環境構成の基本的な知識と技術を説明できる。 3. 領域「人間関係」にかかわる諸実践を学び、実践の構想力をつける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　担当者 第 1 回：領域「人間関係」のねらいと内容　細田 第 2 回：子どもの「自分づくり」の発達過程と「人間関係」　細田 第 3 回：乳児期（前期・中期）の発達と人間関係　細田 第 4 回：乳児期（後期）の発達と人間関係　細田 第 5 回：幼児前期の発達と人間関係　細田 第 6 回：幼児中期の発達と人間関係　細田 第 7 回：幼児後期の発達と人間関係　細田 第 8 回：領域「人間関係」と他領域とのつながり（事例）　鈴木（光） 第 9 回：領域「人間関係」と他領域とのつながり（実践と討議）　鈴木（光） 第 10 回：模擬保育①指導計画の作成　鈴木（光） 第 11 回：模擬保育②実践・評価・指導計画の改善　鈴木（光） 第 12 回：附属こども園における人間関係の観察　細田 第 13 回：附属こども園における人間関係の観察のまとめと発表　細田 第 14 回：領域「人間関係」の教材・環境構成・援助　細田 第 15 回：まとめと振り返り　細田 ※詳細な授業内容に関しては、第１回の授業時に提示します。

アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
評価方法	ポートフォリオ100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	加藤繁美『0 歳～6 歳　心の育ちと対話する保育の本』（学研） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）
参考図書	河原紀子『0 歳～6 歳　子どもの発達と保育の本』（学研）
事前・事後学修	事前：教科書の該当箇所を事前に読んでから授業に臨むこと（20 分）。 事後：ポートフォリオ作りを各自進める（40 分）。
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。

科目名	保育内容（環境）
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　３～４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	５領域のひとつ「環境」を通年で学ぶ科目です。幼児は身近な環境にどのようにかかわり、何が育つのか。幼児の「環境とかかわる力」を育てるために、保育者はどのように援助しているのか。具体的な活動や事例を通して基本を理解し、領域「環境」の内容に関連した実践を計画、実践、評価できる力を培います。
到達目標	1.『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』の領域「環境」のねらい・内容を説明できる。 2. 領域「環境」のねらい・内容を実現するための保育者の知識・技術・判断力を身につける。 3. 領域「環境」のねらい・内容を実現するための主な教材と活動について説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：オリエンテーション：領域「環境」のねらいと内容　細田 第 2 回：春の自然と子どもをつなぐ保育の計画・実践　荒巻 第 3 回：自然や社会との関わりの中で育つ探究的知性と共感　細田 第 4 回：科学する心を育む保育の計画　荒巻 第 5 回：科学する心を育む保育の実践　荒巻 第 6 回：数量・図形・文字の認識の発達と保育実践　細田 第 7 回：数量・図形・文字への興味を育む保育の計画と実践　細田 第 8 回：基本的な環境体験を保障する　細田 第 9 回：秋の自然と子どもをつなぐ保育の計画　荒巻 第 10 回：秋の自然と子どもをつなぐ保育の実践　荒巻 第 11 回：保育における飼育栽培の実践事例　細田 第 12 回：保育における飼育栽培と調理　細田 第 13 回：玩具と理性（理論）　細田 第 14 回：玩具と理性（実践）　細田 第 15 回：まとめ　細田 ※詳細な授業内容に関しては、第１回の授業時に提示します。

アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
評価方法	ポートフォリオ100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。 レポートはルーブリックにより評価します。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	高山静子『学びを支える保育環境づくり』(小学館)、 『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)、『保育所保育指針解説書』(厚生労働省)
参考図書	高山静子『環境構成の理論と実践』(エイデル研究所)、日置光久他『子どもと自然とネイチャーゲーム』(日本ネイチャーゲーム協会)
事前・事後学修	事前：事前課題を準備して授業に臨むこと（20分)。 事後：事後課題やポートフォリオ作りを各自進める（20分)。
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。

科目名	保育内容（表現）
科目責任者	鈴木　光男
単位数他	２単位（30 時間）　選択 こども　４セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子供の発達を「表現」の領域の観点からとらえ、子供が「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことができるよう支援する方法を習得する。身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。特にかいたりつくったりする活動では、用具の基本的な扱い方など保育実践に生きる学びを自ら積み上げ整理していく。
到達目標	1. 保育の内容を理解し、子供の遊びを豊かに展開するために必要な身体表現、音楽表現、造形表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 2. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
授業計画	**身体表現・音楽表現に関する知識と技術　：和久田佳代** 第１回：さくら さくらんぼのリズム遊び 第２回：リズム遊びの体験と支援 演習 第３回：発育 発達過程を活かした表現活動の創作 第４回：発育発達活動を活かした表現活動 **造形表現に関する知識と技術： 鈴木光男** 第５回：幼児教育における表現①「比べる・感じる」 ・感性をみがく…子供の体を感じてみよう！（２歳児に変身?!) 第６回：幼児教育における表現②「感性をみがく・心をひらく」 ・感じ合うことから…「新聞紙の大きな卵」 ・物語を紡ぎ出すアートの特性を生かしたワークショップ 第７回：子供の表現と支援・指導のポイント① ・物語を紡ぎ出すアートの見立てを生かしたワークショップ 第８回：子供の表現と支援・指導のポイント② ・ワークショップ《遊びをつくる造形》を基本プランに 第９回：子供の表現と発達 ・子供の表現と発達体験 ・ワークショップ…身近なもので動く人形・風車をつくろう 第 10 回：造形表現の実際と展開 ① ・活動主題「材料や行為を楽しむ」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 第 11 回：造形表現の実際と展開 ② ・活動主題「見立てを楽しむ」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 第 12 回：造形表現の実際と展開② ・活動主題「いのちのつながりを感じて表す」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 第 13 回：造形表現の実際と展開② ・活動主題「自らの思いを伝え表す」の保育実践ビデオを視聴し、考察する。 ・模擬保育のための教材研究と指導案の作成 第 14 回：造形表現の実際と展開③ ・模擬保育の発表と検討・協議 第 15 回：造形表現の実際と展開④ ・模擬保育の発表と検討･協議 ・まとめ

アクティブラーニング	LiTE(Learning in Teaching)を採り入れた学習の共有 現場実践の動画による検討や考察、協議 グループによる模擬保育の立案と発表
評価方法	（1）授業で課した課題（模擬保育・保育案など）の評価…40% （2）授業態度（学習記述、参加態度など）…60% ※ルーブリックについて 保育案や模擬保育で評価するが、ルーブリックは用いない。ただし、保育案や模擬保育については視点を授業内で示す。
課題に対するフィードバック	振り返りの記述をもとに毎時間評価・コメントを記す。 互いの表現や作品を鑑賞し合い、合評会によりフィードバックする。 模擬保育のための指導案や模擬保育の発表をもとにフィードバック、ならびにフィードフォワードする。
指定図書	資料配布
参考図書	斎藤公子著「さくら・さくらんぼのリズムとうた」群羊社 槇英子著「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（改訂版）」（日本文教出版）
事前・事後学修	以下のような内容の事前・事後学修に取り組むものとして、それぞれの授業ごとに 40 分を目安に取り組むようにしましょう。 和久田：Moodle によるフィードバック（事後学修） 和久田：Moodle による動画視聴（事前学修） 鈴木：記述による学習記録（事後学修）・保育案の作成と模擬保育の準備（事前・事後学修） ※保育案を作成するに当たっては、必ず作品の試作などして教材研究を深めましょう。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	子どもと生活
科目責任者	坪川　紅美
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　１セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	子どもが生活を通してどのような育ちが促されているかを学んでいきます。子どもの発達・成長、子どもの日常生活および科学という視点から考察し、子どもの学びを形成するために必要な基礎を育成していきます。また「生きる力」を育むために何が必要となるかを考えるため、社会環境の変化の影響についても視点を深めます。
到達目標	1. 社会生活の変化における影響について考察を深める 2. 子どもの生活のなかにある遊びから知的発達と道徳的発達の姿を学ぶ 3. 遊びに関わる事例について考察することができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション「子どもとは」 子どもの遊びの変遷　－自治機能の低下― 第 2 回 : 幼児期の発達の特性と生きる力①　遊びのなかの知的発達 第 3 回 : 遊びの中にある教育的意味 第 4 回 : ビー玉とランプの実践 第 5 回 : ドミノ倒しの実践 第 6 回 : 物理的知識に基づく活動を通して子どもに育まれること 第 7 回 : 幼児期の発達の特性と生きる力②　遊びのなかの道徳的発達 第 8 回 : 集団ゲームの実践 第 9 回 : カードゲームの実践 第 10 回 : トラブルのなかでの道徳的発達　VTR を通してのケーススタディ 第 11 回 :　基本的生活習慣や態度の形成・集団生活の意味 第 12 回 : 子どもの生活と援助の基本的な考え①　－主体性の中から育まれるもの― 第 13 回 : 幼児の生活と援助の基本的な考え②　－大人の役割― 第 14 回 : 子ども環境の危機①　－空間的環境の喪失・電子機器の影響― 第 15 回 : 子ども環境の危機②　－家庭の育児能力の低下―

アクティブラーニング	子どもの遊びに係る事柄については、グループに分かれ実践を行い考察を行う
評価方法	レポート 30%、定期試験 30%、授業参加態度 40%
課題に対するフィードバック	課題に対してだされた疑問など適宜フィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修として必要なプリントを授業時に配布します。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　　選択　こども　４セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	本科目は社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚生労働省が指定する科目のねらいを反映し、「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的としている。特に具体的な課題別の相談援助事例（含む集団援助事例）について、ロールプレイ等を用いて演習形態で行い、総合的かつ包括的な援助の具体的な方法を体系的に学ぶ。
到達目標	１，社会的排除、虐待（児童・高齢者)、家庭内暴力 、低所得、ホームレス、その他、権利擁護活動を含む、危機状態にある相談援助事例について総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。 ２，ロールプレイングにより、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。 ３，特に相談援助の過程、インテークからアセスメントまでの目的・意義・方法・留意点について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞＜担当教員名＞坂本道子、藤田美枝子、堂元京子、荒川あつ子 第 1 回： オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法等の説明） 面接技法の復習、事例の読み方（相談援助過程の流れ、インテーク・ アセスメントのポイント 第 2 回：「社会的排除」の事例　①事例の概要・インテーク面接 第 3 回：「社会的排除」の事例　②アセスメント・考察・討議 第 4 回：「虐待・家庭内暴力」の事例　①事例の概要 第 5 回：「虐待・家庭内暴力」の事例　②インテーク面接・アセスメント 第 6 回：「虐待・家庭内暴力」の事例　③考察・討議・まとめ 第 7 回：「不登校」の事例　①事例の概要・インテーク面接 第 8 回：「不登校」の事例　②アセスメント・考察・討議 第 9 回：「不登校」の事例　③考察・討議・まとめ 第 10 回：「低所得」の事例　①事例の概要・インテーク面接 第 11 回：「低所得」の事例　②アセスメント・考察・討議 第 12 回：「ホームレス」の事例　①事例の概要・インテーク面接 第 13 回：「ホームレス」の事例　②アセスメント・考察・討議 第 14 回：危機状態にある相談援助事例　①事例の概要・インテーク面接 第 15 回：危機状態にある相談援助事例　②アセスメント・考察・討議

アクティブラーニング	演習科目であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
評価方法	授業への取組姿勢 25% 、毎回授業時提出小レポート 25%、定期試験レポート 50% (今年度はルーブリックを用いない)
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	授業中に印刷物資料等で提示
参考図書	岩間伸之『支援困難事例へのアプローチ』メディカルレビュー社 岩間伸之『支援困難事例と向き合う――18 事例から学ぶ援助の視点と方法』中央法規 岸恵美子他編『セルフ・ネグレクトの人への支援』中央法規 田中英樹・中野伸彦『ソーシャルワーク演習のための 88 事例――実践につなぐ理論と技法を学ぶ』中央法規 渋谷哲・山下浩紀『新版ソーシャルワーク実践事例集――社会福祉士をめざす人・相談援助に携わる人のために』明石書店
事前・事後学修	事前学修 : 前回行ったことを思い出し、プリントや関連テキスト等を事前に読む 事後学修 : 授業内容を、①事実②感想③考察に区分して言語化する。テキストを読む。 合わせて 40 分程度
オフィスアワー	坂本研究室 (2612)　　藤田研究室(2610)　　時間は授業で提示する

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　　選択　こども　５セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目は社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚生労働省が指定する科目のねらいを反映し、「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的としている。特に事例によって、相談援助場面および相談援助の過程を想定したグループによる実技指導を行う。
到達目標	1. 事例を用いて、相談援助過程の「インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア 」という一連の流れを理解する。 2, 事例を場面に分け、またいろいろな登場人物の役割を演じるロールプレイによって、より具体的な相談援助場面および相談援助過程を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞坂本道子、藤田美枝子、堂元京子 第1 回： オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明)、事例の概要 第2 回 : インテーク①　理論と方法 第3 回:インテーク②　ロールプレイ 第4 回 : アセスメント①　理論と方法 第5 回 : アセスメント②　ロールプレイ 第6 回 : アセスメント③　ロールプレイ 第7 回 : プランニング①　理論と方法 第8 回 : プランニング②　ロールプレイ 第9 回 : プランニング③　ロールプレイ 第10 回 : 支援の実施①　理論と方法 第11 回 : 支援の実施②　ロールプレイ 第12 回 : 支援の実施③　ロールプレイ 第13 回 : モニタリング　理論と方法　ロールプレイ 第14 回 : 効果測定　理論と方法　ロールプレイ 第15 回 : 終結とアフターケア　理論と方法　ロールプレイ

アクティブラーニング	演習科目であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
評価方法	授業への取組姿勢 25% 、毎回授業時提出小レポート 25%、定期試験レポート 50% (今年度はルーブリックを用いない)
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	授業中に印刷物資料等で提示
参考図書	大島剛他『子ども・家庭支援に役立つアセスメントの技とコツ――より良い臨床のための 4 つの視点、8 つの流儀』明石書店 川畑隆他『子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ』明石書店 川畑隆『教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子供と家族の援助法ーよりよい展開へのヒント』明石書店 ジョナサン・パーカー他『進化するソーシャルワークー事例で学ぶアセスメント・プランニング・介入・再検討』筒井書房 早樫一男『対人援助職のためのジェノグラム入門：家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方』中央法規
事前・事後学修	事前学修：前回行ったことを思い出す。プリントや関連するテキスト等を事前に読む 事後学修：授業内容を、①事実②感想③考察　に区分して言語化する。テキストで確認する。合わせて 40 分程度
オフィスアワー	藤田研究室(2610)、坂本研究室 (2612)、時間は授業で提示する

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位(30 時間)　　選択　こども　６セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	本科目は社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚生労働省が指定する科目のねらいを反映し、「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的としている。本科目は特に、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を活用し、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心とした演習を展開する。
到達目標	今まで学習した関連科目で獲得した知識・理論や技能等を総合的に活用し、地域社会や地域住民のニーズや背景を把握し、支援できる実践力を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞坂本道子、藤田美枝子、佐藤順子、堂元京子 第 1 回： オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 地域福祉論Ⅰ-Ⅱ－SW 演習Ⅴの関連、実習中に体験した「地域との関わり」 第2回:「地域」とは何か～コミュニティの意味 第3回：地域を知る 第4回：住民を知る 第5回：地域住民のニーズを知る 第6回：地域課題解決のためのプログラム案　作成 第7回：地域課題解決のためのプログラム案　発表 第8回：子どもを取り巻く現在の社会問題と地域課題 第9回：浜松における市民参加の多様な形態・地域子育て支援の現状 ゲストスピーカー　NPO 法人浜松市子育て情報センターぴっぴ 第10回：個別ニーズから地域課題へ　グループワークへの導入① 第11回：個別ニーズから地域課題へ　グループワーク② 第12回：個別ニーズから地域課題へ　グループワーク③ 第13回：個別ニーズから地域課題へ　グループワーク④ 第14回：個別ニーズから地域課題へ　グループワーク⑤　発表 第15回：個別ニーズから地域課題へ　グループワーク⑥　発表・まとめ

アクティブラーニング	演習科目であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。
評価方法	授業への取組姿勢 25% 、毎回授業時提出小レポート 25%、単元終了後レポート 50% (今年度はルーブリックを用いない)
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに対するコメントは毎回行い、相互に学びが深まるようにします
指定図書	ありません。毎回資料を配布します
参考図書	吉岡京子編『スーパーバイズでお悩み解決！地域における支援困難事例 15』医学書院 日本社会福祉士会編『ネットワークを活用したソーシャルワーク実践――事例から学ぶ「地域」実践力養成テキスト』中央法規 中谷奈津子編著・山縣文治監修『住民主体の地域子育て支援――全国調査に見る「子育てネットワーク」』明石書店 隅元晴子『居場所のない子どもたちへー「食」と「教育」で支える大学・地域・NPO の挑戦』共同文化社
事前・事後学修	事前学修：前回行ったことを思い出す。プリント等や関連する科目のテキストを事前に読む 事後学修：授業内容を、①事実　②感想　③考察　に区分して言語化する。テキストを読む合わせて 40 分程度
オフィスアワー	藤田研究室（2610)、坂本研究室（2612） 時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	１単位(15 時間)　　選択　こども　７セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	本科目は社会福祉士受験資格取得のための科目として、厚生労働省が指定する科目のねらいを反映し、「ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得すること」を目的としている。特に、本科目は今まで学んだ理論と技法を、保育士と社会福祉士の両資格を取得する学生が現場で直面する「家族」の問題に焦点化して復習し、現場で活用できる知識と技術の定着化を図る。また「家族ソーシャルワーク」の考えと技術、さらには専門職種連携（IPW）の方法を習得する。
到達目標	1.社会福祉士がかかわる事例の多様性と複雑さを学ぶ 2.今まで学んだソーシャルワーカーが拠り所とする理論とアプローチを同一事例で学び、応用できるようにする。 3.家族ソーシャルワークの基本的な考え方（価値・原理・対象・理論）を理解する 4.家族をアセスメント・プランニングするモデルや技法を習得する 5.専門職連携（IPW）の方法を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞坂本道子、荒川あつ子、藤田美枝子 第１回：　オリエンテーション、ソーシャルワーカーがかかわる事例の多様性と複雑さ 事例から実践を考える① 第２回：クライエント中心アプローチ、エコロジカルアプローチ 第３回：認知アプローチ、行動アプローチ、課題中心アプローチ 第４回：システムズ（家族療法）アプローチ、事例から実践を考える② 第５回：家族力動のアセスメント・技法 第６回：家族生活環境のアセスメント・技法 第７回：プランニングと展開 第８回：多職種連携・IPW の実践と課題

アクティブラーニング	演習科目であるため、積極的に演習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい
評価方法	授業への取組姿勢 25% 、毎回授業時提出小レポート 25%、単元終了後レポート 50% (今年度はルーブリックを用いない)
課題に対するフィードバック	授業中に行う
指定図書	資料を配布する
参考図書	川村隆彦『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規 川村隆彦『支援者が成長するための 50 の原則―あなたの心と力を築く物語』中央法規 田中英樹『ソーシャルワーク演習のための 88 事例―実践につなぐ理論と技法を学ぶ』中央法規 団士郎『対人援助職のための家族理解入門――家族の構造理論を活かす』中央法規 川村隆彦他『保育者だからできるソーシャルワーク――子どもと家族に寄り添うための 22 のアプローチ』Kindel 吉川悟『システムズアプローチによる家族療法のすすめ方』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前学修 : 前回行ったことを思い出し、プリント等を事前に読む 事後学修 : 授業内容を、①事実　②感想　③考察　に区分して言語化文字化する 合わせて 40 分程度
オフィスアワー	坂本研究室 (2612)　藤田研究室 (2610)　時間は授業で提示する

科目名	教育心理学
科目責任者	細田　直哉
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　６セメスター
科目の 位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
到達目標	1. 子どもの心身の発達と教育実践の関連について心理学的に説明できる。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を心理学的に理解できる。 3. 心理学的な根拠に基づいた指導・援助の原則について説明できる。
科目概要	この科目では、子どもの心身の発達および学習に関する心理学理論を学び、それを教育実践に活かす方法や優れた教育実践を支える心理学的根拠について学びます。そのため、教科書だけでなく、実践事例や映像などを用いて、学生が自身の学びを踏まえて考え、討論する場面を設定し、実践につながる学びが生まれるようにしていきたいと思います。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：教育と学習と発達の関係 第 2 回：「わかる」とはどういうことか 第 3 回：子どもの心を「わかる」ために 第 4 回：学習理論①行動主義（レスポンデント条件づけとその応用） 第 5 回：学習理論①行動主義（オペラント条件づけとその応用） 第 6 回：学習理論②認知主義（ピアジェ vs. ヴィゴツキー） 第 7 回：「発達の最近接領域」と遊び 第 8 回：学習理論③状況主義 第 9 回：保育者の「援助」を科学する①環境構成 第 10 回：保育者の「援助」を科学する②言葉 第 11 回：保育者の「援助」を科学する③仲立ち 第 12 回：保育者の「援助」を科学する④遊び 第 13 回：知能と障害の科学と文化 第 14 回：教育実践の中に心理学的根拠を読み取る 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	各回のテーマに関連した保育実践をＤＶＤで視聴し、ロールプレイやディスカッションを行ないます。
評価方法	筆記試験 100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	試験は模範解答を示します。
指定図書	授業に関連した自作のプリントを用いて授業します。
参考図書	市川伸一『学習と教育の心理学』(岩波書店)、竹田契一『インリアルアプローチ：子どもとの豊かなコミュニケーションを築く』(日本文化科学社)
事前・事後学修	事前：事前課題に取り組み授業に臨んでください（２０分)。 事後：試験に向けた自筆のノートづくりを進めてください（２０分)。
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。

科目名	子育て環境論
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）選択　こども　４セメスター
科目の 位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	子育て支援が必要とされる時代的な背景を理解して保育者としての支援のあり方を学ぶ。
到達目標	1.　現代の子育て環境（家庭環境）や社会的実情（地域環境）を理解できる。 2.　現代の子育て支援の重要性、特に他機関等の連携の重要性を理解できる。 3.　保育者としての関わりの基本と援助のあり方を考えることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：　現在の子育ての実情を事例から読み解く 第 2 回：　現在の母親をめぐる多様な環境 第 3 回：現在の母親の傾向―仕事と子育ての両立に悩む事例 第 4 回：現在の母親の傾向―出産年齢と子育て 第 5 回：現在の貧困問題と子育て 第 6 回：ネット依存問題と子育て 第 7 回：父親と子育て―父子家庭を支援するために 第 8 回：父親の果たす役割―子育て中の母親を支援する環境としての父親 第 9 回：子育て中の母親にとっての祖父母等の拡大家族の問題 第 10 回：地域の子育て支援の実態―支援の網からもれる事例 第 11 回：社会的支援の充実のために―フランスの保育者の取り組み 第 12 回：社会的支援の充実のために―諸外国の先進的な保育の取り組みから学ぶ 第 13 回：現代の我が国の実態―少子時代は保育者にどのような影響を与えるか 第 14 回：現代の我が国の子どもの虐待の問題 第 15 回：全体のまとめ

アクティブラーニング	グループ討議・プレゼンテーションを行う
評価方法	授業への取り組み30%　レポート70%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、プレゼンテーションに対して回ごとに行う
指定図書	プリントを配布する
参考図書	なし
事前・事後学修	毎回の授業で課題を提示する。
オフィスアワー	最初の授業で提示する。

科目名	子どもケアワーク論
科目責任者	稲松　義人
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　４セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しているなかで、本来の子どもたちの健やかな成長とは何なのか。また、子どもたちの健やかな成長を家族だけで支えることができないとき、子どもとその家族あるいは地域社会に対して、子どもたちの支援者（保育者）としてどのように関わりが求められているのかを一緒に考えていく。
到達目標	1.　ケアを必要とする子どもと子どもを取り巻く環境を理解する。 2.　具体的な事例を通し、子どもへのケアの場面での課題について知る。 3.　学んだことから自分の感想・意見を話す。自分と違った考えを理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 毎回の講義で、教員の紹介する事例や課題（テーマ）について、学生自身が自らの感性で受け止め、課題を整理し、それについて考察したことなどについて、小グループでセッションする。また教師に対して積極的に質疑し、あるいはリアクションペーパーを用いて質問、感想、意見を伝えることで学びを深めて行く。 以下は、現時点で予定しているテーマだが、セッションを重ねる中で変更することもある。 【子どもを理解する】 第 1 回：（オリエンテーション）、「子ども」とはどんな存在か 第 2 回：　人は「遺伝子・環境・経験（刺激）」の中でどのように成長していくか。 第 3 回：　健やかな成長・豊かな人生の土台となる人間関係(愛着)について 【事例を通して子どもへのケアのあり方を考える】 第 4 回：　しつけにおいてある程度の体罰は認められるか 第 5 回：　親の生活が与える子どもへの影響にどう関わるか 第 6 回：　虐待を受けてもなお親を求める子どもにどう寄り添うか 第 7 回：　子ども自身の生活に「大人」がどう介入すべきか 第 8 回：　期待されるケアと、不十分な環境とのギャップをどう向き合うか 第 9 回：　「いじめ」がエスカレートする子ども集団の構造を考える。 【子どもへのケアの実際】 第 10 回：　障がいのある子と共に育つことの意味 第 11 回：　時代の変化に合わせて障がいのある子を支援した小羊学園の取り組み 第 12 回：　児童養護施設の課題と改善への試み（ある児童養護施設の実践の DVD から） 第 13 回：　里親による養育の現状と課題 ゲストスピーカーとして専門里親の看護学部の入江拓先生から話を聞く。 第 14 回：　子どもたちのために「地域」でできること（孤立する子どもの居場所づくり） 【まとめ】 第 15 回：　「私のめざす子どもケアワーカー(保育者)像」について自分の言葉で話す

アクティブラーニング	教師による課題提起を受け、できるだけ 4～6 名の小グループで 15～20 分のセッションをし、それぞれの考えを話したり聞いたりする。希望者には土曜日等に施設見学等の機会を設ける。
評価方法	毎回の講義の後の小レポート（リアクションペーパー）50%、　筆記試験 50%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを通しての質問・意見に対し全体で共有できることは次回の講義においてコメントを返す。個別のことについては個々にコメントし必要なアドバイスをする。
指定図書	毎回の講義ごとにプリントを配布。参考図書については講義の中で紹介する。
参考図書	なし
事前・事後学修	新聞の家庭面などの記事から「子育て」「児童福祉」に関係する記事を、最低毎週 1 つは読み、できれば切り抜きして、短い感想を添えて、スクラップブックを作る。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	発達障害児の理解
科目責任者	松下　恵美子
単位数他	２単位（30時間）選択　こども　５セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子どもの発達や障害についての理解を子どもの事例や保育・療育の実践に即しながら、現場における実践について深めていく。
到達目標	保育、施設、学校での実践において対象となる子どもの発達を正しく理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：子どもの発達の道筋と発達障害 第 3 回：自閉症とは（1） 第 4 回：自閉症とは（2）　事例 第 5 回：学習障害とは（1） 第 6 回：学習障害とは（2）　事例 第 7 回：ＡＤＨＤとは 第 8 回：高機能自閉症、アスペルガー障害とは 第 9 回：問題行動の背景を考える 第10回：不器用なこどもたちの理解と対応 第11回：特別支援教育の意義と背景 第12回：特別支援教育に関わる制度 第13回：障害児教育の歴史 第14回：家庭とのかかわり 第15回：まとめ

アクティブラーニング	なし
評価方法	授業態度・感想文 20%、試験 80%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント、返却
指定図書	授業中に配布
参考図書	なし
事前・事後学修	前の授業の内容の復讐、質問を考えて次回の授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	発達障害児の支援
科目責任者	松下　恵美子
単位数他	２単位（30時間）　選択　こども　６セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	援助に必要な発達障害の基本的知識やその対応の仕方、指導方針、ひとりひとりの持つ様々な資源の有効な活用に関して考えていく。
到達目標	子どもの発達支援と発達相談に関わる基礎理論を身につける。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：子育てを巡る社会的背景 第 3 回：学習障害の理解と対応（1） 第 4 回：学習障害の理解と対応（2）事例検討 第 5 回：ＡＤＨＤの理解と対応（1） 第 6 回：ＡＤＨＤの理解と対応（2）事例検討 第 7 回：高機能自閉症、アスペルガー障害の理解と対応（1） 第 8 回：高機能自閉症、アスペルガー障害の理解と対応（2）事例検討 第 9 回：発達障害児への心理的援助 第 10 回：家族の支援と相談 第 11 回：乳幼児健診と早期療育の役割 第 12 回：発達相談に関わる専門職の役割 第 13 回：特別支援教育と発達相談（1） 第 14 回：特別支援教育と発達相談（2）　事例検討 第 15 回：まとめ

アクティブラーニング	なし
評価方法	授業態度・感想文 20%、試験 80%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント、返却
指定図書	毎時間、プリントにて配布する。
参考図書	なし
事前・事後学修	各授業の際に提示する内容・課題に従って実施する
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	親支援方法論
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（30 時間）　選択　こども　８セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	子どもに関る専門職者は、子どもだけを見ていればよいのではない。子どもを育てている親との関わりが必要不可欠である。親自身が前向きに子育てに取り組めるよう、親の立場に沿った支援の方法について事例やワークを通しながら学ぶ。「教育弱者」と言われる環境に身を置く子どもたちにとっても幸せな未来につながる子育て支援についても理解したい。「子を思う親心・普遍的な家族の学び」「今日的な家族の課題」の視点から親支援について学ぶ。
到達目標	・親支援の必要性を理解する。 ・親支援の具体的な仕方を学ぶ。 ・親支援の多様性について理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第１回：オリエンテーション・保育所・幼稚園に求められる親支援とは　太田雅子 第２回：子どもの誕生と家族　～生まれてきた子はみんな幸せに～　鈴木まき子 第３回：親子の愛情と信頼・絆の形成　～親の切なる願いに親身になって～　鈴木まき子 第４回：男の子・女の子の育て方　～子どもはみんな宝物、愛情の栄養を～　鈴木まき子 第５回：　幸せな親への導きかた　～身近な事例検討（１）ロールプレイ　鈴木まき子 第６回：　幸せな親への導きかた　～身近な事例検討（２）考察　鈴木まき子 第７回：モンスター・ヘリコプターペアレンツ　（実は・・）　鈴木まき子 第８回：子育て支援、障がい児とその親への支援　鈴木まき子 第９回：保護者とのコミュニケーションづくり　鈴木まき子 第 10 回：ペアレントトレーニング（コミュニケーション・コーチング理論） ゲストスピーカー（太田雅子） 第 11 回：ペアレントトレーニング（コミュニケーション・コーチングの実際） ゲストスピーカー（太田雅子） 第 12 回：ペアレントトレーニングを活かした親支援（学級・個人懇談）　鈴木まき子 第 13 回：ペアレントトレーニングを活かした親支援（家庭訪問）　鈴木まき子 第 14 回：ペアレントトレーニングを活かした親支援（連絡帳）　鈴木まき子 第 15 回：まとめ　（レポート）　太田雅子

アクティブラーニング	模擬体験を伴う学習（ロールプレイなど）における課題を提示する。提示された教材もとにグループディスカッションや発表を行う。
評価方法	授業への参加状況　60 パーセント　　授業後の課題とレポート 40 パーセント
課題に対するフィードバック	回ごとに記入したリアクションペーパー（コラム）を次の回にコメントして返却する。及び授業の中でフィードバックをする。15 回終わったところで、全回が記入されたリアクション・ペーパーを返却。それを見ながら授業の振り返りと自己評価をする。
指定図書	プリントを配布　　ビデオ等の映像
参考図書	なし
事前・事後学修	事前に事例等を提出させ、課題意識をもって授業に取り組むと共に、身近な事例検討を進め、保育現場で生かせるように配慮する。
オフィスアワー	初回授業において提示する。

科目名	保育実習指導Ⅰ
科目責任者	小川　千晴
単位数他	２単位数（60 時間）選択　こども４～５セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	１．保育実習の意義・目的が理解できる。 ２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ３．実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ４．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	＜担当教員名＞小川千晴、太田雅子、藤田美枝子、鈴木光男、二宮貴之、細田直哉 ＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 【保育実習ＩＡ・事前指導】 第 1 回：オリエンテーション　小川千晴 授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 第 2 回：　実習の１日、実習生としての心構え　小川千晴 第 3 回：教材研究①(ゲストスピーカー)　松村洋子・小川千晴 積み木遊び　　積み木の基本的な使い方を知る 第 4 回：教材研究②(ゲストスピーカー)　松村洋子・小川千晴 積み木遊び　　積み木で遊ぶことで子どもの気持ちを知る 第 5 回：教材研究③（ゲストスピーカー)　大村由実・小川千晴 絵本、紙芝居の読み聞かせ、年齢に適した絵本の選び方 第 6 回：乳児の保育の実際と記録　細田直哉 第 7 回：幼児の保育の実際と記録　細田直哉 第 8 回：実習オリエンテーションにおけるマナー、心構え　小川千晴 第 9 回：実習日誌と指導計画のつながり　太田雅子 第 10 回：教材研究と指導計画　鈴木光男 制作活動 第 11 回：個人情報の管理　小川千晴 SNS を中心とした扱い 第 12 回：実習直前指導、事務連絡　小川千晴・太田雅子・鈴木光男 細田直哉・二宮貴之 【保育実習ＩＡ・事後指導】 第 13 回：実習の振り返り・共有　小川千晴・太田雅子・鈴木光男 細田直哉・二宮貴之 第 14 回：実習報告会の計画・個人面談　小川千晴 第 15 回：実習報告会の準備・個人面談　小川千晴 第 16 回・第 17 回：2 年生に向けた実習報告会　小川千晴・太田雅子・鈴木光男 細田直哉・二宮貴之 【保育実習ＩＢ・事前指導】 第 18 回：オリエンテーション　小川千晴 授業の進め方、実習の内容、手続きなどの確認 第 19 回：施設実習における保育士の役割　太田雅子・藤田美枝子 第 20 回：実習記録の書き方　藤田美枝子 第 21 回・第 22 回：実習先種別について調べる（グループ学習）　藤田美枝子・小川千晴 第 23 回・第 24 回：実習先種別についての発表　藤田美枝子・小川千晴 第 25 回：実習直前指導　小川千晴・藤田美枝子

	【保育実習ＩＢ・事後指導】 第 26 回 : 種別ごとでの振り返り（グループワーク）　小川千晴・藤田美枝子 第 27 回 : 実習報告会の計画・個人面談　小川千晴・藤田美枝子 第 28 回 : 実習報告会の準備・個人面談　小川千晴・藤田美枝子 第 29 回・第 30 回 : 2 年生に向けた実習報告会　小川千晴・藤田美枝子・太田雅子 鈴木光男・細田直哉・二宮貴之
アクティブラーニング	講師による積み木の扱い、遊びの実践、絵本や紙芝居の選び方、進め方、読み聞かせの実践、附属こども園の行事に参加をします。
評価方法	授業への取り組み（10%）、実践【積み木、絵本、こども園】による課題レポート（30%） 実習レポート（40%）、実習報告会（20%）　計 100% ・レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実践によるレポートは教員に加え、講師の方にも助言をいただき、返却をします。
指定図書	開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します。 指定図書の『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』で誤字脱字の内容ワークシートを各自で進めていきます。 （60 分） 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します（60 分）。
オフィスアワー	小川研究室（1606）時間は初回授業時にお知らせいたします。

科目名	保育実習指導Ⅱ
科目責任者	小川　千晴
単位数他	１単位（15 時間）選択　こども　６セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育実習ＩＡを踏まえ、実習の全領域（半日実習もしくは１日実習）にわたる実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。
到達目標	１．保育実習の意義・目的が理解できる。 ２．保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画し、作成をする。 ３．保護者に対する支援、地域子育て支援の内容を理解する。 ４．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　　＜担当教員名＞ 【事前指導】 第１回：オリエンテーション　小川　千晴 保育実習Ⅱの目的・事務手続き 第２回：保育の記録（実習日誌の書き方）　細田　直哉 第３回：保護者への支援・地域子育て支援とは　太田　雅子 第４回：教材研究と指導計画の作成①　二宮　貴之 手遊び、絵本・歌・楽器遊び 第５回：教材研究と指導計画の作成②　鈴木　光男 制作活動など 第６回：実習直前指導、事務連絡　小川千晴、太田雅子 鈴木光男、細田直哉 二宮貴之 【事後指導】 第７回：実習の振り返り　小川千晴、太田雅子 鈴木光男、細田直哉 二宮貴之 第８回：実習報告会の計画・準備・個人面談　小川千晴、太田雅子 鈴木光男、細田直哉 二宮貴之

アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	授業への取り組み（20％）、課題（20％）、レポート（30％）、実習報告会（30％）計100％ レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をします。また、実習報告会では、教員からの講評をします。
指定図書	厚生労働省編（2008）『保育所保育指針解説』、 開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など実習で必要となる内容について作成します（60分）。 【事後学修】実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します（60分）。
オフィスアワー	小川研究室：1606　時間は初回授業時にお知らせいたします。

科目名	保育実習指導Ⅲ
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	１単位（15 時間）　選択　６セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育所以外の居住型児童福祉施設、通所型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
到達目標	１．保育実習ＩＢの経験を基に、さらに施設保育士の職務について理解を深める ２．領域別における保育の質の違いを理解しながら求められる保育について具体化す ３．施設への入所理由を理解しながら、関わり方について模索する ４．他の専門職との連携について理解する
授業計画	＜担当教員名＞藤田美枝子、坂本道子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション　保育実習ＩＡとの違いについて 第 2 回：各配属領域についての調査 第 3 回：各配属領域の保育の実際 第 4 回：職員の職務や連携の重要性について 第 5 回：入所理由を理解と関わり方について 第 6 回：各配属領域と地域との連携について 第 7 回：実習日誌とオリエンテーションについて 第 8 回：実習についてのまとめ 第 9 回：事後指導①　実習報告 第 10 回: 事後指導②　自己覚知と実習の振り返り

アクティブラーニング	実習中の体験等を中心としたグループ学習によるディスカッションを取り入れて行う。
評価方法	授業への取り組み（20％）、課題（20％）、レポート（30％）、実習報告会（30％）計100%で評価する。レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	なし
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。 事前・事後学習にはそれぞれ40分をあてること。
オフィスアワー	社会福祉学部、2610研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	保育実習ＩA
科目責任者	小川　千晴
単位数他	２単位（90 時間数）　選択　こども　４セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育所・認定こども園の機能ならびに保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	１．観察実習および部分実習を中心として、理論と実践の結びつきを通して乳幼児を理解する。 ２．保育所・認定こども園における生活とその概要を理解する ３．保育士として必要な知識、技能、態度を身につけ、その任務を使命を理解する。
授業計画	＜担当教員名＞小川千晴、太田雅子、鈴木光男、藤田美枝子、和久田佳代、二宮貴之、 細田直哉 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習の進め方 １．学生は保育所・認定こども園にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早版・遅番)を必ず行うこととする。 ３．実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 ４．実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 ５．実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 １．見学・観察実習 １）デイリープログラムを知り、乳幼児の１日の生活の流れを理解する。 ２）乳幼児の集団活動、個別活動を観察し、人とのかかわり方を知る。 ３）保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 ２．参加・部分実習 １）保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 ２）乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 ３）担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）　　計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行いましょう（40 分）。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう（60 分）。
オフィスアワー	小川研究室：1606　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。

科目名	保育実習ＩＢ
科目責任者	小川　千晴
単位数他	２単位（90 時間）選択　こども　５セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育所・認定こども園以外の居住型児童福祉施設ならびに通所型児童福祉施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
到達目標	１．子どもとの関わりを通して、子どものニーズを理解しながら関わることができる。 ２．児童福祉施設における生活とその概要を理解する。 ３．保育士として必要な知識、技術、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。
授業計画	＜担当教員名＞　小川千晴、太田雅子、藤田美枝子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習内容：詳細は保育実習ＩＢの手引きを参照 １．養護の一日の流れを理解し、参加する。 ２．子どもの集団活動、個別活動を観察し、養護技術を習得する。 ３．子どもの生活での援助といった一部分を担当し、養護技術を習得する。 ４．保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 ５．施設での個別記録、送迎の際の保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 ６．施設における子どもの安全および健康に対する配慮について理解する。 実習の進め方 〇保育所・認定こども園以外の児童福祉施設等にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。 〇実習日誌に一日の記録を作成し、担当保育士からの指導を受ける。 〇実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う。

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習施設からの評価（40%）、実習日誌（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）　　計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習先の種別、概要、特色等についてグループで調べ、整理をします。 また、調べた内容やオリエンテーションの内容については、実習ノートに 必要箇所の記入をします（60 分）。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう（60 分）。
オフィスアワー	小川研究室：1606　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。

科目名	保育実習Ⅱ
科目責任者	小川　千晴
単位数他	２単位（90 時間数）　選択　こども　６セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育実習ＩＡでの実習を踏まえ、保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	１．見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、乳幼児を理解する。 ２．保育士としての職業倫理を理解し、乳幼児に対する最善の利益への配慮を理解する。 ３．家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
授業計画	＜担当教員名＞小川千晴、太田雅子、藤田美枝子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、 細田直哉 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習の進め方 １．学生は保育所・認定こども園にて 90 時間（10 日間）以上の配属実習を行う。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早版・遅番)を必ず行うこととする。 ３．実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 ４．実習日誌は学校指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 ５．実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 １．観察実習 １）乳幼児の１日の生活の流れを理解し、担当クラスの子どもとの関わりを深める。 ２）乳幼児の集団活動、個別活動を観察するなかで、人とのかかわり方を知る。 ３）保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 ２．参加・部分実習 １）保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 ２）乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 ３）担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。 ３．責任実習 １）担当するクラスに即した日案を作成し、主体となって保育を行う。 ２）保育前の準備、保育後の整理等、保育士としての仕事全般の実習をする。 ３）１日もしくは半日実習などを体験し、保育所・認定こども園における保育活動の流れを理解する。 ４）課題を設定し、問題意識をもって実習をする。

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）　　計100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行いましょう。また、指導計画は、子どもの姿を捉え、発達の則した内容を作成しましょう（60分）。 【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう（60分）。
オフィスアワー	小川研究室：1606　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。

科目名	保育実習Ⅲ
科目責任者	藤田　美枝子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　６セメスター
科目の 位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	保育実習ＩＢでの実習を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。
到達目標	１．見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、児童 を理解する。 ２．保育士としての職業倫理を理解し、児童に対する最善の利益への配慮を理解しながら関わる。 ３．家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。 ４．施設が社会にむけてどのような情報を発信し、どのような機能を提供しようとしているのかを理解する
授業計画	＜担当教員名＞藤田美枝子、坂本道子、小川千晴、細田直哉、鈴木光男、二宮貴之、太田雅子 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照 １．施設の社会的使命を理解する ２．職員の職務やチームワークを理解する ３．施設における保育士あるいは他の専門職の専門性を理解する ４．担当する子どものケーススタディの実践を理解する ５．地域事業との関連について理解する ６．各種法令・法規と施設との関係について理解する 実習の進め方 ・保育所以外の児童福祉施設等にて 10 日間の配属実習を行う ・実習日誌に１日の記録をし、担当保育士からの指導を受ける ・実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う

アクティブラーニング	自ら積極的に実習を行う中で学びを深める。
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	実習記録を中心に、実習巡回や帰校日においてフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	参考書については、授業中に紹介する。
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。 事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。
オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	幼稚園実習指導
科目責任者	太田　雅子
単位数他	１単位（45 時間）選択　こども　７セメスター
科目の位置付	教職 DP(2)教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	幼稚園教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、幼稚園教育の概要（幼稚園とは何か、幼稚園の役割・幼稚園における保育の基本など）を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では、日誌・指導計画の書き方、模擬保育など、事後指導では、それぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	１．幼稚園実習の意義を理解しながら、実習に対する心構えを作る。 ２．実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。 ３．実習体験をもとに実習成果や課題をまとめることができる。
授業計画	＜担当教員名＞小川千晴、太田雅子、細田直哉、鈴木光男、二宮貴之 ＜授業内容・テーマ等＞ 【事前指導】　＜担当教員名＞ 第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方・実習内容・事前訪問・手続き等の確認　小川千晴 第 2 回：幼稚園実習の意義・目的・方法・実習段階・実習課題について　小川千晴 第 3 回：3・4・5 歳児の発達の特徴と保育者の配慮点について　太田雅子 第 4 回：実習ノートの書き方の基本①：実習日誌の意義と書き方　細田直哉 第 5 回：実習ノートの書き方の基本②：実習日誌を実際に書く　細田直哉 第 6 回：実習日誌と指導計画のつながり　太田雅子 第 7 回：教育課程と指導計画・子ども理解の方法　太田雅子 第 8 回：実習ノートの書き方の基本③：エピソード記録の意義と書き方　細田直哉 第 9 回：実習ノートの書き方の基本④： エピソード記録をプレ実習の記録をもとに書く　細田直哉 第 10 回：教材研究と自己の課題の明確化　鈴木光男 第 11 回：子どもの姿から指導計画を考える① こども園でのプレ実習をもとに　太田雅子・小川千晴 第 12 回：子どもの姿から指導計画を考える② 指導計画の反省・評価　太田雅子・小川千晴 第 13 回：指導計画に基づいた模擬保育①　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之 第 14 回：指導計画に基づいた模擬保育②　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之 第 15 回：実習直前指導　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之 【幼稚園実習Ⅰ終了後】 第 16 回：実習を通しての振り返り　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之 第 17 回：幼稚園実習Ⅱに向けての課題の明確化　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之 【事後指導】 第 18 回：実習の振り返り①（幼稚園実習Ⅱ）　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之 第 19 回：実習の振り返り②（4 週間の実習全体を通して）　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之 第 20 回：実習報告会の計画・準備・個人面談①　小川千晴・太田雅子・鈴木光男・細田直哉・二宮貴之

	第 21 回：実習報告会の準備・個人面談②	小川千晴・太田雅子・鈴木光男 細田直哉・二宮貴之
	第 22 回：3 年次生に向けての実習報告会	小川千晴・太田雅子・鈴木光男 細田直哉・二宮貴之
	第 23 回：3 年次生に向けての実習報告会	小川千晴・太田雅子・鈴木光男 細田直哉・二宮貴之
アクティブラーニング	こども園でのプレ実習、指導計画に基づく模擬授業を実施します。	
評価方法	プレ実習の記録（20%）、課題（20%）、授業への取り組み（10%）、レポート（30%）、 実習報告会（20%）　計 100% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。	
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をします。また、実習報告会では、教員からの講評をします。	
指定図書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』、 開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社	
参考図書	なし	
事前・事後学修	【事前学修】 附属こども園にて 3 日間のプレ実習を行い、記録の作成をして実習への課題を明確にしていきます。実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など必要となる課題に対して行います（60 分)。 【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します（60 分)。	
オフィスアワー	小川研究室：1606　時間は初回授業時にお知らせいたします。	

科目名	幼稚園実習Ⅰ
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（90 時間数）　選択　こども　7セメスター
科目の位置付	教職 DP(1)教育に関する確かな知識・理論や技能及び豊かな表現力を身につけている。
科目概要	学生の出身地の幼稚園にで、10 日間実施します。実習の主な内容は、①見学・観察、②保育参加・補助、③部分指導、④半日・全日指導ですが、本科目では原則として③までを体験します。
到達目標	１．観察実習を通して、幼稚園の一日の生活を理解する。 ２．部分実習を通して、指導計画を立てながら、保育活動を行うことができる。 ３．幼稚園教諭として必要な知識、技術、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。
授業計画	＜担当教員名＞小川千晴、太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習の進め方 １．学生は幼稚園にて 2 週間の実習を行う。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う ３．部分実習を行うための指導計画を作成し、指導教諭から指導を受け、実践する。 ４．実習日誌は大学指定の用紙を使用し、指導教諭からの指導を受ける。 ５．実習の振り返りを、園長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 実習内容：詳細は幼稚園実習の手引きを参照 １．見学・観察実習 ① デイリープログラムを知り、幼児の一日の生活の流れを理解する。 ② 幼児の集団活動、個別活動を観察するなかで人との関わり方を知る。 ③ 幼稚園教諭の職務内容と役割を理解する ２．参加実習 ① 幼児と共に生活して、指導教諭の保育活動に補助的な立場で参加し、幼児の援助・保育にあたる。 ② 幼児の安全及び健康に対する配慮と、状況に応じた対応方法を学ぶ。 ③ 保育前の準備、保育後の整理など、幼稚園教諭としての仕事全般を実習する。 ３．部分実習 ① 実習園のねらいに従いながら指導計画を立て、指導教諭の指導を受けながら実践を行う。 ②指導計画に即した事前の教材準備などを行う。

アクティブラーニング	実習科目
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）　　計100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』、 開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】 　実習が始まる前前に実習ノートにオリエンテーション内容の記載、ピアノ練習、教材研究など必要となる課題に対して行います（60分）。 【事後学修】 　実習終了後は、幼稚園教諭の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう（60分）。
オフィスアワー	小川研究室：1606　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。

科目名	幼稚園実習Ⅱ
科目責任者	太田　雅子
単位数他	２単位（90 時間数）　選択　こども　7セメスター
科目の 位置付	教職 DP(2)教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	学生の出身地の幼稚園にで、10 日間実施します。実習の主な内容は、①見学・観察、②保育参加・補助、③部分指導、④全日指導を体験します。幼稚園実習Ⅰから連続するため、本科目では、②～④が中心となります。
到達目標	1. 幼稚園の一日の生活とそれを支える幼稚園教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 幼児とのかかわりや観察を通して、幼児の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 幼児の実態に即した部分実習、全日実習の指導計画を立て、実践・評価できる。
授業計画	＜担当教員名＞小川千晴、太田雅子、鈴木光男、和久田佳代、二宮貴之、細田直哉 ＜授業内容・テーマ等＞ 実習の進め方 １．学生は幼稚園にて 2 週間の実習を行う。 ２．原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う ３．部分実習を行うための指導計画を作成し、指導教諭から指導を受け、実践する。 ４．実習日誌は大学指定の用紙を使用し、指導教諭からの指導を受ける。 ５．実習の振り返りを、園長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 実習内容：詳細は幼稚園実習の手引きを参照 １．観察実習 ①指導計画をしり、幼児の一日の埼葛の流れとそこでの幼稚園教諭の役割を理解する。 ②幼児の遊びや生活を観察するなかで、幼児の特性や発達を理解する。 ２．参加実習 ①幼児と共に生活して、指導教諭の保育活動に補助的な立場で参加し、幼児の援助・保育にあたる。 ②幼児の安全及び健康に対する配慮と、状況に応じた対応方法を学ぶ。 ③保育前の準備、保育後の整理など、幼稚園教諭としての仕事全般を実習する。 ３．部分実習 ①園のねらいや幼児の実態に即した指導計画の立案・実践・評価を指導教諭ともに行う。 ②指導計画のねらいに沿った環境構成や援助を行う。

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習園からの評価（40%）、実習日誌・指導計画（30%）、 学生と教員との面談における振り返り（30%）　　計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』、 開　仁志　編著『保育指導案大百科事典』一藝社（全ての実習と共用） 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』 (株)わかば社
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】各年齢の子どもの発達の理解、実践にあたっての教材研究を行いましょう。また、指導計画は、子どもの姿を捉え、発達の則した内容を作成しましょう（60 分）。 【事後学修】実習終了後は、幼稚園教諭の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう（60 分）。
オフィスアワー	小川研究室：1606　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。

科目名	インターンシップⅠ　※こども教育福祉学科
科目責任者	小川　千晴
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育の活動を計画、実践する。
到達目標	１．見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 ２．保育や幼児教育に必要となる知識や技術を、実践を通して身に付けようとする。 ３．家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 【事前学習】 第 1 回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは 第 2 回：実習の 1 日、実習生としての心構え 第 3 回：実習記録の書き方、指導計画の書き方 第 4 回：各領域（保育所・幼稚園など）に関する事前学習 第 5 回：各領域（保育所・幼稚園など）事前学習の発表 第 6 回：各自の課題設定による教材研究① 第 7 回：各自の課題設定による教材研究② 第 8 回：実習中の諸注意 【実習（インターンシップ）】 ○保育所・幼稚園・認定こども園など自分が興味関心のある領域で、10 日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。 【事後学習】 第 9 回：実習の振り返り（学生間での共有） 第 10 回：報告会に向けての準備①、個人面接① 第 11 回：報告会に向けての準備②、個人面接② 第 12 回：実習参加者を対象とした実習報告会① 第 13 回：次回参加する学生を対象とした実習報告会②

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	【授業への取り組み】 事前学修（10%）、課題（30%）、事後学修（10%） 【実習への取り組み】 実習先からの評価（30%）、実習記録（10%）、学生の自己評価（10%）　　計 100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します（40 分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40 分）。 実習科目です
オフィスアワー	小川研究室：1606　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。

科目名	インターンシップⅡ　※こども教育福祉学科
科目責任者	小川　千晴
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。。
科目概要	資格実習やインターンシップⅠでの学修を踏まえ、明確となった課題を、事前学習にて実践（教材研究・模擬保育など）を行い、考察をする。自らの課題に基づき、子どもの姿を捉えた上での保育・実践を行う。
到達目標	1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 【事前学習】 第 1 回：オリエンテーション 実習に臨むために必要なこととは 第 2 回：実習記録・指導計画の書き方 第 3 回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習 第 4 回：各領域（保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設）に関する事前学習の発表 第 5 回：自己課題に基づく教材研究① 第 6 回：自己課題に基づく教材研究② 第 7 回：指導計画に基づく模擬保育① 第 8 回：指導計画に基づく模擬保育② 第 9 回：実習中の諸注意 実習（インターンシップ） 〇保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設において、10 日間の実習を行う。 ・状況に応じて部分実習や責任実習といった指導計画に基づいた実践を行う。 事後学習 第 10 回：実習の振り返り（学生間での共有） 第 11 回：報告会に向けての準備①、個人面接① 第 12 回：報告会に向けての準備②、個人面接② 第 13 回：実習参加者を対象とした実習報告会① 第 14 回：次回参加を希望する学生を対象とした実習報告会②

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	【授業への取り組み】 事前学修（10%）、課題（30%）、事後学修（10%） 【実習への取り組み】 実習先からの評価（30%）、実習記録（10%）、学生の自己評価（10%）　計100% 課題や実習先の評価で判断するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を提示します（40分）。 【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40分）。 実習科目です
オフィスアワー	小川研究室：1606　実習期間中は学科の実習携帯電話に連絡をする。

科目名	福祉実習Ⅰ　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは 10 日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には 20 日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な悪手部ラーニングの姿勢が求められる。
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20%（レポート含む、今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	その都度行う
指定図書	資料配布
参考図書	八木亜希子 2012『相談援助職の記録の書き方――短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。事前学習で学んだことを復習ずる。実習後は、体験したことを整理すること。合わせて 40 分程度
オフィスアワー	研究室 2612，時間は最初の授業で提示します。

科目名	福祉実習Ⅱ　　※こども教育福祉学科
科目責任者	坂本　道子
単位数他	２単位（90 時間）　選択　こども　３～８セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは 10 日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には 20 日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン

アクティブラーニング	実習なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な悪手部ラーニングの姿勢が求められる。
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20%（含むレポート。今年度はルーブリックを用いない）
課題に対するフィードバック	その都度行う
指定図書	資料配布
参考図書	八木亜紀子 2012『援助技術の記録の書き方――短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。事前学習で学んだことを復習する。実習後は、体験したことを整理する。合わせて 40 分程度
オフィスアワー	研究室 2612，時間は最初の授業で提示します。